SONY

4-667-190-02(1)

本機をお使いになるときのご注意 17

接続する／準備する 29

コンピュータの基本操作 83

カスタマー登録する／インターネットに接続する 95

接続／拡張するときは 151

その他 201

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ**、製品を安全にお使いください。

i S400　MEMORY STICK™

パーソナルコンピューター

PCV-RZ70P/RZ60/RZ50

© 2002 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

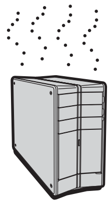
8ページからの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

- 煙が出たら
- 異常な音、においがしたら
- 内部に水、異物が入ったら
- 製品を落としたり、キャビネットを破損したとき



❶ 電源を切る

❷ 電源コードや接続ケーブルを抜く

❸ VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

アース線の接続について

アース接続は必ず電源プラグを電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続をはずす場合は、必ず電源プラグを電源から切り離してから行ってください。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。

（社団法人電子情報技術産業協会（旧JEIDA）のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS･C-6802）クラス1適合のDVD-RWドライブ（PCV-RZ70P/RZ60/RZ50）、DVD-ROMドライブ（PCV-RZ70P）が搭載されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータのモデム基板は、電気通信事業法第72条の2第1項の規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。申請回線と認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。
CNR-002／A1B　認証番号　A02-0481JP
導入にあたっては、専用ドライバを必ず使用してください。
使用されない場合は、この技術基準を遵守できない場合がありますので、十分ご注意ください。

著作権について

あなたが本機で録画･録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。
また、著作者の許可なく、取り込んだ映像･画像･音声に変更･切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損なうことは禁じられています。
コピーガード信号の入った映像は録画することができません。

本機の内蔵モデムについて

- 本機の内蔵モデムは、諸外国で使用できる機能を有していますが、日本国内で使用する際は、他国のモードを使用すると電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。工場出荷時の設定は「日本モード」となっておりますので、そのままご使用ください。
- 第一種電気通信事業者の交換設備からアナログ電話端末までの線路抵抗環境によっては、モデムが使用できないことがあります。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

本書で使われているイラストについて

本書で使われているイラストや画面は実際のものと異なる場合があります。

- 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は、一切その責任を負いかねます。
- 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの使用許諾条件および著作権法を遵守してください。

著作権保護の信号が記録されているソフトウェアおよび放送は録画できません。

マニュアルについて

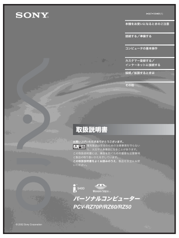
コンピュータをはじめてお使いになる方はもちろん、よくご存知の方も、必ず本書からお読みください。読み終わったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

以下に、本機に付属しているマニュアルを簡単に紹介します。

なお、下記のほかにもマニュアル類が付属している場合があります。

紙のマニュアル

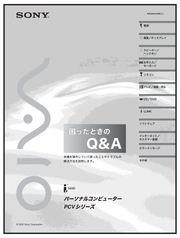
取扱説明書（本書）



下記の内容などを説明しています。

・バイオを使うための準備
・コンピュータの基本操作
・カスタマー登録／インターネット
・接続／拡張

困ったときのQ&A



本機を操作していて困ったことやトラブルの解決方法を説明しています。

バイオ サービス・サポートのご案内 …本機のサービス・サポートについて紹介しています。

バイオ こんなときはどうするの… …ソニーへのお問い合わせが多い内容を紹介しています。

ご注意・お知らせ（色紙） …重要なお知らせが記載されています。必ずお読みください。

画面で見るマニュアル

サイバーサポート

バイオについての情報の入り口です。バイオの使いかたや困ったときの対処方法を調べることができます。

使いかたについて詳しくは、画面上部の ヘルプ をクリックしてください。

起動するには、デスクトップの（VAIOマニュアル CyberSupport）アイコンをダブルクリックしてください

できるWindows	Windowsの基本操作
インターネット	インターネットへの接続など
バイオの使いかた	本機の活用方法、各種設定の方法など
付属ソフトの紹介	付属ソフトウェアの紹介
困ったときは	トラブルの対処方法
サービス・サポートのご案内	サービス／サポート情報
用語集	用語の説明
How to VAIO	バイオの基礎を学ぶことができます。

ヘルプとサポートセンター

Windowsの操作方法／サポートについての情報、検索。

詳しくは、「「ヘルプとサポートセンター」について」をご覧ください。

ソフトウェアのヘルプ

多くのソフトウェアにはヘルプが付属されています。

ソフトウェアの使いかたは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

目次

サイバーサポート（画面で見る電子マニュアル）

バイオの使いかたを知りたいときや、困ったことがあったときは、デスクトップ画面上の をダブルクリックして起動してください。

安全のために 2
マニュアルについて 5
警告・注意 8

本機をお使いになるときのご注意

本機をお使いになるときの重要なお知らせ 18

接続する／準備する

こんなことができます 30
操作の流れ 32
付属品を確かめる 34
各部のなまえ 37
設置する 43
接続する／準備する 45

1 ディスプレイを接続する 45
2 アクティブスピーカーを接続する 48
3 キーボードとマウスを接続する 49
4 電話回線（一般電話回線／ADSL／ISDN）に接続する 51
5 リモコン用受光ユニットを接続する 54
6 リモコンを準備する 55
7 アンテナを接続する 56
8 本機とビデオデッキ、またはAVマウス機能付きスカイパーフェクTV!（CSチューナー）またはBSデジタルチューナーを接続する 59
9 ジョグコントローラーを接続する（PCV-RZ70Pのみ） 61
10 電源コードを接続する 62

電源を入れる 63
Windowsを準備する 64
複数ユーザーで使用する 69
「ヘルプとサポートセンター」について 70
テレビを見る準備をする 71
電源を切る 80

コンピュータの基本操作

デスクトップ画面の各部のなまえとはたらき 84
マウスの操作 86
ウィンドウやファイルの操作 88
文字の入力 92

カスタマー登録する／インターネットに接続する

カスタマー登録する 96
インターネットを始める 106
インターネットに接続するまでの流れ 110
1 プロバイダと契約する 111
2 チェックシートを作成する 114
3 接続のための設定をする 119
4 電子メールソフトウェアの設定をする 131
5 インターネットに接続する 136
ホームページを見る 139
電子メールをやりとりする 146

接続／拡張するときは

i.LINK対応機器をつなぐ 152
AV機器をつなぐ 158
プリンタをつなぐ 162
USB機器をつなぐ 163
ネットワーク（LAN）につなぐ 165
AVアンプなどのデジタル機器をつなぐ 166
PCカードを使う 167
拡張ボードを増設する 171
メモリを増設する 179
ハードディスクドライブを増設する 189
その他のデバイスを増設する（PCV-RZ60/RZ50のみ） 196

その他

動画系ソフトウェアの使いかた 202
コンピュータウイルスについて 204
リカバリディスクで本機を再セットアップする 206
パーティションサイズを変更する 214
コンピュータ廃棄時等のハードディスク上のデータ消去に関するご注意 218
使用上のご注意 219
お手入れ 223
保証書とアフターサービス 224
付属ソフトウェアのお問い合わせ先 225
主な仕様 234
索引 236

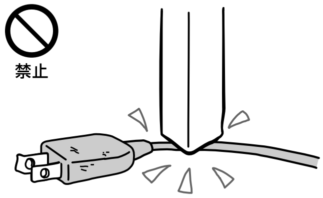
⚠警告 火災 感電 下記の注意事項を守らないと**火災・感電**などにより**死亡**や**大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。

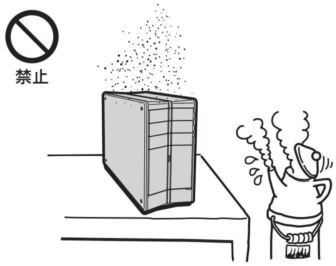
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に交換をご依頼ください。



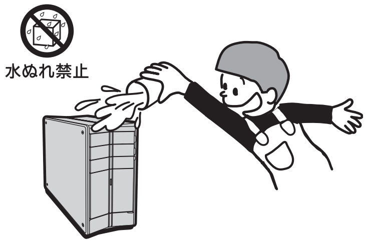
油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には設置しない

上記のような場所に設置すると、火災や感電の原因となることがあります。取扱説明書に記されている使用条件以外の環境での使用は、火災や感電の原因となることがあります。

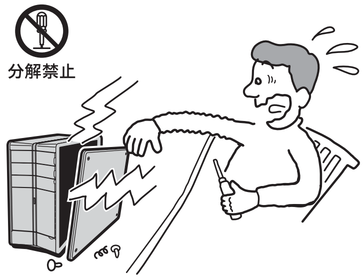


内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店に点検・修理をご依頼ください。



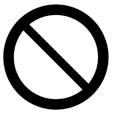
むやみに内部を開けない



- 内部には電圧の高い部分があり、ケースやフロントカバーをむやみに開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口、または販売店にご依頼ください。
- 各種の拡張ボード（基板）を取り付けたりメモリを増設する場合など、コンピュータの内部を開ける必要があるときは、本機の電源コードを抜き、取扱説明書の周辺機器の拡張のページで指定された方法に従い、部品や基板などの角で手や指にけがをしないように注意深く作業してください。また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となることがあります。

落雷のおそれがあるときは本機を使用しない

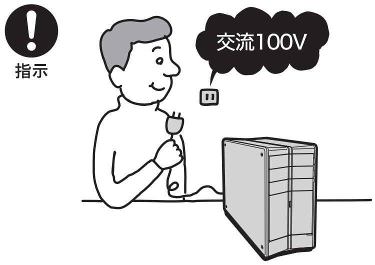
落雷により、感電したり本機が故障することがあります。雷が予測されるときは、火災や感電、製品の故障を防ぐためにテレホンコードや電源プラグを抜いてください。また、雷が鳴り出したら、本機には触らないでください。



禁止

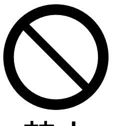
本機は日本国内専用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電、故障の原因となることがあります。



内蔵モデムを一般回線以外の電話回線に接続しない

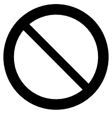
本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。特に、ホームテレホンやビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。



禁止

NETWORK(ネットワーク)コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

本機のNETWORK(ネットワーク)コネクタに下記のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。
特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。


禁止

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- PBX(デジタル式構内交換機)回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

警告

下記の注意事項を守らないと、
健康を害するおそれがあります。

ディスプレイを長時間継続して見ない

ディスプレイなどの画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

キーボードを使いすぎない

キーボードやマウスなどを長時間継続して使用すると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやマウスなどを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

禁止

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

禁止

⚠注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**物品**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグをさわらない

ぬれた手で電源プラグを抜き差しすると、感電の原因となることがあります。

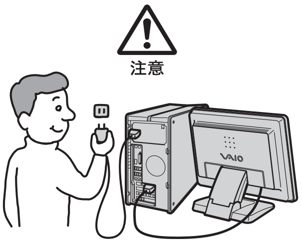
オプティカルマウス底面の赤い光を直接見ない

マウス底面から発せられている赤い光を直接見ると、目を傷める場合がありますので、さけてください。

注意

接続の際は電源を切る

電源コードや接続コードを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。



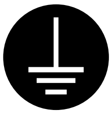
指定された電源コードや接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コードや接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

注意

アース線を接続する

アース線を接続しないと感電の原因となることがあります。アース線を取り付けることができない場合は、販売店にご相談ください。


アース線を
接続せよ

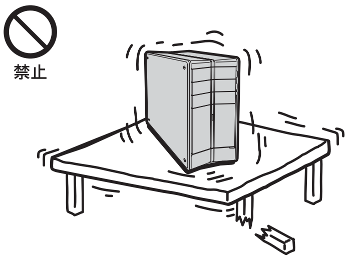
通風孔をふさがない

通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しを良くするために次の項目をお守りください。

- 壁から15cm以上離して設置する。
- 密閉されたせまい場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物(じゅうたんや布団など)の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- あお向けや横倒し、逆さまにしない。

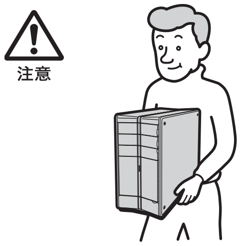
不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また、設置・取り付け場所の強度も十分にお確かめください。



運搬時は慎重に

コンピュータを運搬するときは、底面全体を保持し、安定した姿勢で運んでください。前面および後面パネル部分に手をかけて持たないでください。運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。また、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。

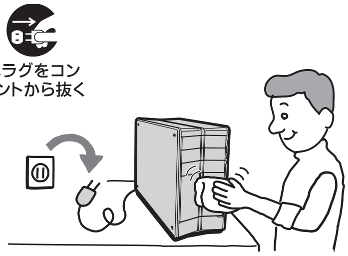


製品の上に乗らない、重い物を乗せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

お手入れの際は電源を切ってプラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

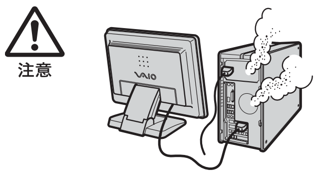


移動させる時は電源コードや接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

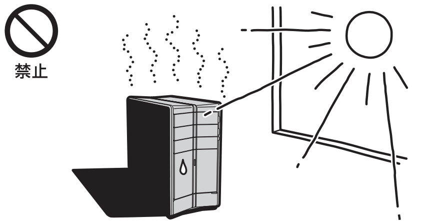
コネクタはきちんと接続する

- コネクタ（接続端子）の内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むとピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。
- アース線のあるコネクタには必ずアースを接続してください。



直射日光の当たる場所や熱器具近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となります。



電池についての安全上のご注意

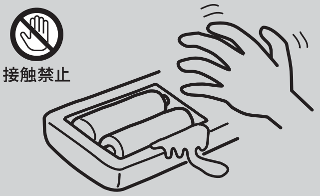
漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



必ず次の処理をする

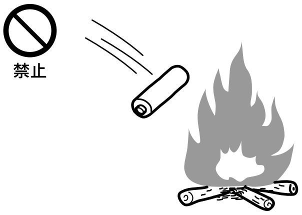
- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で十分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

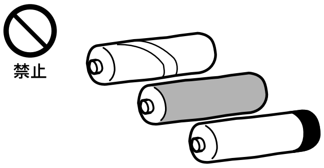
破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



⚠注意

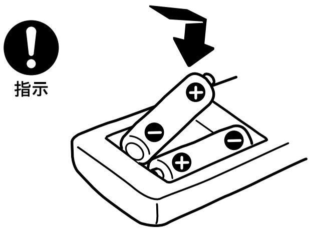
市販のアルカリまたはマンガン電池（単三型）以外の電池をリモコンに使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



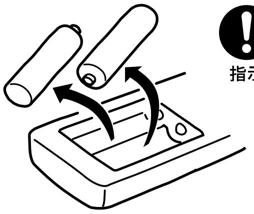
＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



本機をお使いになるときのご注意

この章では、本機をお使いになる際の重要な情報について
説明していますので、必ずお読みください。

本機をお使いになるときの重要なお知らせ

本機をお使いになる際の重要なお知らせです。必ずお読みください。

- CD再生／録音についてのご注意 19ページ
- 「SonicStage」ソフトウェアをお使いになるときのご注意 19ページ
- DVDを作成するときのご注意 20ページ
- DVDを再生するときのご注意 20ページ
- 「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアを
  お使いになるときのご注意 20ページ
- テレビでDVDビデオをご覧になるときのご注意 21ページ
- DVD-RWドライブおよびDVD-ROMドライブ
  （PCV-RZ70Pのみ）の地域番号（リージョンコード）
  書き換えについて 22ページ
- 「DVDit! for VAIO」ソフトウェアを
  お使いになるときのご注意 22ページ
- 「Simple DVD Maker」ソフトウェア を
  お使いになるときのご注意 23ページ
- 「RecordNow DX」ソフトウェアを
  お使いになるときのご注意 24ページ
- 画面の解像度などの設定を変更するときのご注意 26ページ
- AVマウスを使用してスカイパーフェクTV!（CSチューナー）
  またはBSデジタルチューナーの映像を
  本機で録画する際のご注意 26ページ
- 「PicoPlayer」ソフトウェアを
  他のバイオでお使いになるときのご注意 26ページ
- 本機へアナログ入力するときのご注意 27ページ
- オプティカルマウスをお使いになるときのご注意 27ページ
- “メモリースティック デュオ”をお使いになるときのご注意 28ページ

CD再生／録音についてのご注意

本機は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生・録音できない場合があります。

「SonicStage」ソフトウェアをお使いになるときのご注意

CDライティング機能についてのご注意

- 作成される音楽 CD は一般の音楽 CD 規格（CD-DA）に準拠しますが、再生には CD-RW ／ CD-R に対応している機器が必要です。対応している機器についても、機器やメディアによって再生できない場合があります。また、CD TEXT 対応音楽 CD のタイトル表示についても正しく表示できない場合があります。
- MP3 ファイルを記録して作成される CD-ROM（MP3 CD）は、MP3 再生対応 CD プレーヤーによっては動作に制限があったり、正しく再生できない場合があります。
- MP3 CD の作成時に、フォルダの階層を 8 階層以上にしないでください。お使いの機器によっては正しく読み込めない場合があります。
- CD TEXT 作成時には、全角文字は使用できません。

Windows® XPのシステムツール「システムの復元」を実行する場合のご注意

- 大切な曲データの消失を防ぐために、「システムの復元」を実行する前にあらかじめ「SonicStage」ソフトウェアのバックアップツールを使って曲データのバックアップを行ってください。
- バックアップを行わない場合、曲のデータベースの管理情報に不整合が生じ、それまでに録音あるいはインポートした曲データのすべてが再生できなくなる場合があります。
- 「システムの復元」を実行したあとに「SonicStage」ソフトウェアのバックアップツールで曲データを復元することで、保存した曲データが再生できるようになります。
- 「SonicStage」ソフトウェアのバックアップツールの使いかたについて詳しくは、「SonicStage」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

「OpenMG Jukebox」ソフトウェアが同梱されたソニー製外部機器をお使いのお客さまへ

- 「SonicStage Ver.1.5」は、「OpenMG Jukebox」ソフトウェアの外部機器に対応しており、これらの機器を使用することができます。ただし、そのためには、最新のプラグインとドライバが必要です。詳しくは各機器のホームページをご覧ください。
- 「SonicStage」ソフトウェアがインストールされているコンピュータに、Ver.2.0 以前の「OpenMG Jukebox」ソフトウェアを上書きインストールすると、「SonicStage」ソフトウェアが正常に動作しなくなりますので、絶対に上書きインストールを行わないでください。
「OpenMG Jukebox Ver.2.2」ソフトウェアはインストールしても問題ありません。

DVDを作成するときのご注意

- DVD-RW ／ DVD-R には、DVD ビデオフォーマットでの記録が可能です。
  ビデオレコーディング規格での記録、再生には対応していません。
- DVD-RW ディスクを使って DVD を作成した場合、DVD-RW に対応していない DVD プレーヤーでは再生できません。

DVDを再生するときのご注意

- 本機では、ソフトウェアを用いて DVD を再生しています。このため、ディスクによっては操作および機能に制限があったり、CPU、メモリなどのハードウェア資源の関係で音がとぎれたり、コマ落ちしたりすることがあります。また、ディスクによっては、再生そのものに不具合があるものも確認されています。
- 本機で DVD を再生するときは、「DVgate」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアなど、映像を扱う他のソフトウェアをすべて終了させてください。
- DVD ビデオや動画系ファイルを再生しているときに、画面の解像度や色数を変更しないでください。動画が正しく再生できなかったり、システムが不安定になることがあります。
  また、DVD ビデオを再生するときには、スクリーンセーバーの設定を解除することをおすすめします。スクリーンセーバーを設定すると、DVD ビデオの再生中にスクリーンセーバーが起動し、正しく再生できなくなります。スクリーンセーバーによっては、画面の解像度や色数を変更したりするものも確認されています。

「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアをお使いになるときのご注意

- エクスプローラで動画ファイルのサムネールを表示していると、「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアを起動できないことがあります。この場合は、動画ファイルのサムネールを表示しているエクスプローラを終了してから、「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアを起動してください。
- 「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェア操作パネル上の（iPower!）をクリックすると、再生ウィンドウ上に「ReadMe」が表示されます。ただし、はじめて「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアの（iPower!）をクリックするユーザーの権限が「制限付きアカウント」の場合、再生ウィンドウが黒くなり、「ReadMe」が正常に表示されません。この場合、いったん「コンピュータの管理者」権限でログオンし直してから、（iPower!）をクリックしてください。それ以降は、「制限付きアカウント」権限のユーザーが（iPower!）をクリックしても、「ReadMe」が正常に表示されます。

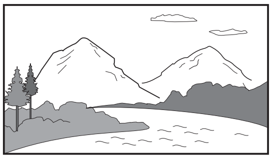
テレビでDVDビデオをご覧になるときのご注意

本機で再生するDVDビデオをテレビでご覧になるときは、接続するテレビに応じて、アスペクト比の設定、またはDVDビデオのワイド画像を再生するときの画面設定を行ってください。

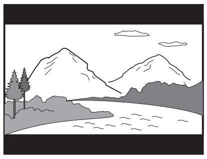
16:9(ワイドモード):ワイドモードがあるテレビでご覧になるとき

4:3(ノーマルモード):通常のテレビでワイド画像を横長に表示して画面の上下には帯を入れるとき

16:9　ワイドモード



4:3　ノーマルモード



本機に付属の「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアで画面設定を行うときは、以下の手順に従って操作してください。

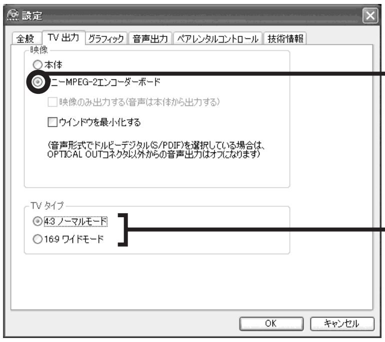
1 デスクトップ画面左下の をクリックし、[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[CyberLink PowerDVD]、[PowerDVD XP for VAIO]の順にクリックする。
「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアが起動します。

2 (設定)をクリックする。

「設定」画面が表示されます。

3 [TV出力]タブをクリックする。
「TV出力」画面が表示されます。

4 [映像]の[ソニーMPEG-2エンコーダーボード]の○をクリックして◉にする。



「TVタイプ」が選択できるようになります。

5 接続するテレビに応じて、[4:3 ノーマルモード]または[16:9 ワイドモード]の○をクリックして◉にする。

6 をクリックする。

本機のビデオ出力は、ID-1方式に対応しています。ID-1方式に対応したテレビでオートワイドの設定をすると自動的に対応した画面モードになります。詳しくは、接続するテレビの取扱説明書をご覧ください。

DVD-RWドライブおよびDVD-ROMドライブ（PCV-RZ70Pのみ）の地域番号（リージョンコード）書き換えについて

お買い上げ時、本機のディスクドライブの地域番号（リージョンコード）は「2」（日本）に設定されています。一部のソフトウェアにはこの地域番号を書き換える機能がありますが、お使いにならないでください。この機能をお使いになった結果生じた不具合につきましては、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。

「DVDit! for VAIO」ソフトウェアをお使いになるときのご注意

「DVDit! for VAIO」ソフトウェアとは

「DVgate」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアで作成したMPEGファイルをDVD-RW／DVD-R／CD-RW／CD-RにDVDビデオフォーマットで書き込みを行うソフトウェアです。

作成したDVD-RW／DVD-Rのディスクは、DVDビデオディスクを再生できるバイオやDVDプレーヤーの一部で再生することができます*。作成したCD-RW／CD-Rのディスクは、「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアを使って再生することができます。

「DVDit! for VAIO」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「DVDit! for VAIO」ソフトウェアのヘルプや電子マニュアルをご覧ください。

* 再生できるバイオおよびDVDプレーヤーについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

「DVDit! for VAIO」ソフトウェアを起動するには

デスクトップ画面左下の

をクリックして、［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［DVDit! for VAIO］、［DVDit! for VAIO］の順にクリックしてください。

ご注意

- 「DVDit! for VAIO」ソフトウェア使用中は、ユーザー切り替え（ファーストユーザースイッチ）をしないでください。データの書き込みに失敗することがあります。
  ユーザー切り替えは「DVDit! for VAIO」ソフトウェアを終了してから行ってください。
- 「ビルド」メニューの「DVDディスクの作成」を選ぶと表示される「DVDディスクの作成」画面で、「オプション」の「ディスクのテストと作成」を選んでDVDディスクの作成を実行すると、ディスクのテストが終わったあとに、「書き込みを行いますので、イジェクトされたディスクを再度挿入してください。[OK]をクリックして継続してください。」というメッセージが表示されます。[OK]ボタンをクリックしてもこのメッセージは表示されますので、メッセージが表示されなくなるまで何度か[OK]ボタンをクリックしてください。
- 「DVDit! for VAIO」ソフトウェアは、制限ユーザーでは使うことができません。管理者権限のあるユーザーでお使いください。

プロジェクト設定を行うときのご注意

「ファイル」メニューの「プロジェクト設定」を選ぶと表示される「Project Settings」画面で、「プロジェクト」タブの「ディスク名」は、必ずアルファベットでタイトルを入力してください。日本語のタイトルで入力すると、文字が正しく表示されません。

著作権について

このソフトウェアで録画・録音したものは、個人として楽しむほかは、著作権法上権利者には無断で使用できません。

権利者の許諾を得ることなく、このソフトウェアおよび取扱説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびこのソフトウェアを賃貸に使用することは、著作権法上禁止されています。

「DVDit! for VAIO」ソフトウェアのお問い合わせ先

三信電気株式会社 DVDit! サポートセンター
電話番号：(03)5232-5065
受付時間：10時〜12時、13時〜17時、月曜日〜金曜日（祝日、年末年始を除く）
電子メール：DVD-IT@sanshin.co.jp
ホームページ：http://jp.dvdit.com/dvdit/

「Simple DVD Maker」ソフトウェア をお使いになるときのご注意

- 処理をキャンセルしたり、エラーが出て処理を中断したときに、「Simple DVD Maker」ソフトウェアを終了することなく、DVD を作るために再び［Make Disc］ボタンを押すと、「ディスクの作業領域に、消去できないフォルダがありました。」という画面が表示されることがあります。この場合は、いったん「Simple DVD Maker」ソフトウェアを終了して再度操作を行ってください。
- DVD 作成後、できあがった DVD の内容を確認したり、再生するためには、「Simple DVD Maker」ソフトウェアを終了させてください。
- 乱れた状態の画像（地上波の放送がないときの砂嵐のような画像）を含んだビデオカプセルをドラッグアンドドロップして DVD を作成しようとするとエラーになることがあります。その場合は、プレイリストビルダーで問題の箇所を含まないようにカットを作成して、そのプレイリストをドラッグアンドドロップするようにしてください。

「RecordNow DX」ソフトウェアをお使いになるときのご注意

データを記録できるディスクについてのご注意

記録できるディスクについて詳しくは、バイオマニュアル「サイバーサポート」画面左側の［バイオの使いかた］をクリックし、［バイオインフォメーション］→［知っ得情報］→［使用できるディスク］をご覧ください。

「RecordNow DX」ソフトウェアを使うときのご注意

「RecordNow DX」ソフトウェアとは

オリジナルのDVD-ROMやCDが手軽に作成できるソフトウェアです。

データを記録（書き込み）してデータDVDやデータCDを作成したり、音楽データを集めて自分だけの音楽CDを作ったり、オリジナルのDVD-ROMやCDのバックアップを作成することができます。

「RecordNow DX」ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、「RecordNow DX」ソフトウェアのヘルプや電子マニュアルをご覧ください。

「RecordNow DX」ソフトウェアを起動するには

デスクトップ画面左下の

をクリックして、［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［VERITAS Software］、［RecordNow DX］、［RecordNow DX］の順にクリックしてください。

ご注意

- 「RecordNow DX」ソフトウェアを使用するには、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンしている必要があります。
- DVD-RW／DVD-Rには、コンピュータ用のデータのみ書き込むことができます。
- DVD-Rにディスク・アット・ワンスで書き込む場合、最低限1Gバイト（1倍速で約12分）まで書き込む必要があります。お客様が書き込むデータの容量が1Gバイト以下の場合、本機では合計で1Gバイトまでダミーの書き込みを行います。これは、規格上、再生互換性を保つためです。
  そのため、DVD-RW／DVD-Rに書き込むときに、1Gバイト未満の容量のデータを書き込んだ場合、お客様のデータの書き込みが終了していても、ダミーのデータ書き込み処理完了まで更に20分〜40分かかることがありますが、故障ではありません。この場合、プログレスバーは100%を示したままで変化はありませんが、そのままお待ちください。
- データの書き込み処理を途中で中断すると、中断の処理が完了するまでしばらく時間がかかることがありますが、そのままお待ちください。
- データを書き込むときは、書き込みデータ容量の1割増程度のハードディスクの空き容量が必要となります。データを書き込む前に、必ず、ハードディスクに充分な空き容量があることを確認してください。例えば、4.3Gバイトのデータ（4,617,089,843バイト）を書き込む場合は、ハードディスクには約4.7Gバイトの空き容量が必要になります。
- お買い上げ時は、「RecordNow DX」ソフトウェアの作業領域は、D：ドライブのImageフォルダ（D:¥Image）に設定されています。また、D：ドライブは、NTFSでフォーマットされておりますので、このままでお使いください。
- 複製不可の設定がされたDVD-ROMやDVDビデオは、バックアップを作成することはできません。
- データを書き込む前に、「RecordNow DX」以外のソフトウェアはすべて終了してください。また、スクリーンセーバーや、「Giga Pocket」ソフトウェアの録画予約などを設定している場合は、データの書き込み中は起動しないように設定を解除しておいてください。
- 「RecordNow DX」ソフトウェア使用中は、ユーザー切り替え（ファーストユーザースイッチ）をしないでください。データの書き込みに失敗することがあります。
  ユーザー切り替えは「RecordNow DX」ソフトウェアを終了してから行ってください。

- データの書き込み中は、以下の点にご注意ください。
  - 本機につないだi.LINKケーブルおよび他のi.LINK対応機器につないだi.LINKケーブルを抜き差ししたり、本機やi.LINK対応機器の電源を入／切しない。
  - 本機につないだUSBケーブルおよび他のUSB対応機器につないだUSBケーブルを抜き差ししたり、本機やUSB対応機器の電源を入／切しない。
  - インターネットに接続したり電子メールを送受信するなど、他のコンピュータやネットワークにアクセスしない。
  - 他のソフトウェアを起動しない。
- 書き込みに失敗したディスクについては、その原因がいかなるものであっても、弊社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

ちょっと一言

- DVD-RW／DVD-Rにデータを書き込む場合は、「ディスク・アット・ワンス」となりますので、ディスクへの追記（追加書き込み）はできません。少量のデータを書き込むよりも、データを集めて容量をまとめてから書き込んだ方が、ディスクを効率よく使用することができます。1枚のディスクに記録できるデータの容量は4.3Gバイトまでです。
- CD-RW／CD-Rにデータを記録する場合は、「ディスク・アット・ワンス」のほかに、「トラック・アット・ワンス」でデータの区切り（トラック）ごとに分けて書き込みをしたり、追加で書き込みをしたりすることができます。

著作権について

本ソフトウェアは、各種CD及びDVDを作成するために必要な機能を搭載したソフトウェアです。本ソフトウェアを使用すると市販されている各種CDやDVDと同等のものを作成することができます。ただし、テレビ放送（地上波、衛星放送、CATV等）や市販のCD、DVD及びビデオなど著作物はすべて、著作者に無断で複製、改変、再配布の行為を行うことはできません。例えば、他人の著作権を収録したCDの複製物を他人に譲渡したり、他人の著作物をインターネットのホームページなどに掲載（改変して掲載する場合を含む）するなどの行為を行うと、著作権法に違反しますのでご注意ください。著作権法では、個人で「私的」に楽しむという利用目的に限定するという条件つきで、これらに含まれる音声や映像を複製することを認めています。これらの行為を行う場合は、著作権法を守り、私的利用目的の範囲内から逸脱した使用にならないように注意してお楽しみください。私的利用目的から逸脱した使用は、法的に罰せられることがあります。また、市販の各種ソフトウェアや民生用ゲーム機用のCDやDVDなどでは、「ソフトウェア使用許諾条項」により複製などの行為を認めていない場合があります。ソフトウェア使用許諾条項に違反した使用は、多くの場合、ソフトウェアライセンスの失効を意味しています。これらのCDやDVDの複製を行う場合は、必ず、使用許諾条項をよくお読みになり、これに違反しない範囲でお使いください。

「RecordNow DX」ソフトウェアのお問い合わせ先

ESJカスタマーセンター

電話番号：（03）5643-8724

受付時間：10時～17時30分（土・日・祝日除く）

ファックス番号：（03）5643-8737

ホームページ：http://www.easy.co.jp/jrndx4/sony/

画面の解像度などの設定を変更するときのご注意

画面の解像度、表示色数、リフレッシュレートをお買い上げ時の設定から変更した状態で「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアを起動すると、正常に表示されない場合や、「動画表示ハードウェアが他のアプリケーションで使用中です。動画を表示している他のアプリケーションを終了させてから、再度やり直してください。動画を表示している他のアプリケーションがない場合は、リフレッシュレートが高いなど画面の設定が不適切な可能性があります。」というメッセージが表示され、「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアが起動しないことがあります。他のソフトウェアを起動していないのにこのメッセージが表示される場合は、画面の解像度、表示色数、リフレッシュレートをお買い上げ時の設定に戻してから「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアを起動してください。

ちょっと一言

バイオマニュアル「サイバーサポート」画面左側の[バイオの使いかた]をクリックし、[設定を変更する]→[ディスプレイの設定を変更する]→[ディスプレイ(画面)の設定を変える]をクリックして表示される各項目の情報をご覧ください。

AVマウスを使用してスカイパーフェクTV!(CSチューナー)またはBSデジタルチューナーの映像を本機で録画する際のご注意

AVマウスを使用してスカイパーフェクTV!(CSチューナー)またはBSデジタルチューナーの映像を本機で予約録画する際は、[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブにある「パスワードによる保護」または「再開時にようこそ画面に戻る」のチェックボックスにチェックをいれないでください。

また、3D表示を行うスクリーンセーバーはご使用にならないでください。ご使用になると正常に予約録画が実行されません。

スクリーンセーバーについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の「バイオの使いかた」をクリックし、「設定を変更する」→「ディスプレイの設定を変更する」→「スクリーンセーバーや電源の設定を変える」をクリックして表示される情報をご覧ください。

「PicoPlayer」ソフトウェアを他のバイオでお使いになるときのご注意

DVD-ROMドライブを搭載したバイオの場合でも、一部の機種では高画質または標準のビデオカプセルが再生できません。長時間モードのビデオカプセルに変換して再生してください。

本機へアナログ入力するときのご注意

「DVgate」ソフトウェアまたは「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、本機のアナログ入力コネクタから静止画や動画を取り込むとき、静止画や動画にノイズが出たり、一時途切れたり、取り込みに失敗することがあります。これらの現象は、以下のように映像の同期信号が乱れた場合に起こります。

- 取り込む静止画や動画が乱れたとき、または本機に何も入力されていないとき
- 本機後面の VIDEO 1 INPUT コネクタまたは、本機前面の VIDEO 2 INPUT コネクタにつないだケーブルをつなぎかえたとき
- テレビ番組を入力中にテレビ局の放送信号が何らかの原因で乱れたとき
- 入力中のテレビ番組の電波が弱いとき、ノイズが入ったとき、または放送が行われてないとき
- ビデオデッキから映像入力中に、ビデオデッキのチャンネルや入力を切り換えたとき
- ビデオデッキや、ビデオカメラレコーダーから映像入力中に、ビデオテープのつなぎ撮りをした部分を再生したとき
- ビデオカメラレコーダーで録画中に振動やゆれを加えて撮ったテープを再生したとき
- 本機へ映像入力中に再生側のビデオデッキやビデオカメラレコーダーに振動やゆれが加わったとき

オプティカルマウスをお使いになるときのご注意

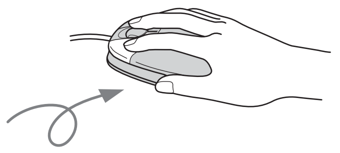
オプティカルマウスは、マウス底面からの赤い光により照らし出されている陰影をオプティカルセンサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上はもちろんのこと、衣類の上や紙の上でも使用することができます。

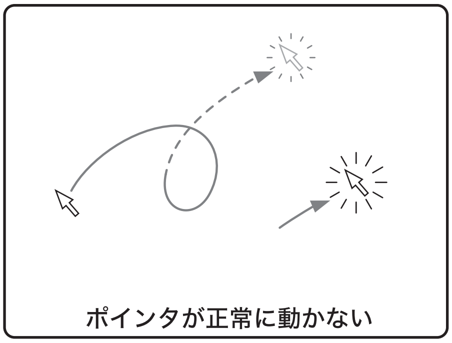
ただし、次のような表面では正しく動作しない場合があります。

- 透明な素材（ガラスなど）
- 光を反射する素材（光沢のあるビニールや鏡など）
- 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの（雑誌や新聞の写真など）
- 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの

マウスポインタが正常に動かないときは、上記の条件に該当しない表面（机、紙、マウスパッドなど）でマウスを操作してみてください。

（上記の条件に該当する一部のマウスパッドでは、マウスが正常に動作しない場合があります。）

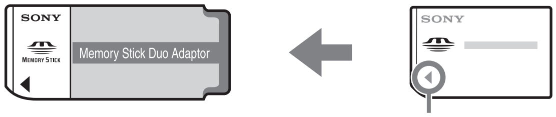




“メモリースティック デュオ”をお使いになるときのご注意

メモリースティック デュオ アダプターを取り付ければ、本機でも “メモリースティック デュオ”を使うことができます。

メモリースティック デュオ アダプター　　“メモリースティック デュオ”



◀ マークの方向に差し込む

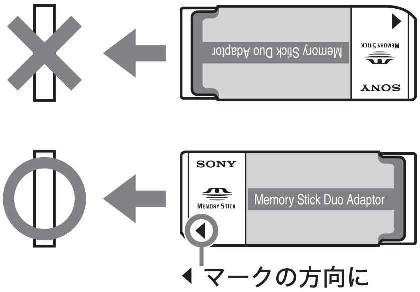
ご注意

以下のことをすると、“メモリースティック デュオ”が壊れたり、本機のメモリースティックスロットが破損したりすることがありますので、絶対にしないでください。

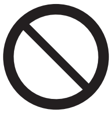
禁止

メモリースティック デュオ アダプターを本機に逆向きに差し込まない

本機のメモリースティック スロット

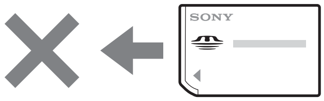


◀ マークの方向に挿入します。



禁止

メモリースティック デュオ アダプターを取り付けずに、本機に直接“メモリースティック デュオ”を差し込まない



接続する／準備する

この章では、本機を使う際に最初に行う準備について
説明します。準備が整うと、本機のいろいろな機能が
使えるようになります。

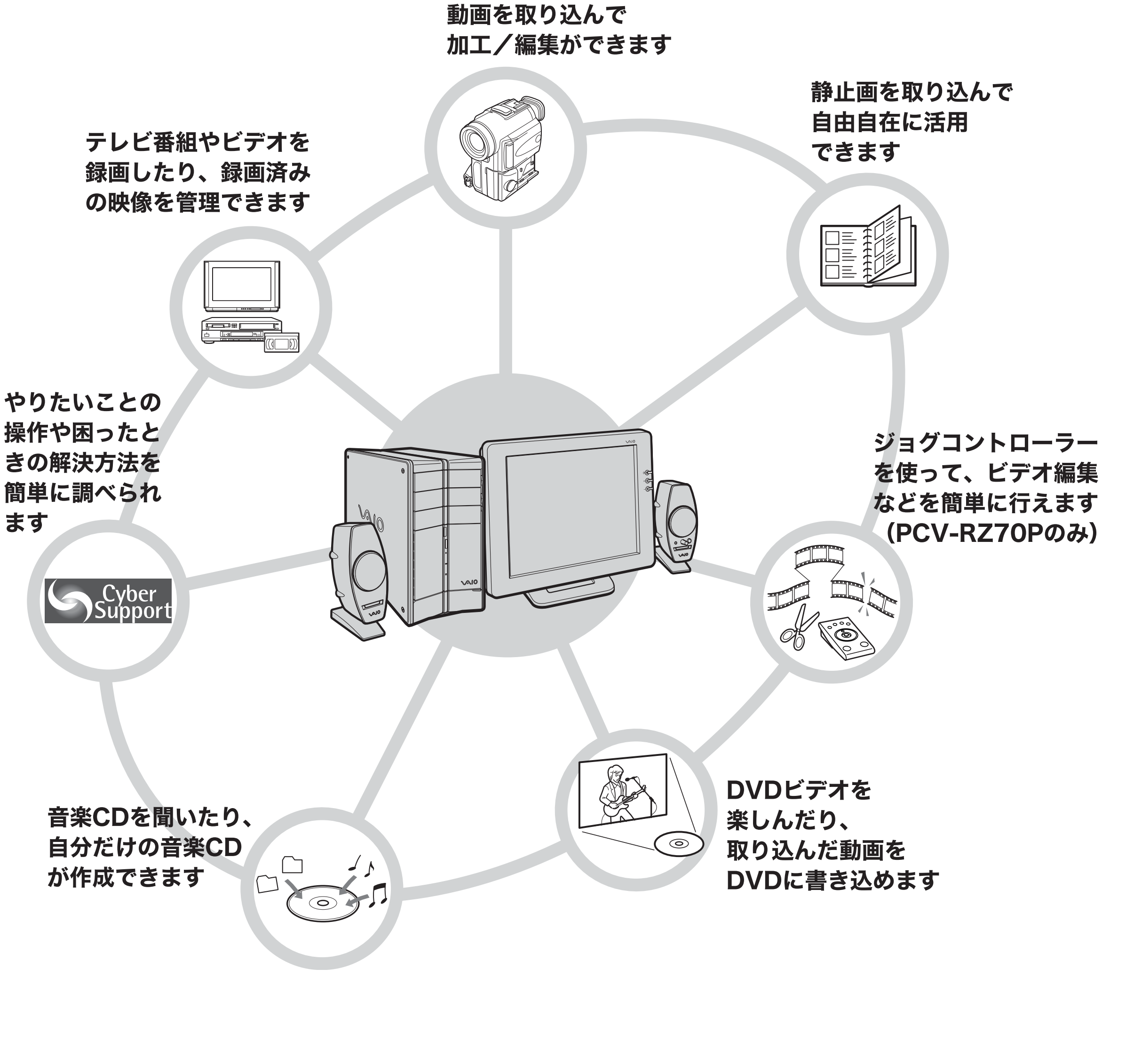
こんなことができます

本機は、デジタルビデオカメラレコーダーやビデオデッキ、テレビなどと組み合わせて使うことを想定して設計された、ソニーならではのコンピュータです。

ここでは、本機を使ってできることの例をあげてあります。

なお、これらの機能をお使いいただくには、最初に、本書に沿ってひと通りの接続や準備を完了しておく必要があります。32ページからの説明に従って、本機の接続と準備を行ってください。

また、それぞれの操作について詳しくは、「サイバーサポート」または各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。



本機には、バイオを楽しむためのソフトウェアが数多く付属しています。

ここで紹介するソフトウェアはその一部です。各ソフトウェアは、「バイオメニュー」から起動することができます。また、各ソフトウェアのお問い合わせ先については、「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」（225ページ）をご覧ください。

「バイオメニュー」の使いかた

「バイオメニュー」を使うと、やりたいことからソフトウェアを探して起動できます。

デスクトップ画面にあるこのアイコンをダブルクリックする。

やりたいことは…	使用するソフトウェア	「バイオメニュー」からの起動方法
動画を取り込んで編集したい		
楽しく簡単にムービー編集	MovieShaker	[動画・映像]→[映像の編集]→[楽しくムービー編集]の順にクリックする
デジタルビデオカメラなどで撮影した映像を編集	DVgate	[動画・映像]→[デジタルビデオ（DV）の編集]→[DV機器から映像を取り込む]または[取り込んだ映像を編集する]または[静止画を取り込む]の順にクリックする
テレビ番組を見たり、録画したい		
テレビ番組を見たり、録画する	Giga Pocket	[動画・映像]→[テレビを見る・録画する]→[テレビを見る・録画する]の順にクリックする
DVDを楽しみたい		
DVDビデオを再生する	PowerDVD XP for VAIO	[動画・映像]→[DVDを楽しむ]→[DVDを見る]の順にクリックする
ワンクリックでDVDを作る	Click to DVD おまかせコース	[動画・映像]→[DVDを楽しむ]→[ワンクリックでDVDを作る]の順にクリックする
オリジナルDVDを作る	Click to DVD	[動画・映像]→[DVDを楽しむ]→[オリジナルDVDを作る]の順にクリックする
Giga Pocketで録画したビデオカプセルをDVDに保存する	Simple DVD Maker	[動画・映像]→[テレビを見る・録画する]→[録画した映像をDVDにする]の順にクリックする
音楽CDを楽しみたい		
音楽CDを聞いたり、オリジナルCDを作成する	SonicStage	[音楽]→[CDを楽しむ]または[MDを楽しむ]をクリックして目的の項目をクリックする
静止画を取り込んで活用したい		
デジタルスチルカメラで撮影した写真を取り込んで管理	フォトコレクション	[静止画・写真]→[デジタル写真を楽しむ]→[写真を見る・管理する]の順にクリックする
写真からハガキや名刺、インデックスラベルなどを作る	プリントスタジオ	[静止画・写真]→[デジタル写真を楽しむ]→[写真を印刷する]の順にクリックする
バイオの使いかたや困ったときの解決方法を調べたい		
バイオの使いかたや、困ったときの対処法を調べる	CyberSupport for VAIO	「バイオメニュー」画面右下の[バイオのマニュアルを見る]をクリックする

各ソフトウェアは、[スタート]→[すべてのプログラム]からも起動できます。

VAIOカスタマーリンクのホームページでは、本機を最新の状態にしたり、さまざまな問題を解決することができるアップデートプログラムをダウンロードすることができます。本機を快適にお使いいただくために、ぜひVAIOカスタマーリンクホームページを定期的にご覧ください。
http://vcl.vaio.sony.co.jp/

操作の流れ

本機をお使いになる前に必要な準備や操作の大まかな流れを以下に示します。

1 付属品を確かめる（34ページ）

箱を開け、この説明書を読みながら本機の付属品がすべて揃っているか確かめます。

2 各部のなまえ（37ページ）

本機の各部のなまえを紹介します。

3 設置する（43ページ）

本機を設置する場所を決めます。

4 接続する／準備する（45ページ）

ディスプレイやテレホンコードなどを接続します。

5 電源を入れる（63ページ）

本機の電源を入れます。

6 Windowsを準備する（64ページ）

Windowsを使うために、名前などを登録します。

7 テレビを見る準備をする（71ページ）

テレビを見るために、「Giga Pocket」ソフトウェアの設定をします。

8 電源を切る（80ページ）

本機の電源を切ります。

必要に応じて下記もご覧ください。

❑ コンピュータの基本操作（83ページ）

コンピュータをはじめてお使いになる方は、このページをお読みになり、マウスやキーボードの使いかたを練習してください。

❑ カスタマー登録する／インターネットに接続する（95ページ）

登録カスタマー専用のいろいろなサービスを受けられるように、本機をカスタマー登録してください。インターネットを始めたい方は、このページをお読みになり、インターネット接続のための準備を行います。ホームページを見たり、電子メールをやりとりしたりする方法も練習してください。

❑ 接続／拡張するときは（151ページ）

本機と周辺機器を接続したり、本機を拡張するときにご覧ください。

❑ その他（201ページ）

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明しています。

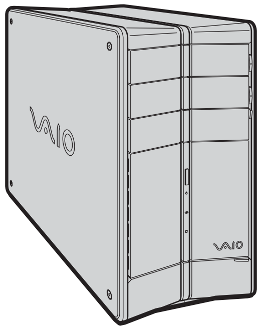
付属品を確かめる

本機をはじめて使うにあたって、以下のものがすべて揃っているかご確認ください。
❑マークにチェックしながら確認すると便利です。

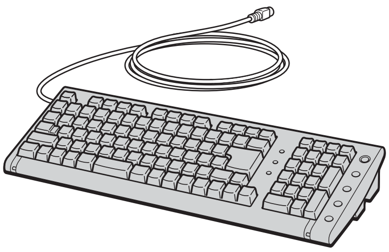
付属品が足りないときや破損しているときは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にご連絡ください。

本書で使用するものについては、本書がついています。

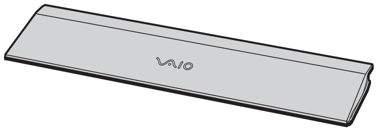
❑ コンピュータ本体（1）本書



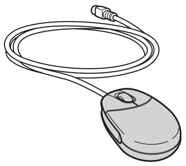
❑ キーボード（1）本書



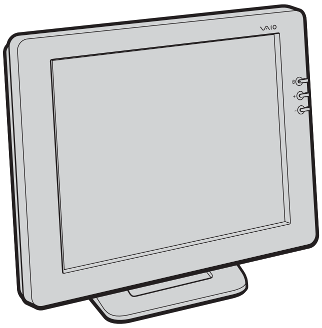
❑ パームレスト（1）本書



❑ マウス（1）本書



❑ ディスプレイおよびその付属品（1）本書

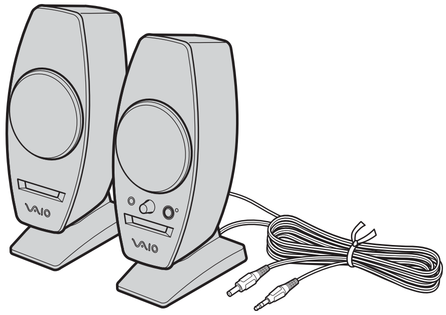


上のイラストは TFT 液晶デジタルディスプレイ PCVD-17SD1です。

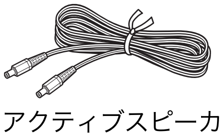
お買い求めの機種によっては、その他のディスプレイが付属されている場合や、ディスプレイは付属されていないことがあります。

ディスプレイによっては別売りのディスプレイケーブルが必要になることがあります。

❑ アクティブスピーカー（1）本書

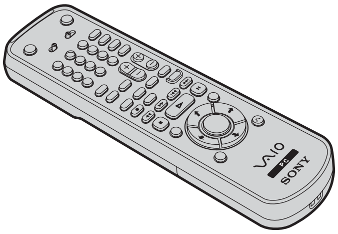


❑ アクティブスピーカー電源ケーブル（1）本書

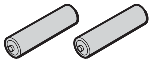


アクティブスピーカーとアクティブスピーカー電源ケーブルは、箱に入っています。

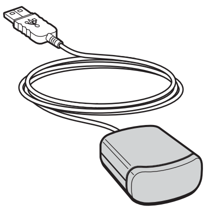
❑ **リモコン**(1) 本書



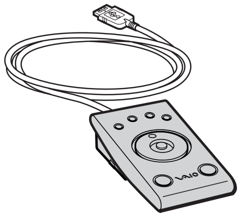
❑ **単**3**乾電池**(2) 本書



❑ **リモコン用受光ユニット**(1) 本書

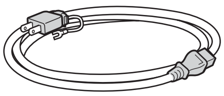


❑ **ジョグコントローラー**
(PCV-RZ70P**のみ、**1)

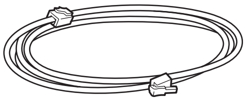


ケーブル

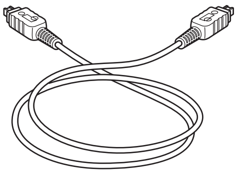
❑ **電源コード**(1) 本書



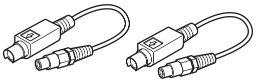
❑ **テレホンコード**(1) 本書



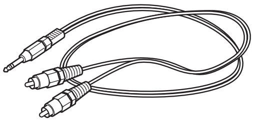
❑ i.LINK**ケーブル**
(4**ピン**←→4**ピン**)(1)



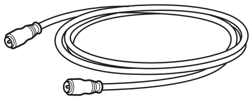
❑ **ビデオ接続用変換コネクタ**(2) 本書



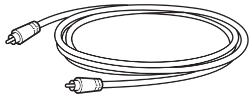
❑ **オーディオ接続ケーブル**(1) 本書



❑ **アンテナ接続ケーブル**(1) 本書



❑ **ビデオ接続ケーブル**(1) 本書



説明書およびディスク

- ❑ **取扱説明書（本書、**1**）**
- ❑ **困ったときの**Q&A**（**1**）**
- ❑ **バイオ こんなときはどうするの…（**1**）**
- ❑ **「**Giga（ギガ） Pocket（ポケット）**」取扱説明書（**1**）**
- ❑ **「**Microsoft（マイクロソフト）® Windows（ウィンドウズ）® XP（エックスピー） Professional（プロフェッショナル）**」ファーストステップガイド**（PCV-RZ70P**のみ、**1**）**
- ❑ **「**Microsoft（マイクロソフト）® Windows（ウィンドウズ）® XP（エックスピー） Home（ホーム） Edition（エディション）**」ファーストステップガイド**（PCV-RZ60/RZ50**のみ、**1**）**
- ❑ **リカバリディスクパッケージ（**1**）**

ご注意

「Microsoft® Windows® XP Professional」ファーストステップガイド、「Microsoft® Windows® XP Home Edition」ファーストステップガイドおよびリカバリディスクは再発行できませんので、大切に保管してください。

- ❑ **「**Adobe（アドビ） Premiere（プレミア） 6.0**」**CD-ROM（PCV-RZ70P**のみ、**1**）**
- ❑ **「編集ガイドブック」**（CD-ROM**つき）**（PCV-RZ70P/RZ60**のみ、**1**）**

ちょっと一言

- 本機では、「サイバーサポート」を使って画面上で本機の使いかたを調べたり、VAIOカスタマーリンクに寄せられたFAQ（よくある質問とその回答）の情報を見たりすることができます。
- 各ソフトウェアの操作について詳しくは、ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

その他

- ❑ **バイオ サービス・サポートのご案内（**1**）**
- ❑ VAIO**カルテ（**1**）**
- ❑ **ソフトウェア使用許諾契約書（**1**）**
- ❑ VAIO**カスタマーご登録、保証書お申込書（**1**）**
- ❑ **「**Adobe（アドビ） Premiere（プレミア） 6.0**」登録／特別アップグレードチラシ**（PCV-RZ70P**のみ）**
- ❑ **「**Adobe（アドビ） Premiere（プレミア） 6 LE（エルイー）**」登録／特別アップグレードチラシ**（PCV-RZ60/RZ50**のみ）**
- ❑ **「**Adobe（アドビ） Photoshop（フォトショップ） 7.0**」特別アップグレードチラシ**
- ❑ **その他パンフレット類**

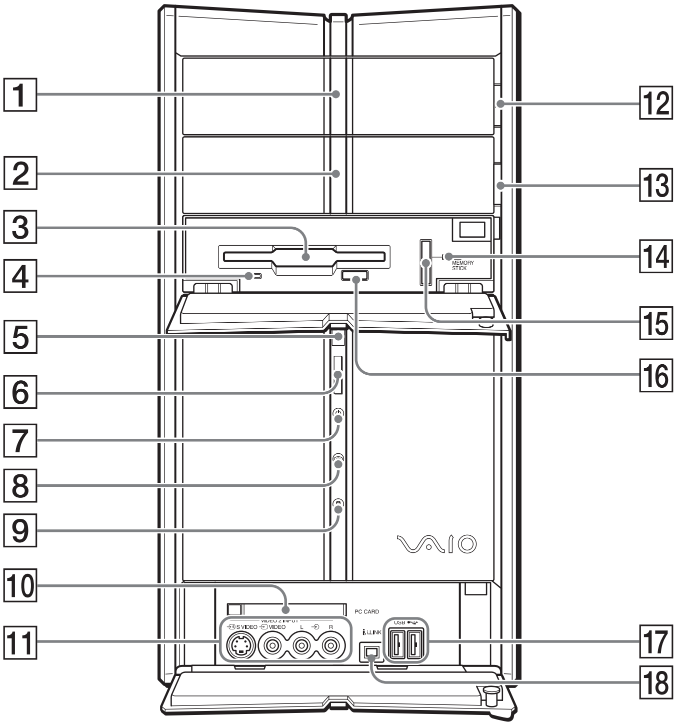
  大切な情報が記載されている場合があります。必ずご覧ください。

各部のなまえ

ここでは、本機の各部のなまえを紹介します。各部のなまえとはたらきについて詳しくは、(　　)内のページおよび「サイバーサポート」画面左側の[バイオの使いかた]をクリックして、[各部の説明]をクリックして表示される情報をご覧ください。

前面

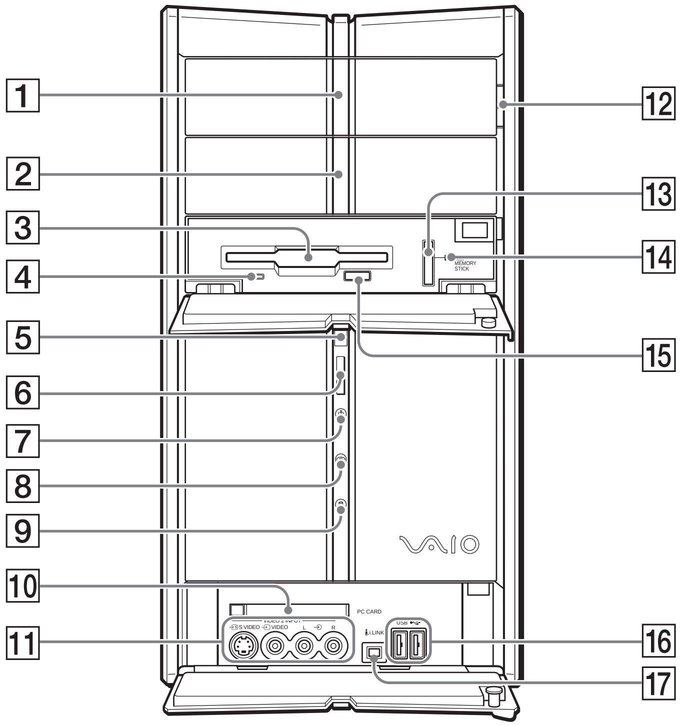
PCV-RZ70P



1. DVD-RWドライブ（209ページ）
2. DVD-ROMドライブ
3. フロッピーディスクドライブ
4. フロッピーディスクドライブアクセスランプ
5. ランプ
6. 電源ボタン（63ページ）
7. 電源ランプ
8. DVD-RWドライブおよびDVD-ROMドライブアクセスランプ
9. ランプ（ハードディスクアクセスランプ）
10. PC CARD（PCカード）スロット（168ページ）
11. VIDEO 2 INPUT（映像入力2）コネクタ（160ページ）
    S VIDEO（S映像入力）
    VIDEO（映像入力）
    L/R（音声入力）
12. DVD-RWイジェクトボタン（209ページ）
13. DVD-ROMイジェクトボタン
14. MEMORY STICK（メモリースティック）アクセスランプ
15. MEMORY STICK（メモリースティック）スロット
16. フロッピーディスクイジェクトボタン
17. USBコネクタ（USB2.0規格（ハイスピード対応））（163ページ）
18. i.LINK S400コネクタ（4ピン）（153ページ）

前面

PCV-RZ60/RZ50



1 DVD-RWドライブ（209ページ）

2 拡張デバイスベイ（196ページ）

3 フロッピーディスクドライブ

4 フロッピーディスクドライブアクセスランプ

5 ランプ

6 電源ボタン（63ページ）

7 ⏻電源ランプ

8 DVD-RWドライブアクセスランプ

9 ランプ（ハードディスクアクセスランプ）

10 PC CARD（PCカード）スロット（168ページ）

11 VIDEO 2 INPUT（映像入力2）コネクタ（160ページ）
S VIDEO（S映像入力）
VIDEO（映像入力）
L/R（音声入力）

12 DVD-RWイジェクトボタン（209ページ）

13 MEMORY STICK（メモリースティック）スロット

14 MEMORY STICK（メモリースティック）アクセスランプ

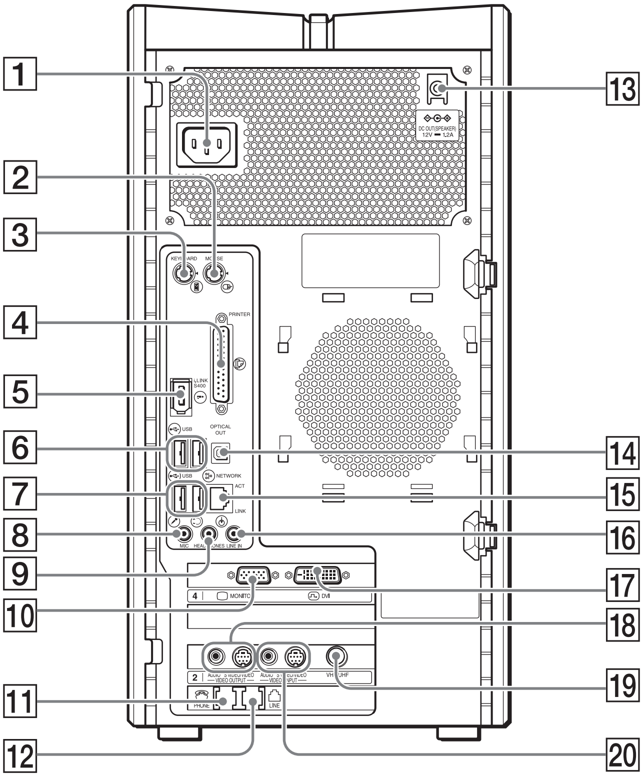
15 フロッピーディスクイジェクトボタン

16 USBコネクタ（USB2.0規格（ハイスピード対応））（163ページ）

17 i.LINK S400コネクタ（4ピン）（153ページ）

後面

PCV-RZ70P/RZ60



1 AC INPUT（AC電源入力）プラグ（62ページ）

2 MOUSE（マウス）コネクタ（49ページ）

3 KEYBOARD（キーボード）コネクタ（49ページ）

4 PRINTER（プリンタ）コネクタ（162ページ）

5 i.LINK S400コネクタ（6ピン）（153ページ）

6 USBコネクタ（USB1.1規格）（53ページ、54ページ、163ページ）

7 USBコネクタ（USB2.0規格（ハイスピード対応））（53ページ、163ページ）

8 MIC（マイクロホン）コネクタ

9 HEADPHONES（ヘッドホン）コネクタ（48ページ）

10 MONITOR（モニタ）コネクタ（46ページ）

11 PHONE（電話機）ジャック（51ページ）

12 LINE（電話回線）ジャック（52ページ）

13 アクティブスピーカー電源コネクタ（48ページ）

14 OPTICAL OUT（光デジタル出力）コネクタ（166ページ）

15 NETWORK（ネットワーク／LAN）コネクタ（165ページ）

16 LINE IN（ライン入力）コネクタ

17 DVI（ディーブイアイ）コネクタ（45ページ）

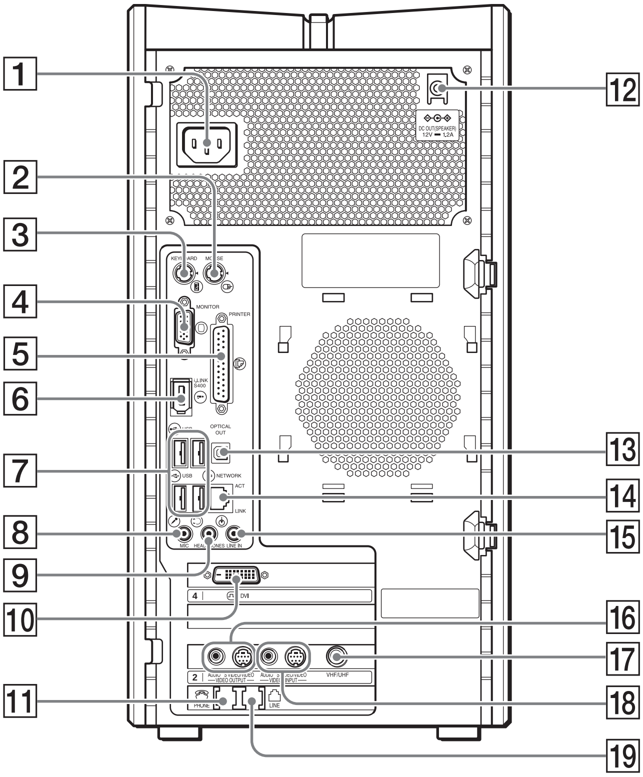
18 VIDEO OUTPUT（映像出力）コネクタ（59ページ、159ページ、161ページ）
S VIDEO／VIDEO
（S映像／映像出力）
AUDIO（音声出力）

19 VHF／UHF（アンテナ）コネクタ（56ページ）

20 VIDEO 1 INPUT（映像入力）コネクタ（59ページ、159ページ）
S VIDEO／VIDEO
（S映像／映像入力）
AUDIO（音声入力）

後面

PCV-RZ50



1 AC INPUT（AC電源入力）プラグ
（62ページ）

2 MOUSE（マウス）コネクタ
（49ページ）

3 KEYBOARD（キーボード）コネクタ
（49ページ）

4 MONITOR（モニタ）コネクタ
（47ページ）

5 PRINTER（プリンタ）コネクタ
（162ページ）

6 i.LINK S400コネクタ（6ピン）
（153ページ）

7 USBコネクタ（USB2.0規格（ハイスピード対応））（53ページ、163ページ）

8 MIC（マイクロホン）コネクタ

9 HEADPHONES（ヘッドホン）コネクタ（48ページ）

10 DVI（ディーブイアイ）コネクタ
（46ページ）

11 PHONE（電話機）ジャック
（51ページ）

12 アクティブスピーカー電源コネクタ
（48ページ）

13 OPTICAL OUT（光デジタル出力）コネクタ（166ページ）

14 NETWORK（ネットワーク／LAN）コネクタ（165ページ）

15 LINE IN（ライン入力）コネクタ

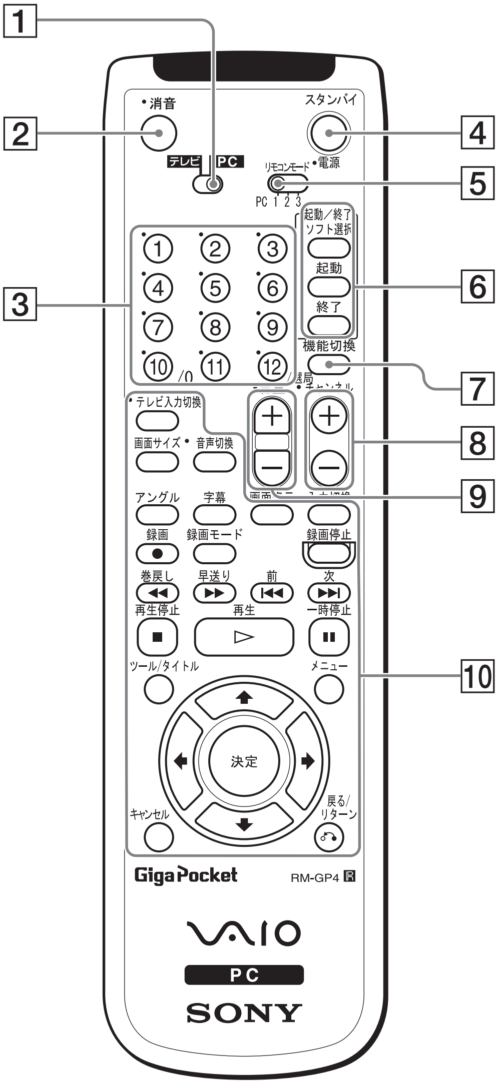
16 VIDEO OUTPUT（映像出力）コネクタ
（59ページ、159ページ、161ページ）
S VIDEO／VIDEO
（S映像／映像出力）
AUDIO（音声出力）

17 VHF／UHF（アンテナ）コネクタ
（56ページ）

18 VIDEO 1 INPUT（映像入力）コネクタ
（59ページ、159ページ）
S VIDEO／VIDEO
（S映像／映像入力）
AUDIO（音声入力）

19 LINE（電話回線）ジャック（52ページ）

リモコン



1 テレビ／PC切換スイッチ

2 消音ボタン

3 チャンネル数字ボタン

4 電源／スタンバイボタン

5 リモコンモード切換スイッチ

6 起動／終了／ソフト選択ボタン

7 機能切換ボタン

8 チャンネルボタン

9 音量ボタン

10 操作ボタン

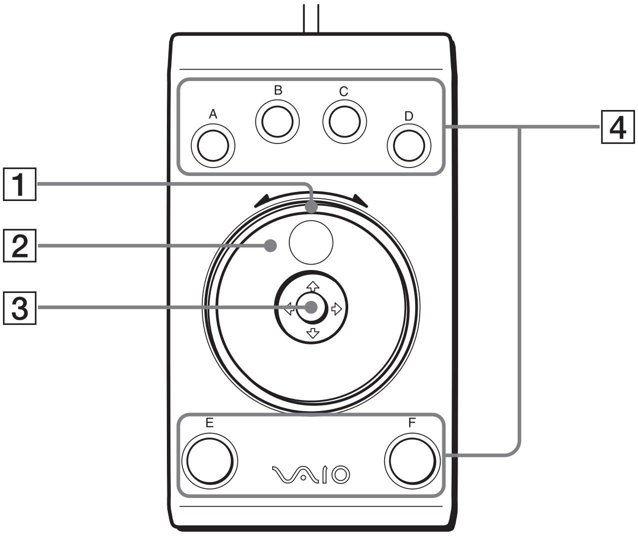
ちょっと一言

> リモコンの使いかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の[バイオの使いかた]をクリックして、[各部の説明]→[リモコン]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

- 5ボタン、チャンネル＋ーボタンに突起が付いています。
- 本機を操作する場合は、1テレビ／PC切換スイッチを「PC」側にしてください。
- 市販のテレビを操作する場合は、1テレビ／PC切換スイッチを「テレビ」側にしてください。

ジョグコントローラー(PCV-RZ70Pのみ)

「Adobe Premiere 6.0」ソフトウェアや「DigiOnSound2 L.E. for VAIO」ソフトウェアを使って、映像やサウンドの編集をしたり、「Giga Pocket」ソフトウェアや「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアを使って映像の再生をしたりするときに便利なジョグコントローラーです。



1	LED	ジョグコントローラーを本機に接続したときに点灯して、操作可能なことを示します。
2	ジョグダイヤル	左右に回転させることができます。 主にコマ送りを行うときに使用します。 1クリックが1コマに対応しています。
3	センターポイント	上下左右に動かすことと、垂直押し(下に押すこと)ができます。 映像の再生や音量調節などに使用します。 **ちょっと一言** お使いのソフトウェアによっては、センターポイントを右や左に2度押すことによって、再生スピードをより高速にすることができます。
4	A/B/C/D/E/F ボタン	お使いになるソフトウェアによって機能が変わります。 機能の割り当てを変更することはできません。

ソフトウェアを複数同時にお使いになっている場合は、最前面のソフトウェアのみ操作することができます。現在お使いのソフトウェア以外を操作したい場合は、目的のソフトウェアをクリックしてください。

ちょっと一言

- ジョグコントローラーの使いかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の[バイオの使いかた]をクリックして、[各部の説明]→[ジョグコントローラー(PCV-RZ70Pのみ)]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

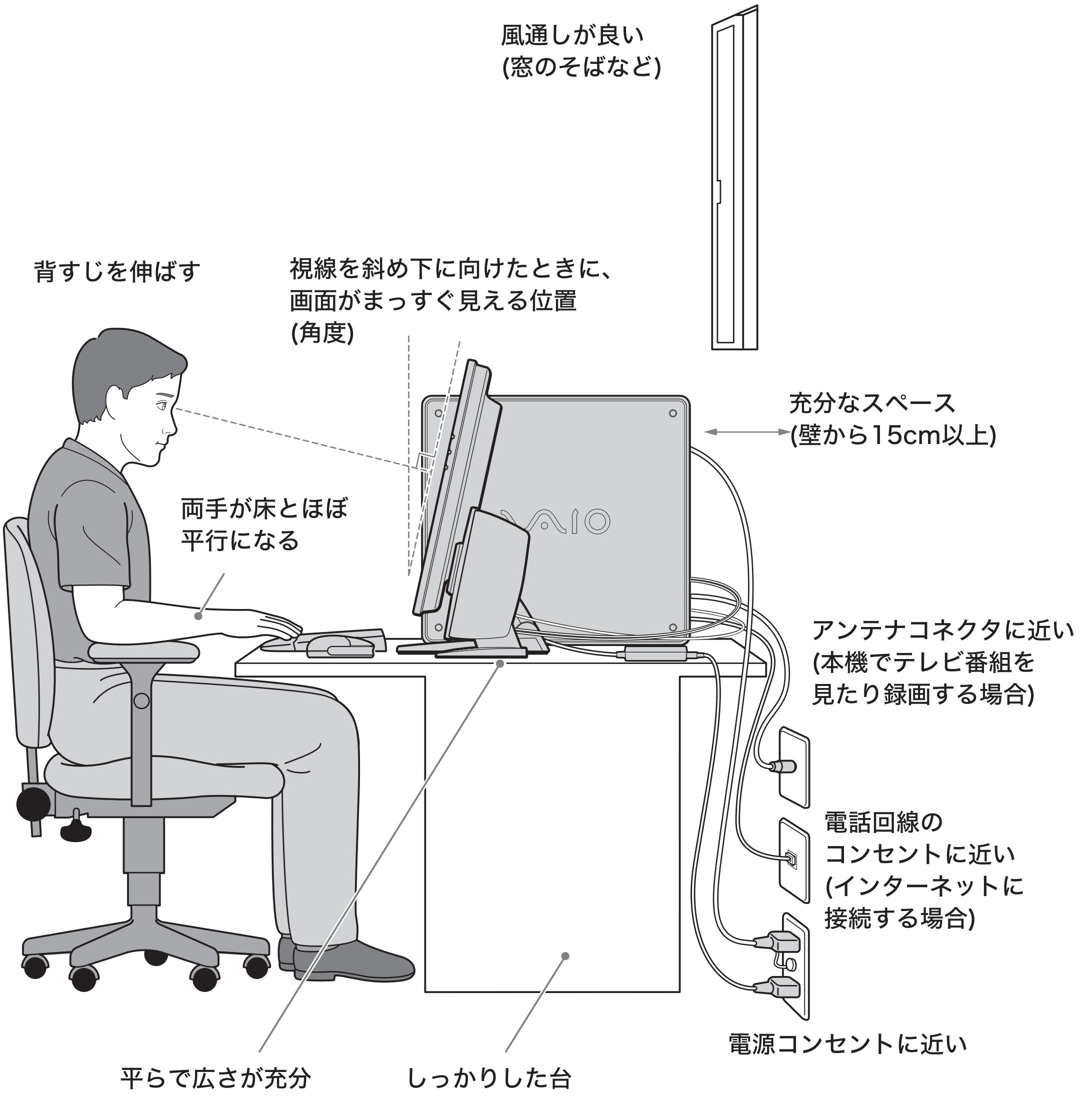
- お使いのソフトウェアに応じて、それぞれのボタンに特定の機能が自動的に設定されます。

ジョグコントローラーは、以下のソフトウェアに対応しています。

- Adobe Premiere 6.0(動画編集・加工)
- DVgate(デジタルビデオ動画/静止画入出力/簡易編集)
- TMPGEnc DVD Source Creator for VAIO(MPEGソフトエンコーダー)
- DigiOnSound2 L.E. for VAIO(サウンド編集)
- Giga Pocket(テレビ録画/管理/再生)
- PowerDVD XP for VAIO(DVDビデオ再生)

設置する

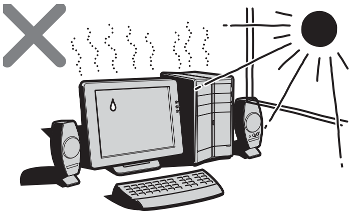
下の図を参考にして、設置場所を決め、本機を設置してください。



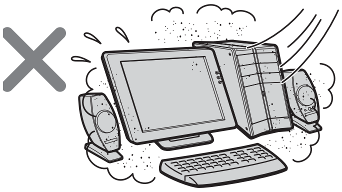
設置に適さない場所

次のような場所には設置しないでください。本機の故障や破損の原因となります。

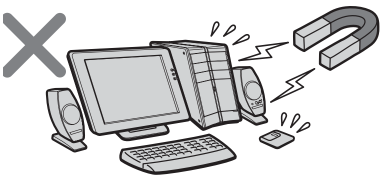
❑ **直射日光が当たる場所**



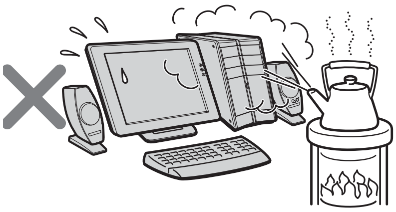
❑ **ほこりが多い場所**



❑ **磁気を発生するものや磁気を帯びているものの近く**



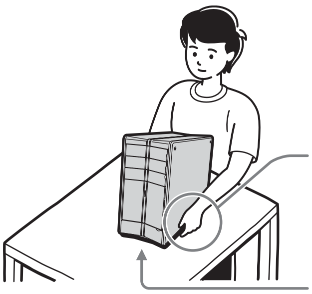
❑ **湿気が多い場所**

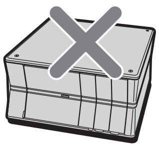


❑ **暖房器具の近くなど、温度が高い場所**

❑ **風通しが悪い場所**

設置時のご注意





故障を避けるためにも、次のことをお守りください。

- **本機を移動するときは、必ず電源を切る。**
  電源が入っている状態で移動したり、動かしたりするとハードディスクの故障の原因となります。
- **本機を倒したり、ぶつけたりしない。**
  小さな衝撃や振動でもハードディスクの故障の原因となります。
- **不安定な場所に設置しない。**

このほかにも、設置の際の安全上の注意事項が8ページから記載されています。そちらもあわせてご覧ください。

接続する／準備する

以下の手順に従って、ディスプレイ、アクティブスピーカー、キーボード、マウス、テレホンコード、リモコン用受光ユニット、アンテナ、AV機器、ジョグコントローラー（PCV-RZ70Pのみ）、電源コードを接続し、リモコンを使えるように準備します。

ちょっと一言

特に記載のない場合、本機のイラストはPCV-RZ70P、ディスプレイのイラストはPCVD-17SD1のものです。

1 ディスプレイを接続する。

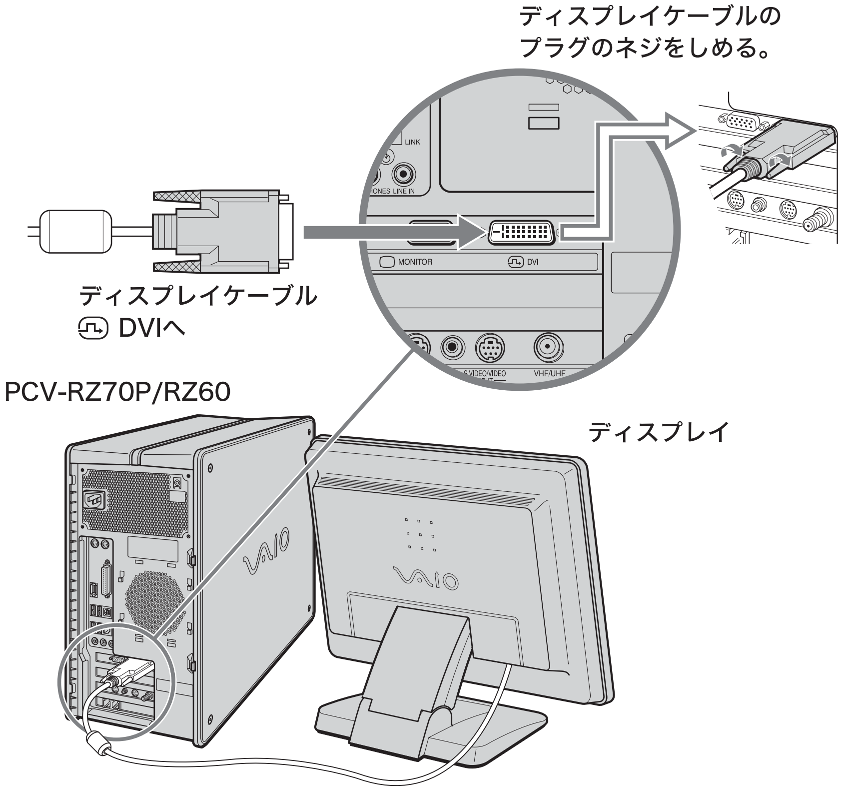
ご注意

- PCVD-17SD1などのディスプレイに付属のACアダプタは、ディスプレイ以外には使用できません。ディスプレイを接続するときはご注意ください。
- 本機には、MONITOR（モニタ）コネクタとDVI（ディーブイアイ）コネクタの2つのコネクタがあります。接続するコネクタはディスプレイによって違います。詳しくはディスプレイの取扱説明書をご覧ください。
- MONITOR（モニタ）コネクタまたはDVI（ディーブイアイ）コネクタのいずれかにディスプレイを接続してください。
  両方のコネクタにディスプレイを接続しないでください。

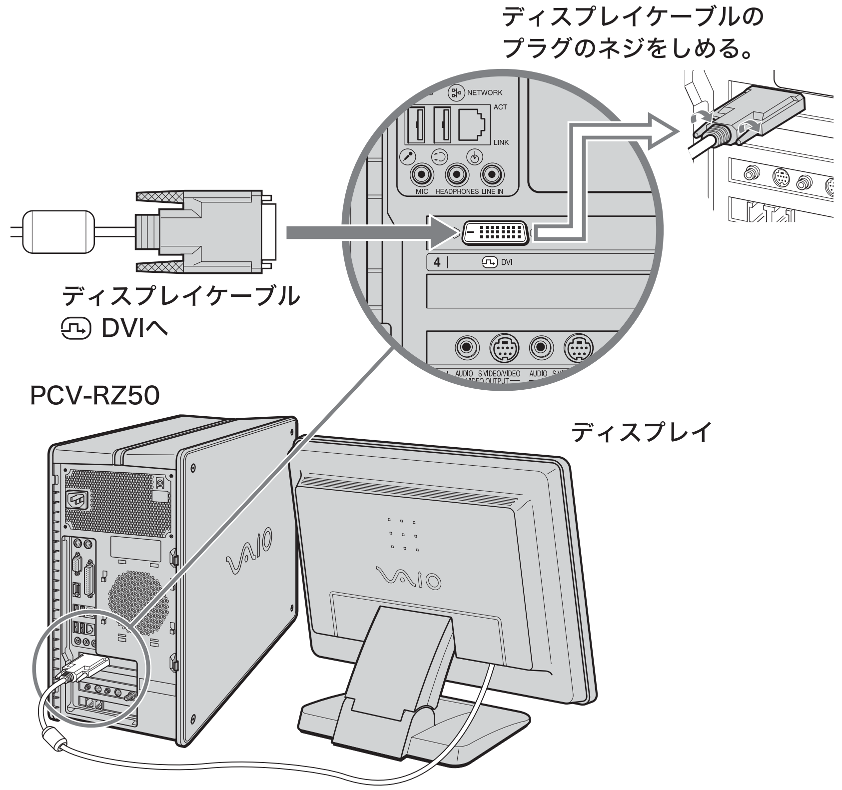
TFT液晶デジタルディスプレイPCVD-17SD1を接続する場合

ディスプレイのプラグをDVI（ディーブイアイ）コネクタへ接続します。

- **PCV-RZ70P/RZ60をお使いの場合**



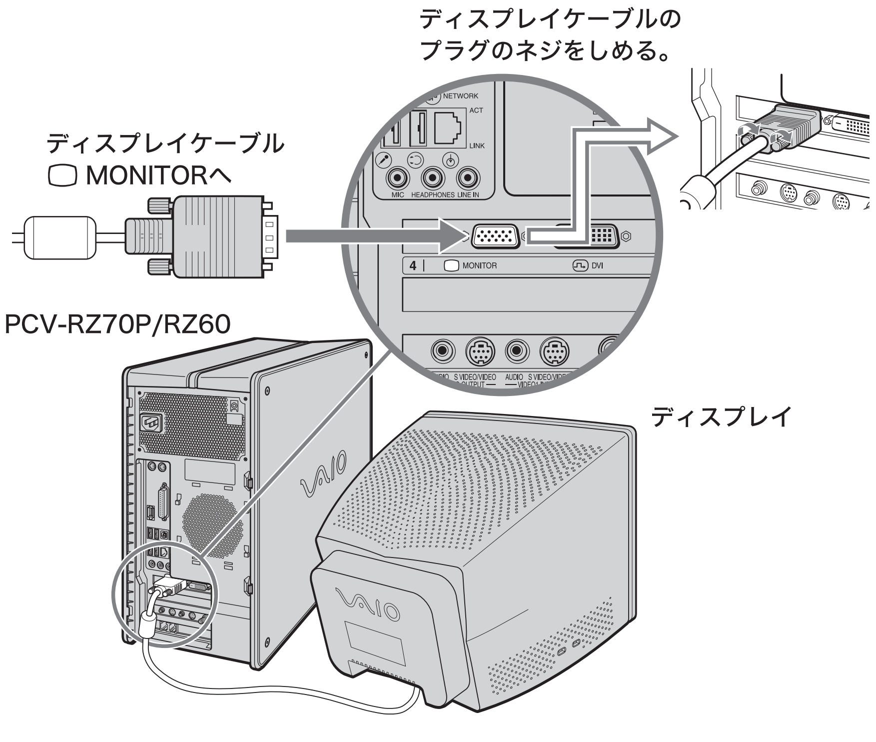
• PCV-RZ50をお使い**の場合**



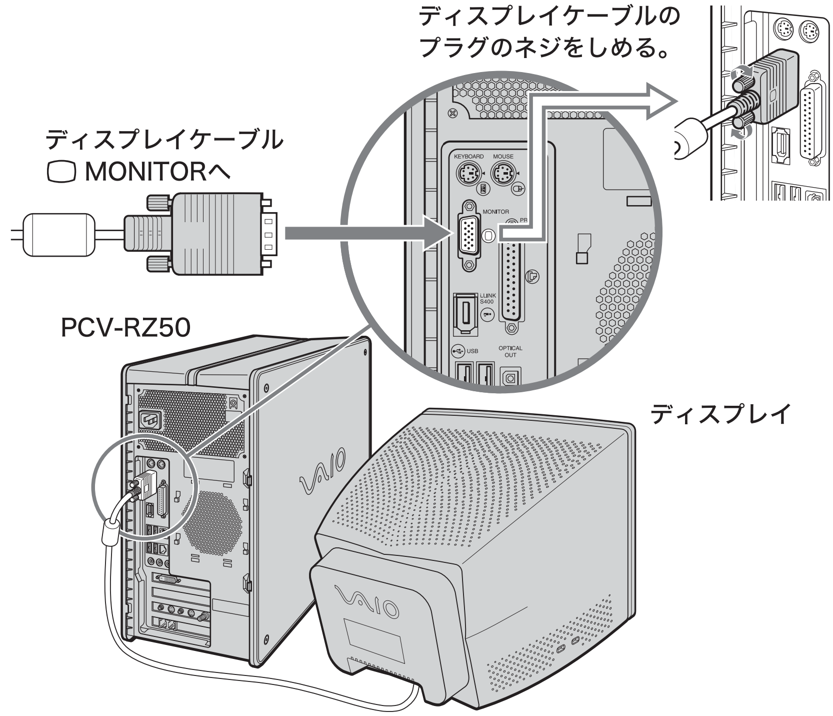
ソニートリニトロンカラーコンピューターディスプレイなどの一般のディスプレイを接続する場合

ディスプレイケーブルのプラグをMONITOR（モニタ）コネクタへ接続します。

• PCV-RZ70P/RZ60**をお使いの場合**



• PCV-RZ50**をお使いの場合**



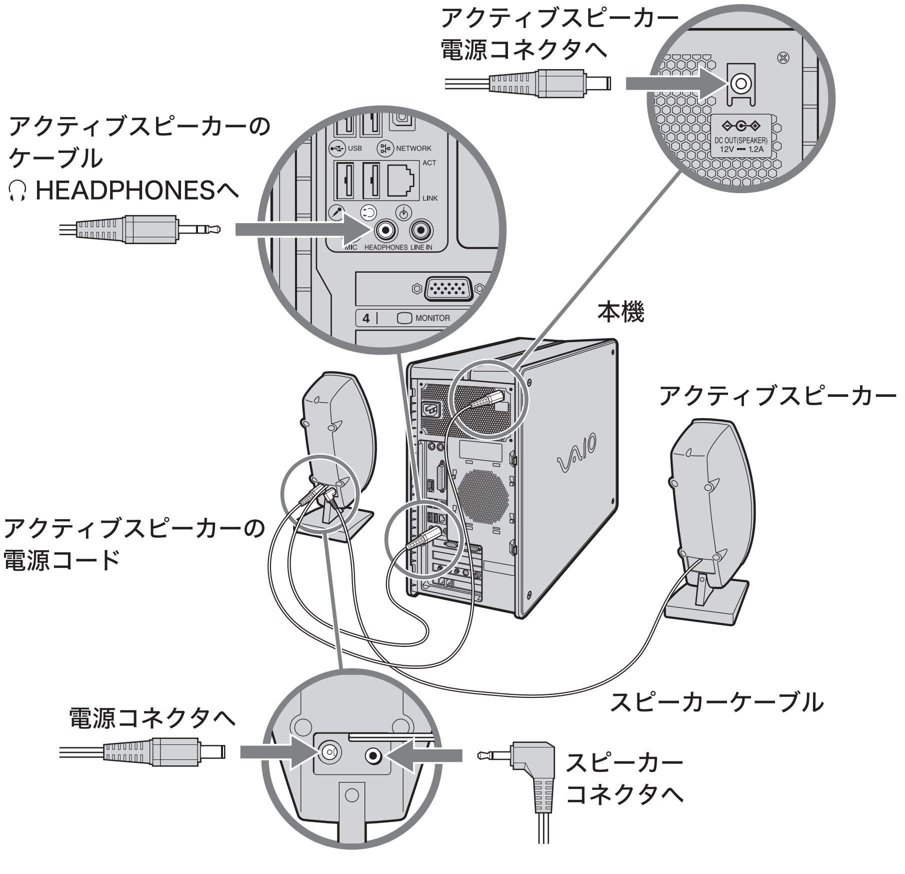
2 アクティブスピーカーを接続する。

ちょっと一言

アクティブスピーカーの電源は、本機後面のアクティブスピーカー用電源コネクタから供給されるため、ACアダプタなどを使って壁のコンセントに接続する必要はありません。

❶ **付属のアクティブスピーカーのケーブルのプラグを**HEADPHONES**（ヘッドホン）コネクタへ接続します。**

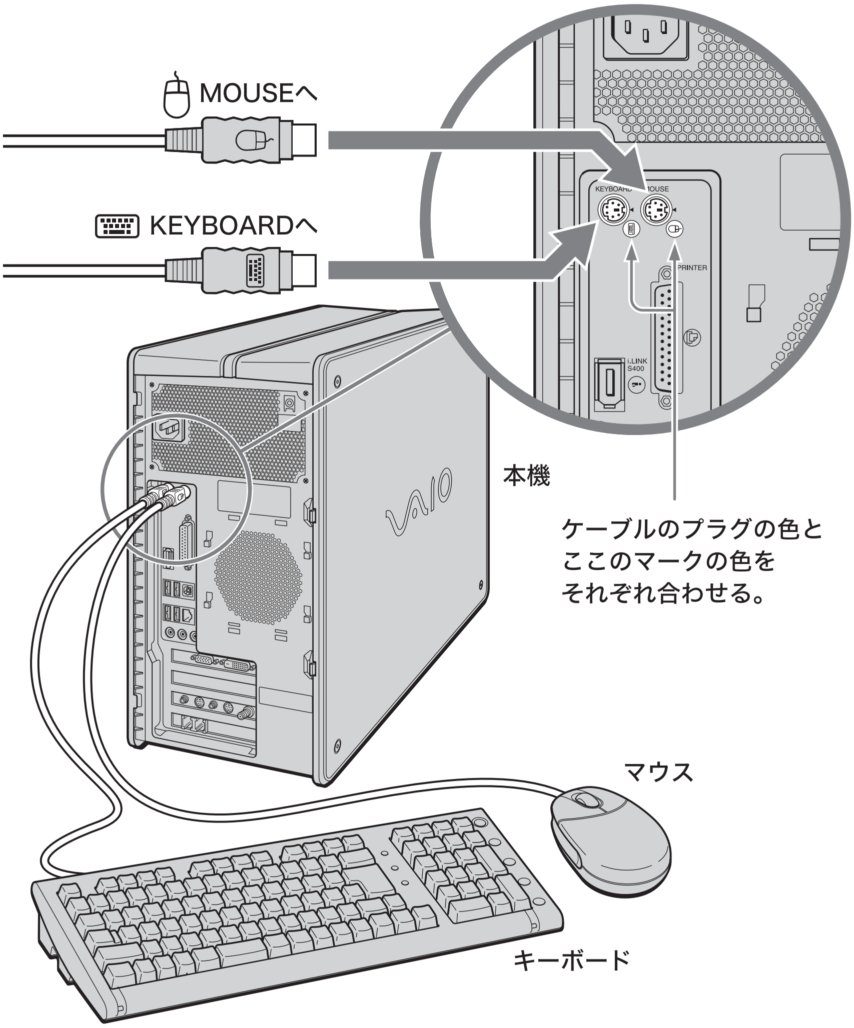
❷ **付属のアクティブスピーカーの電源ケーブルのプラグを、本機のアクティブスピーカー電源コネクタへ接続します。**



ご注意

- 本機後面のアクティブスピーカー用電源コネクタには、本機に付属しているスピーカー以外のスピーカーは接続しないでください。
- 本機の電源が入っているときは、本機後面のアクティブスピーカー用電源コネクタに電源プラグを差したり、アクティブスピーカー用電源コネクタの電源プラグを抜いたりしないでください。
- ヘッドホンと付属のアクティブスピーカーは同じHEADPHONES（ヘッドホン）コネクタに接続するため、同時に使用できません。ヘッドホンを接続する場合は、アクティブスピーカーのヘッドホン端子に接続してください。ヘッドホンをアクティブスピーカーに接続すると、アクティブスピーカーからは音は出なくなります。
- アクティブスピーカーには付属の電源ケーブル以外は接続しないでください。
- ACアダプタなどは必要ありません。
- 電源コードはスピーカーの箱に入っています。

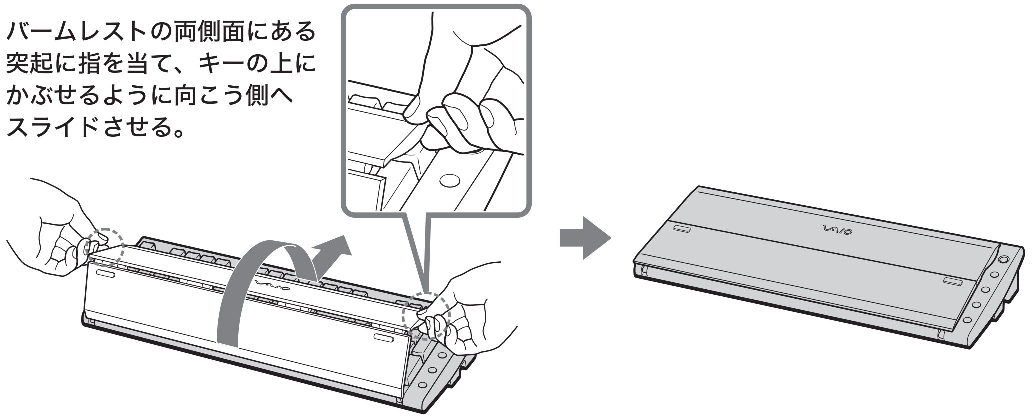
3　キーボードとマウスを接続する。



キーボードにパームレストを取り付けるには

パームレストを取り付けると、キーボードを使うとき手首に負担がかかりにくくなります。

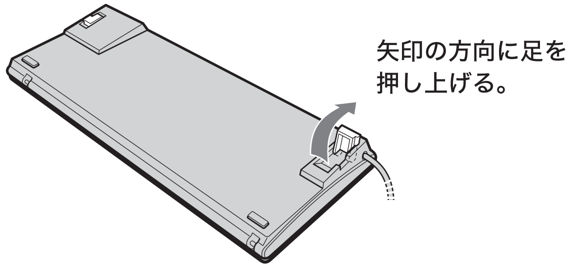
パームレストはキーボードを使わないときにキーボードのふたとしても使うことができます。



キーボードの足を立てるには

キーボードの足を立てると、キーボードを使うときキーを打ちやすくなります。

キーボード底面



4 電話回線（一般電話回線／ADSL／ISDN）に接続する。

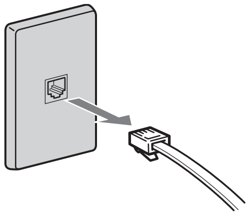
インターネットに接続するには、一般の電話回線に接続する方法や、ADSLに接続する方法などがあります。ここでは、一般の電話回線での接続方法と、ADSL（53ページ）およびISDN（53ページ）での機器の接続について説明します。
インターネットへの接続について詳しくは、「インターネットを始める」（106ページ）をご覧ください。

一般の電話回線につなぐときは

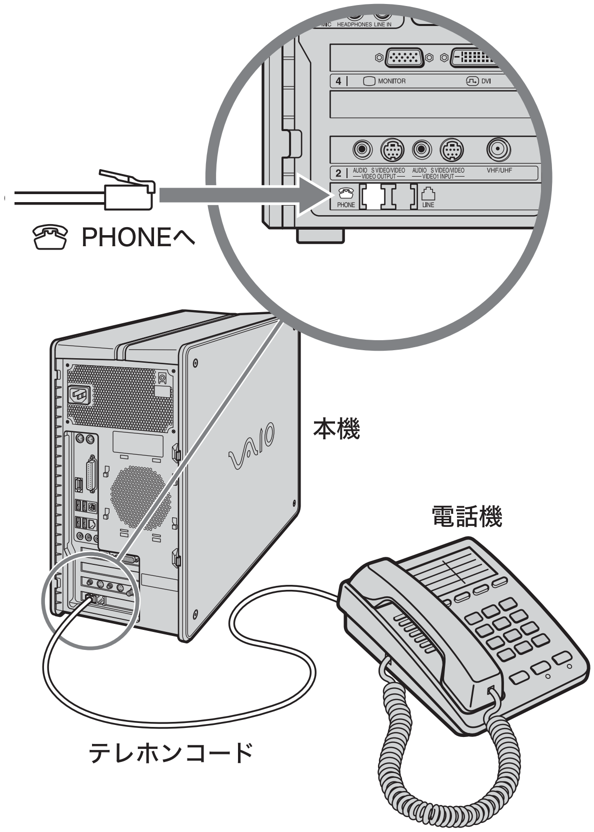
ちょっと一言

電話機を接続しない場合は、手順❶❷は必要ありません。手順❸で本機を電話回線に接続してください。

❶ お使いの電話機のテレホンコードを電話回線のモジュラジャックからはずす。



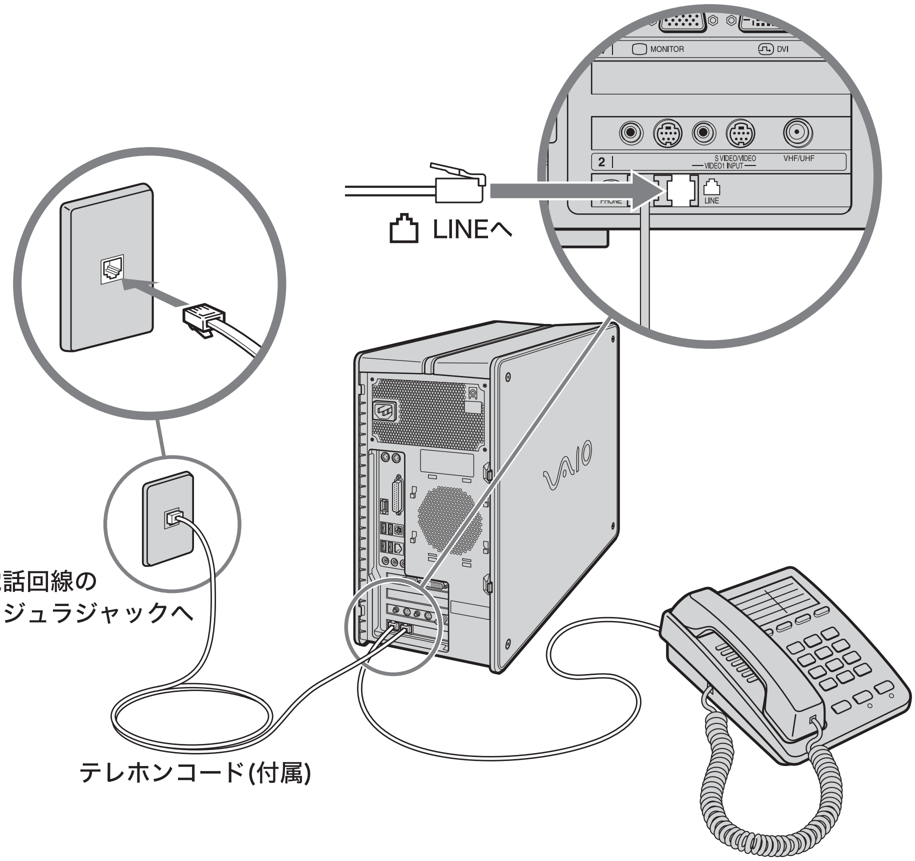
❷ ❶ではずしたテレホンコードを本機のPHONE（電話機）ジャックにカチッと音がするまで差し込む。



ご注意

テレホンコードは本機後面のNETWORK（ネットワーク）コネクタに接続しないでください。

❸ 付属のテレホンコードの一方を本機のLINE（電話回線）ジャックへ、もう一方を電話回線のモジュラジャックへ差し込む。

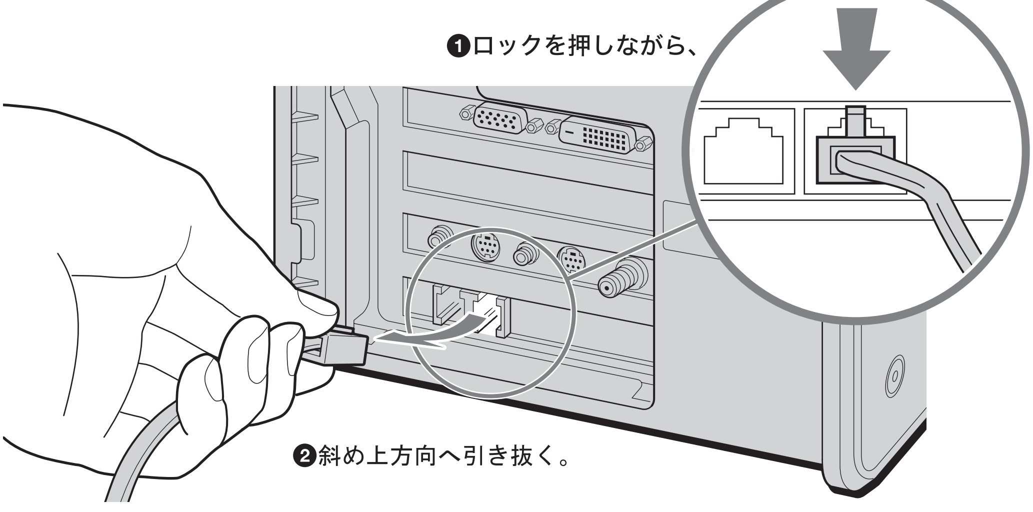


ちょっと一言

電話回線のコンセントの形状が付属のテレホンコードに合わないときは交換工事や取り付け工事が必要な場合があります。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の[バイオの使いかた]をクリックして、[バイオインフォメーション]→[知っ得情報]→[電話回線のコンセントの種類]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

本機からテレホンコードを取りはずすには

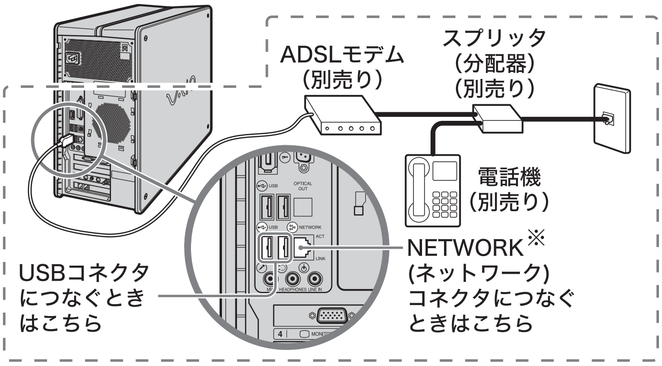
PHONE（電話機）ジャックまたはLINE（電話回線）ジャックにつながっているテレホンコードのモジュラアダプタ部分をいったん本機の奥に押し込み、モジュラアダプタのロックを押しながら、斜め上方向に引き抜きます。



ADSLにつなぐときは

ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットへ高速に常時接続できるサービスのことです。このサービスを利用するには、ADSL接続サービスを提供している接続業者と契約し、申し込むことが必要です。

お客様の接続環境によって、接続方法が異なる場合がありますので、ADSL接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約するADSL接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。

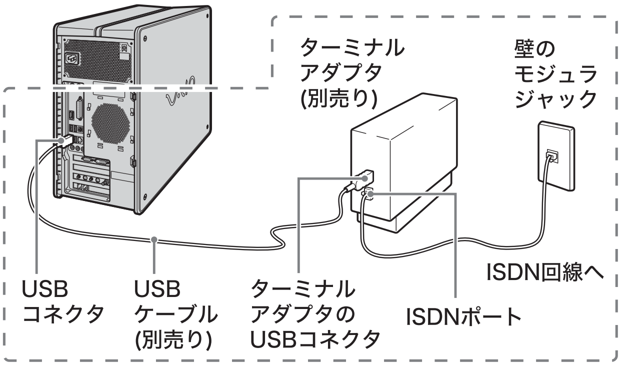


点線内については、契約するADSL接続業者にお問い合わせください。
※ お買い上げ時にはNETWORK(ネットワーク)コネクタ上に誤って接続しないようにシールが貼られています。NETWORK(ネットワーク)コネクタを使うときは、シールをはがしてから接続してください。

ISDN回線につなぐときは

「ISDN回線」とはNTTのデジタル通信網を使った電話回線で、通信速度も速く、1回線で従来の2回線が使えます。ISDN回線を使って本機を使用するためには、本機のほかに「ターミナルアダプタ」というコンピュータや従来の一般電話回線対応の通信機器、電話機をつなぐためのISDN回線用の機器が必要です。

インターネットに接続するときは、下図のように本機のUSB（ユーエスビー）コネクタとターミナルアダプタのUSBコネクタをつないでください。接続について詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。



点線内については、接続業者にお問い合わせください。

ご注意

接続について詳しくは、接続業者にお問い合わせください。

ちょっと一言

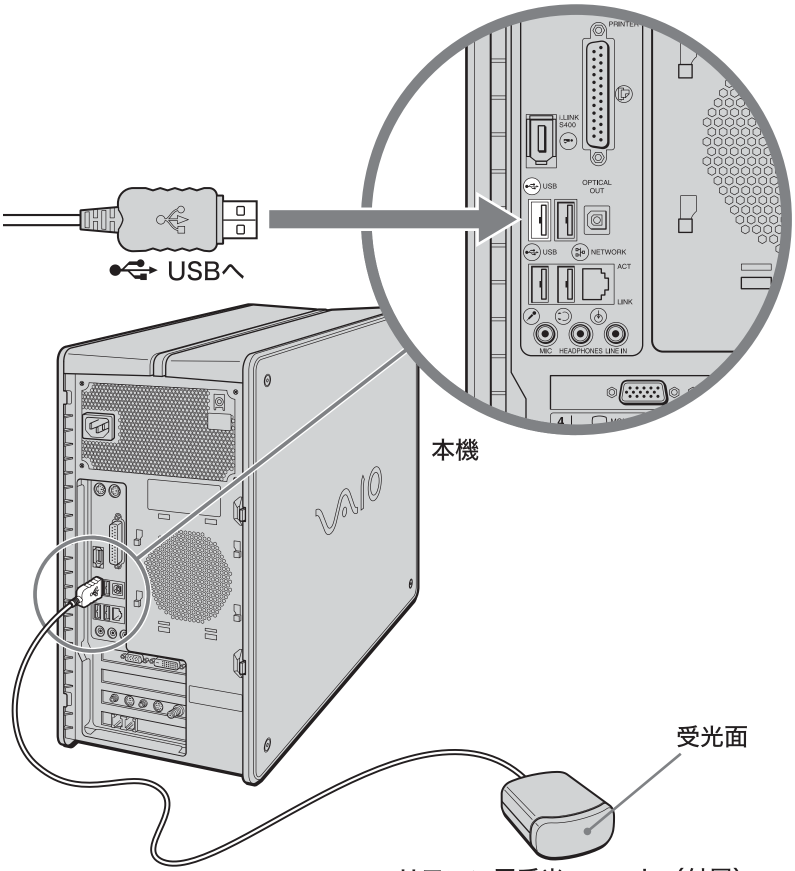
本機前面のUSBコネクタにつなぐこともできます。

5 リモコン用受光ユニットを接続する。

付属のリモコン用受光ユニットを本機後面のUSBコネクタに接続します。

ちょっと一言

- PCV-RZ70P/RZ60をお使いの場合、4か所のUSBコネクタのうち、上2か所がUSB1.1規格、下2か所がUSB2.0規格（ハイスピード）に対応しています。リモコン用受光ユニットはロースピードデバイスのため、USB1.1規格のコネクタに接続することをおすすめします（PCV-RZ50をお使いの場合、4か所すべてがUSB2.0規格に対応していますので、どのUSBコネクタに接続しても結構です）。
- USB2.0規格は、USB（Universal Serial Bus）の新しい規格で、USB1.1規格より高速なデータ転送が可能です。USB2.0規格に対応しているコネクタには、USB1.1規格に対応した機器もつなげます。



ご注意

- リモコン用受光ユニットは、本機および付属のリモコン専用です。他の機器ではお使いになれません。
- リモコン用受光ユニットを設置するときは、以下の点にご注意ください。
  - 受光面をリモコンの信号が受けやすい方向に向けてください。
  - 受光ユニットの受光面とリモコンの発光部の間に障害物がない場所に設置してください。

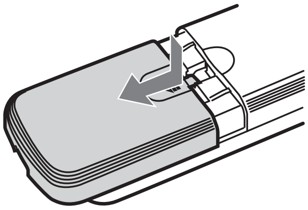
ちょっと一言

- リモコン用受光ユニットをつなぐと、付属のリモコンを使って、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアや「SonicStage」ソフトウェアなどを操作できるようになります。
- リモコン用受光ユニットを本機の上など安定しない場所に設置するときは、付属のマジックテープを貼ると受光ユニットの滑り落ちを防げます。マジックテープを受光ユニットの底面と受光ユニットを設置する場所に貼ります。

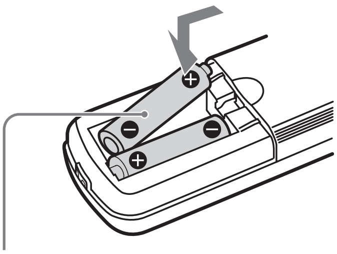
6 リモコンを準備する。

❶ **リモコンを裏返す。**

❷ **リモコン裏面の乾電池入れのふたを開ける。**



❸ **+と−の方向を確かめて、付属の単3乾電池を2本入れる。**



⊖側から乾電池を
入れます。

単3乾電池（付属）

ご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破損のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

- +と−の向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池が液もれしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

❹ **乾電池入れのふたを閉める。**

ちょっと一言

- 電池の交換時期は約6か月です。リモコン操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい乾電池に交換してください。
- リモコンの使いかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の[バイオの使いかた]をクリックして、[各部の説明]→[リモコン]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

7

アンテナを接続する。

本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見たり、テレビ番組を録画するときは、付属のアンテナ接続ケーブルを使って壁のアンテナコネクタにつなぎます。テレビを見たり、テレビ番組を録画／再生する方法については、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

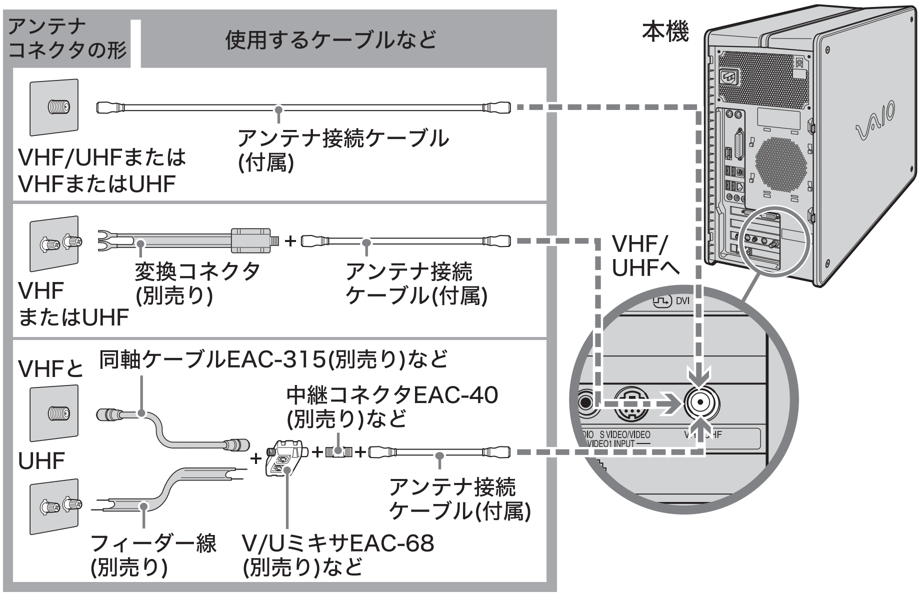
接続のしかたは、以下の場合で異なりますので、ご自分の使用環境に合わせて接続してください。

- 本機のみを壁のアンテナコネクタに接続する場合。
- すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機をあらたに接続する場合。

本機のみを壁のアンテナコネクタに接続する場合

以下のようにアンテナを接続します。

アンテナのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、接続してください。なお、いずれにも当てはまらない場合は、販売店にご相談ください。

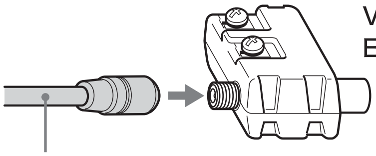


ご注意

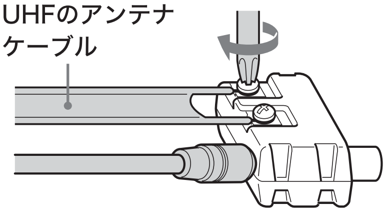
- フィーダー線は同軸ケーブルにくらべ雑音電波などの影響を受けやすく、信号が劣化します。できるだけ同軸ケーブルをご使用ください。
- フィーダー線をご使用になる場合は本機からできるだけ離してください。
- フィーダー線をご使用になる場合は、長くなりすぎないようにご注意ください。

V/Uミキサをつなぐには

(1) VHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。



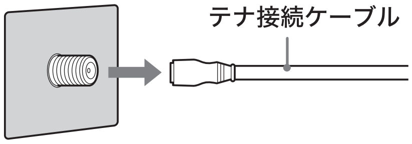
(2) UHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。



すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機をあらたに接続する場合

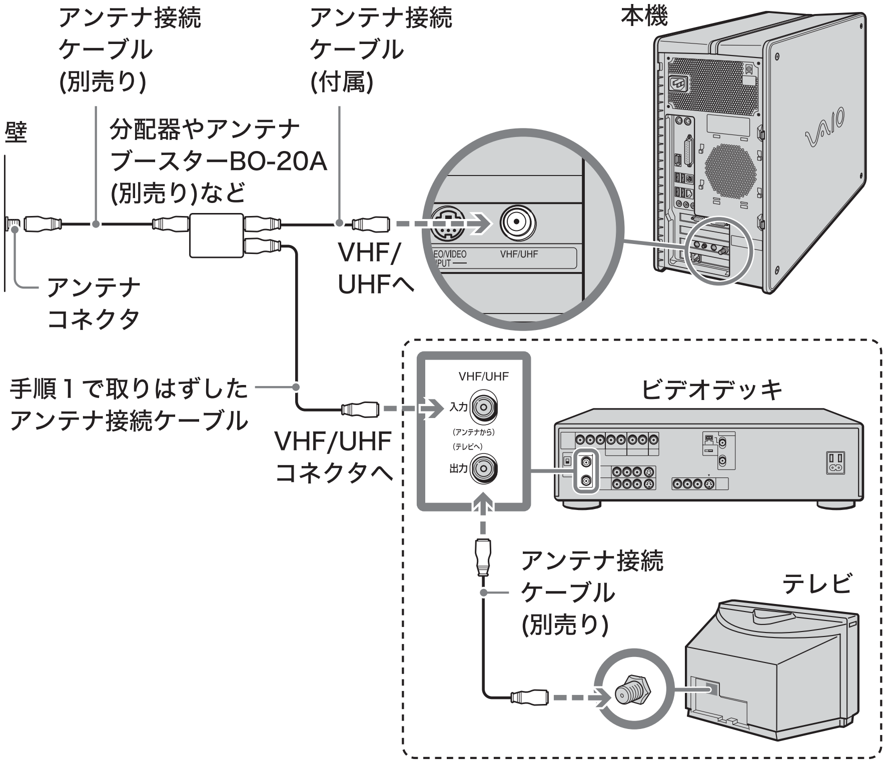
以下のようにアンテナを接続します。

❶ **壁のアンテナコネクタに接続されているビデオデッキやテレビのアンテナ接続ケーブルを取りはずす。**



❷ **アンテナを接続する。**

別売りの分配器やアンテナブースターBO-20Aなどを使ってアンテナを接続します。壁のアンテナコネクタと分配器やアンテナブースターのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。「本機のみを壁のアンテナコネクタに接続する場合」（56ページ）の例から、最も近いものを選び接続してください。



点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

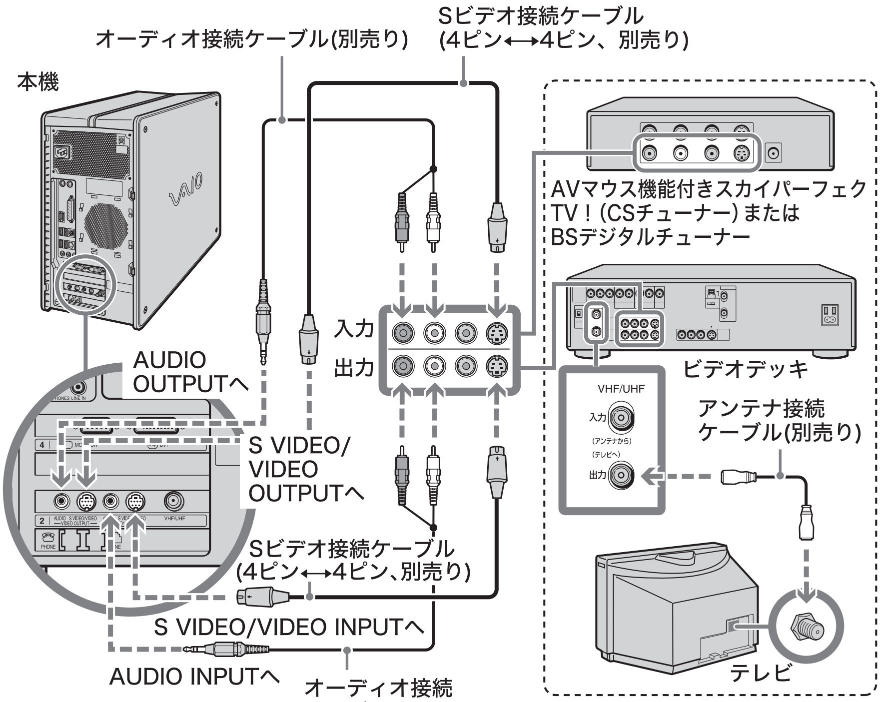
ちょっと一言

ビデオデッキをつなぐなど、アンテナを分配すると、電波が弱くなり、ディスプレイの画面がチラチラしたり、斜めじまが入ることがあります。この場合は、別売りのアンテナブースターをアンテナと本機の間につないでください。

8 本機とビデオデッキ、またはAVマウス機能付きスカイパーフェクTV!（CSチューナー）またはBSデジタルチューナーを接続する。

本機とビデオデッキ、またはAVマウス機能付きスカイパーフェクTV!（CSチューナー）またはBSデジタルチューナーの映像／音声の入出力コネクタ同士をつなぐと、以下のことができるようになります。

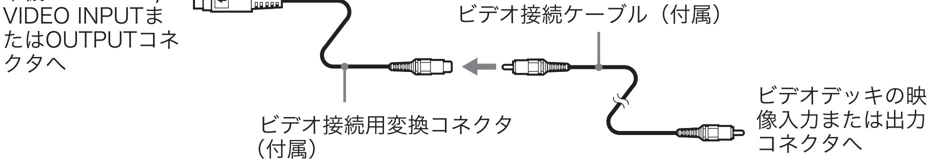
- ビデオデッキで再生する映像、またはAVマウス機能付きスカイパーフェクTV!（CSチューナー）またはBSデジタルチューナーの映像を本機につないだディスプレイで見る。
- ビデオデッキで再生する映像、またはAVマウス機能付きスカイパーフェクTV!（CSチューナー）またはBSデジタルチューナーの映像を本機に録画する。
- 本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する映像を、ビデオデッキに録画したり、テレビで見る。



点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキ、スカイパーフェクTV！(CSチューナー)／BSデジタルチューナーまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ちょっと一言

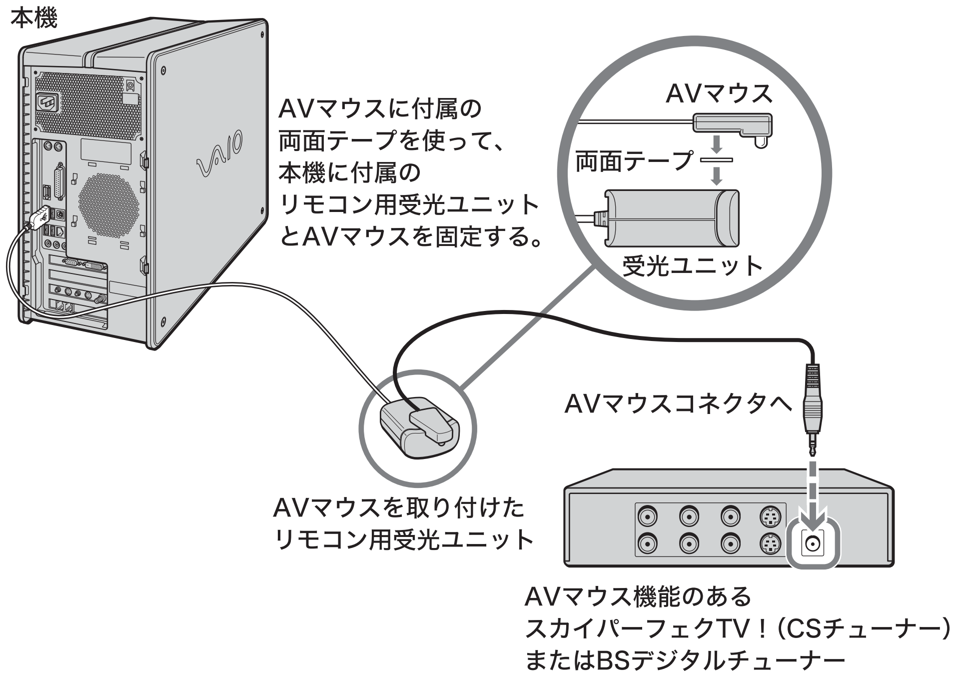
S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキをつなぐときは、Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



AVマウス機能付きスカイパーフェクTV!（CSチューナー）／BSデジタルチューナーをつなぐときは

本機のリモコン用受光ユニットに、AVマウス機能のあるスカイパーフェクTV!（CSチューナー）またはBSデジタルチューナーに付属のAVマウスを取り付け、スカイパーフェクTV!（CSチューナー）またはBSデジタルチューナーの予約録画機能を使って本機に付属の「Giga Pocket」ソフトウェアに番組の予約録画を行うことができます。

AVマウスは以下のように接続します。詳しくは、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプ、およびスカイパーフェクTV!（CSチューナー）またはBSデジタルチューナーの取扱説明書をご覧ください。

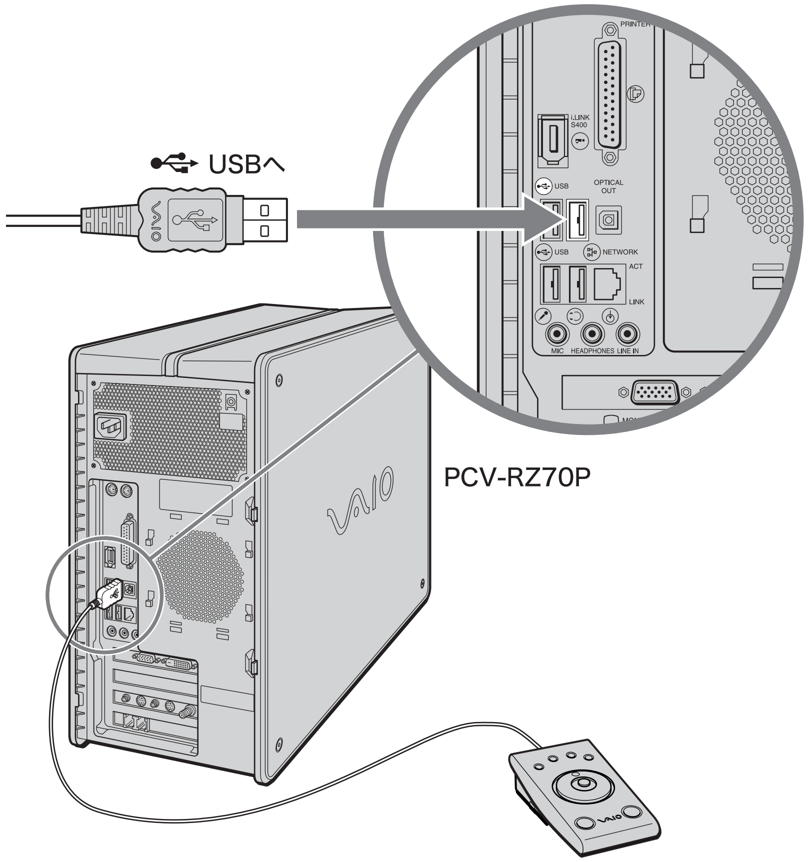


ご注意

- 本機の電源を切ると「Giga Pocket」ソフトウェアは実行されません。「Giga Pocket」ソフトウェアを使って予約録画を行う場合は、本機をスタンバイモードにしてください。
  詳しくは「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。
- お使いのビデオ機器によってはリモコンコードが競合して「Giga Pocket」ソフトウェアでの予約録画は実行できない場合があります。リモコンコードの設定方法について詳しくは「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。
- AVマウスを使用してスカイパーフェクTV!（CSチューナー）またはBSデジタルチューナーの映像を本機で予約録画する際は、[画面のプロパティ]の[スクリーンセーバー]タブにある「パスワードの保護」または「再開時にようこそ画面に戻る」のチェックボックスにチェックをいれないでください。
  また、3D表示を行うスクリーンセーバーはご使用にならないでください。ご使用になると正常に予約録画が実行されません。
  スクリーンセーバーについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の「バイオの使いかた」をクリックして、「設定を変更する」→「ディスプレイの設定を変更する」→「スクリーンセーバーや電源の設定を変える」をクリックして表示される情報をご覧ください。

9 ジョグコントローラーを接続する（PCV-RZ70Pのみ）。

付属のジョグコントローラーを本機のUSBコネクタに接続します。



ちょっと一言

- 本機後面の4か所のUSBコネクタのうち、上2か所がUSB1.1規格、下2か所がUSB2.0規格（ハイスピード）に対応しています。ジョグコントローラーはロースピードデバイスのため、USB1.1規格のコネクタに接続することをおすすめします。
- USB2.0規格は、USB（Universal Serial Bus）の新しい規格で、USB1.1規格より高速なデータ転送が可能です。USB2.0規格に対応しているコネクタには、USB1.1規格に対応した機器もつなげます。
- ジョグコントローラーをつなぐと、ビデオ編集などが簡単に行えるようになります。
- ジョグコントローラーの使いかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の[バイオの使いかた]をクリックして、[各部の説明]→[ジョグコントローラー（PCV-RZ70Pのみ）]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

ご注意

ジョグコントローラーはPCV-RZ70P専用です。他の機種ではお使いになれません。

10 電源コードを接続する。

本機、ディスプレイを電源コンセントに接続します。

ご注意

- **同じコンセントに複数の機器を同時につながないでください。**
- **本機は日本国内専用です。交流100Vでお使いください。**

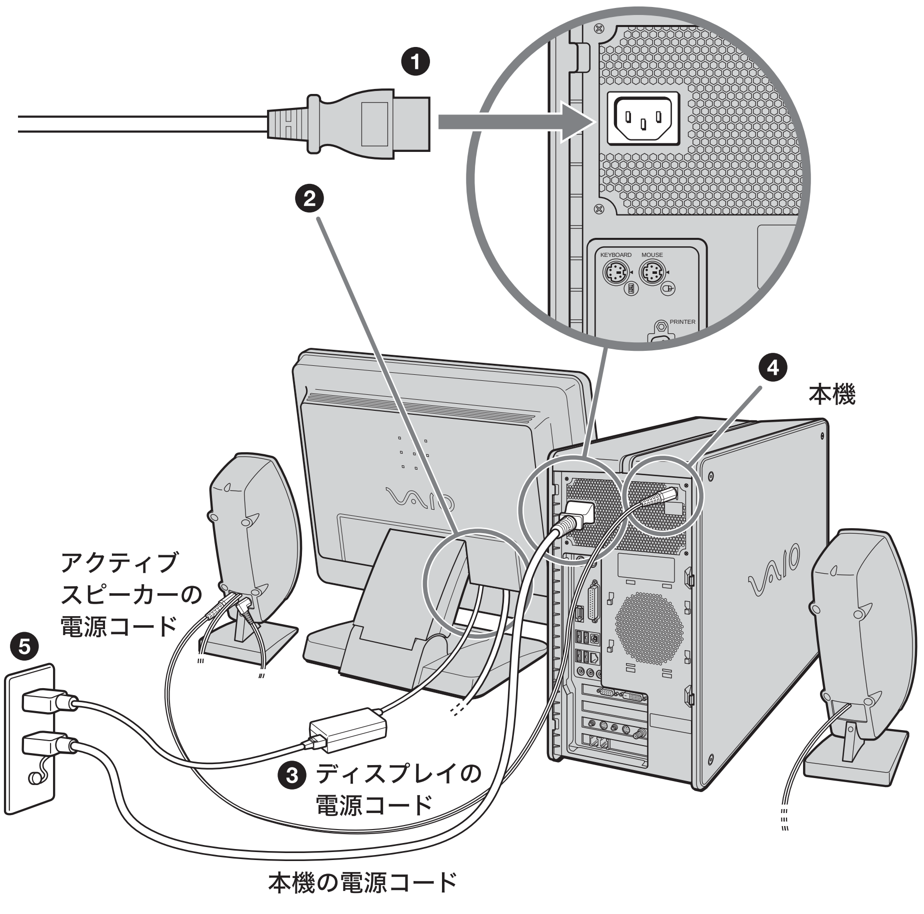
❶ **付属の電源コードのプラグを差し込む。**

❷ **ディスプレイ用のACアダプタのプラグをディスプレイに接続する。**

❸ **ディスプレイのACアダプタにディスプレイ付属の電源コードを差し込む。**

❹ **アクティブスピーカーの電源プラグが、本機後面のアクティブスピーカー電源コネクタに接続されていることを確認する。**

❺ **本機の電源コードのアースを接続し、本機の電源プラグとディスプレイの電源コードを壁の電源コンセントに差し込む。**



電源を入れる

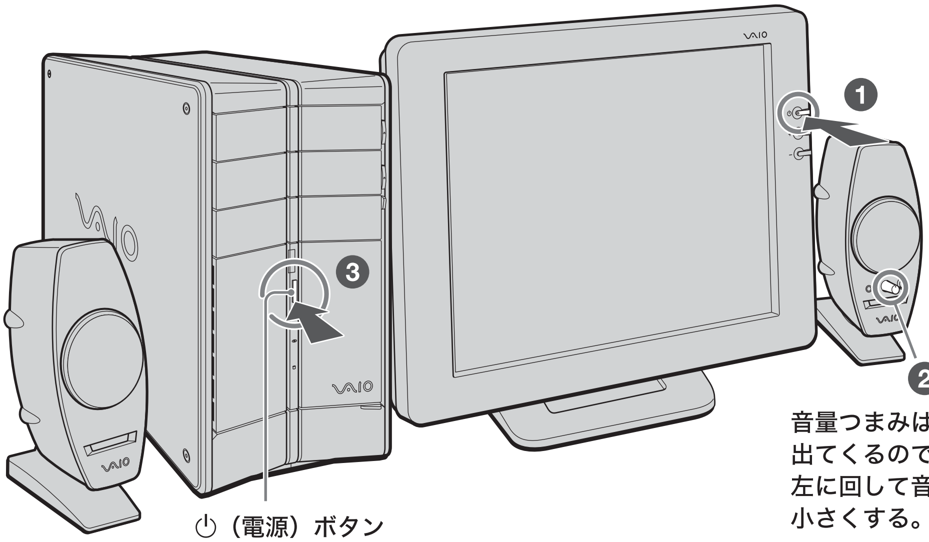
ディスプレイ、本機の電源を入れる。

❶ **ディスプレイの⏻（電源）ボタンを押す。**

❷ **スピーカーの音量つまみで音量を小さくする。**

❸ **本機の⏻（電源）ボタンを押す。**

電源が入ると、⏻電源ボタンの上にあるランプが青色に点灯します。



ちょっと一言

- アクティブスピーカーの音量が小さくなっているか確認してください。Windowsの準備（64ページ）が終わると、音が鳴るようになっています。突然大きな音がしないように、スピーカーの音量を小さくしておきましょう。
  音量は、アクティブスピーカーの音量つまみで調整します。音量つまみを押すとつまみが出てきますので、つまみを回して音量を調整してください。調整が終わったらもう1度つまみを押して元の位置に戻します。

本機の電源をはじめて入れる場合は、Windowsのロゴの画面が表示され、しばらくして「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示されます。「Windowsを準備する」（64ページ）の手順に従って、Windowsのセットアップを行ってください。

2回目以降に電源を入れるときは

- ユーザーを2名以上設定している場合は、ユーザー名を選ぶ画面が表示されます。ユーザー名をクリックすると、Windowsが起動します。
- 本機の2回目の起動時か、「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアをはじめて起動したときは、「Norton AntiVirus情報ウィザード」画面が表示されます。画面の指示に従って操作してください。
  「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアについて詳しくは、「コンピュータウイルスについて」（204ページ）をご覧ください。

Windowsを準備する

本機をお使いいただくために、最初のステップとしてWindowsの準備が必要です。Windowsが使える状態になると、本機に付属のソフトウェアやいろいろな機能も使えるようになります。
以下の手順に従って、Windowsを使う準備をします。

PCV-RZ70Pをお使いの場合

1 「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されたら、画面右下にある➡（次へ）をクリックする。

ちょっと一言

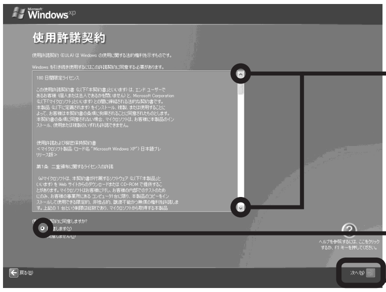
マウスの使いかたについて詳しくは、「マウスの操作」（86ページ）をご覧ください。

Windowsのロゴ画面が表示されてから、「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまでにしばらく時間がかかりますが、そのままお待ちください。途中で電源を切るなどの操作を行うと、本機の故障の原因となります。

ここをクリックする。

「使用許諾契約」画面が表示されます。

2 画面に表示された内容を読み、内容に同意するときは[同意します]の◯をクリックして◉にし、➡（次へ）をクリックする。



ここをクリックすると、文章が上下に移動する。

❶ ［同意します］をクリックする。
◯が◉になる。［同意しません］の◯をクリックすると、Windowsの準備作業は中止され、Windowsと本機に入っているソフトウェアはお使いになれません。

❷ ここをクリックする。

「コンピュータに名前を付けてください」画面が表示されます。

3 必要な場合はコンピュータ名を変更し、➔(次へ)をクリックする。

❶ 自動的に表示されますが、必要な場合は認識しやすい名前に変更してください。

❷ コンピュータにわかりやすい説明をつけることもできます。

❸ ここをクリックする。

「管理者パスワードを設定してください」画面が表示されます。

4 「管理者パスワードを設定してください」画面が表示されたら、「管理者パスワード」と「パスワードの確認入力」の欄にパスワードを入力し、➔(次へ)をクリックする。

5 「このコンピュータをドメインに参加させますか？」画面が表示されたら、ネットワーク環境に合わせて設定し、➔(次へ)をクリックする。

「インターネット接続が選択されませんでした」画面が表示されます。

6 ➔(次へ)をクリックする。

「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」画面が表示されます。

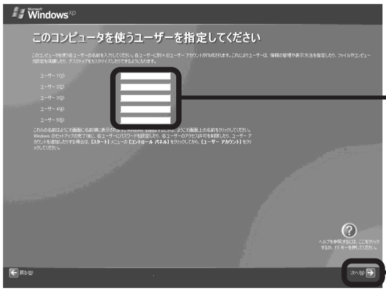
7 [いいえ、今回はユーザー登録しません]の◯をクリックして◉にし、➔(次へ)をクリックする。

❶ ここをクリックする。
◯ が◉になる。

❷ ここをクリックする。

「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」画面が表示されます。

8 ユーザーの名前を入力し、➔(次へ)をクリックする。



❶ ここに名前を入力する。

❷ ここをクリックする。

「設定が完了しました」画面が表示されます。

ちょっと一言

Windowsのセットアップ完了後に、使用するユーザーを追加したり、設定を変更することもできます。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の[できるWindows]をクリックし、[パソコンを家族で使おう]をクリックして表示される情報をご覧ください。

9 画面右下の➔(完了)をクリックする。

これでWindowsが使えるようになりました。

PCV-RZ60/RZ50をお使いの場合

1 「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されたら、画面右下にある➔(次へ)をクリックする。

ちょっと一言

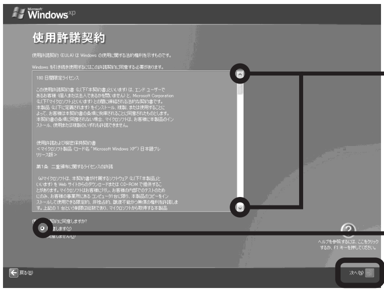
マウスの使いかたについて詳しくは、「マウスの操作」(86ページ)をご覧ください。

Windowsのロゴ画面が表示されてから、「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまでにしばらく時間がかかりますが、そのままお待ちください。途中で電源を切るなどの操作を行うと、本機の故障の原因となります。

ここをクリックする。

「使用許諾契約」画面が表示されます。

2 画面に表示された内容を読み、内容に同意するときは[同意します]の◯をクリックして◉にし、➔(次へ)をクリックする。



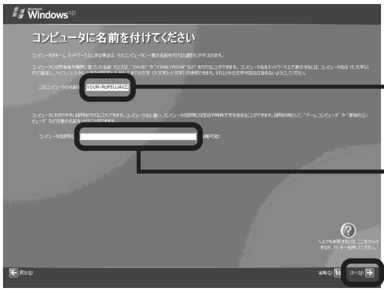
ここをクリックすると、文章が上下に移動する。

❶ ［同意します］をクリックする。
◯が◉になる。［同意しません］の◯をクリックすると、Windowsの準備作業は中止され、Windowsと本機に入っているソフトウェアはお使いになれません。

❷ ここをクリックする。

「コンピュータに名前を付けてください」画面が表示されます。

3 必要な場合はコンピュータ名を変更し、➔(次へ)をクリックする。



❶ 自動的に表示されますが、必要な場合は認識しやすい名前に変更してください。

❷ コンピュータにわかりやすい説明をつけることもできます。

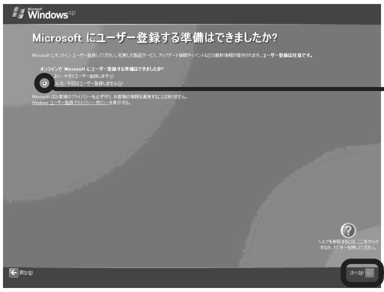
❸ ここをクリックする。

「インターネット接続が選択されませんでした」画面が表示されます。

4 「インターネット接続が選択されませんでした」画面右下の➔(次へ)をクリックする。

「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」画面が表示されます。

5 [いいえ、今回はユーザー登録しません]の◯をクリックして◉にし、➔(次へ)をクリックする。

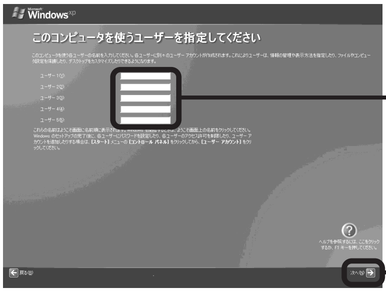


❶ ここをクリックする。
◯が◉になる。

❷ ここをクリックする。

「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」画面が表示されます。

6 ユーザーの名前を入力し、➔（次へ）をクリックする。



❶ ここに名前を入力する。

❷ ここをクリックする。

「設定が完了しました」画面が表示されます。

ちょっと一言

Windowsのセットアップ完了後に、使用するユーザーを追加したり、設定を変更することもできます。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の［できるWindows］をクリックし、［パソコンを家族で使おう］をクリックして表示される情報をご覧ください。

7 画面右下の➔（完了）をクリックする。

これでWindowsが使えるようになります。

ご注意

- ホームページを見たり、電子メールをやりとりするためには、更にインターネットに接続する準備が必要です。詳しくは、「インターネットを始める」（106ページ）をご覧ください。
- デスクトップ画面上にあるアイコンには、一定期間使用しないとデスクトップ画面上から削除されるものがあります。
  Windowsの初回起動時から1週間後に、アイコンを削除するかどうかを確認する画面が表示されます。
  その後60日ごとに、使用していないデスクトップ画面上のアイコンが自動的に検索され、削除するかどうかを確認する画面が表示されます。デスクトップ画面上のアイコンを削除しても、ソフトウェア自体は削除されません。
- 本機に付属のリカバリディスクに入っているOS（Operating System）以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。
  本機のOSは、PCV-RZ70Pをお使いの場合は「Microsoft® Windows® XP Professional*」、PCV-RZ60/RZ50をお使いの場合は「Microsoft® Windows® XP Home Edition*」です。

  * 本書では、WindowsまたはWindows XPと略します。

  OS（Operating System）とは

  コンピュータを動かすために必要な基本ソフトウェアのことです。画面表示や操作方法などもOSによって決められています。OSがないと他のソフトウェアも使えません。

- 本機は、お買い上げ時に、プロダクトアクティベーション（ライセンス認証）は完了されているため、お客様が認証作業を行う必要はありません。
  また、付属のリカバリディスクで再セットアップ（206ページ）を行った場合も、プロダクトアクティベーション（ライセンス認証）は自動的に完了するため、お客様が認証作業を行う必要はありません。

以上で、本機を使う準備ができました。

複数ユーザーで使用する

本機を2名以上の複数のユーザーでお使いになるには

本機では、設定したユーザーごとに専用のデスクトップ画面やマイドキュメントが用意され、それぞれのユーザーが自分専用のコンピュータのように使用することができます。

ソフトウェアによっては、ユーザーの簡易切り替えに対応していないものがあります。詳しくは各ソフトウェアのヘルプをご覧になるか、各ソフトウェアのお問い合わせ先（225ページ）にお問い合わせください。

2名以上の複数ユーザーを設定するには、はじめて本機をお使いになる際のWindowsのセットアップ画面で設定することができます。

Windowsのセットアップについて詳しくは、「Windowsを準備する」（64ページ）をご覧ください。

Windowsのセットアップ完了後にユーザーを追加したり、変更したりするには、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[コントロールパネル]→[ユーザーアカウント]の順にクリックして表示される「ユーザーアカウント」画面で行います。詳しくは「ユーザーアカウント」画面左のヘルプをご覧ください。

ユーザーアカウントの種類について

本機では、使用者がOS上で作業を行うには一定のユーザー権限とアクセス許可が必要となり、ユーザーを設定する際にユーザーアカウントの種類を選びます。

ユーザーアカウントには、「コンピュータの管理者」と「制限付きアカウント」の2種類があります。

	コンピュータの管理者	制限付きアカウント
プログラムとハードウェアをインストールする	√	
システム全体の変更を行なう	√	
個人ファイル以外のすべてのファイルにアクセスして読み取る	√	
ユーザー アカウントを作成または削除する	√	
ほかのユーザーのアカウントを変更する	√	
自分のアカウントの名前または種類を変更する	√	
自分の画像を変更する	√	√
自分のパスワードを作成、変更、または削除する	√	√

「コンピュータの管理者」を選ぶと

ユーザーアカウントの追加や変更、システムの変更など、Windowsのすべての設定が可能になります。

「制限付きアカウント」を選ぶと

自分の画像の変更や、パスワードの変更など一部の設定のみ変更することができます。また、ソフトウェアがインストールできない、起動できない、または機能の一部が使用できない、などのように動作が制限されることがあります。この場合は、システムの管理が可能なユーザー名で再度ログオンするか、お使いのユーザー名に「コンピュータの管理者」の権限を与える設定にして作業をやり直してください。

ユーザーアカウントについて詳しくは、デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[コントロールパネル]→[ユーザーアカウント]の順にクリックして表示される「ユーザーアカウント」画面左のヘルプをご覧ください。

複数のユーザーを設定している際の「ユーザー切り替え」について

複数のユーザーを設定して本機をお使いの場合、ユーザーを切り替えるときは、起動しているソフトウェアをいったん終了させてからユーザーを切り替えてください。

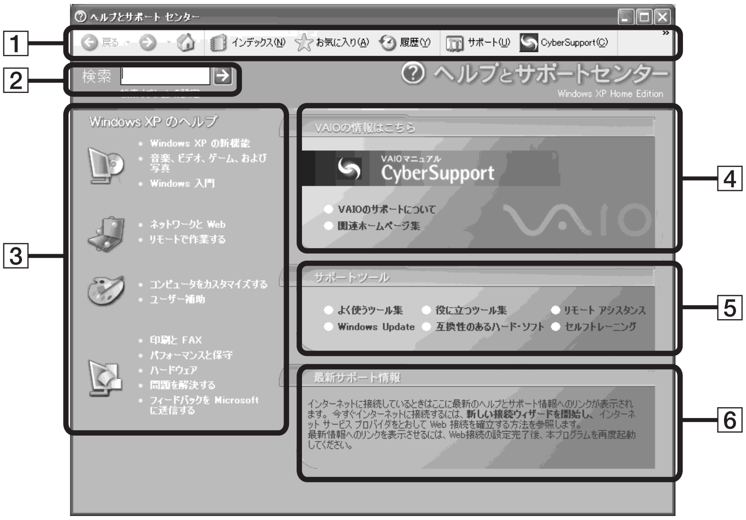
「ヘルプとサポートセンター」について

「ヘルプとサポートセンター」は、Windowsやバイオの使いかた、FAQ（よくある質問とその回答）の検索、最新情報の入手など、サポートに関する情報の入り口です。困ったときは、まず「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。

「ヘルプとサポートセンター」を見るには

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、表示されるメニューから[ヘルプとサポート]をクリックする。

「ヘルプとサポートセンター」画面が表示されます。



1 ナビゲーションバー

よく使用するページを登録したり、開いたページの履歴を参照することができます。

ここからバイオマニュアル「サイバーサポート」を起動することもできます。

2 検索

Windowsやバイオで調べたいことをキーワード検索できます。

3 Windows XPのヘルプ

Windowsやバイオの使いかたやFAQ（よくある質問とその回答）をご覧になれます。

4 VAIOの情報はこちら

バイオマニュアル「サイバーサポート」や、VAIOカスタマーリンクのホームページなどを見ることができます。

5 サポートツール

困ったとき、設定を変更したいとき、Windowsの操作を学習するときなどに役に立つソフトウェアを起動したり、関連する情報を見ることができます。

6 最新サポート情報

Windowsやバイオの最新サポート情報を見ることができます。

ちょっと一言

「ヘルプとサポートセンター」の情報の中には、インターネットに接続することによって、最新の情報に更新されるものがあります。インターネットの接続について詳しくは、「インターネットを始める」（106ページ）をご覧ください。

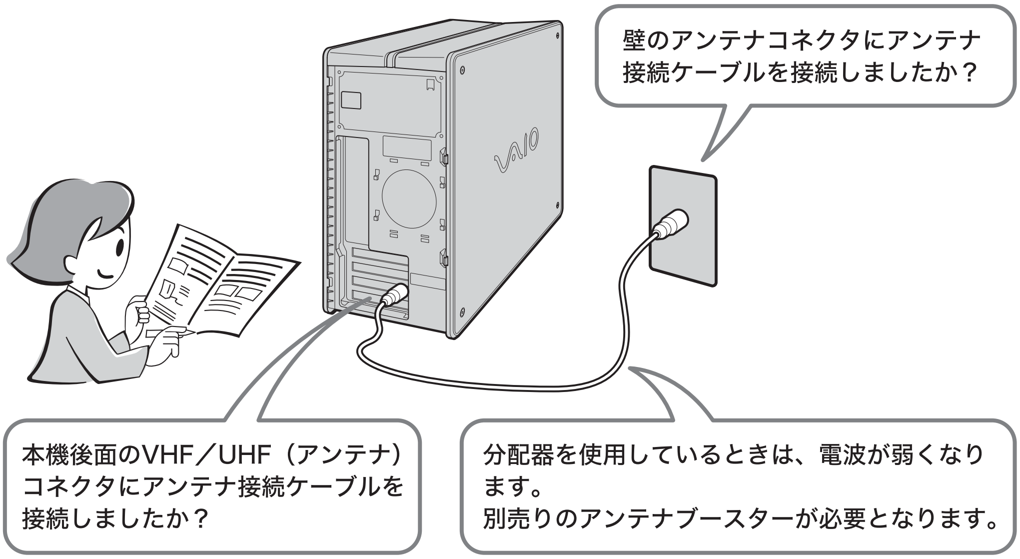
テレビを見る準備をする

本機では、付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見ることができます。

イラストは、お使いの機種とは異なる場合があります。

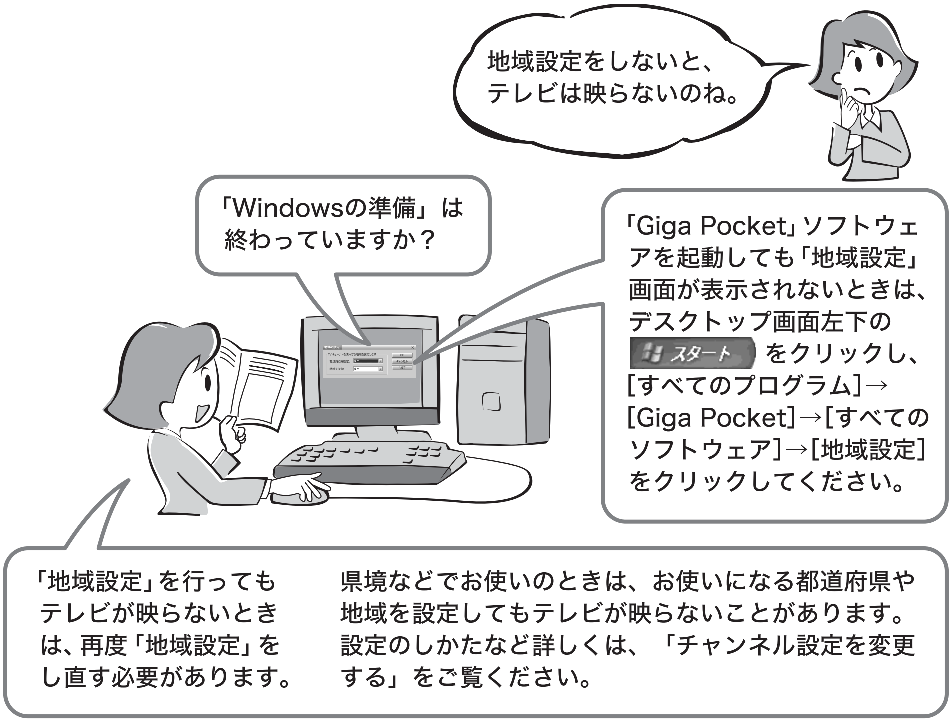
テレビを見るまでの流れ

1　アンテナを接続する。

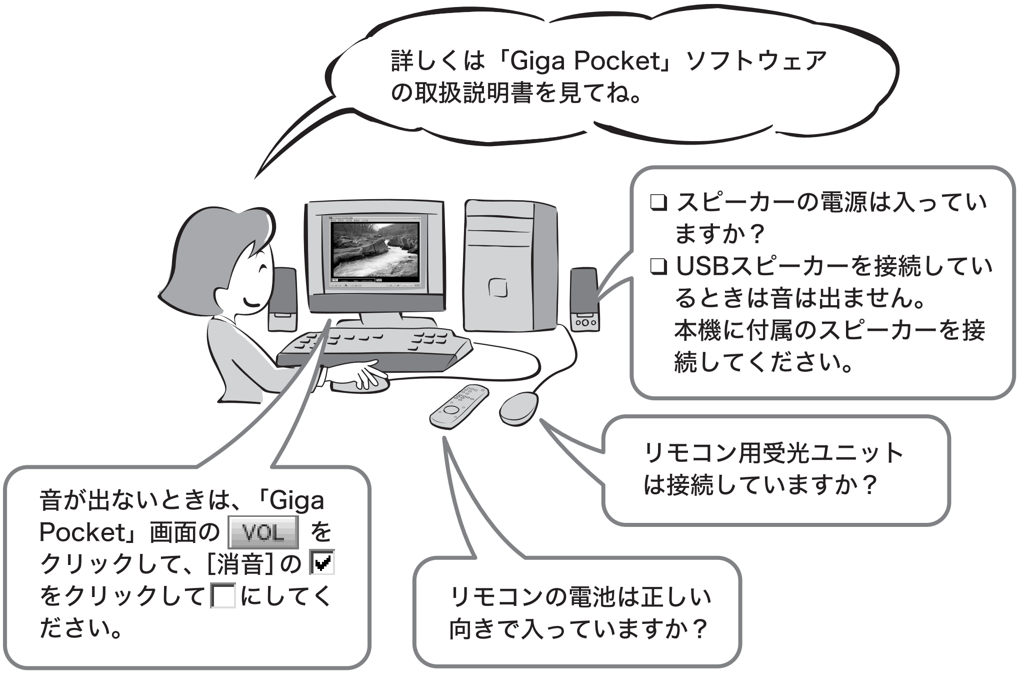


2　地域設定をする。

地域設定をすると、選んだ地域の標準のチャンネルが設定されます。

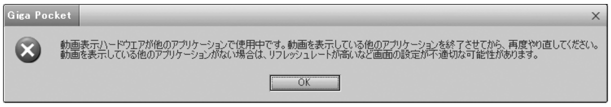


3 テレビを見る。



こんなメッセージが表示されたときは

DVDビデオ、レンタルビデオやセルビデオなど、コピーガードがかかっている映像や著作権保護の信号が入っている映像を録画しようとしているときに表示されます。



「DVgate」ソフトウェアなど他の動画を扱うソフトウェアなどを同時に起動しているときに表示されます。他のソフトウェアを終了させて「Giga Pocket」ソフトウェアを起動し直してください。

地域設定をする（チャンネル設定）

はじめて「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見るときには、以下の手順に従ってチャンネルの地域設定を行います。

ちょっと一言

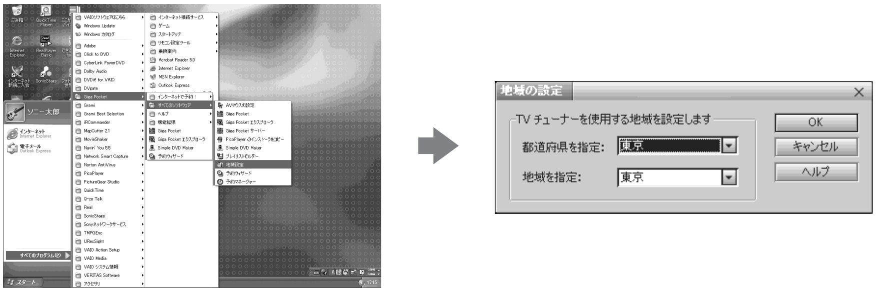
「Giga Pocket」ソフトウェアについて詳しくは、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書およびヘルプをご覧ください。

1

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[Giga Pocket]、[すべてのソフトウェア]、[地域設定]の順にクリックする。

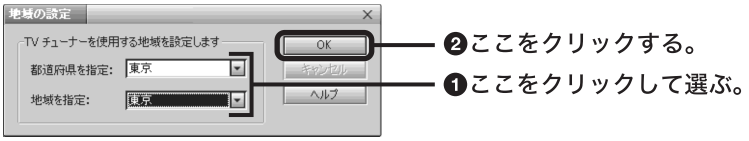
「地域の設定」画面が表示されます。

「警告」画面が表示されたときは、 OK をクリックしてください。



2

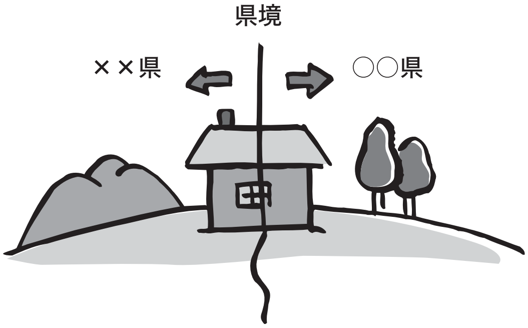
本機を使用する都道府県およびもっとも近い地域を選んで OK をクリックする。



選んだ地域の標準チャンネルが設定されます。

ご注意

県境でお使いの場合などは、お使いになっている都道府県や地域を設定してもテレビが映らないことがあります。その場合は、隣接する都道府県や地域を設定してください。



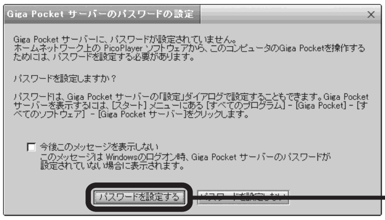
地域設定(チャンネル設定)について

- **地域設定を行っても映らないチャンネルがある場合**
  (例)地域設定で設定された、特定のテレビ局だけが映らない。
  →チャンネル設定の受信チャンネル(1～62チャンネル)を設定したいテレビ局の映像が表示されるまで順番に選択する。
- **地域設定されたチャンネルがご使用の地域で受信できるチャンネルと違う場合**
  (例)地域設定で設定されたチャンネル　　実際のチャンネル
  　30チャンネル　　　　　　　　　　　　20チャンネル
  →チャンネル設定の受信チャンネルを20チャンネル(実際のチャンネル)に設定する。

上記のような場合は、「チャンネル設定を変更する」(76ページ)**の手順に従ってチャンネル設定を変更してください。**

3

地域設定後、「Giga Pocketサーバーのパスワードの設定」画面が表示されるので、[パスワードを設定する]をクリックする。

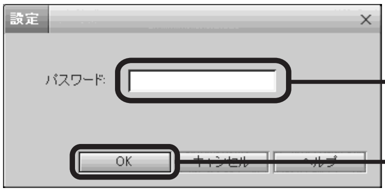


ここをクリックする。

パスワードの設定画面が表示されます。

4

[パスワード]欄にパスワードを入力して、[OK]をクリックする。



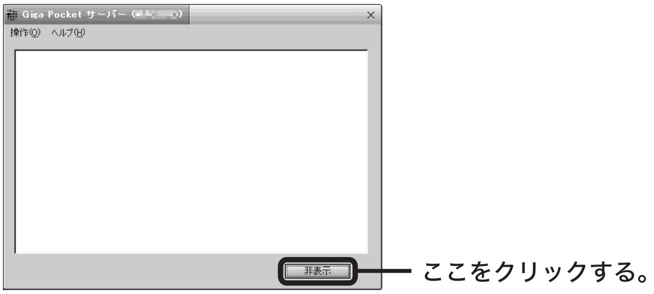
❶ここに入力する。
❷ここをクリックする。

「Giga Pocketサーバー」画面が表示されます。

ご注意

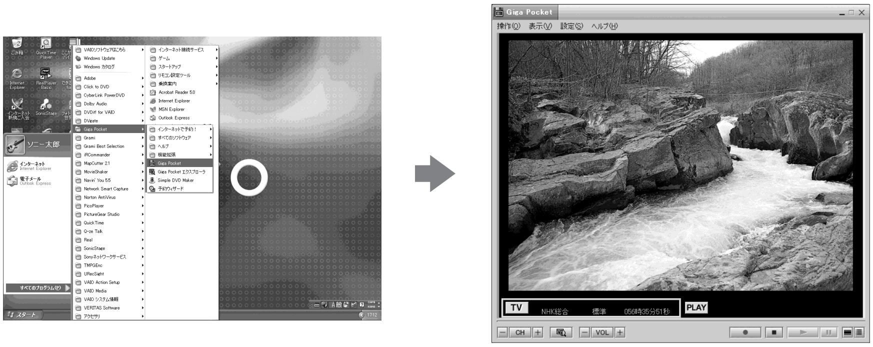
- このパスワードは、「PicoPlayer」ソフトウェアを使用するときに使用するパスワードです。この設定をしないと「PicoPlayer」ソフトウェアを使用することができません。パスワードを忘れないようにしてください。
- 万が一、パスワードを忘れてしまったときは、再度パスワードを設定してください。設定の方法について詳しくは、「Giga Pocket」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

5 「Giga Pocketサーバー」画面の［非表示］をクリックする。



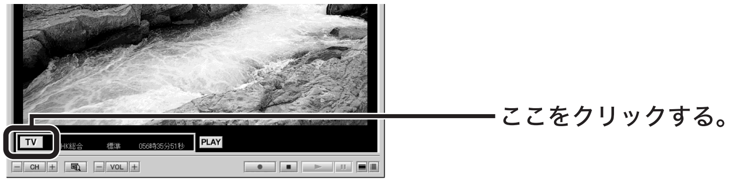
6 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Giga Pocket］、［Giga Pocket］の順にクリックする。

「Giga Pocket」ソフトウェアが起動します。



7 ［TV］をクリックする。

「Giga Pocket」ソフトウェアのモニターに、TV／録画デッキの映像が表示されます。



8 ［CH］をクリックして、一覧の中から見たいチャンネルを選ぶ。

「Giga Pocket」ソフトウェアのモニターに選択したチャンネルの番組が表示されます。

チャンネル設定を変更する

- **地域設定をしても映らないチャンネルがある**
- **お住まいの地域で受信できるチャンネルが地域設定で設定されたチャンネルと違う**

上記のような場合は、以下の手順に従ってチャンネル設定を変更してください。
また、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプも合わせてご覧ください。

ここでは、「VAIOテレビ」が「30チャンネル」に設定されているが、ご使用になっている地域では「20チャンネル」で放送されており、「VAIOテレビ」のチャンネル設定を「30チャンネル」から「20チャンネル」に変更する例で、以下の手順を説明します。

1

デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして、［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Giga Pocket］、［Giga Pocket］の順にクリックする。

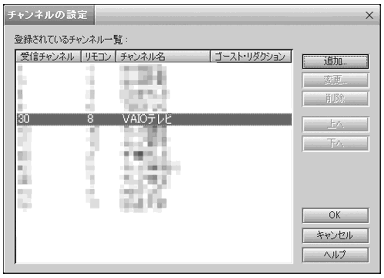
「Giga Pocket」ソフトウェアが起動します。

2

［設定］をクリックして、表示されるメニューから［チャンネルの設定］をクリックする。

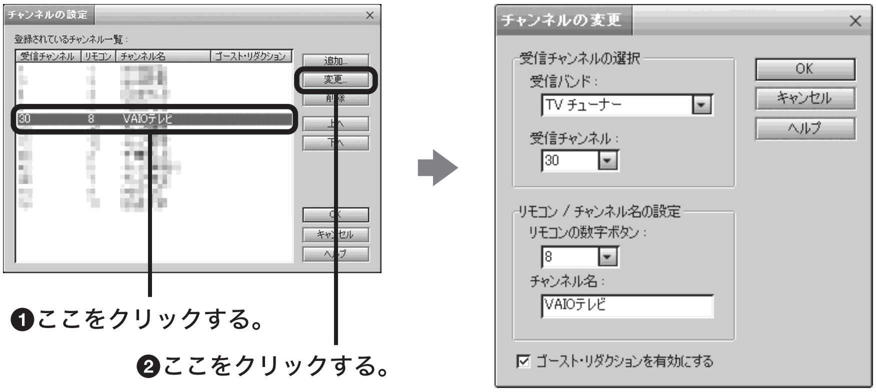
「チャンネルの設定」画面が表示されます。

ここをクリックする。



3 変更するチャンネル名(ここでは「VAIOテレビ」)を選択して、[変更]をクリックする。

「チャンネルの変更」画面が表示されます。



4 「受信チャンネル」から設定したいチャンネル(ここでは「20チャンネル」なので「20」)を選ぶ。

チャンネル番号がわからない場合は、「受信チャンネル」の▼をクリックして、チャンネルを変更していき、設定したいチャンネルが表示されるチャンネル番号を選択してください。

5 [OK]をクリックする。

以上の手順を繰り返して、映らないチャンネルすべての設定をしてください。

画面の解像度などの設定を変更するときのご注意

画面の解像度、表示色数、リフレッシュレートをお買い上げ時の設定から変更した状態で「Giga Pocket」ソフトウェアを起動すると、「動画表示ハードウェアが他のアプリケーションで使用中です。動画を表示している他のアプリケーションを終了させてから、再度やり直してください。動画を表示している他のアプリケーションがない場合は、リフレッシュレートが高いなど画面の設定が不適切な可能性があります。」というメッセージが表示され、「Giga Pocket」ソフトウェアが起動しないことがあります。この場合は、画面の解像度、表示色数、リフレッシュレートをお買い上げ時の設定に戻してから「Giga Pocket」ソフトウェアを起動してください。

「PicoPlayer」ソフトウェアを他のバイオでお使いになるときのご注意

DVD-ROMドライブを搭載したバイオの場合でも、一部の機種では高画質または標準のビデオカプセルが再生できません。長時間モードのビデオカプセルに変換して再生してください。

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアをお使いの方へ(「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画をする前に)

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアをお使いのときに、「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画をすると、正常に録画が行われない場合があります。正常に録画をするためには、「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアのウイルススキャンの設定を変更することをおすすめします。

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアのウイルススキャンの設定を変更するには、以下の手順に従って操作してください。

ちょっと一言

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアについて詳しくは、「コンピュータウイルスについて」(204ページ)をご覧ください。

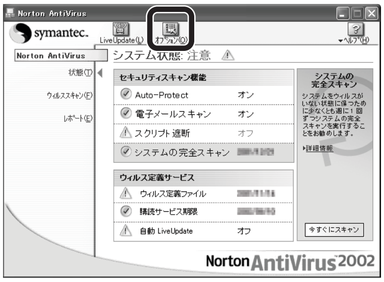
1

デスクトップ画面左下の をクリックし[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[Norton AntiVirus]、[Norton AntiVirus2002]の順にクリックする。

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアが起動します。

2

「Norton AntiVirus」画面上部の をクリックする。



「Norton AntiVirusオプション」画面が表示されます。

3

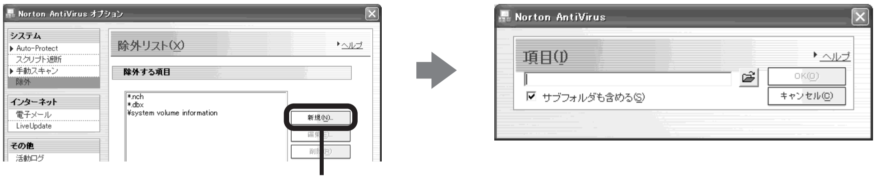
「Norton AntiVirus オプション」画面左側の「システム」の[除外]をクリックする。

「Norton AntiVirus オプション」画面右側に、「除外リスト」が表示されます。

ここをクリックする。

4

「除外リスト」の「除外する項目」右側の をクリックする。



ここをクリックする。

5 「サブフォルダも含める」のをクリックしてにし、をクリックする。

❶ここをクリックする。

❷ここをクリックする。

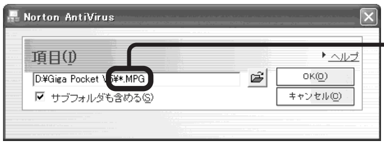
「フォルダの参照」画面が表示されます。

6 「フォルダの参照」画面の[マイコンピュータ]をクリックし[ローカルディスク(D:)]、[Giga Pocket V5]の順にクリックする。

7 OK をクリックする。

手順4で表示された画面に「D:￥Giga Pocket V5」と表示されます。

8 「D:￥Giga Pocket V5」の後ろに「￥＊.MPG」を入力して、OK をクリックする。



ここに「¥*.MPG」を追加で入力する。

9 「除外する項目」に「D:￥Giga Pocket V5￥＊.MPG」が追加されていることを確認し、OK をクリックする。

以上で設定は終わりです。

ご注意

この設定を変更すると「Giga Pocket」ソフトウェアで録画されたファイルはウイルスチェックが行われません。

電源を切る

本機を使う準備が終わったところで、いったん電源を切ってみます。

ご注意

手順に従って電源を切らないと、故障の原因になることがあります。⏻（電源）ボタンを4秒以上押すと電源が切れることがありますが、⏻（電源）ボタンを押して電源を切らないでください。
必ず次の手順に従って電源を切ってください。

1　デスクトップ画面左下の をクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

ここをクリックする。

2　[終了オプション]をクリックする。

「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

ここをクリックする。

3 ［電源を切る］をクリックする。

しばらくすると本機の電源が自動的に切れ、⏻電源ランプが消灯します。

ここをクリックする。

ちょっと一言

ソニー製のコンピュータディスプレイをお使いのときは、手順3で本機の電源が切れたあと、自動的にディスプレイが節電モードに入ります。

4 ディスプレイの⏻（電源）ボタンを押す。

ディスプレイの電源が切れます。

ご注意

「Windowsを準備する」（64ページ）の手順8（PCV-RZ70P）または手順6（PCV-RZ60/RZ50）で、2人以上のユーザーの名前を入力した場合、次回から本機の電源を入れると、「ようこそ」画面が表示されます。ユーザー名を選んでWindowsを起動してください。

これで本機を使う上で必要な準備と操作はひと通り終わりました。

更にいろいろな操作をするためには、引き続きこのあとのページおよび「サイバーサポート」をご覧ください。

省電力機能について

本機には、2つの省電力機能が用意されています。各機能ごとに特長がありますので、使用状況に合わせて使い分けてください。

	スタンバイモード	休止状態
本機の電源ランプ	オレンジ色に点灯	消灯
ディスプレイの電源ランプ*	オレンジ色に点灯	オレンジ色に点灯
本機の状態	現在作業中の状態を保持したまま、CPUの電源を切ります。席をはずすなどして、しばらく作業を中断するときに便利です。 最低限必要なデバイス以外の電源を切るため、消費電力を節約することができます。	本機の主電源が切れ、内部の主電源部のファンは停止します。現在作業中の状態をハードディスクに保存して、本機の電源を切ります。2～3日、本機を使わないようなときに便利です。
各モードに入るには	• キーボードの☾（スタンバイ）キーを押す。 • デスクトップ画面左下の[スタート]をクリックし、[終了オプション]をクリックすると表示される「コンピュータの電源を切る」画面で[スタンバイ]をクリックする。 • 付属のリモコンのテレビ／PC切換スイッチを「PC」に設定し、電源／スタンバイボタンを押す。 • 「Giga Pocket」ソフトウェアの「予約マネージャー」アイコンを右クリックして表示されるメニューから[Windowsのスタンバイ]を選ぶ。（「予約マネージャー」でシャットダウンモードが「スタンバイ」に設定されている場合（お買い上げ時の設定））	• 本機前面の⏻（電源）ボタンを押す。 • デスクトップ画面左下の[スタート]をクリックし、[終了オプション]をクリックすると表示される「コンピュータの電源を切る」画面でShift（シフト）キーを押しながら[休止状態]をクリックする。 • 「Giga Pocket」ソフトウェアの「予約マネージャー」アイコンを右クリックして表示されるメニューから[Windowsのスタンバイ]を選ぶ。（「予約マネージャー」でシャットダウンモードが「休止状態」に設定されている場合）
通常の動作モードに戻すには	• キーボードのスペースキーまたは本機前面の⏻（電源）ボタンを押す。 • 付属のリモコンのテレビ／PC切換スイッチを「PC」に設定し、電源／スタンバイボタンを押す。	本機前面の⏻（電源）ボタンを押す。
ご注意	スタンバイモードは本機の電源が切れた状態ではなく、本機の電源の消費を抑えている状態です。スタンバイモードのときに、電源コードをコンセントから抜かないでください。作業を中断する前の状態に戻れなくなります。また、本機の故障の原因となることがあります。	休止状態に入った場合は、リモコンを使って本機を通常の動作モードに戻すことはできません。

* お使いのディスプレイによっては、ランプの色が異なったり、点滅することがあります。

詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の[バイオの使いかた]をクリックし、[設定を変更する]、[省電力機能の設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

コンピュータの基本操作

この章では、本機を使うための基本的な操作を説明します。

デスクトップ画面の各部のなまえとはたらき

本機の電源を入れたあと、ディスプレイ画面全体に表示されるのが「デスクトップ画面」です。
「デスクトップ画面」は、本機のさまざまな機能を使いこなしていただくときの出発点となります。

デスクトップ画面のイラストは実際のものと異なる場合があります。

■デスクトップアイコン

❶ ごみ箱
いらなくなった文書や画像などを捨てる場所です。ごみ箱に捨てた文書や画像などは、ごみ箱の中に残っています。ごみ箱について詳しくは、「ファイルやフォルダを削除する」をご覧ください。

❷ Internet Explorer
インターネットのホームページなどを見るときに使うソフトウェアです。詳しくは、「インターネットを始める」をご覧ください。

❸ インターネット新規ご入会
インターネット接続サービスを提供する会社（プロバイダ）と契約（オンラインサインアップ）します。詳しくは、「インターネットを始める」をご覧ください。

❹ VAIOマニュアル CyberSupport
バイオの使いかたや楽しみかた、困ったときの解決方法をディスプレイ画面上で説明する電子マニュアルです。

❺ ここから始めようバイオメニュー
やりたいことからソフトウェアを探して起動できます。

❻ できるWindows for VAIO
Windowsの使いかたを説明しています。

❼ ヘルプとサポート
Windowsの操作や、Windowsのサポートについての情報を検索できます。「サイバーサポート」もここから起動できます。

❽ 各ソフトウェアのショートカット類
左隅に が付いたアイコンが各種あります。これらは簡単にソフトウェアを起動するためにデスクトップ画面上に置かれたものです。

❾タスクバー

本機に付属のソフトウェアやコンピュータの設定をすばやく確認し、操作できるための機能をまとめた場所です。大きく3領域があり、それぞれ［スタート］ボタン、使用中のソフトウェアや文書などを表示しておく機能をもつ領域、Windowsに関連する機能を表示しておく通知領域（タスクトレイ）に分かれます。

[スタート] ボタン

ここをマウスでクリックすると、本機に付属のソフトウェアを起動したり、本機のさまざまな機能を使うためのメニューが表示されます。まずはここをクリックして始めてください。

ウィンドウのボタン表示

使用中のソフトウェアや文書などがここにボタンとして表示されます。
デスクトップ画面上にソフトウェアや文書などが表示されていなくても、このボタンをクリックすると画面にそのソフトウェアや文書などが表示されます。

通知領域(タスクトレイ)

本機を起動したときに自動的に使えるようになったWindowsの機能がここに表示されます。アイコンが表示されていないときは をクリックすると表示されます。

■「スタート」メニュー

スタート をクリックすると「スタート」メニューが表示されます。
「スタート」メニューの左側には、最近使用したフォルダやソフトウェアのアイコンが表示されます。

⑩ ユーザー名
現在コンピュータを使用しているユーザーの名前が表示されます。

⑪ インターネット
インターネットのホームページなどを見るときに使うソフトウェアです。詳しくは、「インターネットを始める」をご覧ください。

⑫ 電子メール
電子メールをやりとりするときに使うソフトウェアです。詳しくは、「インターネットを始める」をご覧ください。

⑬ マイドキュメント
本機に付属のさまざまなソフトウェアで作成した文書や画像などを保存しておく場所です。マイドキュメントは、マイコンピュータの中にあるC:ドライブの中のものと同じです。

⑭ マイピクチャ
デジタル写真、イメージ、グラフィックなどを保管しておくフォルダが開きます。

⑮ マイミュージック
ミュージックファイルやオーディオファイルを保管しておくフォルダが開きます。

⑯ マイコンピュータ
ここからソフトウェアを起動したり、作成した文書や画像をコピーしたりできます。

⑰ コントロールパネル
本機に接続されている各種の記憶装置やシステムの設定のための機能が入っている場所です。

⑱ ヘルプとサポート
Windowsの操作や、Windowsのサポートについての情報を検索できます。「サイバーサポート」もここから起動できます。

⑲ 検索
作成した文書や画像を探したり、インターネットなどで情報を検索するときに使います。

⑳ ファイル名を指定して実行…
作成した文書や画像を指定することでソフトウェアを起動することができます。また、参照(B)... をクリックすると作成した文書や画像を探し出せます。

㉑ ここから始めよう バイオ！
やりたいことからソフトウェアを探して起動できます。

㉒ すべてのプログラム
本機に付属しているさまざまなソフトウェアを起動するときに使います。

㉓ ログオフ
本機を使用するユーザーを切り換えるときに使います。

㉔ 終了オプション
スタンバイ状態にするとき、電源を切るとき、再起動するときに使います。

ご注意

デスクトップ画面上にあるアイコンには、一定期間使用しないとデスクトップ画面上から削除されるものがあります。

Winsowsの初回起動時から1週間後に、アイコンを削除するかどうかを確認する画面が表示されます。その後60日ごとに、使用していないデスクトップ画面上のアイコンが自動的に検索され、削除するかどうかを確認する画面が表示されます。

デスクトップ画面上のアイコンを削除しても、ソフトウェア自体は削除されません。

アイコンとは

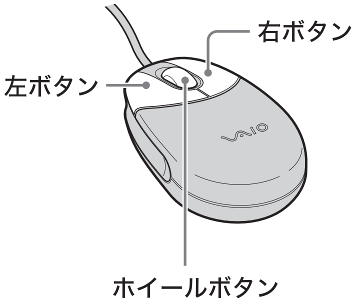
画面上に表示されるソフトウェア、文書、画像などを表す絵記号のことです。それぞれの固有のデザインにより、ソフトウェア、文書、画像などの種類がわかりやすくなっています。

ウィンドウとは

「スタート」メニューから「マイコンピュータ」や「マイドキュメント」を選んでクリックしたとき、デスクトップ画面に表示される枠で囲まれた領域を「ウィンドウ」と言います。文書や画像を作成するときもウィンドウで作業します。

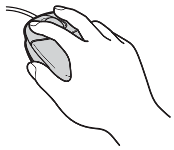
マウスの操作

マウスの各部のなまえとはたらき



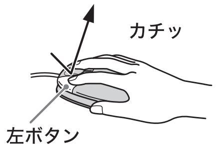
マウスの持ちかた

マウスは強く握ったり、押しつけたりせず、手のひらを軽く乗せるようにします。また、ボタンをクリックしやすいように、指先をボタンに乗せてください。



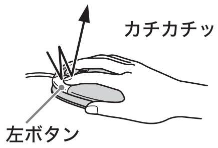
クリックする

左ボタンをカチッと1回押してすぐ離します。
ウィンドウを閉じたり、タスクバーでソフトウェアを選ぶときなどに行います。



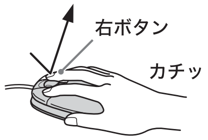
ダブルクリックする

左ボタンをカチカチッと2回すばやく押してすぐ離します。
画面上のアイコンからソフトウェアを起動したり、ファイルを開くときなどに行います。



右クリックする

右ボタンを1回押してすぐ離します。
ショートカットメニューが表示されます。

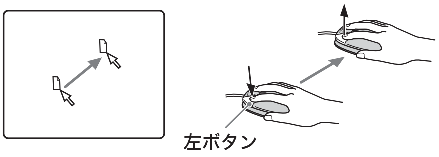


ドラッグする

マウスの左ボタンを押したまま、マウスを動かしてからボタンを離します。

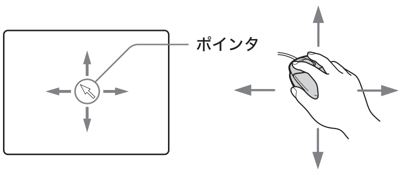
ドラッグアンドドロップする

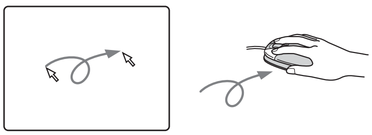
文書や画像などをドラッグして、フォルダやソフトウェアのアイコンやウィンドウなどの上でマウスのボタンを離します。ファイルをごみ箱アイコンに重ねて削除したりするときに行います。



マウスを動かすときは

マウスを動かすと、その動きに合わせてデスクトップ画面上の（ポインタ）も同じ方向に移動します。机の上など平らな場所に置き、滑らせるように動かします。マウスを動かすときは、腕全体を使うようにします。





ポインタとは

マウスを動かすと、画面上に表示されている が動きます。この矢印を「ポインタ」と言い、ポインタを希望の位置に合わせることを「ポイントする」と言います。

ポインタが見つからないときは

マウスを1度持ち上げて、机の上で動かしてください。

オプティカルマウスとは

オプティカルマウスは、マウス底面からの赤い光により照らし出されている陰影をオプティカルセンサーで検知し、マウスの動きを判断しています。このため、机の上はもちろんのこと、衣類の上や紙の上でも使用することができます。
ただし、次のような表面では正しく動作しない場合があります。

- 透明な素材（ガラスなど）
- 光を反射する素材（光沢のあるビニールや鏡など）
- 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの（雑誌や新聞の写真など）
- 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの

マウスポインタが正常に動かないときは、上記の条件に該当しない表面（机、紙、マウスパッドなど）でマウスを操作してみてください。
（上記の条件に該当する一部のマウスパッドでは、マウスが正常に動作しない場合があります。）

練習1：マウスの操作

❶ **デスクトップ画面上の（VAIOマニュアル CyberSupport）をダブルクリックしてみましょう。**

❷ **画面左側にある できるWindows をクリックし、右に表示される目次をクリックして、見たい情報を表示させてみましょう。**

（VAIO マニュアル CyberSupport）が見つからないときは

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［ヘルプとサポート］をクリックし、表示された「ヘルプとサポート センター」画面から［VAIOマニュアル CyberSupport］をクリックします。
画面左側の［できるWindows］をクリックしてください。

（VAIO マニュアル CyberSupport）とは？

バイオマニュアル「サイバーサポート（CyberSupport for VAIO）」（以降「サイバーサポート」と略します）はバイオについての情報の入り口です。バイオの使いかたを知りたいときや、バイオを使っていて困ったことがあったときは「サイバーサポート」を開いてください。

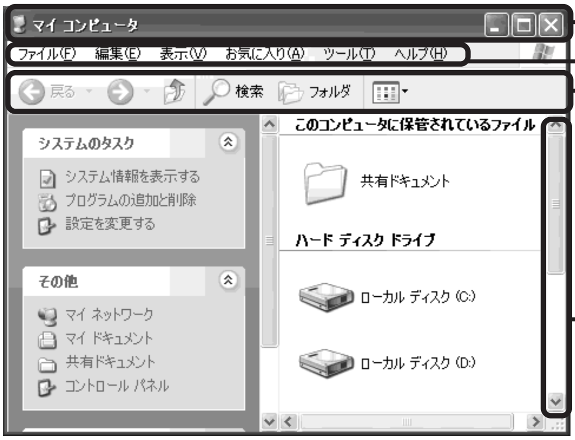
ウィンドウやファイルの操作

Windowsのウィンドウやファイルの操作説明については、「できるWindows XP for VAIO」で詳しく説明されています。「できるWindows XP for VAIO」をご覧になるには、「サイバーサポート」画面左側の できるWindows をクリックします。

ウィンドウの使いかた

「ウィンドウ」とは、Windowsでさまざまな操作をするときの画面のことです。

ウィンドウの各部のなまえとはたらき



タイトルバー
ウィンドウのなまえを表示します。

メニューバー
ウィンドウの中にある各装置を利用したり、内容を変更したりするときに使う機能が一列になって配置されます。

ツールバー
メニューバーと同様のはたらきをしますが、特によく使う機能がアイコン表示されます。

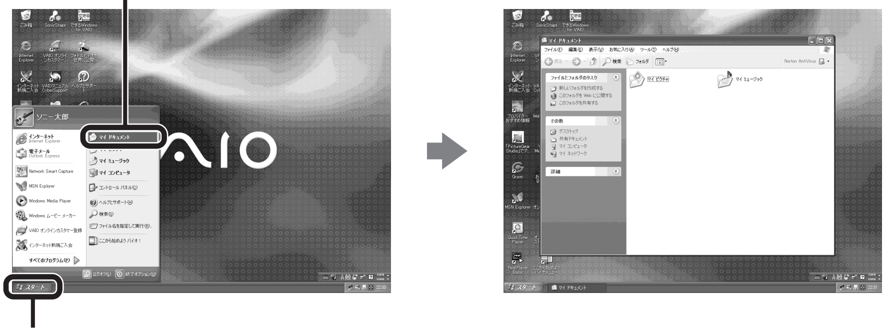
スクロールバー
ウィンドウの中にたくさんのフォルダなどがあって1度に表示できない場合に表示されます。このバーにポインタを合わせて上下に動かすか、上下の ∧ ∨ をクリックすると、隠れているフォルダなどを表示できます。

ウィンドウを開く

ここでは、[マイドキュメント]画面の開きかたを説明します。

デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、マウスを動かして、ポインタを [マイドキュメント]の上に合わせ、クリックします。

❷ ここをクリックする。



❶ ここをクリックする。

複数のウィンドウの操作

ウィンドウは2つ以上同時に開くこともできます。

複数のウィンドウを切り換えるには、使いたいウィンドウを最前面に表示させます。

マウスを動かし、タイトルバーなど、切り換えたいウィンドウのいずれかの部分をクリックします。

ちょっと一言

最前面に表示されているウィンドウは、タイトルバーが濃い色になります。この最前面に表示されているウィンドウのことを「アクティブなウィンドウ」と言います。

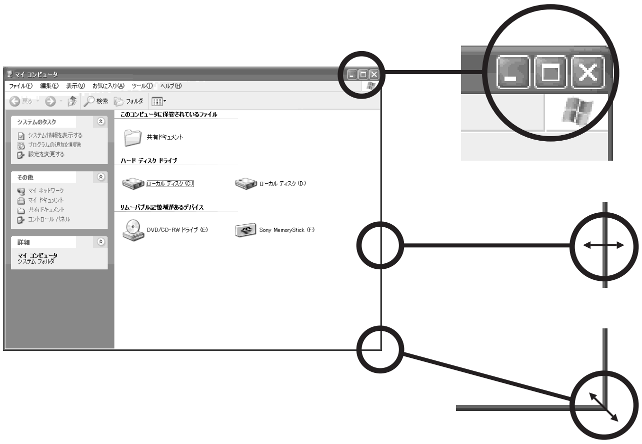
タスクバーを使って複数のウィンドウを切り換えるには

マウスを動かし、タスクバーに表示されているウィンドウのボタンの中から、切り換えたいウィンドウのボタンにポインタを合わせ、クリックします。

ウィンドウのサイズを変える

ウィンドウ右上のボタンをクリックして、サイズを変えることができます。

ウィンドウのサイズを自由に変えるには、ウィンドウの角や辺にポインタを合わせます。マウスの左ボタンを押したまま、大きくしたいときは外側に、小さくしたいときは内側にマウスを動かします。



右上のボタン

- **最小化**
  ウィンドウをデスクトップ画面下のタスクバーに収納します。
- **最大化**
  ウィンドウをデスクトップ画面いっぱいに広げて表示します。
  最大化すると、□ が ⧉（元に戻す）と表示されます。
- **閉じる**
  ウィンドウを閉じます。

最大化したウィンドウを元に戻すには

⧉（元に戻す）ボタンをクリックすると、最大化する前のサイズに戻ります。

最小化したウィンドウを元に戻すには

タスクバーの中に収納されたボタンをクリックすると、最小化する前のサイズに戻ります。

「閉じる」と「最小化」の違い

ウィンドウを閉じると、そのウィンドウはデスクトップ画面から消えます。ウィンドウを最小化すると、そのウィンドウはデスクトップ画面からは見えなくなりますが、タスクバーにボタンとして残ります。ウィンドウを一時的に見えなくするときは、「最小化」の方が便利です。

練習2：ウィンドウの操作

❶「練習1：マウスの操作」で開いた「サイバーサポート」画面で、ウィンドウのサイズを変える練習をしてみましょう。

❷「ウィンドウを開く」の手順で、［マイドキュメント］画面を開いてみましょう。

❸ 2つのウィンドウを切り換えたり、ウィンドウのサイズを変える練習をしてみましょう。

ファイルを作る

「ファイル」とは、保存された文書や画像のことです。

「ワードパッド」ソフトウェアなどで作成したファイルは、特に指定しない限り、 （マイドキュメント）に保存されます。それぞれのファイルは のようにアイコンとして表示されます。ファイルを開くときは、アイコンをダブルクリックします。

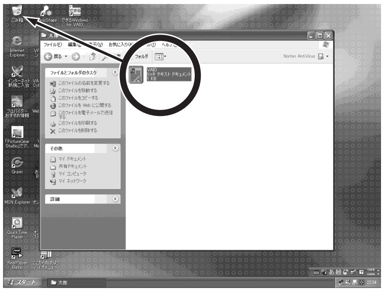
フォルダを作る

「手紙」フォルダや「画像」フォルダのように、「フォルダ」を作成して、種類や用途別に名前を付けてファイルを保存しておくと便利です。フォルダは、 として表示されます。

「マイドキュメント」ウィンドウの中に新しいフォルダを作る場合は、「マイドキュメント」画面のメニューバーの[ファイル]をクリックし、表示されるメニューから[新規作成]、[フォルダ]の順にクリックします。

ファイルやフォルダを削除する

削除したいファイルやフォルダにポインタを合わせ、マウスの左ボタンを押したまま、（ごみ箱）までマウスを移動して（ごみ箱）に重ね、マウスの左ボタンを離します（ドラッグアンドドロップ）。



ちょっと一言

削除したいファイルやフォルダを右クリックして、表示されるメニューから「削除」を選び、次に表示される確認画面で「はい」を選んでも、削除することができます。

（ごみ箱）を空にするには

（ごみ箱）に移動したファイルなどは、（ごみ箱）から取り出すことができます。完全に削除するには、（ごみ箱）をダブルクリックして、「ごみ箱」画面で「ごみ箱を空にする」を選び、次に表示される確認画面で「はい」を選びます。

ごみ箱のアイコンが（紙くずあり）から（紙くずなし）に変わります。

練習3：ファイルやフォルダの操作

❶「ウィンドウを開く」の手順で、［マイドキュメント］画面を開いてみましょう。

❷ フォルダを作ったり、「ワードパッド」などのソフトウェアからファイルを作ってみましょう。

❸ ファイルやフォルダを「ごみ箱」に移動して削除してみましょう。

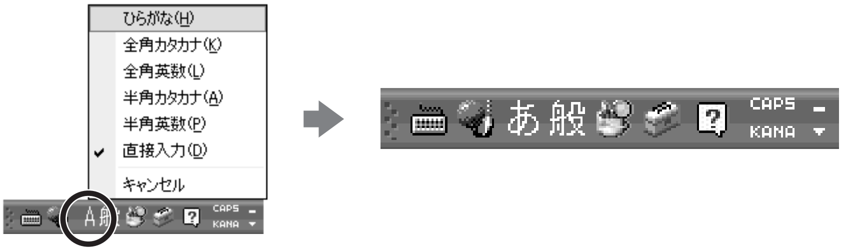
文字の入力

文字の入力について詳しくは、「できるWindows XP for VAIO」で詳しく説明されています。「できるWindows XP for VAIO」をご覧になるには、「サイバーサポート」画面左側の できるWindows をクリックします。

入力する文字を選ぶ

入力したい文字に応じて、デスクトップ画面右下に表示されている「MS-IMEツールバー」を使って、入力文字を切り換えます。

MS-IMEツールバーの[A]にポインタを合わせてクリックし、表示される文字入力選択メニューから、入力文字を選びます。



MS-IME ツールバーが表示されていないときは

デスクトップ画面右下のタスクトレイにある JP をクリックします。表示されたMS-IMEメニューの中の[言語バーの表示]をクリックします。
MS-IMEツールバーについて詳しくは、MS-IMEのヘルプをご覧ください。

ひらがなを入力するには

MS-IMEツールバーの[A]をクリックして、[ひらがな]をクリックします。
ツールバーの表示が[あ]になり、ひらがなが入力できる状態になります。

カタカナを入力するには

MS-IMEツールバーの[あ]をクリックして、[全角カタカナ]をクリックします。
ツールバーの表示が[カ]になり、カタカナが入力できる状態になります。

アルファベットを入力するには

MS-IMEツールバーの[カ]をクリックして、[直接入力]をクリックします。
ツールバーの表示が[A]になり、アルファベットが入力できる状態になります。

入力のしかたを選ぶ

日本語を入力する方法として、ローマ字入力方式とかな入力方式があります。
お好みに合わせて、入力方法を選んでください。
なお、お買い上げ時は、ローマ字入力に設定されています。

❑ ローマ字入力

キーボード上のアルファベットを組み合わせて、ローマ字で日本語を入力する方法です。1 文字を入力するために 2 つまたは 3 つのキーを組み合わせるので、操作が多少めんどうですが、英文タイプライターに慣れている方はこちらが便利です。

❑ かな入力

キーボード上の各キーに印刷されているひらがなを使って、日本語を入力する方法です。1 文字につき 1 つのキーを押せばよいので操作は楽ですが、50 音それぞれのキーの配置を覚える必要があります。

かな入力とローマ字入力を切り換えるには

MS-IMEツールバーの[KANA]をクリックするか、Ctrl（コントロール）キーを押しながら Caps Lock 英数（キャプス・ロック／英数）キーを押すと、ローマ字入力とかな入力とが切り換わります。

練習4：文字の入力

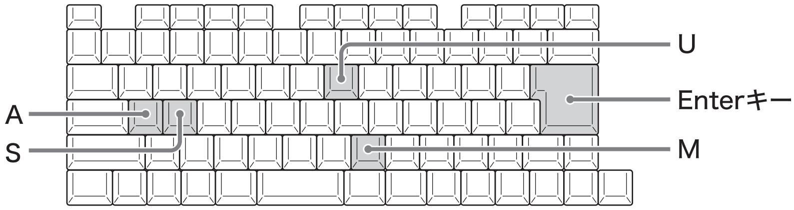
「練習1：マウスの操作」で開いた「サイバーサポート」画面上部の［検索］欄に文字を入力してみましょう。
ここでは「マウス」と入力してみます。

❶ ［検索］欄にポインタを合わせて、クリックします。

❷ MS-IMEツールバーから［全角カタカナ］を選びます。

❸ ローマ字入力の方法で、「マウス（MAUSU）」とキーボード上のアルファベットを入力します。

❹ Enter（エンター）キーを押します。



これで「マウス」と入力できました。

≫検索 をクリックすると、「マウス」に関する情報が表示されます。

「できるWindows XP for VAIO」の使いかた

「できるWindows XP for VAIO」は、Windowsの基本的な使いかたを解説した電子マニュアルです。Windowsの使いかたについて詳しくは、「できるWindows XP for VAIO」をご覧ください。

❶ デスクトップ画面上の（VAIOマニュアルCyberSupport）をダブルクリックする。

「サイバーサポート」画面が表示されます。

❷ 「サイバーサポート」画面左側の できるWindows をクリックする。

ここをクリックする。

「できるWindows XP for VAIO」が表示されます。

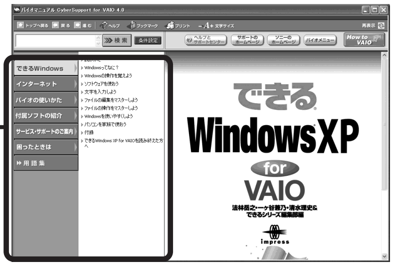
ちょっと一言

デスクトップ画面上の（できるWindows for VAIO）をダブルクリックしても、「できるWindows XP for VAIO」を表示できます。

「できるWindows XP for VAIO」の画面の見かた

「できるWindows XP for VAIO」画面左側の目次から、表示したい項目をクリックします。

表示したい項目をクリックする。



「できるWindows XP for VAIO」では、以下のような内容を説明しています。

- マウスの使いかた
- ソフトウェアの起動方法
- ウィンドウの操作方法
- 文字の入力方法
- ファイルの操作方法

カスタマー登録する／インターネットに接続する

この章では、オンラインでカスタマー登録する手順と
インターネット接続サービスへのオンライン入会手順を
説明します。

カスタマー登録する

ここでは、オンラインでカスタマー登録する手順を説明します。

VAIOカスタマーご登録について

ソニーマーケティング株式会社およびソニー株式会社（以下、「ソニー」）は「バイオ」をご所有のお客様へセキュリティ情報などの必要な情報をお知らせし、充実したサービス・サポートをご提供するために、「VAIOカスタマーご登録」を行っていただくことをおすすめしています。ご登録のメリットについては、VAIOホームページ（http://www.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

また、出荷時点で付属する保証書が提供する製品の保証期間はお買い上げ日から3か月です。ご登録を行っていただくことで、VAIOカスタマー専用デスクからお買い上げ日より1年間有効な保証書と「VAIOカスタマーID」を記したご登録証「VAIO Customer's Card」をお送りします（すでに「VAIO Customer's Card」をお持ちの方へはカードの送付は行われません）。なお、保証について詳しくは「保証書とアフターサービス」（224ページ）をご覧ください。

VAIOカスタマーご登録に関するお問い合わせ先
ソニーマーケティング株式会社　VAIOカスタマー専用デスク　電話番号：03-5977-7255
営業時間：月〜金　10：00から18：00まで（土・日・祝日・年末年始を除く）

VAIOカスタマーご登録の方法

電話回線を通じて手軽にご登録が行えます。

ちょっと一言

- 付属の「VAIOカスタマー登録・保証書お申込書」にご記入の上、郵送いただくことでもご登録を行えます。
- 下記の場合を除き、ソニーがお客様の同意なく登録内容を外部へ開示することはありません。ただし、お客様個人を特定できない統計情報はこの限りではありません。
  1. お客様にお知らせした使用目的のために、業務を委託する協力会社に開示が必要な場合（ソニーは、当該協力会社に対して、お客様の情報の厳重な管理と使用目的の遵守を徹底します）。
  2. 司法機関または行政機関から法的義務を伴う要請を受けた場合。
- VAIOカスタマーご登録は、本機の再セットアップをしたあとなどに再び行う必要はありません。住所などのご登録内容の変更を行うときは、VAIOホームページ内（http://www.vaio.sony.co.jp/）のページ上で、変更手続きが行えます。

  また、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして［すべてのプログラム］→［VAIO オンラインカスタマー登録］の順にクリックして表示される「VAIO オンラインカスタマー登録」画面で変更手続きを行うこともできます。
- 13才より小さいお子さまは、ほごしゃのかたといっしょにとうろくしてください。

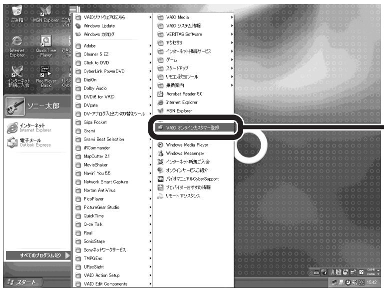
次の手順を行うには、本機が電話回線につながっている必要があります。「VAIOオンラインカスタマー登録」にご使用いただく電話回線は一般電話回線だけでなく、ISDN回線にも対応しています。ISDN回線をお使いになる場合は、ターミナルアダプタのUSBコネクタと本機のUSBコネクタをつないでください。つなぎかたについては「接続する／準備する」の「ISDN回線につなぐときは」（53ページ）をご覧ください。ISDN回線やターミナルアダプタについて詳しくは、NTT（局番なしの116番）またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

ご注意

VAIOオンラインカスタマー登録は、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみ行うことができます。

1

デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［すべてのプログラム］、［VAIOオンラインカスタマー登録］の順にクリックする。

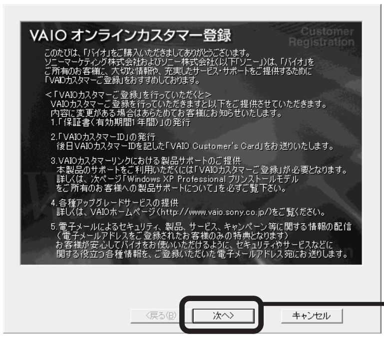


ここをクリックする。

「VAIOオンラインカスタマー登録」画面が表示されます。

2

［次へ>］をクリックする。



ここをクリックする。

PCV-RZ70Pをお使いの場合は、「〈Windows XP Professionalプリインストールモデルをご所有のお客様への製品のサポートについて〉」画面が表示されます。内容を読んで［次へ>］をクリックしてください。

「VAIOカスタマーID VAIOカスタマーパスワード」画面が表示されます。

1つ前の画面が見たいときは

［<戻る(B)］をクリックします。

カスタマー登録をしない、またはあとでするときは

［キャンセル］をクリックして表示される画面で［終了(E)］をクリックすると、「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。その後の手順について詳しくは111ページをご覧ください。

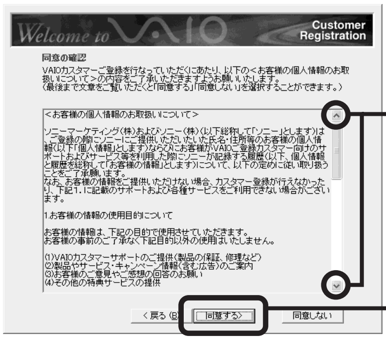
3　[次へ>]をクリックする。

「VAIOカスタマーご登録を行っていただくときのご注意」の画面が表示されます。

4　[次へ>]をクリックする。

「同意の確認」画面が表示されます。

5　[v]または[^]をクリックして、画面に表示された内容をすべて読み、内容に同意するときは[同意する>]をクリックする。

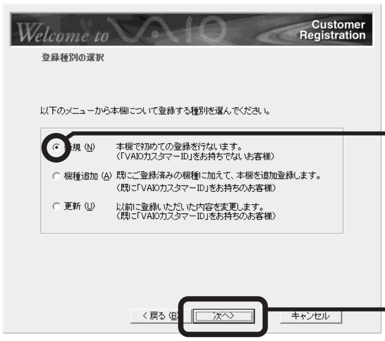


❶ ここをクリックすると文章が上下に移動する。

❷［同意する］をクリックする。
［同意しない］をクリックすると、「ここでこのアプリケーションを終了すると登録が完了しません。」というメッセージが表示され、［終了］をクリックすると、「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示される。

「登録種別の選択」画面が表示されます。

6　「新規」の◯をクリックして◉にし、[次へ>]をクリックする。



❶ ここをクリックする。

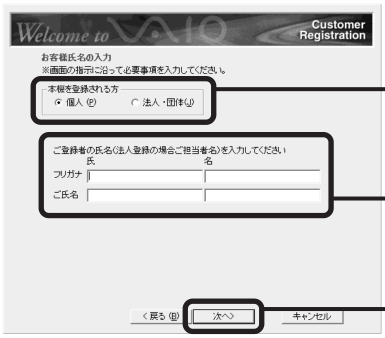
❷ ここをクリックする。

「お客様氏名の入力」画面が表示されます。

ちょっと一言

- 本機を含めてバイオをすでに2台以上お持ちの方など、すでにVAIOカスタマーIDをお持ちの方は、「機種追加」を選び、画面の指示に従って操作してください。
- すでにVAIOカスタマーご登録がお済みの方で、住所など、ご登録内容を変更したいときは、「更新」を選び、画面の指示に従って操作してください。

7 お客様のお名前を漢字で、ふりがなをカタカナで入力し、[次へ>]をクリックする。



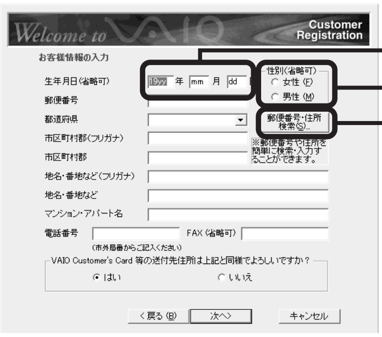
「法人・団体」を選んだときは、法人、団体用の情報を入力する画面が表示される。画面の指示に従って情報を入力してから手順11に進む。

❶ お名前とふりがなを入力する。

❷ ここをクリックする。

「お客様情報の入力」画面が表示されます。

8 生年月日（任意）を入力し、性別（任意）を選び、[郵便番号･住所検索(S)...]をクリックする。



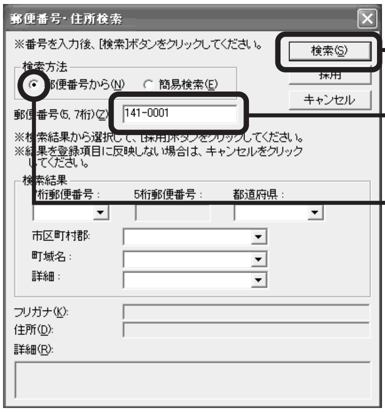
❶ 生年月日を入力する。

❷ 性別を選ぶ。

❸ ここをクリックする。

「郵便番号･住所検索」画面が表示されます。

9 ［検索方法］で「郵便番号から」の○をクリックして◉にし、ご自分の郵便番号を入力してから 検索(S) をクリックする。



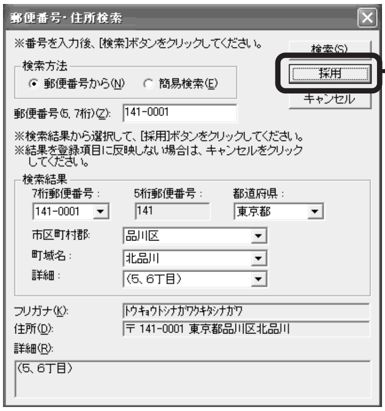
❸ ここをクリックする。

❷ 郵便番号を入力する。
-（ハイフン）は入力しない。

❶［郵便番号から］をクリックする。

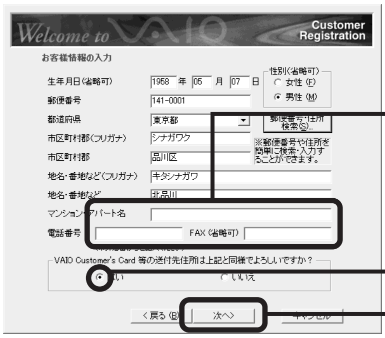
自動的に入力された住所を確認し、正しければ 採用 をクリックしてください。

「郵便番号・住所検索」画面が閉じ、郵便番号や住所が自動的に入力されます。



ここをクリックする。

10 残りの空欄を入力し、「VAIO Customer's Card」など送付先が入力した住所でよければ「はい」の○をクリックして◉にし、 次へ> をクリックする。



❶ 地名、番地やマンション、アパート名が必要な場合は入力する。電話番号を入力するときは、-（ハイフン）は入力しない。

❷ ここをクリックする。

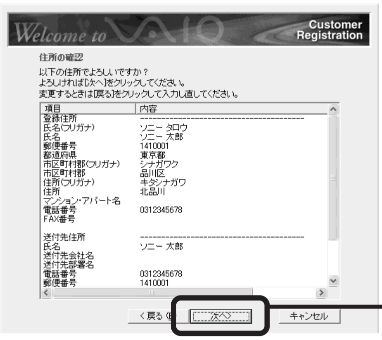
❸ ここをクリックする。

「住所の確認」画面が表示されます。

入力した住所とは別の住所に「VAIO Customer's Card」と保証書などを送付してほしいときは

「いいえ」の○をクリックして◉にしてください。「VAIO Customer's Card／保証書の送付先」画面が表示されますので、画面の指示に従って操作してください。

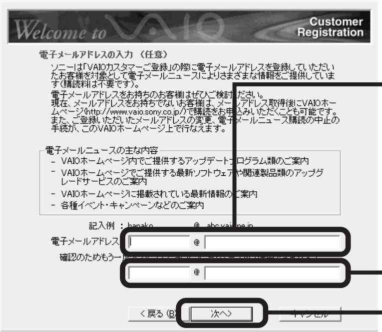
11 住所をご確認の上で、［次へ］をクリックする。



ここをクリックする。

「電子メールアドレスの入力（任意）」画面が表示されます。

12 すでに電子メールアドレスをお持ちの方は、電子メールアドレスを入力し、［次へ］をクリックする。



❶ 電子メールアドレスを入力する。電子メールアドレスをお持ちでない方や電子メールアドレスを教えたくない方は、何も入力せずに［次へ］をクリックする。

❷ 確認のため、もう1度入力する。

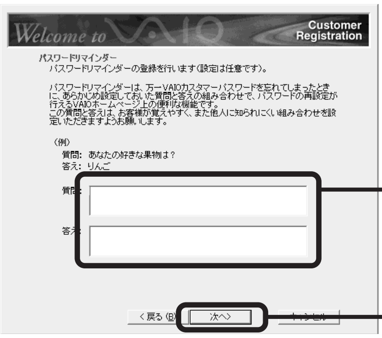
❸ ここをクリックする。

「パスワードリマインダー」画面が表示されます。

電子メールアドレスとは

インターネットなどのネットワークを使ってコンピュータ同士でメッセージをやりとりするシステムを電子メール（Eメール）と言います。電子メールアドレスとは、アルファベットや数字で表された電子メールの宛先のことで住所と同じ役割をします。

13 質問と答えを入力し、［次へ］をクリックする。



❶ 質問と答えを入力する。質問と答えは必ずしも入力する必要はありません。必要がない場合は、何も入力せずに［次へ］をクリックする。

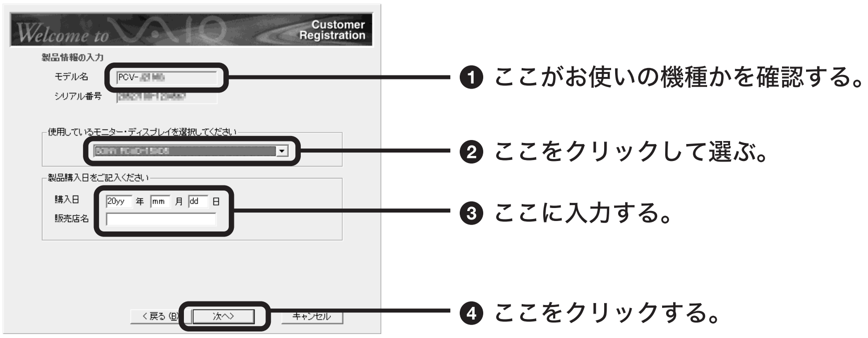
❷ ここをクリックする。

「製品情報の入力」画面が表示されます。

パスワードリマインダーとは

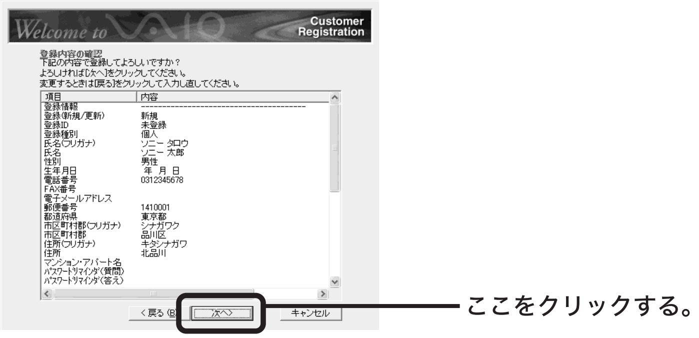
パスワードリマインダーとは、VAIOカスタマーパスワードを忘れてしまったときに備え、あらかじめ設定しておいた質問と答えを使って、パスワードの初期化と再設定が行える便利な機能です。

14 本機のモデル名を確認し、使用しているディスプレイを▼をクリックして選び、本機の購入日や販売店名を入力し、次へ> をクリックする。



「登録内容の確認」画面が表示されます。

15 ご登録いただく内容をご確認の上で、次へ> をクリックする。

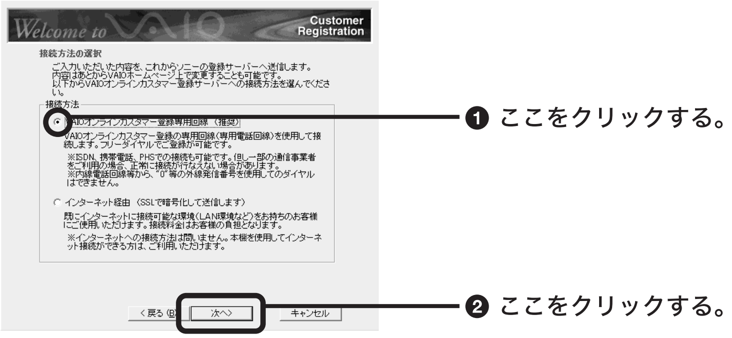


「接続方法の選択」画面が表示されます。

ちょっと一言

登録内容を変更するときは < 戻る(B) をクリックし、変更したい画面まで戻り、入力し直します。

16 「VAIOオンラインカスタマー登録専用回線」の◯をクリックして◉にし、次へ> をクリックする。



「発信方式の設定」画面が表示されます。

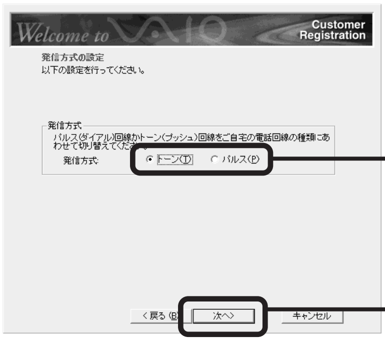
ご注意

- 外線発信（0発信）はできません。
- 「インターネット経由」を選んでご登録いただく場合、接続料金はお客様の負担となります。
- ターミナルアダプタなど、お使いになる通信機器によっては正しく接続できないことがあります。この場合は、本機後面のLINE（電話回線）ジャックと一般電話回線をつなぎ、通信を行ってください。

ちょっと一言

- 次へ> をクリックすると、「接続デバイスの選択」画面が表示されることがあります。この場合は、通信に使う機器を選び、次へ> をクリックしてください。
- 「インターネット経由」を選んで 次へ> をクリックしたときは、「インターネット経由の接続設定」画面が表示されますので、画面の指示に従って操作して手順18に進んでください。また、LANの環境などによっては、「インターネット経由の接続設定」画面でプロキシの設定をする必要があります。プロキシの設定について詳しくは、各法人・団体様のシステム管理者にお尋ねください。

17 お使いの電話回線のダイヤル方法を選び、次へ> をクリックする。



❶ 本機を一般電話回線につないでいるときのみトーン式／パルス式ダイヤルを選ぶ。

❷ ここをクリックする。

「登録確認」画面が表示されます。

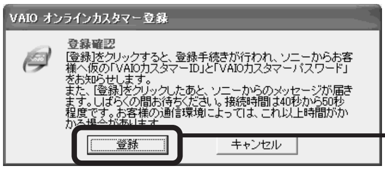
ちょっと一言

トーン式ダイヤルとは：電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしない電話機のダイヤル方法です。

パルス式ダイヤルとは：ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機のダイヤル方法です。

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなどの電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT（局番なしの116番）などの電話会社にお問い合わせください。

18 電話回線がつながっていることを確認し、[登録]をクリックする。



ここをクリックする。

登録内容が電話回線を通じて送られ、送信が終わると「ご登録の完了」画面が表示されます。

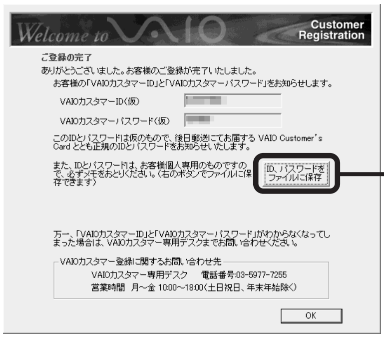
ご注意

ターミナルアダプタなど、お使いになる通信機器によっては正しく接続できないことがあります。この場合は、本機後面のLINE（電話回線）ジャックと一般電話回線をつなぎ、通信を行ってください。

ちょっと一言

オンラインご登録時にお知らせする「VAIOカスタマーID」と「VAIOカスタマーパスワード」は、正規の「VAIOカスタマーID」と「VAIOカスタマーパスワード」が届くまでの間ご使用いただく仮のIDとパスワードです。正規のIDとパスワードは後日、ソニーより「VAIO Customer's Card」や「1年間保証書」などとともに郵送でお知らせいたします。また、次の手順19～20の操作を行い、仮の「VAIOカスタマーID」と「VAIOカスタマーパスワード」をデータとして保存しておくことをおすすめします。

19 [ID、パスワードをファイルに保存]をクリックする。



ここをクリックする。

「名前を付けて保存」ウィンドウが表示されます。

20 ファイルに任意の名前を付け、[保存(S)]をクリックする。

ここをクリックする。

ご注意

保存されたデータを他人に見られたり、紛失しないようにご注意ください。

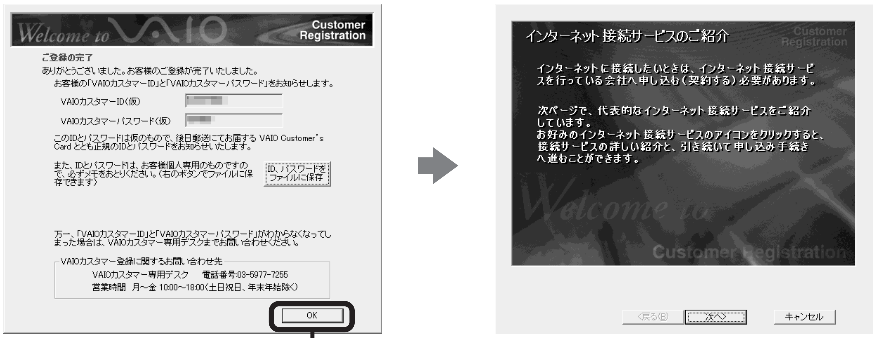
ちょっと一言

保存されたファイルは、デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、[マイドキュメント]をクリックすると表示されます。

お客様のカスタマーIDとパスワードの情報がファイルとして「マイドキュメント」フォルダの中に保存され、「ご登録の完了」画面が表示されます。

21 ［OK］をクリックする。

「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。



ここをクリックする。

ちょっと一言

- ［OK］をクリックすると、サービス内容などをお知らせする画面が表示されることがあります。この場合は、［次へ>］をクリックしてください。「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。
- VAIOカスタマーご登録が終わると、デスクトップ画面上にアイコンが表示されます。このアイコンをダブルクリックすると、バイオに関するサービス・サポート情報やバイオのホームページのご案内などのお知らせを見ることができます。

22 ［次へ>］をクリックする。

インターネット接続サービスの紹介画面が表示されます。

インターネットに接続するときは111ページへお進みください。

インターネットを利用しない、またはあとで入会手続きを行う場合は［キャンセル］をクリックします。

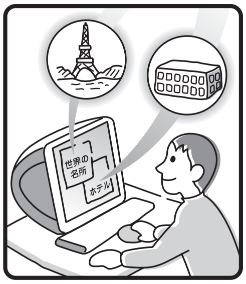
インターネット接続サービスとは

インターネットにつなぐためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。インターネット接続サービスはインターネットとコンピュータとの間を仲介する役割を持っています。インターネット接続サービスを提供する会社と契約すると、インターネットを使っていろいろな情報を記述したホームページを簡単に見たり、電子メールを送受信したりできるようになります。

インターネットを始める

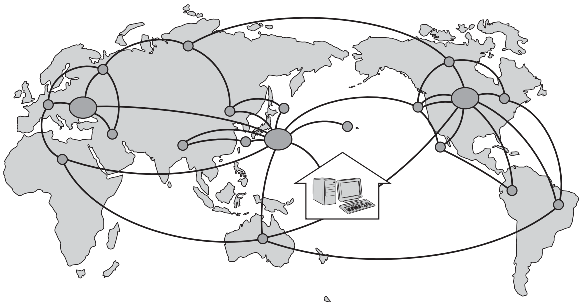
インターネットとは

インターネットとは、世界中のコンピュータがつながった、地球規模のネットワークのことです。ここではインターネットを利用するために必要な準備やホームページの見かた、電子メールのやりとりのしかたを説明します。



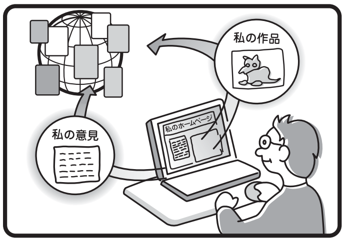
ホームページを見る

・調べたい情報を検索する。
・世界の景色を見る。
・ホテルや乗物の予約をする。
・趣味の仲間をさがす。
・オンラインショッピングをする。



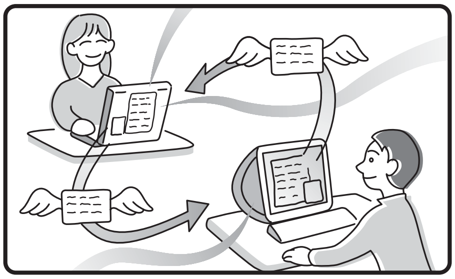
情報を発信する

・自分の意見を発言する。
・趣味の仲間をつのる。
・絵や文芸作品を発表する。
・仕事の広告を出す。



電子メールをやりとりする

電子メールで時差を気にせず世界中の人たちとコミュニケーション。



インターネット接続に必要なものは

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、インターネット自体は電話回線のように、ケーブルがつながったものでしかありません。情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。

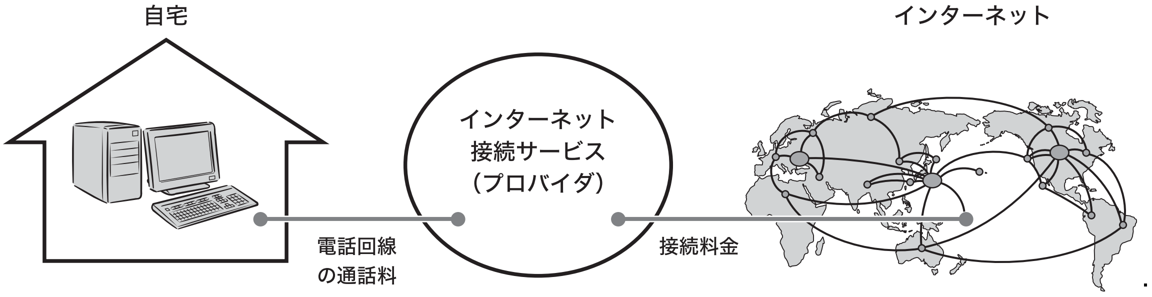
また、電話回線を通してインターネットにつなぐためにインターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。

インターネットに接続するために必要なものは以下の通りです。

❑ インターネット接続サービス（インターネットサービスプロバイダ：ISP）

インターネットにつなぐためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。この会社のことを「インターネットサービスプロバイダ（ISP）」または単に「プロバイダ」と言います（以下、「プロバイダ」と記します）。

プロバイダと契約すると、サービスに応じた接続料金がかかります。また、プロバイダとの契約条件によっては、接続料金とは別に電話回線の通話料がかかることがあります。



ご注意

- 本機および付属ソフトウェアの設定によっては、本機の電源を切っている間でも、自動的にインターネットに接続することがあります。自動接続すると、接続を自動的に終了しないことがあります。この場合、通話料と接続料金が多額になる可能性がありますので、ご注意ください。
- インターネットに接続している間は、電話をかけたり、受けたりできないことがあります。

❑ 電話回線

インターネットに接続するための回線には、以下のような種類があります。接続について詳しくは、「接続する／準備する」（45ページ）の電話回線の接続手順をご覧ください。

回線の種類	解説
一般電話回線	通常の電話を使っている回線です。
ADSL	ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットへ高速に常時接続できるサービスのことです。 **ご注意** **ADSL接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約するADSL接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。**
ISDN	NTTのデジタル通信網を使った回線で、通信速度も速く、1回線で従来の2回線が使えます。 ISDN回線をお使いになる場合はNTT（局番なしの116番）にご相談ください。 **ご注意** ISDN回線でADSLを利用することはできません。詳しくは、契約するADSL接続業者にお問い合わせください。

❑ モデム

電子メールをやりとりしたり、インターネット上のホームページを見るためにインターネットに接続するための装置です。回線の種類によって、下記のようなものがあります。

回線の種類	モデムの種類
一般電話回線	モデム（本機内蔵）
ADSL	ADSLモデム（別売り）
ISDN	ターミナルアダプタ（別売り）

ターミナルアダプタについて

コンピュータや従来の一般電話回線対応の通信機器、電話機をISDN回線につなぐための機器です。ISDN回線を使って本機を使用するためには、本機の他にこの機器が必要になります。ターミナルアダプタについて詳しくは、NTT（局番なしの116番）またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

❑ ソフトウェア

インターネットに接続してホームページを見るには専用のソフトウェア（「ウェブブラウザ」と言います）が必要です。また、電子メールをやりとりするにも専用のソフトウェアが必要です。本機には両方の専用ソフトウェアが付属しています。

本機には以下のウェブブラウザおよび電子メール関連のソフトウェアが付属しています。

ウェブブラウザ

Microsoft Internet Explorer

電子メールソフトウェア

Outlook Express

本書では、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアと「Outlook Express」ソフトウェアの設定と使いかたを中心に説明していきます。

これらのソフトウェアの特長について詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の[付属ソフトの紹介]をクリックして、[インターネット・メール]の順にクリックして表示される各ソフトウェアの情報をご覧ください。

インターネット上でのトラブルについて

さまざまなサービスを提供しているインターネットですが、普及に伴いトラブルも発生しています。

インターネットは非常に便利なものですが、使いかたを誤ったり、安易な気持ちで使用すると思わぬトラブルにあう可能性があります。

インターネット上の情報について

インターネット上の情報はすべてが正しいとは限りません。

ひぼう・中傷・暴力・わいせつなど情報を受ける側もモラルを持って情報を利用する必要があります。

また、情報を発信する場合もマナーを守って行わないと、気がつかないところで自分が加害者になるおそれもあります。ユーザー名やパスワードなどは他人に知られないように管理してください。

コンピュータウイルスやチェーンメールなどの被害について

ホームページからダウンロードしたファイルや悪意を持った人たちから突然送られてくる電子メールには、コンピュータウイルス（コンピュータの動作に悪影響を与えるプログラム）が潜んでいたり、チェーンメールなどにより不快な内容の電子メールが送られてくることもあります。

不審な電子メールが送られてきた場合は、安易に開いたり、添付されているプログラムを実行せずに削除してください。

また、できるだけインターネットサービスプロバイダなどに報告して、自分が加害者にならないようにしましょう。

ちょっと一言

コンピュータウイルスについて詳しくは、「コンピュータウイルスについて」（204ページ）をご覧ください。

情報の機密性について

ソフトウェアやOSなどの不具合により、インターネットに接続しているコンピュータの情報などが漏れてしまう可能性があります。悪意を持った人たちの標的になりやすいため対応することが必要です。

ウェブブラウザやOSの各ソフトウェアの情報が開発元のホームページなどに掲載されていますので、不具合情報をこまめに確認することをおすすめします。

また、電子メールには完全な機密性はありません。送信する内容にはご注意ください。

OS とは

「オペレーティングシステム」の略称で、「オーエス」と読みます。
リソースなど、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアです。本機で使用しているWindowsも代表的なOSの1つです。

インターネットショッピングでのトラブル

インターネットショッピングをするときに、むやみにクレジットカードの番号を入力しないようにご注意ください。プライバシー情報がもれる可能性があります。

注文した品物と違う、代金を送金したのに品物が届かないなどのトラブルも発生しています。できるだけ信頼できるところを利用するなどの注意が必要です。

その他

インターネット上で無料で公開されているソフトウェアによっては国際電話やダイヤルQ2などに接続してしまうものもあります。知らない間に接続してしまい、課金されている場合がありますのでご注意ください。

- インターネット上での個人の情報の公開には細心の注意を払いましょう。
- 社会的に犯罪とされているものはインターネット上でも犯罪です。

インターネットに接続するまでの流れ

インターネットを利用してホームページを見たり、電子メールをやりとりするには、本機をインターネットに接続する必要があります。

以下のステップに入る前に次の点を確認してください。

- 本機が正しく電話回線につながっているか。詳しくは、「接続する／準備する」（45 ページ）をご覧ください。ADSL をご利用の場合は、契約する接続業者にご相談ください。
- お使いの電話回線がトーン式ダイヤル、パルス式ダイヤルのどちらか

以下の流れに従ってインターネットに接続します。詳しくは、各手順の参照ページをご覧ください。

ご注意

「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみインターネットに接続するための設定を行うことができます。

❶ プロバイダと契約しましょう（111ページ）

プロバイダを選んで契約すると、インターネット接続に必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。

❷ チェックシートを作成しましょう（114ページ）

プロバイダから郵送されてきた資料をもとに、チェックシートを作成します。接続の設定の際の不明点については、契約したプロバイダにお問い合わせください（113ページ）。

❸ 接続のための設定をしましょう（119ページ）

チェックシートをもとに設定をします。

❹ 電子メールソフトウェアの設定をしましょう（131ページ）

チェックシートをもとに電子メールを使うための設定をします。

❺ インターネットに接続してみましょう（136ページ）

契約したプロバイダに接続します。

インターネットに接続したあとは、

- ホームページを見てみましょう。（139 ページ）
- 電子メールをやりとりしてみましょう。（146 ページ）

1 プロバイダと契約する

インターネットに接続するには、インターネット接続サービスを提供する会社「プロバイダ」と契約する必要があります。

数多くのプロバイダがありますので、料金やサービスの内容をご検討の上、ご自分に合ったプロバイダと契約することをおすすめします。

プロバイダと契約するには、オンラインサインアップを使うと便利です。以下の手順に従って、オンラインサインアップしてください。

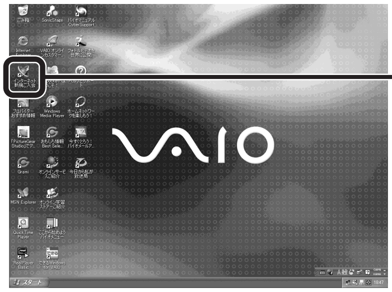
オンラインサインアップとは

電話回線を通じてプロバイダと契約することです。

ご注意

- 契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダもあります。
- 接続料金はプロバイダにより異なります。
- オンラインサインアップソフトウェアによっては、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーしか使えない場合があります。どのプロバイダのオンラインサインアップソフトウェアでも使えるように「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンしてください。

1 デスクトップ画面上の（インターネット新規ご入会）をダブルクリックする。



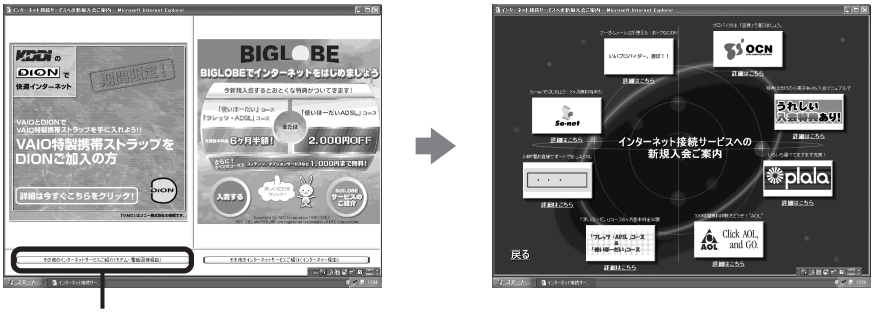
「インターネット接続サービスへの新規入会ご案内」の画面が表示されます。

2 入会したいプロバイダをクリックし、料金やサービス内容を確認したあと、画面の指示に従って操作する。

入会手続きが終わると、インターネットが使えるようになります。

ちょっと一言

その他のプロバイダにオンラインサインアップしたいときは「インターネット接続サービスご紹介」画面下の、[その他のインターネットサービスご紹介(モデム・電話線経由)]をクリックしてください。
表示される画面で、お好みのプロバイダを選んで、料金やサービスの内容を確認したあとオンラインサインアップを行ってください。



ここをクリックする。

プロバイダとの契約後に LAN(ネットワーク)を使ってインターネット接続するときは

「インターネット接続サービスへの新規入会ご案内」画面右下の[その他のインターネットサービスご紹介(インターネット経由)]をクリックします。
表示される画面からプロバイダを選択し、画面の指示に従って必要事項を入力してください。

入会手続きをしない、またはあとでするときは

「インターネット接続サービスへの新規入会ご案内」画面右上の×をクリックします。

プロバイダと契約したあとは

契約後はプロバイダから契約内容とインターネットに接続するために必要な情報が記載された資料がお手元に郵送されてくるまでお待ちください。
すぐにインターネットに接続したいときは、契約するプロバイダにご相談ください。

各プロバイダについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の[付属ソフトの紹介]をクリックして、[ISPサインアップ]→[インターネット接続サービスご紹介]の順にクリックして表示される情報をご覧いただくか、次の各プロバイダへお問い合わせください。

プロバイダー覧

名称	お問い合わせ
So-net	So-netインフォメーションデスク 電話番号：0570-00-1414（全国共通） 携帯・PHSからおかけになる場合は、こちらへおかけください。 札幌：011-711-3765／仙台：022-256-2221／東京：03-3446-7555／名古屋：052-819-1300 大阪：06-6577-4000／広島：082-286-1286／福岡：092-624-3910 受付時間：10時～21時　年中無休 ファックス番号：03-3446-7557 電子メール：info@so-net.ne.jp ホームページ：http://www.so-net.ne.jp/access/
@nifty	ニフティ株式会社　＠nifty入会センター 電話番号：0120-816-042（フリーダイヤル） 携帯・PHS・国際電話の場合：03-5753-2374（電話料金はお客様ご負担となります） 受付時間：毎日9時～21時 （ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。）
ODN	日本テレコム株式会社　ODNサポートセンター 電話番号：0088-86（無料）ODNダイヤルアップサービス （まるごと、ベーシック、モバイルの各プラン） 0088-222-375（無料）ODNブロードバンドサービス （ADSL、フレッツADSL、Bフレッツの各プラン） サポートページ：http://www.odn.ne.jp/counter/
DION	KDDIカスタマーサービスセンター サービス内容に関するお問い合わせ電話番号：0077-7192（無料） 接続・設定などに関するお問い合わせ電話番号：0077-7084（無料） 受付時間：9時～21時（土・日・祝日も受付中） ADSLコースについては24時間受付中！ ※夜間はお問い合わせ内容によって、翌日に回答させていただく場合があります。
OCN	OCNスタートパックヘルプデスク 電話番号：0120-047-747（フリーダイヤル） 受付時間：9時～21時（月～金曜日）／9時～17時（土曜日・日曜日・祝日） 電子メール：info@ocn.ad.jp
P'zDialer（ぷらら）	株式会社ぷららネットワークス「ぷららダイヤル」 入会専用：0120-488912（スバヤクイージー） テクニカル：03-5954-5311
AOL	株式会社ドコモAOL　AOLメンバーサポートセンター 会員サポート・入会問い合わせ：0120-275-265（フリーダイヤル） 携帯電話および国際電話によるサポート：03-5331-7400 受付時間：9時～21時（土・日・祝日もOK） 電子メール：AOLJapanMS@aol.com
BIGLOBE	BIGLOBEカスタマーサポート　インフォメーションデスク 電話番号：0120-86-0962（フリーダイヤル） 携帯電話・PHS・CATV電話：03-3947-0962 受付時間：24時間365日 電子メール：お問い合わせは以下のフォームをご利用ください。 http://support.biglobe.ne.jp/ask.html ホームページ：http://support.biglobe.ne.jp/
Yahoo! BB	Yahoo! BB カスタマーサポートセンター 電話番号：0570-919-820 受付時間：24時間　年中無休 ホームページ：http://bb.yahoo.co.jp/ 電子メール：info@ybb-support.jp

❷ チェックシートを作成する

プロバイダと契約を結ぶと、通常、インターネットに接続するために必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。その資料をもとにインターネットに接続するための設定をします。

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になりながら、下記の「チェックシート」をあらかじめ作成しておくと、「接続のための設定をする」(119ページ)および「電子メールソフトウェアの設定をする」(131ページ)の手順でインターネットに接続するための設定が簡単になります。

次ページの「設定項目について」の説明に従ってチェックシートの各項目をご記入ください。

ご注意

- このチェックシートに書き込む内容は、あなたの個人情報です。取り扱いには充分ご注意ください。
- このチェックシートは、将来、再度設定し直さなければならないときなどにも活用できますので、この説明書は大切に保管しておいてください。
- 他人にご自分のパスワードなどの情報がもれないようにご注意ください。パスワードは、他人に自分の名前を使われたり、電子メールを読まれたりしないようにするためのものです。できるだけ紙に書き留めず、記憶しておくことをおすすめします。
- 「❹パスワード(PPP)」はプロバイダに電話回線を通じて接続できるようにするためのパスワードです。「⓮パスワード(POPアカウントパスワード)」は電子メールを受信できるようにするためのパスワードです。これらのパスワードは両方とも同じでも、別々でもかまいません(プロバイダによって、自由に設定できる場合と、プロバイダが規定する場合があります)。

ちょっと一言

- 他人に見られることがないように、このページを複写した上で各項目を記入し、厳重に保管することをおすすめします。
- 複写した紙に記入しておくと、119ページからの設定を行うときに便利です。

チェックシート

設定項目	あなたの設定値	例(So-netの場合)
❶ダイヤルアップ接続名		So-net東京第16
❷電話番号(アクセスポイント)		03-5792-9060
❸ユーザー名(PPP)		ichiro@aa2
❹パスワード(PPP)		
❺市外局番		03
❻トーン/パルス(電話回線の種類)		
❼DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)	. . .	202.238.95.24
❽別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)	. . .	202.238.95.26
❾ 表示名(差出人フィールドでの表示)		Ichiro Suzuki
❿電子メールアドレス	@	ichiro@aa2.so-net.ne.jp
⓫受信メール(POP3、IMAPまたはHTTP)サーバー		pop.aa2.so-net.ne.jp
⓬送信メール(SMTP)サーバー		mail.aa2.so-net.ne.jp
⓭POPアカウント名		ichiro
⓮パスワード(POPアカウントパスワード)		
⓯インターネットメールアカウント名		ichiro@aa2.so-net.ne.jp

記入内容がわからないときは契約したプロバイダにお問い合わせください。

ちょっと一言

「❼DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）」、「❽別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）」、「⓫受信メール（POP3、IMAPまたはHTTP）サーバー」、「⓬送信メール（SMTP）サーバー」は、プロバイダによっては設定しなくてよいことがあります。

設定項目について

❶ ダイヤルアップ接続名

デスクトップ画面左下の をクリックして、[コントロールパネル]、[ネットワークとインターネット接続]、[ネットワーク接続]の順にクリックして表示される接続名です。
お好みの名前をご記入ください。

例：So-net東京第16

❷ 電話番号（アクセスポイント）

プロバイダから送られてきた資料をご覧になり、プロバイダのアクセスポイントの電話番号（接続先の電話番号）をご記入ください。アクセスポイントは「V.90」に対応しているものをお選びになると、より高速な通信ができます。

例：03-5792-9060

アクセスポイントとは

一般加入電話からインターネットに接続するために、プロバイダが設けている接続地点のことです。インターネットの利用者は接続地点までの電話料金を負担する必要があるので、利用地点からより近いアクセスポイントで接続する方が通話料は少なくてすみます。

ご注意

- ここで記入する電話番号はご自分の電話番号ではありませんのでご注意ください。
- 電話番号は必ず市外局番からご記入ください。
- ISDN回線をお使いの場合やPHSを使ってインターネットに接続するときは、電話番号が異なる場合があります。詳しくは契約したプロバイダにお問い合わせください。

❸ ユーザー名（PPP）

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、プロバイダにダイヤルアップ接続するときに使用するユーザー名をご記入ください。

例：ichiro@aa2

ちょっと一言

ユーザー名は「ユーザーID」、「PPPログイン名」、「ネットワークID」、「接続ログイン名」、「アカウント名」、「ログオン名」などとも言います。

PPPとは

「Point to Point Protocol」の略で、ネットワークに接続する方法の1つです。
電話による接続が一般的なことからダイヤルアップ接続とも呼ばれています。

❹ パスワード(PPP)

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、プロバイダにダイヤルアップ接続するときに使用する、ユーザー名に対するパスワードを記入します。

ちょっと一言

- このパスワードは「PPPパスワード」、「ネットワークパスワード」、「接続パスワード」などとも言います。
- パスワードの入力は、一般的に半角の英数字や記号などを使います。

ダイヤルアップ接続とは

電話回線を通じてインターネットに接続することです。

❺ 市外局番

ご自分の電話番号の市外局番をご記入ください。

例:03

❻ トーン/パルス(電話回線の種類)

お使いの電話回線のダイヤル方法がトーン式かパルス式か確認してご記入ください。

トーン式:

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」と音がしない電話機のダイヤル方法です。

パルス式:

ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」と音がする電話機のダイヤル方法です。パルス式ダイヤルの場合、ダイヤルボタンを押すと受話器から電子音が聞こえるものもあります。

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなどの電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。

請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線(基本)使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。

電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT(局番なしの116番)などの電話会社にお問い合わせください。

❼ DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、ご記入ください。

例:202.238.95.24

ちょっと一言

- DNSサーバーは「ネームサーバー」、「プライマリDNSサーバー」、「プライマリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」とも言います。
- この項目が必要ないプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

❽ 別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)

「❼DNSサーバーアドレス」以外のアドレスがプロバイダから郵送されてきた資料に書かれている場合はご記入ください。

DNSサーバーアドレスは1つだけのプロバイダもあります。この場合は、「❽別のDNSサーバーアドレス」は空欄のままでかまいません。

例:202.238.95.26

❾ 表示名（差出人フィールドでの表示）

あなたが送る電子メールの差出人欄に表示する名前をお好みでご記入ください。通常はご自分の名前のフルネームにします。

例：Ichiro Suzuki

ちょっと一言

この表示名は全角の漢字でも良いですが、日本語圏以外の相手に電子メールを送ることが多い方は半角のアルファベットにすることをおすすめします。こうすることによって電子メールを送った相手には「Ichiro Suzuki<ichiro@aa2.so-net.ne.jp>」などと表記されます。

❿ 電子メールアドレス

電子メールをやりとりするときのあなたの宛先をご記入ください。

プロバイダから郵送されてきた資料には「xxxxx@xxxx.xx.xx」と記載されています。電子メールアドレスは、あなたの住所と同じ役割をします。

例：ichiro@aa2.so-net.ne.jp

ちょっと一言

電子メールアドレスは、「E-Mailアドレス」、「Mailアドレス」、「メールアドレス」などとも言います。

⓫ 受信メール（POP3、IMAPまたはHTTP）サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを受け取るサーバーのアドレスをご記入ください。受信メールサーバーは、郵便局のような役割をします。受信メールサーバーからあなたの電子メールアドレスに電子メールが送られます。

例：pop.aa2.so-net.ne.jp

ちょっと一言

- 受信メールサーバーは、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」、「POP3」などとも言います。
- この項目が自動的に設定されるプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

⓬ 送信メール（SMTP）サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを送信するサーバーのアドレスをご記入ください。送信メールサーバーも郵便局のような役割をします。あなたが送った電子メールを受け取り、送り先の電子メールアドレスに送ります。

例：mail.aa2.so-net.ne.jp

ちょっと一言

- 送信メールサーバーは「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」、「SMTP」などとも言います。「⓫受信メールサーバー」と同じ場合もあります。
- この項目が自動的に設定されるプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

⓭ POPアカウント名

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名をご記入ください。「❿電子メールアドレス」の「@」（アットマーク）より前の部分を記入します。電子メールを見るためには、このアカウント名と「⓮パスワード」の両方が必要になります。

例：「ichiro@aa2.so-net.ne.jp」が電子メールアドレスなら、POPアカウント名は「ichiro」になります。

ちょっと一言

POPアカウント名は「メールアカウント名」、「メールサーバーログイン名」、「メールログイン名」、「POPサーバーアカウント」、「POPサーバーログイン名」とも言います。「❸ユーザー名」と同じ場合もあります。

⓮ パスワード（POPアカウントパスワード）

受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名に対するパスワードを半角の英数字でご記入ください。

電子メールを見るためには、「⓭POPアカウント名」とこのパスワードの両方が必要になります。

ちょっと一言

このパスワードは、「メールパスワード」、「メールサーバーパスワード」などとも言います。

⓯ インターネットメールアカウント名

お好みの名前をご記入ください。わかりやすいように電子メールアドレスを入れることをおすすめします。

例：ichiro@aa2.so-net.ne.jp

3 接続のための設定をする

❏ **ADSL（PPPoE）を使ってインターネットに接続する方は、このままお進みください。**

❏ **一般電話回線で接続される場合は、「一般電話回線でインターネットに接続するには」（123ページ）をご覧ください。**

「チェックシートを作成する」（114ページ）で作成したチェックシートをご覧になりながら、各項目に記入した内容を実際の画面の入力欄にキーボードを使って入力していきます。以下の手順に従って操作してください。

ADSLでインターネットに接続するには

ADSL接続に必要なADSLモデムには、一般的に下記の2タイプがあります。

①ブリッジタイプのADSLモデム

→コンピュータとADSLモデムを接続し、コンピュータ側で設定（PPPoEの設定）を行います。

②ルータータイプのADSLモデム

→コンピュータとADSLモデムを接続し、ルーターの設定を行います。

ここでは、①のブリッジタイプのADSLモデムを使った一般的な設定のしかたについて説明します。

ちょっと一言

接続については、「接続する／準備する」（45ページ）の電話回線の接続手順内の「ADSLにつなぐときは」をご覧ください。

ご注意

ADSL接続の設定方法については、各プロバイダによって異なる場合がありますので、必ず契約するADSL接続業者にご確認ください。

ISDN回線でADSLを利用することはできません。詳しくは、契約するADSL接続業者にお問い合わせください。

1 本機の電源を入れる。

電源の入れかたについては、「電源を入れる」（63ページ）をご覧ください。

2 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[コントロールパネル]をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

カスタマー登録する／インターネットに接続する

3 「コントロールパネル」画面で[ネットワークとインターネット接続]をクリックする。

「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

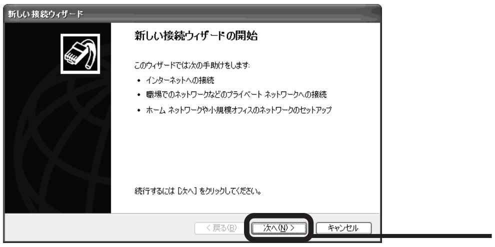
4 「ネットワークとインターネット接続」画面で[ネットワーク接続]をクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

5 「ネットワーク接続」画面の「ネットワークタスク」から[新しい接続を作成する]をクリックする。

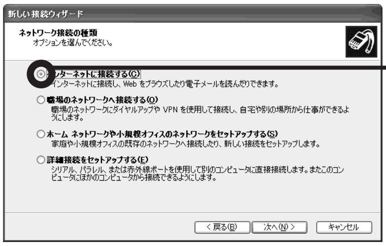
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

6 「新しい接続ウィザードの開始」画面で 次へ(N) > をクリックする。



「ネットワーク接続の種類」画面が表示されます。

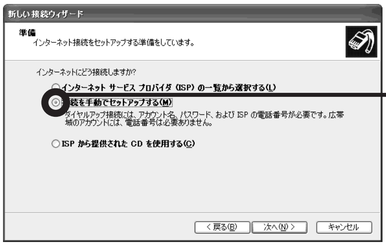
7 「ネットワーク接続の種類」画面で[インターネットに接続する]の◯をクリックして◉にし、[次へ(N) >]をクリックする。



ここをクリックする。

「準備」画面が表示されます。

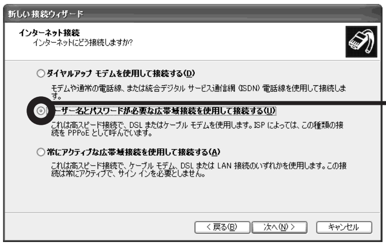
8 「準備」画面で[接続を手動でセットアップする]の◯をクリックして◉にし、[次へ(N) >]をクリックする。



ここをクリックする。

「インターネット接続」画面が表示されます。

9 「インターネット接続」画面で[ユーザー名とパスワードが必要な広帯域接続を使用して接続する]の◯をクリックして◉にし、[次へ(N) >]をクリックする。



ここをクリックする。

「接続名」画面が表示されます。

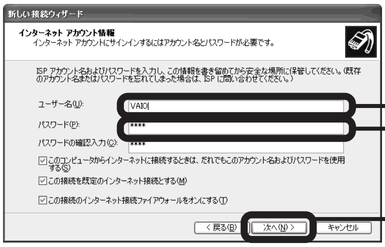
10 「接続名」画面で「ISP名」にご契約のADSL接続業者の名前を入力し、次へ(N) > をクリックする。

ご契約のADSL接続の名前を入力する。

ここをクリックする。

「インターネットアカウント情報」画面が表示されます。

11 「インターネットアカウント情報」画面で、ユーザー名、パスワードをご契約のADSL接続業者から指定されている情報で入力し、「パスワードの確認入力」に同じパスワードを再度入力してから、次へ(N) > をクリックする。



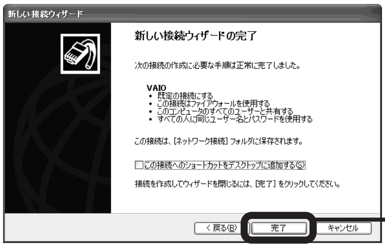
チェックシートユーザー名❸(PPP)を入力する。

チェックシートパスワード❹(PPP)を入力する。

ここをクリックする。

「新しい接続ウィザードの完了」画面が表示されます。

12 完了 をクリックする。



ここをクリックする。

「新しい接続ウィザードの完了」画面が閉じます。

これでADSL、またはケーブルモデム（ケーブルテレビ回線）でPPPoEを使用してインターネットに接続するための設定は終わりです。

一般電話回線でインターネットに接続するには

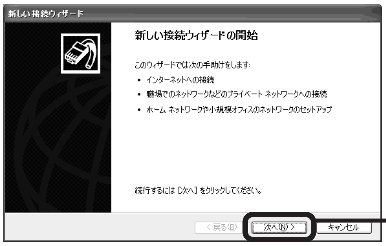
1 デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[インターネット]をクリックする。

「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されないときは

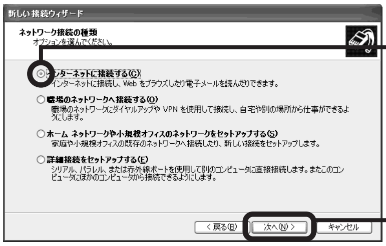
接続のための設定が終わったあとは スタート 、[インターネット]の順にクリックすると、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが起動するようになります。もう1度「新しい接続ウィザード」を表示させたいときは、デスクトップ画面左下の スタート をクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[アクセサリ]、[通信]、[新しい接続ウィザード]の順にクリックします。

2 次へ(N) > をクリックする。



「ネットワーク接続の種類」画面が表示されます。

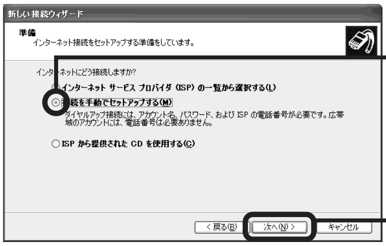
3 [インターネットに接続する]の○をクリックして◉にし、次へ(N) > をクリックする。



「準備」画面が表示されます。

4

[接続を手動でセットアップする]の◯をクリックして◉にし、次へ(N) >をクリックする。



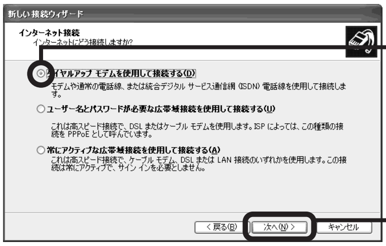
❶ ここをクリックする。

❷ ここをクリックする。

「インターネット接続」画面が表示されます。

5

[ダイヤルアップモデムを使用して接続する]の◯をクリックして◉にし、次へ(N) >をクリックする。



❶ ここをクリックする。

❷ ここをクリックする。

「接続名」画面が表示されます。

6

「ISP名」(ダイヤルアップ接続名)を入力し、次へ(N) >をクリックする。

チェックシートの❶ダイヤルアップ接続名を入力する。

ここをクリックする。

「ダイヤルする電話番号」画面が表示されます。

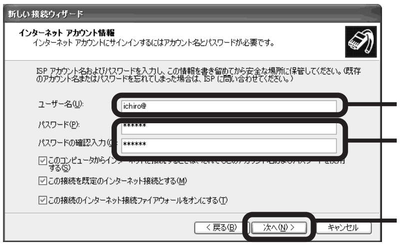
7 アクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ(N) >]をクリックする。

チェックシートの❷電話番号（アクセスポイント）を入力する。

ここをクリックする。

「インターネットアカウント情報」画面が表示されます。

8 ユーザー名とパスワードを入力し、「パスワードの確認入力」に同じパスワードを再度入力してから、[次へ(N) >]をクリックする。



チェックシートの❸ユーザー名（PPP）を入力する。

チェックシートの❹パスワード（PPP）を入力する。

ここをクリックする。

「新しい接続ウィザードの完了」画面が表示されます。

ちょっと一言

「パスワード」はパスワードの文字数と同じ数の「＊」で表示されます。

9 [完了]をクリックする。

「新しい接続ウィザード」が終了します。

ちょっと一言

「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておくと、デスクトップ画面上にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。

10 デスクトップ画面左下の[スタート]をクリックして、[コントロールパネル]をクリックする。

「コントロールパネル」画面が表示されます。

11 [プリンタとその他のハードウェア]をクリックする。

ここをクリックする。

「プリンタとその他のハードウェア」画面が表示されます。

ちょっと一言

手順11および12の画面での操作はお買い上げ時の状態のものです。

12 [電話とモデムのオプション]をクリックする。

ここをクリックする。

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

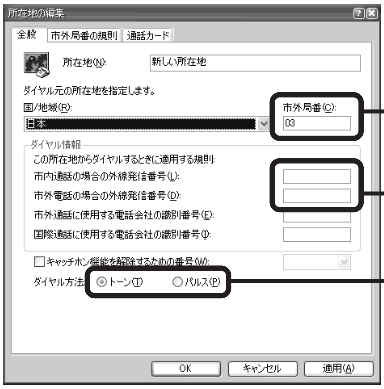
13 設定されている所在地をクリックして選び、[編集(E)...]をクリックする。

所在地を選ぶ。

リストにないときはここをクリックする。
「新しい所在地」画面が表示されます。

「所在地の編集」画面が表示されます。

14 各項目を以下のように設定し、［OK］をクリックする。



チェックシートの❺市外局番。
ダイヤル元の市外局番を半角の数字で入力する。

外線発信番号が必要な場合は「0」と入力する。

チェックシートの❻トーン／パルス（電話回線の種類）を選ぶ。

15 「電話とモデムのオプション」画面の［OK］をクリックする。

16 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［接続］にポインタを合わせ、［すべての接続の表示］をクリックする。

ここをクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

ちょっと一言

以下の方法でも「ネットワーク接続」画面を表示することができます（お買い上げ時のウィンドウの設定の場合）。

デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして、［コントロールパネル］をクリックする。表示された「コントロールパネル」画面で［ネットワークとインターネット接続］アイコンをクリックする。表示された「ネットワークとインターネット接続」画面で［ネットワーク接続］アイコンをクリックする。

17 ダイヤルアップ接続名（チェックシート❶）のアイコンをダブルクリックする。

So-netの例では［So-net］をダブルクリックします。

「So-netへ接続」画面が表示されます。

ちょっと一言

手順9で、「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておくと、デスクトップ画面上にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。これをダブルクリックして、手順18に進むこともできます。

18 プロパティ(P) をクリックする。

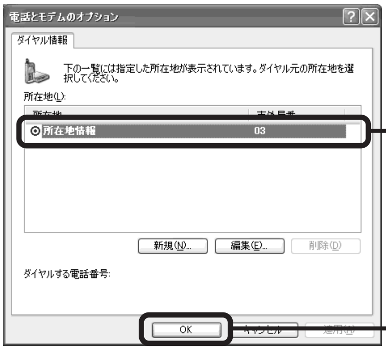
ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面が表示されます。

19 [ダイヤル情報を使う]の□をクリックして☑にし、[ダイヤル情報(R)]をクリックする

ここをクリックする。

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

20 複数の所在地があるときは、「所在地」から設定されている所在地をクリックして選び、[OK]をクリックする。



❶ クリックして選ぶ。

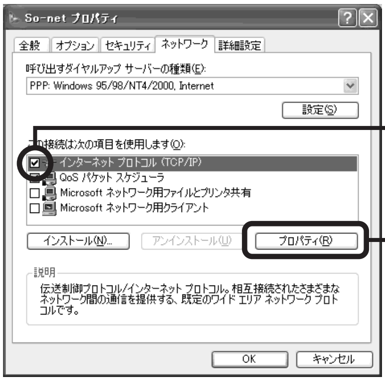
❷ ここをクリックする。

手順21～24は、チェックシートに❼DNSサーバーアドレス（プライマリDNS）および❽別のDNSサーバーアドレス（セカンダリDNS）を記入した場合（プロバイダから郵送されてきた資料にDNSサーバーアドレスが記入されている場合）のみ、操作を行ってください。

21 [ネットワーク]タブをクリックする。

ここをクリックする。

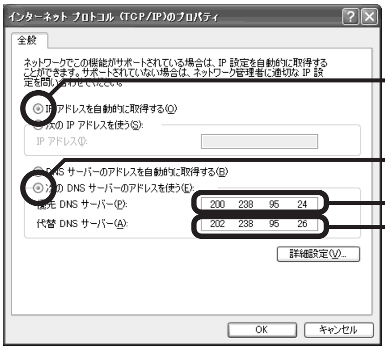
22 「この接続は次の項目を使用します」で[インターネットプロトコル(TCP/IP)]の☐をクリックして☑にし、[プロパティ(P)]をクリックする。



「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されます。

23 各項目を以下のように設定する。

- [IPアドレスを自動的に取得する]をクリックする。
- [次のDNSサーバーのアドレスを使う]をクリックし、DNSサーバーアドレスを入力する。



ちょっと一言

「❼DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)」と「❽別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)」は同じ場合があります。このときは「代替DNSサーバー」には入力する必要はありません。

24 [OK]をクリックする。

「インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が閉じます。

25 ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面で[OK]をクリックする。

ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面が閉じます。

26 「(ダイヤルアップ接続名)へ接続」画面で[キャンセル]をクリックする。

「(ダイヤルアップ接続名)へ接続」画面が閉じます。
これでインターネット接続のための設定は終わりです。

4 電子メールソフトウェアの設定をする

電子メールのやりとりを正しく行えるようにするための設定を行います。

ここでは、本機に付属の電子メールソフトウェア「Outlook Express」*を例に電子メールをやりとりするための設定をしていきます。

* 本書で使われている「Outlook Express」ソフトウェアの画面のイラストは、本機にインストールされているバージョンです。

ちょっと一言

「Outlook Express」ソフトウェアの設定は1度行えば、2回目以降の起動時には不要です。

1 デスクトップ画面左下の をクリックし、[電子メール]をクリックする。

ここをクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動し、インターネット接続ウィザードの「名前」画面が表示されます。

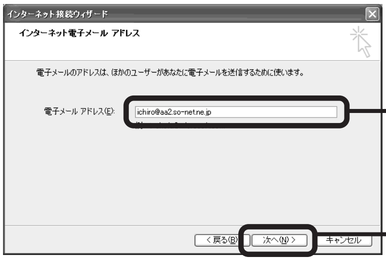
2 表示したい名前を入力し、 をクリックする。

チェックシートの❾表示名（差出人フィールドでの表示）を入力する。

ここをクリックする。

「インターネット電子メールアドレス」画面が表示されます。

3 電子メールアドレスを入力して、 をクリックする。

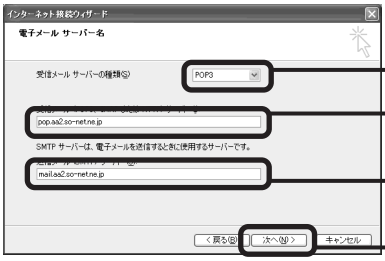


チェックシートの❿電子メールアドレスを入力する。

ここをクリックする。

「電子メールサーバー名」画面が表示されます。

4 受信メールサーバーと送信メールサーバーの名前を入力し、［次へ(N) >］をクリックする。

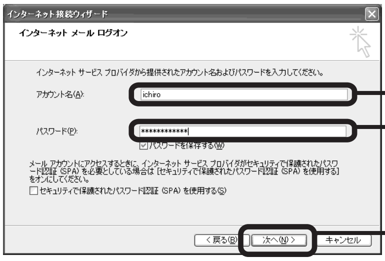


「インターネットメールログオン」画面が表示されます。

ちょっと一言

「⓫受信メール（POP3、IMAPまたはHTTP）サーバー」の名前と「⓬送信メール（SMTP）サーバー」の名前は同じ場合があります。

5 POPアカウント名とパスワードを入力し、［次へ(N) >］をクリックする。



「設定完了」画面が表示されます。

ちょっと一言

- 「パスワード」は「＊」で表示されます。
- 「パスワードを保存する」の□をクリックして☑にすると、実際にインターネットに接続するときの「（ダイヤルアップ接続名）へ接続」画面（136ページ）でパスワードを入力する手間が省けます。

6 ［完了］をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアの設定が完了します。

ご注意

完了 をクリックしたあと、その他の画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。

ちょっと一言

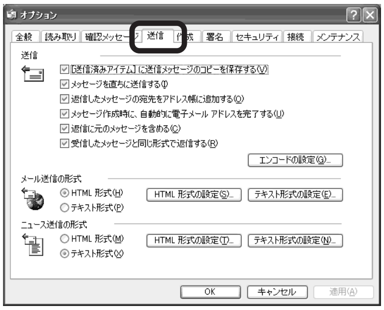
「Outlook Express」ソフトウェアで作成したメッセージは初期設定でHTML形式になります。

HTML形式に対応していない電子メールソフトウェアを使っている相手にHTML形式のメッセージを送ると、相手側が正しく受け取れないことがあります。メッセージはテキスト形式で送ることをおすすめします。

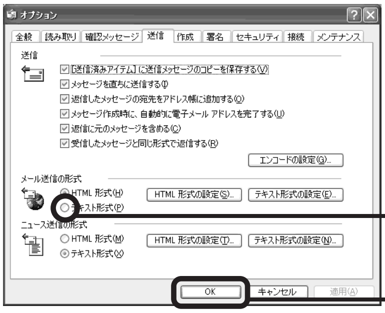
メッセージをテキスト形式で送るように設定するには、以下の手順に従ってください。

1 **「Outlook Express」画面上部の［ツール］をクリックし、表示されるメニューから［オプション］をクリックする。**
「オプション」画面が表示されます。

2 **［送信］タブをクリックする。**
「送信」画面が表示されます。



3 **「メール送信の形式」で［テキスト形式］をクリックし、［OK］をクリックする。**
送信するメッセージがテキスト形式になります。



❶ ここをクリックする。

❷ ここをクリックする。

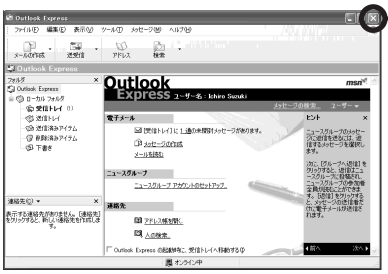
電子メールをテキストのみで送りたいときも同様の設定でお使いください。

HTML とは

ホームページを作成するためのページ記述言語のことです。

7

画面右上の（「閉じる」ボタン）をクリックする。



ここをクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

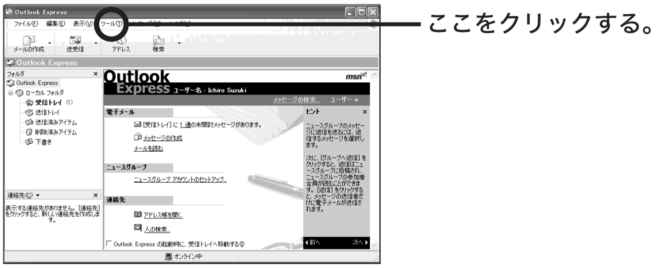
ちょっと一言

電子メールのアカウントを追加するなど、もう1度「インターネット接続ウィザード」を表示させたいときは、「Outlook Express」画面で[ツール]をクリックし、[アカウント]をクリックします。表示される「インターネットアカウント」画面で[追加]をクリックし、[メール]タブをクリックします。

電子メールの設定を変更するには

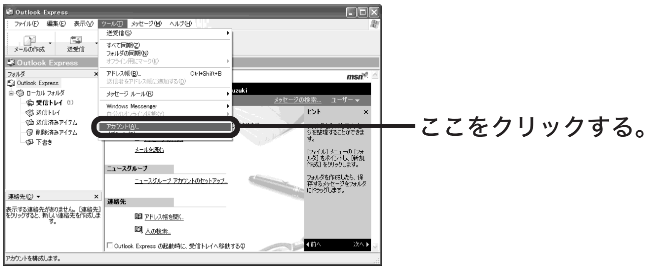
チェックシートの「⓯インターネットメールアカウント名」は、下記の方法で変更できます。

1 「Outlook Express」画面で、[ツール]をクリックする。



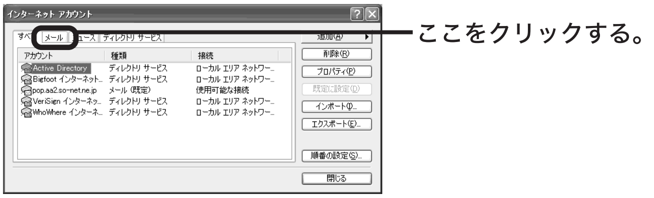
「ツール」メニューが表示されます。

2 [アカウント]をクリックする。



「インターネットアカウント」画面が表示されます。

3 [メール]タブをクリックする。



「メール」画面が表示されます。

4

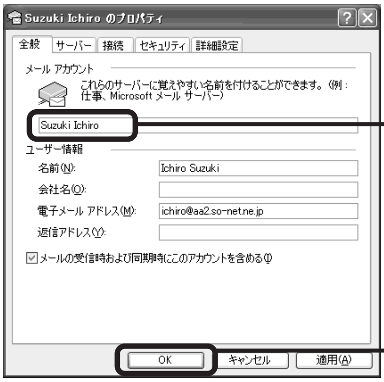
［プロパティ(P)］をクリックする。

ここをクリックする。

プロパティ画面が表示されます。

5

「pop.aa2.so-net.ne.jp」と反転表示されている部分を変更し［OK］をクリックする。



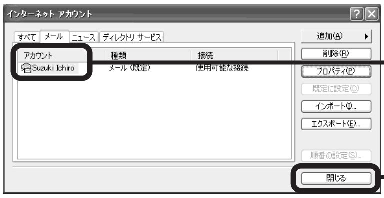
ここに入力する。

ここをクリックする。

ここでは「Suzuki Ichiro」と入力してみます。

6

名前を変更した場合は、変更されているか確認して、［閉じる(C)］をクリックする。

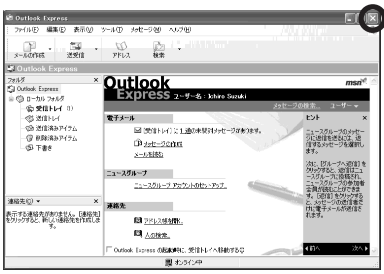


ここが変更されているかどうか確認する。

ここをクリックする。

7

「Outlook Express」画面で右上の［×］（「閉じる」ボタン）をクリックする。



ここをクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

5 インターネットに接続する

契約したプロバイダのインターネットサーバーに一般電話回線を使用して接続するには、以下の手順に従って操作してください。

インターネットサーバーとは

常時インターネットに接続され、アクセス可能なコンピュータのことです。
ホームページ・サーバー、メールサーバーなどがあります。

1

デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、[接続]、[ダイヤルアップ接続名（チェックシートの❶）]の順にクリックする。

下の例では[So-net]をクリックします。

ここをクリックする。

「（ダイヤルアップ接続名）へ接続」画面が表示されます。

2

「（ダイヤルアップ接続名）へ接続」画面の各項目を入力または確認する。

❶ **ユーザー名（チェックシートの❸）と電話番号（チェックシートの❷）が正しいか確認する。**

ここを確認する。

❷ ［ダイヤル(D)］をクリックする。

プロバイダのインターネットサーバーに接続します。

ここをクリックする。

「現在(ダイヤルアップ接続名)に接続しています。」画面が表示されたときは、［OK］をクリックします。

［OK］をクリックする前に[今後、このメッセージを表示しない]の□をクリックして☑にしておけば、次回からこの画面は表示されません。

デスクトップ画面右下には(アイコン)が表示されます。
これで、接続は完了です。

インターネットに接続しているときは、常にデスクトップ画面右下に(アイコン)が表示されます。
ホームページを見たり、電子メールをやりとりするには、「ホームページを見る」(139ページ)以降をご覧ください。

接続を切断するときは：138ページの「接続を切断するには」をご覧ください。

接続できなかった場合は：別冊の「困ったときのQ&A」の「インターネット／カスタマー登録」をご覧ください。

パスワード(チェックシートの❹)を変更するには

手順2の「(ダイヤルアップ接続名)へ接続」画面で[パスワード]に新しいパスワードを入力します。

ここに新しいパスワードを入力する。

ご注意

「次のユーザーが接続するとき使用するために、このユーザー名とパスワードを保存する」の□をクリックして☑にし、ユーザーの種類を選ぶと、パスワードを保存することができ、次回からパスワードを入力する手間が省けます。しかし、他人に勝手にインターネットに接続されるおそれがありますのでご注意ください。

ちょっと一言

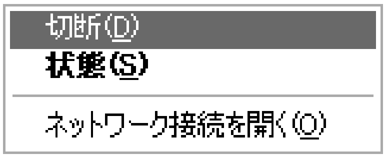
- 「パスワード」(チェックシートの❹パスワード(PPP))は「＊」で表示されます。
- 「パスワード」の入力欄は、「電子メールソフトウェアの設定をする」(131ページ)の手順5で「パスワードを保存する」の□をクリックして☑にしておくと入力された状態で表示されます。

接続を切断するには

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また「Microsoft Internet Explorer」や「Outlook Express」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。操作を行わないときや操作が終わったあとなどは、インターネットの接続を切断します。

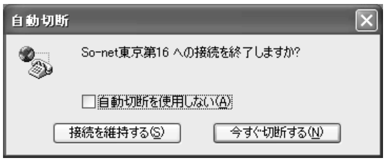
接続を切断するには、以下の3つの方法があります。

- **デスクトップ画面右下のを右クリックして表示されるメニューから[切断]をクリックする。**



- **デスクトップ画面右下のをダブルクリックして表示される「(ダイヤルアップ接続名)の状態」画面で 切断(D) をクリックする。**

- **「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了すると表示される「自動切断」画面で 今すぐ切断する(N) をクリックする。**



ちょっと一言

- 電子メールを書いているときや電子メールを受け取ったあとに読むときは、インターネットの接続を切断しておけば接続料金はかかりません。
- 「自動切断」画面は「自動切断を使用しない」のをクリックしてにすると、次回インターネットに接続したときからは表示されません。

ホームページを見る

インターネット上のホームページを見てみます。ホームページを見るには、「ウェブブラウザ」という専用ソフトウェアが必要です。ここでは、付属の「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを使ってホームページを見てみます。

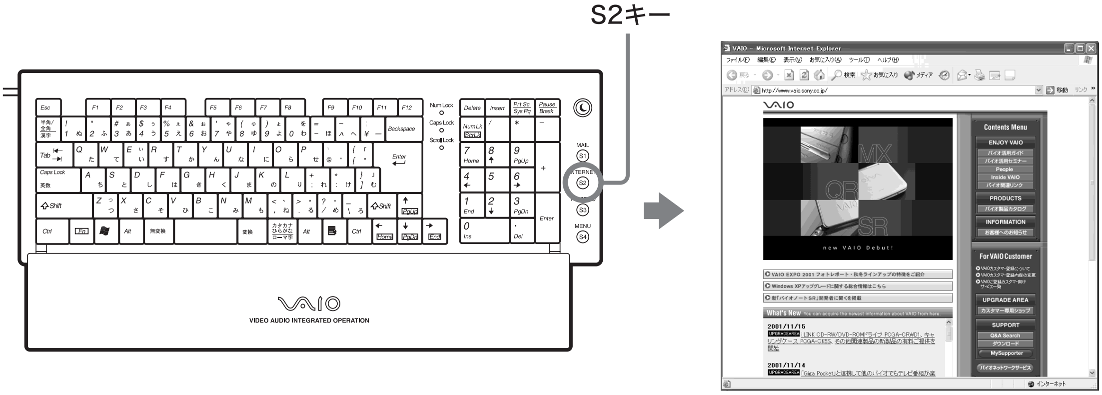
以下の操作をする前に、デスクトップ画面右下にが表示されていることを確認してください。表示されていれば、インターネットに接続しています。インターネットに接続していない場合は、下記の操作を行うと、「インターネット接続ウィザード」が起動します。「インターネットに接続する」（136ページ）の手順に従い、インターネットに接続し、を表示させてください。

1「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動する

まず「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動します。

キーボードのⓈ2キーを押す。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが起動し、ホームページが表示されます。



ちょっと一言

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動するには、デスクトップ画面左下の

をクリックし、[インターネット]をクリックする方法もあります。

ご注意

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動したときに表示されるホームページは各自の設定により異なります。上の図は、最初に表示されるホームページをVAIOホームページに設定したときの例です。設定のしかたについては、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

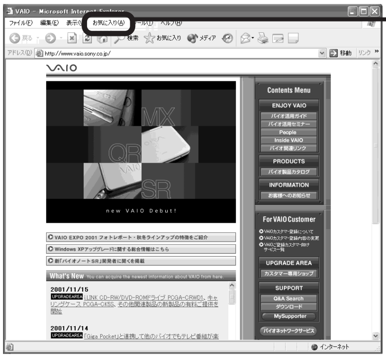
ホームページが表示されなかった場合は、別冊の「困ったときのQ&A」の「インターネット／カスタマー登録」をご覧ください。

2 「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見る

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見ることができます。ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページを見てみましょう。

---

1 **メニューバーの[お気に入り]をクリックする。**



ここをクリックする。

メニューが表示されます。

---

2 **[バイオを楽しむためのサイト]にポインタを合わせ、[VAIOホームページ]、[SUPPORT(サービス・サポート情報)]の順にクリックする。**

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

3 ホームページの URL（ユーアールエル）を入力してホームページを見る

見たいホームページのURLをすでにご存知の場合は、アドレスバーにそのURLを入力します。

ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（URL：http://vcl.vaio.sony.co.jp/）を見てみます。

URL とは

インターネット上で使われるホームページにはそれぞれ特定の住所があります。この住所のことを「URL」と言います。アドレスバーにURLを入力することでホームページが見られます。

1 アドレスバーに「http://vcl.vaio.sony.co.jp/」と入力する。

ここにURLを入力する。

「~」（チルダ）を入力するには

インターネットのホームページのアドレスなどによく使われる半角の「~」（チルダ）を入力するには、「直接入力」または「半角英数」を選び、Shift（シフト）キーを押しながら ~へ キーを押します。

2 キーボードの Enter（エンター）キーを押す。

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

4 リンクをたどる

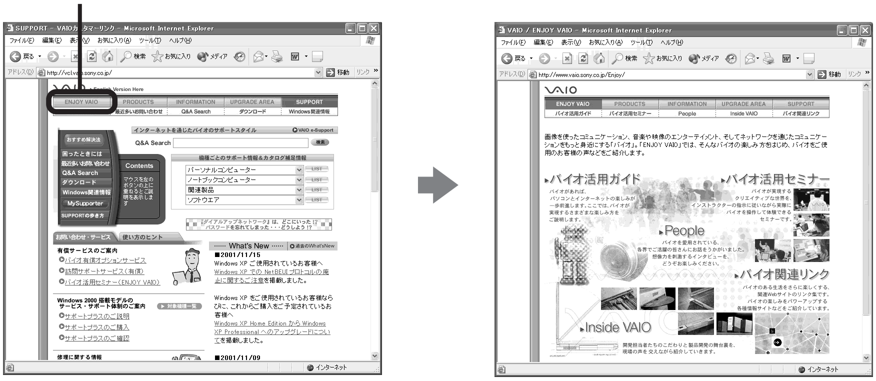
ホームページから他のホームページにジャンプしたり、データをインターネット上から本機にコピーすることができます。このように、ホームページから、他のページにジャンプしたり、データにジャンプすることを「リンクする」と言います。

ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページから、ENJOY VAIOのホームページにジャンプしてみましょう。

マウスを使って（ポインタ）を[ENJOY VAIO]に移動して、に変わったらクリックする。

ENJOY VAIOのホームページが表示されます。

ここをクリックする。



ちょっと一言

ホームページの中で、（ポインタ）がに変わる文字や画像は、リンクが張られているところです。

5 目的のホームページを検索して見る

目的のホームページを「検索」メニューで検索することができます。

ここでは「VAIO」を検索してみましょう。

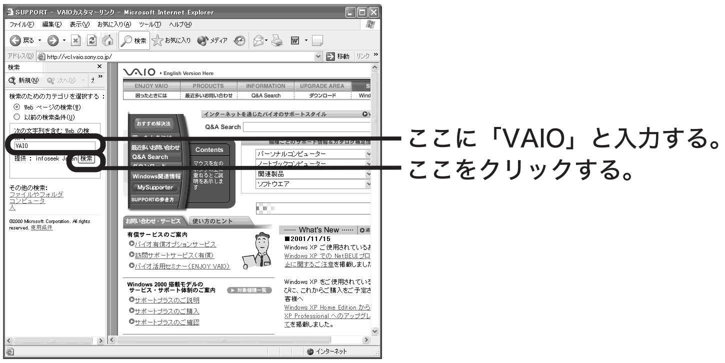
1

ツールバーの 検索 をクリックする。

ここをクリックする。

検索画面が表示されます。

2 検索画面の中央上にある ［　　　　］ の中に「VAIO」と入力し、［検索］をクリックする。



該当するホームページの検索結果が一覧表示されます。

3 検索結果から、見たいホームページをクリックする。

クリックしたホームページが表示されます。

6 よく見るホームページを登録する

よく見るホームページを「お気に入り」メニューの中に登録することができます。
ここではSony online Japanのホームページを登録してみましょう。

ちょっと一言

Sony online Japanはインターネット上のソニーエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

1 アドレスバーに「http://www.sony.co.jp/」と入力する。

2 キーボードのEnter（エンター）キーを押す。

Sony online Japanのホームページが表示されます。

3 メニューバーの[お気に入り]をクリックし、次に[お気に入りに追加]をクリックする。

「お気に入りの追加」画面が表示されます。

4 「名前」に、登録するホームページを示すお好みの名前を入力し、OKをクリックする。

ここでは「Sony」と入力します。

ここに「Sony」と入力する。

Sonyホームページが登録され、入力した名前が「お気に入り」メニューの中に表示されるようになります。

7「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了する

最後に「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了します。

1 メニューバーの[ファイル]にポインタを合わせ、クリックする。

ファイルメニューが表示されます。

2 [閉じる]にポインタを合わせ、クリックする。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが終了します。

3 デスクトップ画面右下のを右クリックして表示されるメニューから[切断]をクリックする。

インターネットへの接続が切断されます。

ご注意

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも、通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。ホームページを見ている間など、操作を行わないときや、操作が終わったあとなどは、インターネットへの接続を切断してください。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。「Microsoft Internet Explorer」のヘルプを見るときは、「Microsoft Internet Explorer」画面上部の[ヘルプ]をクリックしてください。

電子メールをやりとりする

インターネットを使って、電子メールをやりとりできます。電子メールをやりとりするには、電子メールソフトウェアが必要です。

ここでは、付属の「Outlook Express」ソフトウェアを使って自分の電子メールアドレスに電子メールを送ったり、受け取ったりしてみます。

ご注意

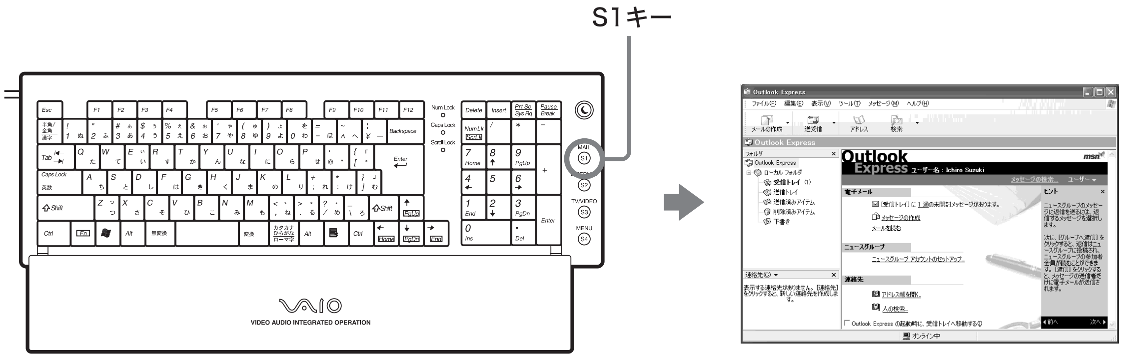
電子メールをやりとりする手順は、インターネットへの接続やソフトウェアの設定によって変わることがあります。

1「Outlook Express」ソフトウェアを起動する

まず「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。

キーボードのⓈ1キーを押す。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。



「(ダイヤルアップ接続名)へ接続」画面が表示されたときは キャンセル をクリックして画面を閉じてください。

2 電子メールを送信する

ためしに自分のメールアドレス宛に電子メールを送信してみましょう。

1 [メッセージの作成]をクリックする。

「メッセージの作成」画面が表示されます。

ちょっと一言

電子メールを書くときや電子メールを受け取ったあとに読むときはインターネットに接続していない状態（オフライン作業）の方が接続料金と通話料がかからなくてすみます。

オフライン作業とは

「オフライン作業」とはインターネットに接続していない状態で「Outlook Express」ソフトウェアを使って電子メールを書いたり、読んだりといった作業をすることです。

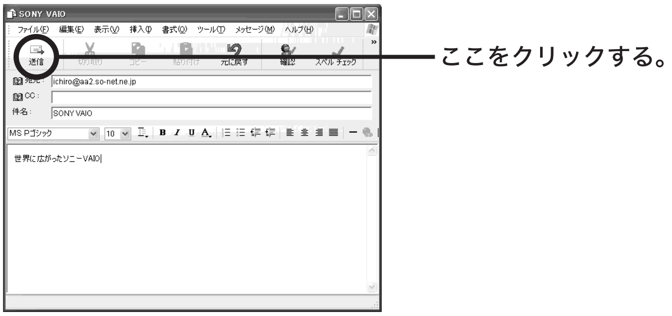
2 メッセージを作成する。

ここでは、メッセージに「世界に広がったソニーVAIO」と入力してみます。

タイトル（件名）は「SONY VAIO」にしましょう。

文字の入力のしかたについて詳しくは、「文字の入力」（92ページ）をご覧ください。

3 ツールバーの[送信]をクリックする。



「(ダイヤルアップ接続名)に接続中」画面が表示されたら、[接続]をクリックすると、作成した電子メールが送り先に送られます。

ご注意

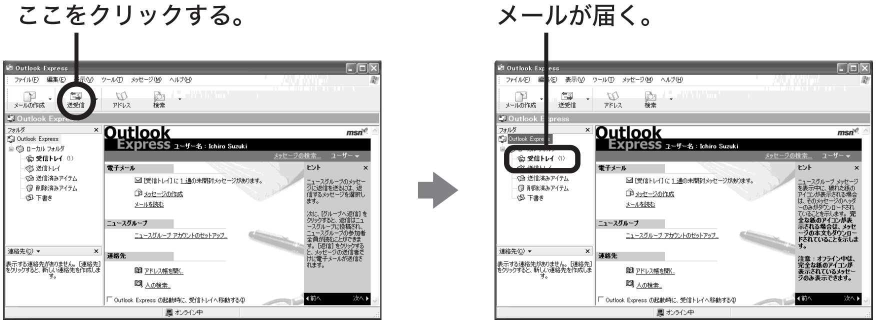
オフライン(インターネットに接続していない状態)で[送信]をクリックした場合は、電子メールは送信トレイに保管されます。「Outlook Express」ソフトウェアのツールバーの[送受信]をクリックすると、電子メールが送り先へ送られます。

3 電子メールを受信する

手順 2 で送った自分のメールアドレス宛の電子メールを受信してみましょう。

インターネットに接続した状態で、ツールバーの[送受信]をクリックする。

手順 2 で送った電子メールが届きます。



ご注意

オフライン(インターネットに接続していない状態)のときは、「オフラインで作業しています。オンラインに切り替えますか?」というメッセージが表示されます。この場合は、

をクリックしてください。

ちょっと一言

- 作成した電子メールが送信トレイにある場合は、同時に送り先に送られます。インターネットに接続していない場合は、「接続」画面が表示され、接続を促します。インターネットに接続したあとに電子メールが送受信されます。
- 電子メールの送受信のあと、ホームページを見たりしないときは、インターネットの接続を切断しましょう(138ページ)。

4 受け取った電子メールを見る

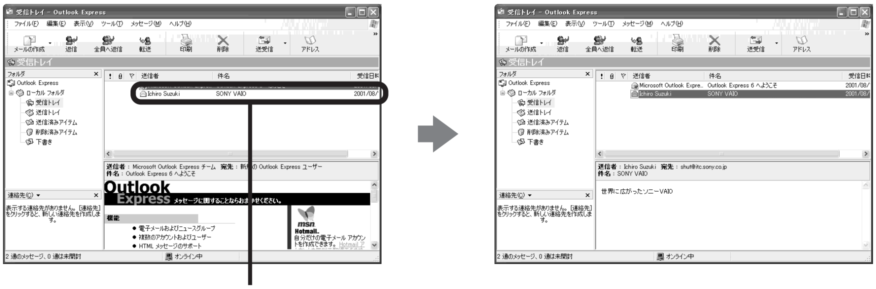
手順 3 で届いた電子メールを見てみます。

1 ［受信トレイ］をクリックする。

ここをクリックする。

受信トレイの中身が表示されます。

2 ［SONY VAIO］をクリックする。



ここをクリックする。

受け取った電子メールのメッセージが表示されます。

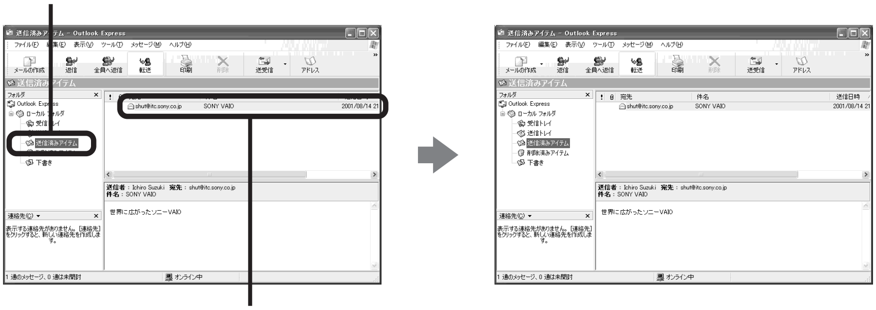
5 送った電子メールを見る

手順 2 で送った電子メールを見てみます。

［送信済みアイテム］をクリックし、［SONY VAIO］をクリックする。

送った電子メールのメッセージが表示されます。

ここをクリックする。



ここをクリックする。

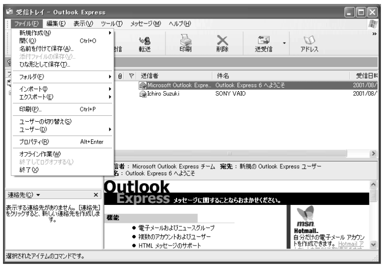
電子メールをやりとりできなかった場合は、別冊の「困ったときのQ&A」の「インターネット／カスタマー登録」をご覧ください。

6「Outlook Express」ソフトウェアを終了する

最後に「Outlook Express」ソフトウェアを終了します。

---

1 [ファイル]にポインタを合わせ、クリックする。



ファイルメニューが表示されます。

---

2 [終了]にポインタを合わせ、クリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

---

3 デスクトップ画面右下のを右クリックして表示されるメニューから[切断]をクリックする。

インターネットへの接続が切断されます。

接続／拡張するときは

この章では、本機と周辺機器の接続と本機の拡張について説明します。

i.LINK対応機器をつなぐ

i.LINK対応機器の接続のしかた

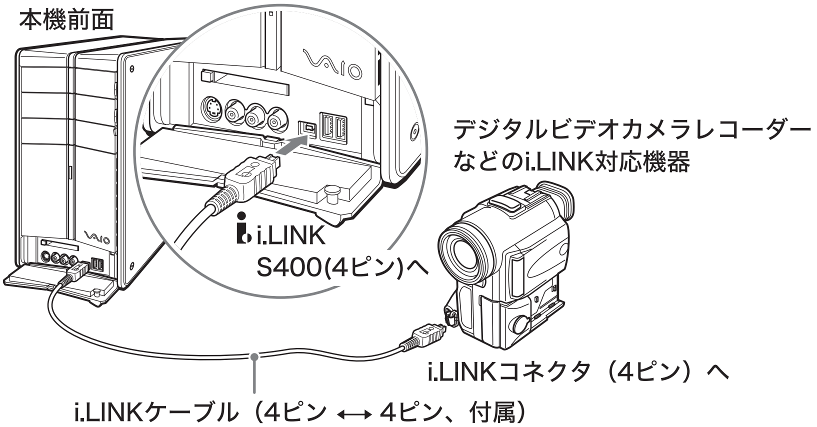
デジタルビデオカメラレコーダーなどのi.LINK対応機器を本機につないで、動画や静止画を取り込んだり、本機から動画を送出してテープに録画できます。

ご注意

- i.LINK コネクタを持つソニーパーソナルコンピューターまたはソニーノートブックコンピューターとデータのやりとりをする場合は、「i.LINK 接続でデータをやりとりする」（156 ページ）をご覧ください。
- i.LINK を使った接続や操作には、機器によって異なるものがあります。接続に必要なケーブルや、操作できる機器について詳しくは、「必要な i.LINK ケーブル」（154 ページ）および「本機で操作できる i.LINK 対応機器」（155 ページ）をご覧ください。
- デジタルビデオカメラレコーダーを接続するときは 1 度電源を切ってから接続し、電源を入れ直してください。本機の電源は切る必要はありません。
- 一度に接続できるデジタルビデオカメラレコーダーは 1 台のみです。同時に 2 台以上のデジタルビデオカメラレコーダーを接続することはできません。
- 本機の i.LINK コネクタは最大 400Mbps のデータ転送に対応していますが、実際の転送速度は接続した i.LINK 対応機器の転送速度により変わります。
- 接続のしかたや画像の取り込みかたは、接続する i.LINK 対応機器や使用するソフトウェアによって異なります。詳しくは、i.LINK 対応機器の取扱説明書や、本機に付属の「DVgate」などの各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- 「DVgate」ソフトウェアと「Giga Pocket」ソフトウェアの「アナログ DV コンバータ」を併用して、アナログのビデオカメラレコーダーやビデオデッキから動画や静止画を取り込むときは、一緒に i.LINK 対応機器をつないだままにせず、取りはずしてください。（PCV-RZ70P/RZ60 のみ）

前面パネルのコネクタ（4ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（4ピン←→4ピン、付属）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

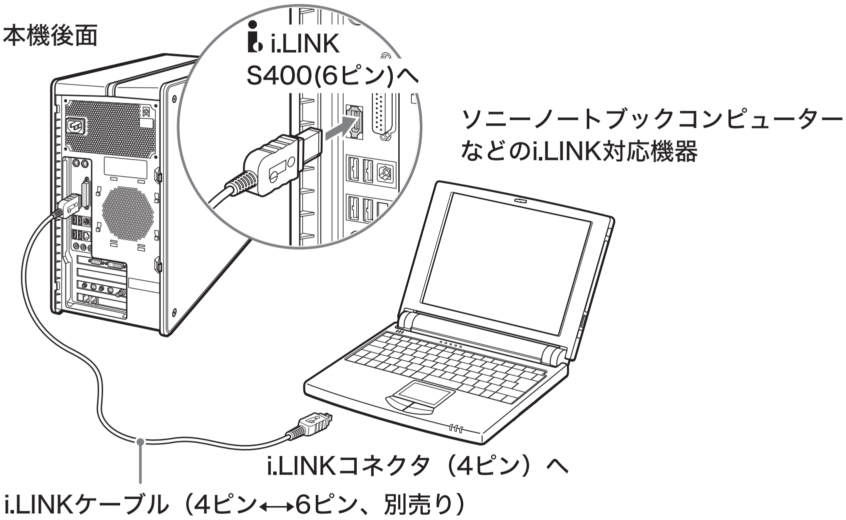


ご注意

接続の際は、付属のi.LINKケーブルをお使いください。

後面パネルのコネクタ（6ピン）を使うとき

i.LINKケーブル（4ピン←→6ピン、別売り）を使って、本機とi.LINK対応機器をつなぎます。i.LINK対応機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。



必要なi.LINKケーブル

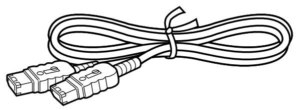
ソニーのi.LINKケーブルをお使いください

i.LINK対応機器の接続には、本機に付属のi.LINKケーブル、本機で操作できるi.LINK対応機器に付属のi.LINKケーブルまたは、下記のソニー製i.LINKケーブル（別売り）をお使いください。

本機には4ピン↔4ピンのi.LINKケーブル（1.5m）が付属しています。長い4ピン↔4ピンのi.LINKケーブルが必要な場合は、別売りのVMC-IL4435A（3.5m）またはVMC-IL4435B（3.5m）をお使いください。

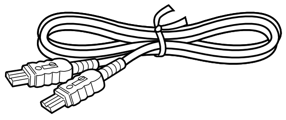
6ピン↔6ピン

- VMC-IL6615A（1.5m）
- VMC-IL6615B（1.5m）
- VMC-IL6635A（3.5m）
- VMC-IL6635B（3.5m）



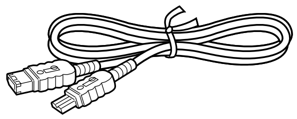
4ピン↔4ピン

- VMC-IL4408A（80cm）
- VMC-IL4408B（80cm）
- VMC-IL4415A（1.5m）
- VMC-IL4415B（1.5m）
- VMC-IL4435A（3.5m）
- VMC-IL4435B（3.5m）



4ピン↔6ピン

- VMC-IL4615A（1.5m）
- VMC-IL4615B（1.5m）
- VMC-IL4635A（3.5m）
- VMC-IL4635B（3.5m）



ご注意

DVケーブルはご使用になれません。

本機で操作できるi.LINK対応機器

本機では、下記のi.LINK対応機器に接続して、データをやりとりしたり、画像をデジタルのまま取り込むことができます。（2002年9月10日現在）

- i.LINK コネクタを持つソニーパーソナルコンピューター
- i.LINK コネクタを持つソニーノートブックコンピューター*

  * 別売りのパワーアップステーションやポートリプリケーターを取り付ける必要があるモデルがあります。
  取り付けかたについて詳しくは、お使いのノートブックコンピュータの取扱説明書をご覧ください。

- ソニーが 2002 年 8 月末日までに日本国内で発売した、DV 端子付きの家庭用 DV 機器（Digital 8 デジタルビデオカメラレコーダーを含む。ツーリストモデルは除く）
  DV 機器を接続するために必要なソニー製ソフトウェアは、「DVgate」ソフトウェア、「MovieShaker」ソフトウェア、「Network Smart Capture」ソフトウェアとなります。
  ただし、ソフトウェアによっては一部の DV 機器が動作対象外になる場合があります。
  詳しくは、各ソフトウェアの取扱説明書、電子マニュアル、ヘルプ、Readme ファイルなどをご覧ください。
- ソニーが 2002 年 8 月末日までに日本国内で発売した、MPEG 端子付きの家庭用 MICROMV 機器（ツーリストモデルは除く）
  MICROMV 機器を接続するために必要なソニー製ソフトウェアは、「MovieShaker」ソフトウェアとなります。
- その他、ソニー製のバイオブランドの i.LINK 対応機器の最新情報は、VAIO カスタマーリンクホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

ご注意

- i.LINKコネクタを持つソニーパーソナルコンピューターまたはソニーノートブックコンピューターとデータのやりとりをする場合は、「i.LINK接続でデータをやりとりする」（156ページ）をご覧ください。
- 本機はDTLAコピー・プロテクション技術に対応していないため、デジタルCSチューナーやD-VHSビデオデッキなどのDTLAコピー・プロテクション技術に対応した機器に接続しても操作することができません。
- i.LINKは、すべての機器間での接続動作が保証されているものではありません。
  i.LINK搭載各機器の動作条件と接続の可否情報をご確認ください。動作の可否は、各機器のソフトウェア（OSを含む）、ハードウェアによって規定されます。
- i.LINKで接続を行うコンピュータ周辺機器（ハードディスクドライブやCD-RWドライブなど）は、OSによっては対応していない場合がありますので、あらかじめ動作環境をご確認ください。

i.LINK接続でデータをやりとりする

本機と「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェアに対応したバイオやWindows XPまたはWindows Meを搭載したバイオを別売りのi.LINKケーブルで接続すると、お互いのファイルをコピーしたり、削除、編集などを行うことができます。

また、接続先のバイオにつないだプリンタを使って印刷することもできます。接続について詳しくは、「i.LINK対応機器の接続のしかた」（152ページ）をご覧ください。

Windows XPまたはWindows Meを搭載したバイオと本機をつなぐ場合

i.LINKケーブルで接続するだけでデータのやりとりができます。

「Smart Connect」ソフトウェアを搭載したバイオと本機をつなぐ場合

接続先の「Smart Connect」ソフトウェアのバージョンをご確認ください。

- **「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェア以降の場合**

  「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェアの通信モードを「STD モード」にする必要があります。設定方法は、「Smart Connect Ver.3.0」ソフトウェアのヘルプの「通信モードを切り替える」をご覧ください。

- **「Smart Connect Ver.2.2」ソフトウェア以前の場合**

  「Smart Connect Ver.3.0」無償アップグレードサービスにより、「Smart Connect」ソフトウェアをアップグレードすることでデータのやりとりができます。詳しくは、VAIO ホームページ（http://www.vaio.sony.co.jp/Download/Smart/index.html）をご覧ください。

  ご注意

  - アップグレード対象外の機種もあります。
  - 本機とアップグレード対象外の機種とではデータのやりとりはできません。

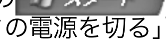
ご注意

- i.LINKケーブルを接続してから実際にデータをやりとりできるようになるまでにしばらく時間がかかる場合があります。
- i.LINKで接続したバイオでは、次のような条件のときにデータのやりとりができなくなることがあります。
  - i.LINKケーブルを接続したまま、どちらかのコンピュータを再起動したとき
  - データをやりとりできる状態で本機にPCカードを挿入したとき

  データのやりとりができなくならないように、再起動するときは、i.LINKケーブルを抜く、または、PCカードを挿入してから再起動を行ってください。
  データのやりとりができなくなったときは、以下の手順に従って操作してください。
  データのやりとりができるようになります。

1 **本機およびi.LINK対応機器からi.LINKケーブルを取りはずす。**

2 **本機およびi.LINK対応機器の電源を切る。**

本機の電源を切るときは、デスクトップ画面左下のをクリックし、[終了オプション]をクリックして表示される「コンピュータの電源を切る」画面で「電源を切る」を選んで電源を切ってください。
本機を再起動しても、i.LINK対応機器は本機に正しく認識されません。

3 **本機およびi.LINK対応機器の電源コードをいったん抜いて、接続し直す。**

4 **本機およびi.LINK対応機器の電源を入れる。**

5 **i.LINKケーブルを使って本機とi.LINK対応機器を接続する。**

- i.LINK接続でデータのやりとりをするには、Microsoftネットワーク用ファイルとプリンタ共有（Windows XP）、またはネットワーク共有サービス（Windows 98、Me）のインストールおよび設定が必要です。詳しくは、「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。
- i.LINKケーブルを再度接続したあとは、接続先のバイオを認識するのに数分かかることがあります。

接続先のコンピュータを探すには

接続先のコンピュータが、「マイネットワーク」画面にすぐには表示されないことがあります。

そのときは、デスクトップ画面左下の

をクリックし、表示されるメニューから[マイコンピュータ]をクリックしたあと、[マイネットワーク]を右クリックして[コンピュータの検索]を選択し、接続先のコンピュータ名を入力して検索してください。

接続先から自分のコンピュータを利用できるようにするには

本機のフォルダや接続しているプリンタを接続先のコンピュータから利用できるようにするには、ネットワーク共有サービスのインストールおよび設定が必要です。

デスクトップ画面左下の

をクリックし、表示されるメニューから[マイコンピュータ]をクリックしたあと、[マイネットワーク]をクリックします。「マイネットワーク」画面左上の「ネットワークのタスク」から[ホーム/小規模オフィスのネットワークをセットアップする]をクリックし、[ネットワークセットアップウィザードの開始]で設定することもできます。詳しくは、「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。

「ヘルプとサポートセンター」を見るには、デスクトップ画面左下の

をクリックし、[ヘルプとサポート]をクリックします。

AV機器をつなぐ

目的別接続例

本機にはいろいろなAV機器をつなぐことができます。

ここでは用途別に接続例を紹介します。

こんなことがしたい	本機とAV機器をつなぎます。
• ビデオデッキの動画を本機につないだディスプレイで見たい。 • ビデオデッキの動画を本機のハードディスクに録画したい。	本機とビデオデッキをつなぎます。 接続のしかたについては下記の「ビデオ機器をつなぐ」をご覧ください。
• ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機につないだディスプレイで見たい。 • ビデオカメラレコーダーで撮影した動画を本機のハードディスクに録画したい。	本機とビデオカメラレコーダーをつなぎます。 接続のしかたについては下記の「ビデオ機器をつなぐ」をご覧ください。
ディスプレイで見ている動画をテレビでも見たい。	本機とテレビをつなぎます。接続のしかたについては「テレビにつなぐ」(161ページ)をご覧ください。

ビデオ機器をつなぐ

ビデオデッキやビデオカメラレコーダーを本機につないで、ディスプレイでビデオ機器の動画を見たり、本機のハードディスクドライブに動画を録画することができます。また、本機で再生した動画をビデオデッキで録画することもできます。

Sビデオ接続ケーブル(4ピン⟷4ピン、別売り)とオーディオ接続ケーブル(付属)を使って、本機とビデオ機器またはビデオカメラレコーダーをつなぎます。

本機には前面および後面パネルに映像/音声入力コネクタとS映像入力コネクタがあり、どちらの入力コネクタを使うこともできます。

ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機とビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 前面パネルの音声入力コネクタを使うときは、別売りのオーディオ接続ケーブルが必要です。

本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使うときは

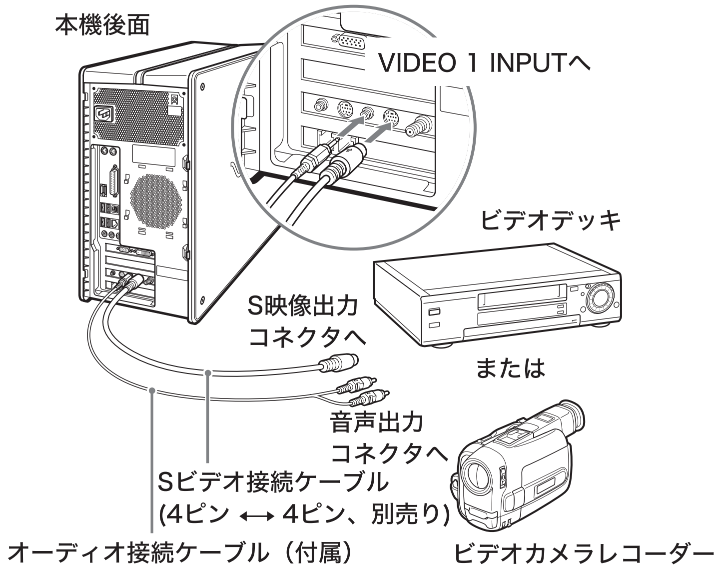
アンテナブースターや分配器を使って分配する必要があります。詳しくは、「接続する/準備する」(45ページ)のテレビアンテナ接続の手順をご覧ください。

ビデオ機器の映像を見たり録画するには

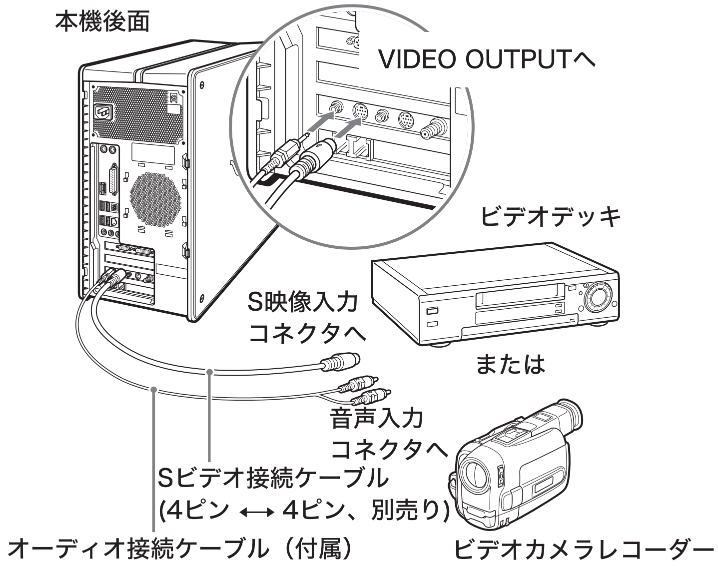
付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使います。ビデオ機器の動画を「Giga Pocket」ソフトウェアで扱う方法については、「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。

後面パネルのコネクタを使うとき

- **ビデオデッキやビデオカメラレコーダーの動画を見たり取り込むとき**



- **本機で録画した動画をビデオデッキやビデオカメラレコーダーに録画するとき**

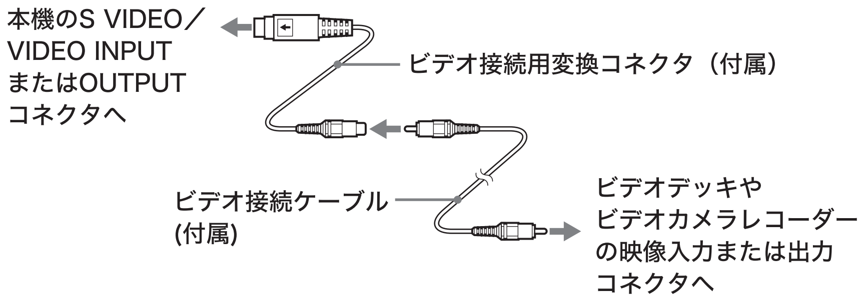


ご注意

本機のVIDEO 1 INPUTコネクタとVIDEO OUTPUTコネクタの両方を同一のビデオデッキまたはビデオカメラレコーダーの映像出力コネクタおよび映像入力コネクタにそれぞれつないだとき、ビデオデッキまたはビデオカメラレコーダー側で映像入力を切り換えたり、本機側で「Giga Pocket」ソフトウェアを使って映像入力を切り換えると、雑音が出たり、映像が乱れることがあります。

💡 S映像入力／出力コネクタのないビデオデッキやビデオカメラレコーダーをつなぐときは

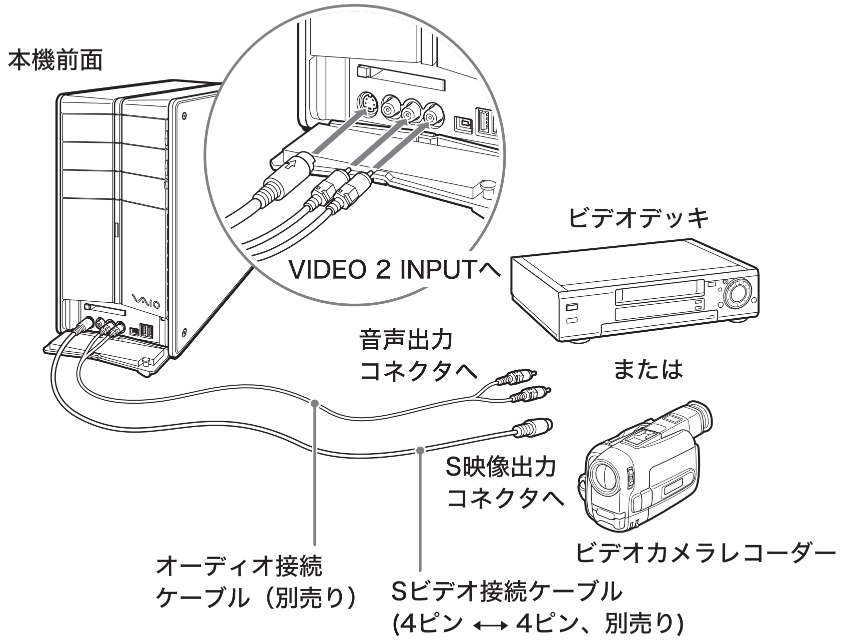
Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



💡 ちょっと一言

別売りのソニー製のSビデオ接続ケーブルにはYC-15Vなどがあります。

前面パネルのコネクタを使うとき



💡 ちょっと一言

- S映像入力コネクタにSビデオ接続ケーブルをつながないときは、ビデオ／オーディオ接続ケーブル（別売り）をつなぐか、ビデオ接続ケーブル（別売り）を映像入力コネクタへ、オーディオ接続ケーブル（別売り）を音声入力コネクタへつないでください。
- 別売りのソニー製のケーブルには以下のようなものがあります。

ビデオ／オーディオ接続ケーブル	：VMC-815Sなど
ビデオ接続ケーブル	：VMC-15など
オーディオ接続ケーブル（2ピン←→2ピン）	：RK-C315など
Sビデオ接続ケーブル	：YC-15Vなど

なお、ビデオ接続ケーブルは本機に1本付属しています。

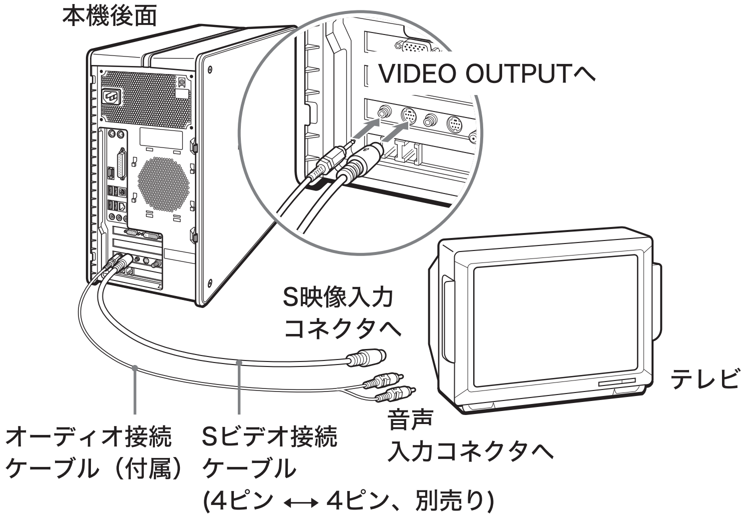
テレビにつなぐ

「Giga Pocket」ソフトウェアで再生する動画や「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアで再生するDVDビデオをテレビでも見ることができます。

Sビデオ接続ケーブル（4ピン↔4ピン、別売り）とオーディオ接続ケーブル（付属）を使って、本機とテレビをつなぎます。接続してから、テレビの入力切り換えを「ビデオ」に合わせます。

ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- 本機では、ディスプレイとテレビの両方を接続していてもDVDビデオの映像は両方同時に表示されないことがあります。



ビデオデッキをつなぐときは

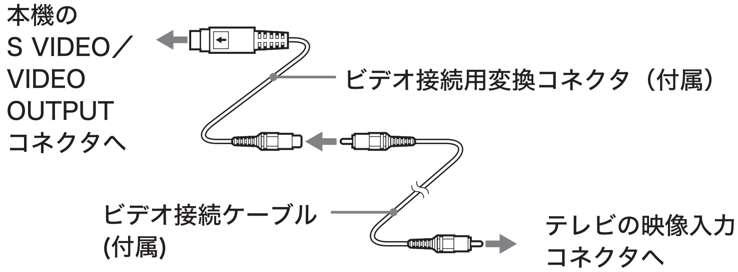
本機のVIDEO OUTPUTコネクタとビデオデッキの映像／音声入力コネクタをつなぎ、ビデオデッキの映像／音声出力コネクタとテレビの映像／音声入力コネクタをつなぎます。

本機とビデオデッキやテレビで同時に1つのアンテナコネクタを使う場合は

アンテナブースターや分配器を使って分配する必要があります。詳しくは、「接続する／準備する」（45ページ）のテレビアンテナ接続の手順をご覧ください。

S映像入力コネクタのないテレビをつなぐときは

Sビデオ接続ケーブルのかわりにビデオ接続用変換コネクタ（付属）とビデオ接続ケーブル（付属）をつないで使うことができます。



ちょっと一言

- 別売りのソニー製のSビデオ接続ケーブルにはYC-15Vなどがあります。
- DVDビデオの映像が画面に表示されないときは、別冊の「困ったときのQ&A」の「CD／DVD」の「DVDビデオの映像がテレビ画面に表示されない」をご覧ください。

接続／拡張するときは

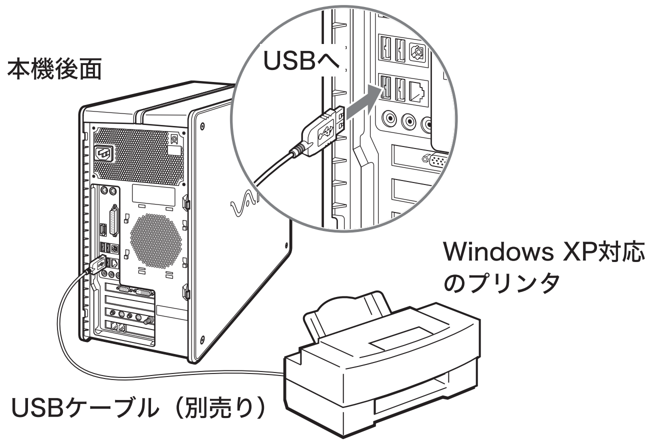
プリンタをつなぐ

Windows XPに対応しているプリンタを本機につないで、作成した書類などを印刷できます。
プリンタに付属または別売りのUSBケーブル、またはプリンタケーブルを使って本機につなぎます。

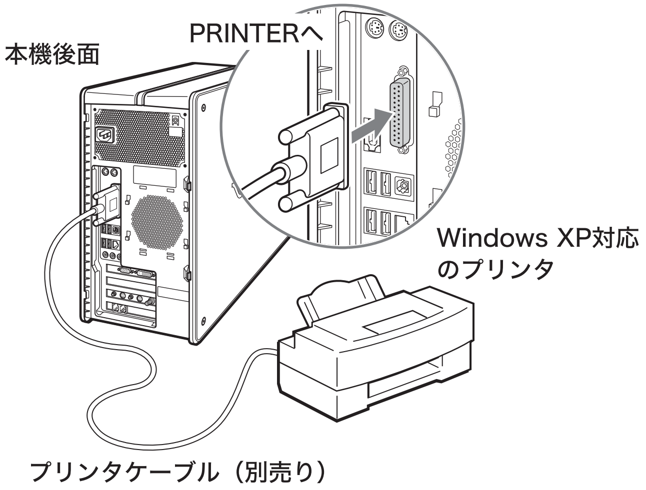
ご注意

- すべての機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから接続してください。
- 接続後は、周辺機器の電源を入れてから本機の電源を入れてください。
- Windows XPに対応していないプリンタを本機につないでも、正常に動作しません。

USBケーブルを使うとき



プリンタケーブルを使うとき



プリンタを使用するには

プリンタを使用するには、プリンタに付属のドライバを本機にインストールする必要があります。
詳しくはプリンタの取扱説明書および「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。

「ヘルプとサポートセンター」を見るにはデスクトップ画面左下の

をクリックし、[ヘルプとサポート]をクリックします。

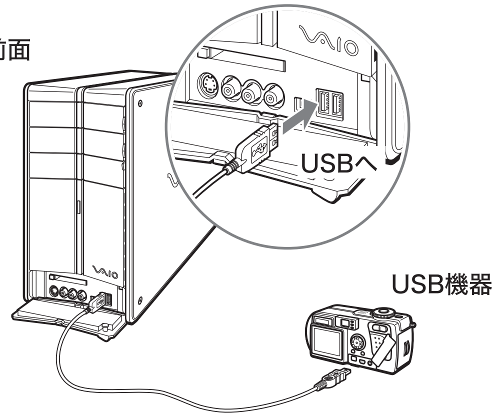
ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすためにに必要なソフトウェアです。プリンタのドライバを本機にインストールすることにより、本機からプリンタの動作をコントロールできるようになります。

USB機器をつなぐ

本機の前面と後面にあるUSBコネクタを使って、Windows XPに対応しているUSB機器を接続することができます。接続する機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

前面パネルのコネクタを使うとき

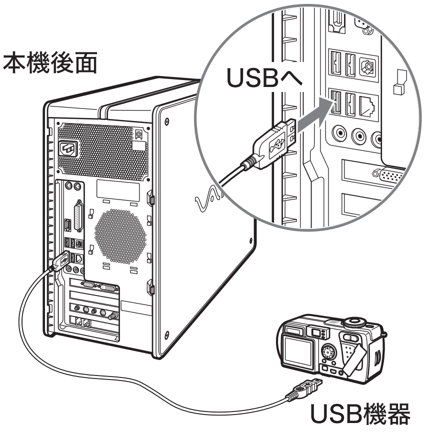


ちょっと一言

本機前面のUSBコネクタは、USB2.0規格（ハイスピード）に対応しています。

USB2.0規格は、USB（Universal Serial Bus）の新しい規格で、USB1.1規格より高速なデータ転送が可能です。USB2.0規格に対応しているコネクタには、USB1.1規格に対応した機器もつなげます。

後面パネルのコネクタを使うとき



ちょっと一言

PCV-RZ70P/RZ60をお使いの場合は、上2か所がUSB1.1規格、下2か所がUSB2.0規格（ハイスピード）、PCV-RZ50をお使いの場合は、4か所すべてがUSB2.0規格（ハイスピード）に対応しています。

USB機器を取りはずすには

ご注意

USB機器を取りはずすときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。本機の電源が切れているときは、手順1〜4は不要です。本機がスタンバイモード、または休止状態のときは、本機を通常の動作モードに戻してから手順1〜5を行ってください。本機を通常の動作モードに戻すには、キーボードのスペースキー(スタンバイモード時)を押すか、本機の⏻(電源)ボタン(休止状態時)を押します。

ちょっと一言

手順1〜4が不要なUSB機器もあります。詳しくは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。

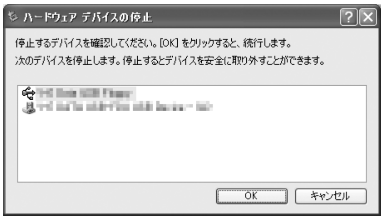
1 **デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をダブルクリックする。**

「ハードウェアの安全な取り外し」画面が表示されます。

2 **リストから取りはずしたいUSB機器をクリックし、[停止(S)]をクリックする。**

「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示されます。

3 **取りはずすUSB機器を確認し、[OK]をクリックする。**



デスクトップ画面右下に「･･･は安全に取り外すことができます。」と表示されます。

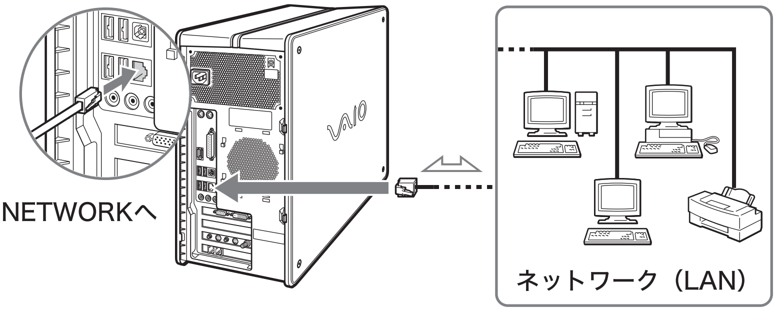
4 **「ハードウェアの安全な取り外し」画面の[閉じる(C)]をクリックする。**

5 **USB機器を取りはずす。**

ネットワーク(LAN)につなぐ

本機後面のネットワークコネクタとネットワーク(LAN)を直接接続して、ネットワーク内の他の機器とデータをやりとりできます。

10BASE-Tと100BASE-TXタイプのネットワークに接続できます。



ちょっと一言

本機をネットワーク(LAN)に接続すると、ネットワークに接続されている他のコンピュータから、「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能を利用して、録画を予約したり、録画済みの動画を再生したりできます。「Giga Pocket」ソフトウェアのサーバー機能について詳しくは、別冊の「Giga Pocket」ソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧ください。

ADSLについて

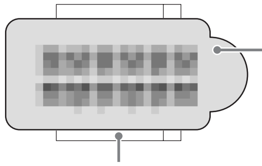
ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットへ高速に常時接続できるサービスのことです。このサービスを利用するには、ADSL接続サービスを提供している接続業者と契約し、申し込むことが必要です。

ADSL接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約するADSL接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。

ご注意

NETWORK(ネットワーク)コネクタには指定以外のネットワークや電話回線、ISDNなどを接続しないでください。

お買い上げ時にはNETWORK(ネットワーク)コネクタ上に誤って接続しないようにシールが貼られています。NETWORK(ネットワーク)コネクタを使うときは、シールをはがしてから接続してください。



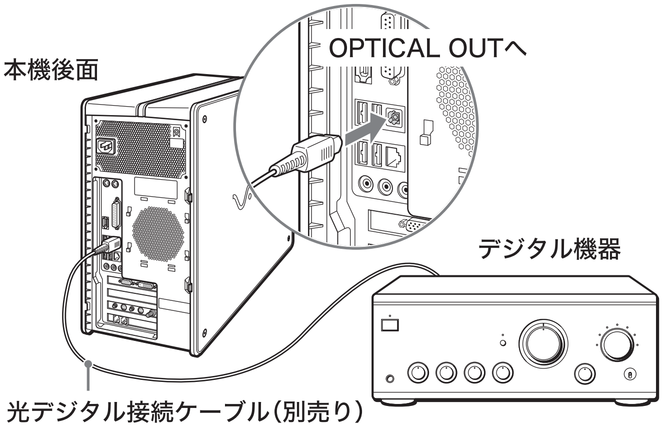
接続/拡張するときは

AVアンプなどのデジタル機器をつなぐ

本機のOPTICAL OUT（光デジタル出力）コネクタを使って、AVアンプやMD、DATなどのデジタル機器をつないで録音することができます。
接続した機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

デジタル機器と接続するには、別売りの光デジタル接続ケーブル（角型）が必要です。



- OPTICAL OUT（光デジタル出力）コネクタの出力サンプル周波数は48kHzです。
  MDデッキなどを接続して録音する場合、接続した機器がこれらのサンプリング周波数に対応していないときは録音することができません。
- 「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアを使って、DVDビデオ再生時の出力音声形式を切り換えることができます。

  「PowerDVD XP for VAIO」ソフトウェアの （設定）をクリックし、[音声出力]タブをクリックすると表示される画面で、設定を切り換えます。
  「S/PDIF出力」に設定した場合は、本機のHEADPHONES（ヘッドホン）コネクタなどから出力されるアナログ音声出力はオフになります。

PCカードを使う

本機にPCカードを装着すると、他のコンピュータとデータをやりとりしたり、さまざまな機能を拡張したりできます。

PCカードとは

PC Card規格に準拠した、着脱可能な機能拡張デバイスです。形はクレジットカードに似ていますが、やや大きくて厚みがあります。
主なPCカードには以下のような種類があります。

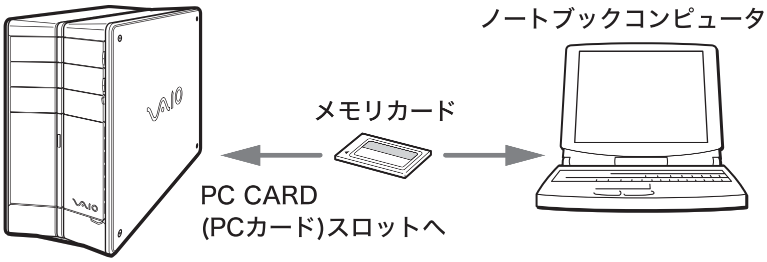
メモリカード

データをフラッシュメモリに保存します。PCカードに対応したデジタルスチルカメラで撮影した画像であれば、PCカードを本機に取り付けてそのまま取り込めます。

また、本機やPCカードに対応した機器で作成したデータをメモリカードに保存して、データをやりとりできます。

フラッシュメモリとは

電気的にデータを読み書きする、記憶メディアのひとつです。普通、書き込み可能なメモリは、電源を切ると内容が消えてしまいますが、フラッシュメモリは電源を切っても内容が消えないという特長をもっています。



SCSIカード

MOドライブやスキャナなどのSCSIデバイスを接続できます。

MO とは

「エム・オー」と読みます。レーザー光線と磁気を利用してデータを読み書きする外部記憶メディアのことです。フロッピーディスクよりも容量が多く、種類により、最大2.3Gバイトまでデータを記録することができます。

SCSI とは

「スカジー」と読みます。コンピュータと、MOドライブやプリンタなどの周辺機器を接続するための規格のことです。周辺機器などをSCSIで接続すると、本機を含めて最大7台まで数珠つなぎに接続することができます。

ネットワークカード

イーサネットなどのネットワークに接続できます。

イーサネットとは

コンピュータ間のデータ通信方式のことで、職場などで複数のコンピュータをネットワーク（LAN）でつないで、データをやりとりするときに使われます。

無線LANカード

無線を使ってネットワークに接続できます。

本機には、PC Cardタイプ I とタイプ II に準拠したPCカードを挿入できるPC CARD（PCカード）スロットがあります。また、本機のPC CARD（PCカード）スロットは16ビットCardおよびCard Busにも対応しています。
（ZV（Zoomed Video）Portには対応していません。）

ご注意

PCカードによっては本機で使用できないものや、機能が制限されるものがあります。

- PCカードによっては、PC CARD（PCカード）スロットに挿入したまま本機の電源を入れると、正しく動作しないことがあります。この場合は、PCカードの使用を中止し、いったん取り出してから、もう1度入れ直してください。PCカードの取り出しかたについて詳しくは、「PCカードを取り出すには」（169ページ）をご覧ください。
- PCカードによっては、ドライバを最新のものにすることによって不具合が改善される場合があります。PCカードの製造メーカーから最新のドライバを入手してお使いください。
- お使いのPCカードによっては、本機にプリインストールされているOSで動作を保証していなかったり、正しく動作しないことがあります。また、起動しているソフトウェアがPCカードを使用中のときは、本機のPC CARD（PCカード）スロットからPCカードを取り出すことはできません。この場合は、該当するソフトウェアを終了してからPCカードを取り出すか、本機の電源を切ってからPCカードを取り出してください。PCカードの接続情報について詳しくは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

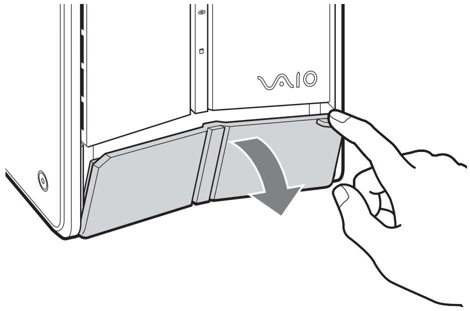
ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータに知らせ、周辺機器を、正しく動かすために必要なソフトです。

PCカードを取り付ける

PCカードを取り付けるときに本機の電源を切る必要はありません。

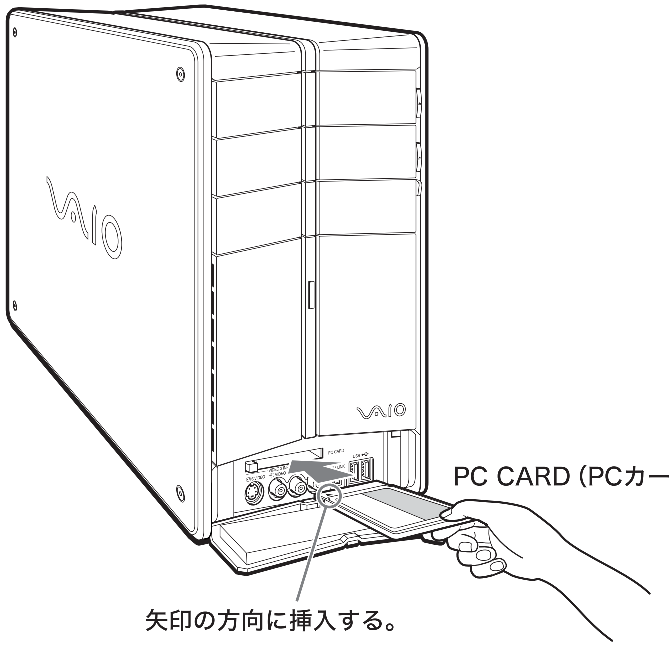
1 **本機の前面の下にあるふたを手前に開ける。**



2 カードをPC CARD（PCカード）スロットに挿入する。

スロットの奥にあるコネクタに、カードがしっかりと固定されるまで押し込みます。

カードがうまく入らない場合は、無理にカードを押し込まずに、カードの挿入方向を確認してからもう1度挿入し直してください。



取り付けたあとの使いかたについては、PCカードの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- お使いのPCカードのメーカーが提供する最新のドライバをお使いください。
- 「デバイスマネージャ」画面のPCカードに「！」がついている場合は、ドライバを削除し、再度インストールする必要があります。「デバイスマネージャ」画面を表示させるには、以下の手順に従って操作してください。

1 **デスクトップ画面左下の スタート をクリックし、[コントロールパネル]をクリックする。**
「コントロールパネル」画面が表示されます。

2 **[パフォーマンスとメンテナンス]をクリックし、[システム]をクリックする。**
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

3 **[ハードウェア]タブをクリックし、 デバイス マネージャ(D) をクリックする。**
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

PCカードを取り出すには

ご注意

カードを取り出すときは、必ず以下の手順に従ってください。誤った取り出しかたをすると、システムが正常に動作しない可能性があります。
本機の電源が切れているときは、PC CARD（PCカード）スロットのイジェクトボタンを押すだけでPCカードを取り出せます（手順1～4は不要です）。
本機がスタンバイモードまたは休止状態のときは、本機を通常の動作モードに戻してから手順1～5を行ってください。本機を通常の動作モードに戻すには、キーボードのスペースキーを押す（スタンバイモード時）か、本機の⏻（電源）ボタンを押します。

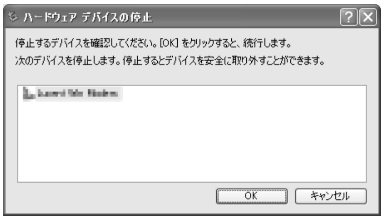
1 デスクトップ画面右下のタスクトレイにある をダブルクリックする。

「ハードウェアの安全な取り外し」画面が表示されます。

2 リストから取り出したいPCカードをクリックし、[停止(S)]をクリックする。

「ハードウェアデバイスの停止」画面が表示されます。

3 取りはずすPCカードを確認し、[OK]をクリックする。

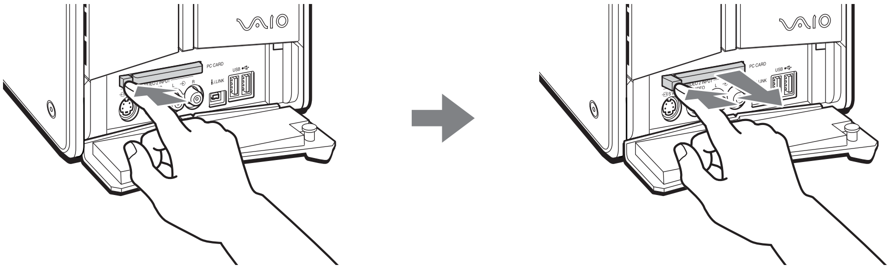


デスクトップ画面右下に「…は安全に取り外すことができます。」と表示されます。

4 「ハードウェアの安全な取り外し」画面の[閉じる(C)]をクリックする。

5 PC CARD(PCカード)スロットのイジェクトボタンを押す。

1度イジェクトボタンを押してボタンを手前に引き出し、出たボタンをもう1度押すとPCカードを取り出すことができます。



カードがコネクタからはずれます。カードの端を持って、スロットから引き抜いてください。

拡張ボードを増設する

本機では「拡張ボード」と呼ばれる別売り品を装着することで、さまざまな機能を拡張し、よりご自分に合った作業環境を構築することができます。

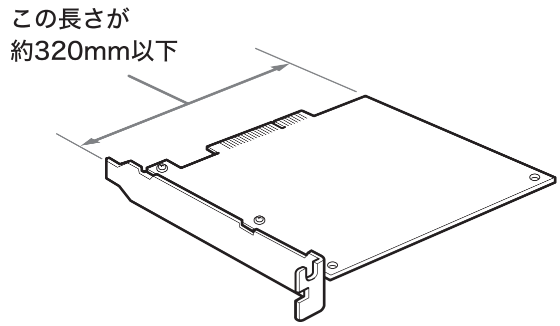
拡張ボードの種類

本機では「PCI」という規格に対応した拡張ボードを取り付けることができます。拡張ボードをお買い求めの際は、Windows XPとPCI規格に対応していることをご確認ください。

本機には空きスロット（拡張ボードを増設できる場所）が1つあり、PCI拡張ボードを1枚取り付けることができます。

空きスロットに取り付けられる拡張ボードの大きさについて

本機に取り付けられる拡張ボードの長さは、約320mmまでです。



増設できる拡張ボードについて

VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）では、増設できる拡張ボードの情報を掲載しています。

リソースについて

拡張ボードは一般的にそれぞれ専用の割り込み番号（IRQ）、メモリ、I/Oポートなどの「リソース」（資源）を使用します。

PCI規格の拡張ボードではこれらのリソースが自動的に設定されます。

IRQとは

「アイアールキュー」と読みます。ハードウェアからの割り込み信号のことです。キーボードやマウスなどの周辺機器から入力があると、それを受け付けるかどうか判断します。受け付けるときは、その優先度に応じて割り込みした処理を行います。

メモリとは

コンピュータの中にあって、データやプログラムを保存しておくための場所、あるいは装置のことです。メモリには主記憶装置と、補助記憶装置があります。通常は主記憶装置のRAMを示します。

I/O ポートとは

「アイオーポート」と読みます。コンピュータにデータを入れたり（インプット）、出したり（アウトプット）するための接続部、または、コネクタ部の総称です。入力のための機器としてはキーボードやマウス、出力のための機器としてはディスプレイなどがあります。なお、フロッピーディスクドライブやハードディスクドライブは入出力のどちらも行える機器です。

リソースとは

もともとは、「資源」という意味です。コンピュータを使って何か作業を行う場合に、そのコンピュータが稼働するために必要なメモリ、入力装置、出力装置、制御装置などを指します。

リソースを確認するには

「システムのプロパティ」画面で現在使用中のリソースを確認することができます。以下の手順に従って確認します。

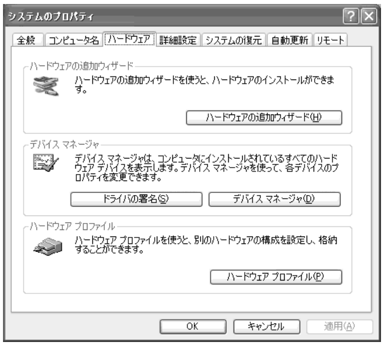
1 **デスクトップ画面左下の をクリックし、[マイコンピュータ]を右クリックする。**

ショートカットメニューが表示されます。

2 **[プロパティ]をクリックする。**

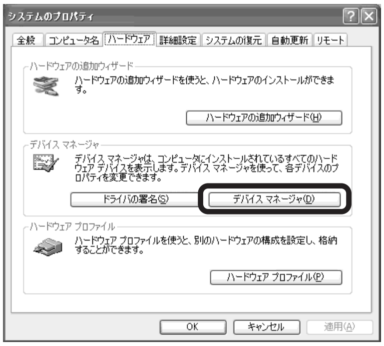
「システムのプロパティ」画面が表示されます。

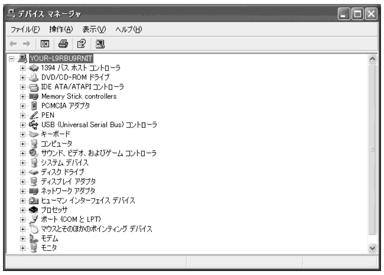
3 ［ハードウェア］タブをクリックする。



4 デバイス マネージャ(D)をクリックする。

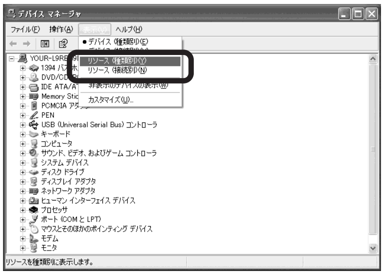
「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

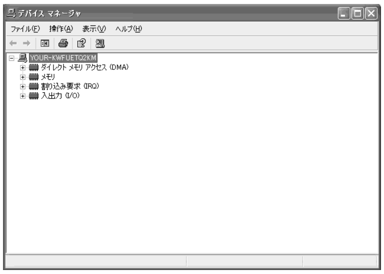




5 画面左上の［表示］をクリックして、表示されるメニューから［リソース（種類別）］または［リソース（接続別）］をクリックする。

現在使用中のリソースが種類別または接続別に表示されます。





プラグアンドプレイについて

「プラグアンドプレイ」とは、拡張ボードを装着するだけで特別な設定をしなくてもすぐに使用できる状態になる機能です。本機に取り付けられるPCI規格の拡張ボードはプラグアンドプレイに対応しています。PCI規格の拡張ボードはボードを取り付けたあと、リソースの設定が自動的に行われるので、ご自分で面倒な設定をする必要がありません。

拡張ボード取り付けの流れ

以下の流れに沿って、拡張ボードを増設します。

1 **本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜く**

本機前面の⏻電源ランプが消灯していることを確認してください。電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」(80ページ)をご覧ください。

2 **拡張ボードを取り付ける**

拡張ボードの取り付けかたについて詳しくは、「拡張ボードを取り付ける」(175ページ)をご覧ください。

3 **電源コードをコンセントに差し込み、本機の電源を入れる**

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」(63ページ)をご覧ください。

4 **ドライバの設定、インストールを行う**

拡張ボードが本機に認識されるとメッセージが表示されるので、拡張ボードの取扱説明書なども参照の上、指示に従って操作してください。

ドライバとは

どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすためのに必要なソフトウェアです。拡張ボードを増設したときには、ドライバのインストールが必要となる場合があります。

拡張ボードを取り付ける

以下の手順に従って拡張ボードを取り付けます。

取り付けるときのご注意

拡張ボードの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、充分時間が経過したあとに行ってください。電源コードを差したまま拡張ボードを取り付けたり取りはずしたりすると、拡張ボードや本機、周辺機器が破損することがあります。

- 本機の内部基板の電子部品には、手を触れないでください。外部からの力や静電気に大変弱いものがあり、故障の原因となります。
- 拡張ボードの部品には直接手を触れないでください。人体の静電気によって部品が故障することがあります。拡張ボードを触る前には、本機の金属部分などの金属製のものに触れて体内の静電気を放電してください。
- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに拡張ボードを放置しないでください。静電気の影響で拡張ボードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部に直接手を触れないようにご注意ください。
- 拡張ボード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないようにご注意ください。
- 拡張ボードを本機から取りはずすときは、必ず本機の拡張ボードの取り扱いかたに従ってください。無理に引き抜くと拡張ボードや本機の故障の原因になります。
- 拡張ボードを水でぬらさないでください。
- 拡張ボード増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙のおそれがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- **ご自分で拡張ボードの取り付けを行い、故障や事故が起きた場合は、修理はすべて有償となります。**

ちょっと一言

イラストはPCV-RZ70Pのものです。

1

本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずす。

ご注意

電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

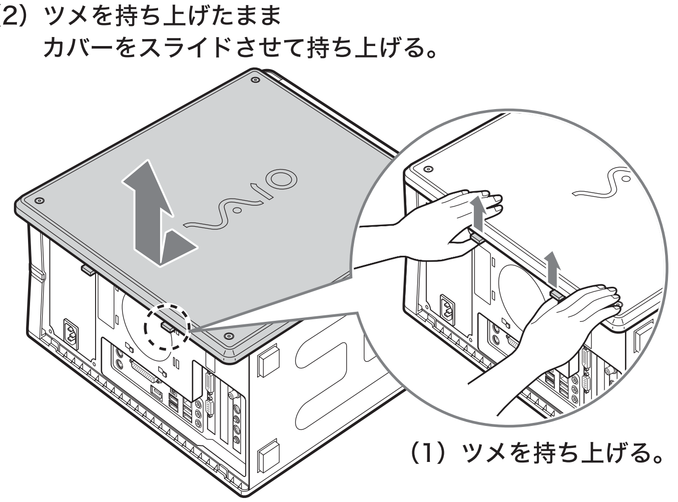
2

本機を横に倒して置く。

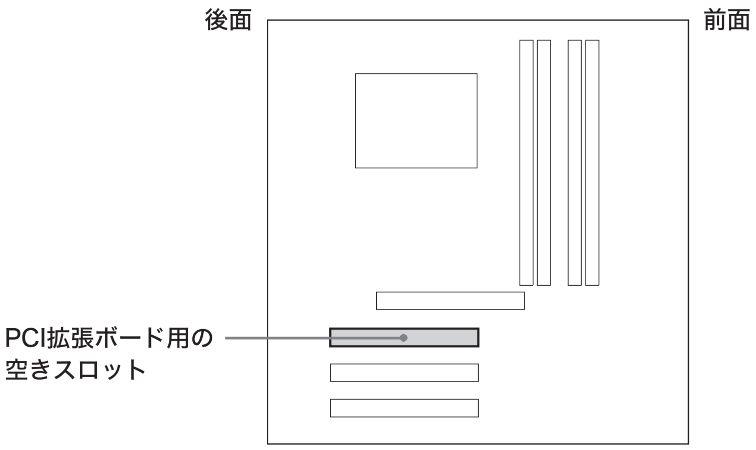
本機の右側面が下になるように置いてください。

3

側面のカバーをはずす。

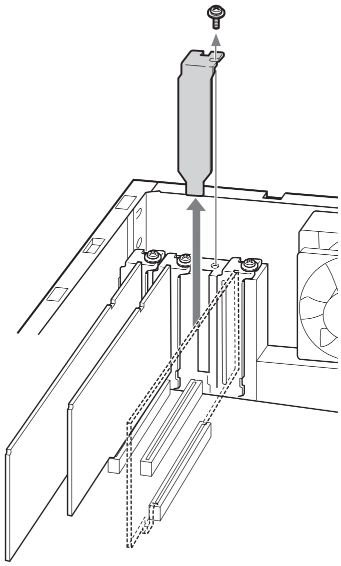


本機の内部基板は下図のようになっています。



4 拡張ボードを取り付けるスロットのカバーを取りはずす。

スロットのカバーを取り付けているネジをはずし、本体の内部からカバーを取りはずします。

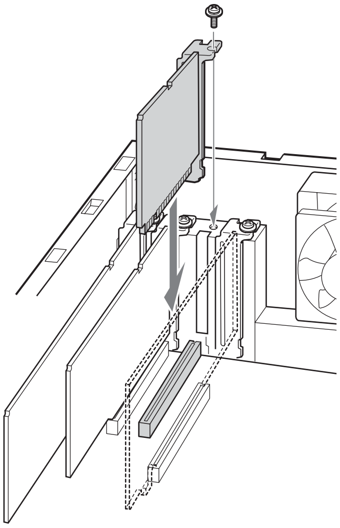


ご注意

- 内部の基板やケーブル類を傷つけないようにご注意ください。
- イラストは実際のものと一部異なる場合があります。

5 拡張ボードを取り付ける。

拡張ボードを空きスロットに合わせて取り付け、ネジで固定します。詳しくは、拡張ボードの取扱説明書をご覧ください。

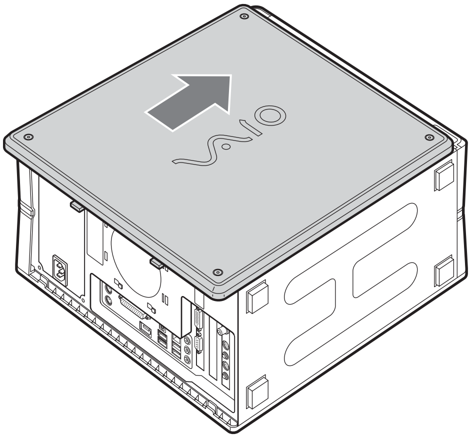


ご注意

拡張ボードを取り付けるとき、まわりの部品にぶつけると、故障の原因となります。

6 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーを少しずらして本体に置き、カチッと音がするまでスライドさせます。



7 本機を立てる。

8 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

Windowsが起動すると、「新しいハードウェアが検出されました。必要なソフトウェアをインストールしています。」というメッセージが表示されるので、画面の指示とボードの取扱説明書に従って操作します。

拡張ボードを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

メモリを増設する

メモリを増設する

本機内部の拡張メモリスロットにメモリを増設することができます。

メモリを増設すると、データの処理速度や複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理速度が向上します。

ご注意

- メモリの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- メモリの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンク修理窓口までご連絡ください。
- メモリ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- メモリ増設の際は、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- メモリ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙のおそれがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- 本機の内部基板の電子部品には、手を触れないでください。外部からの力や静電気に大変弱いものがあり、故障の原因となります。
- **メモリモジュールの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したままメモリモジュールを取り付けたり取りはずしたりすると、メモリモジュールや本機、周辺機器が壊れることがあります。**
- **電源を切ったあとすぐは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。**
- **ご自分でメモリの増設を行い、故障や事故が起きた場合は、修理はすべて有償となります。**

メモリモジュールを取り付ける

別売りのメモリモジュールを取り付けることにより、メモリを増設します。

ソニー製のメモリーモジュールは、以下のものが本機に取り付けられます。

PCV-RZ70P/RZ60をお使いの場合

容量	メモリーモジュール
512Mバイト（256Mバイト×2）	PCVA-MM512X*

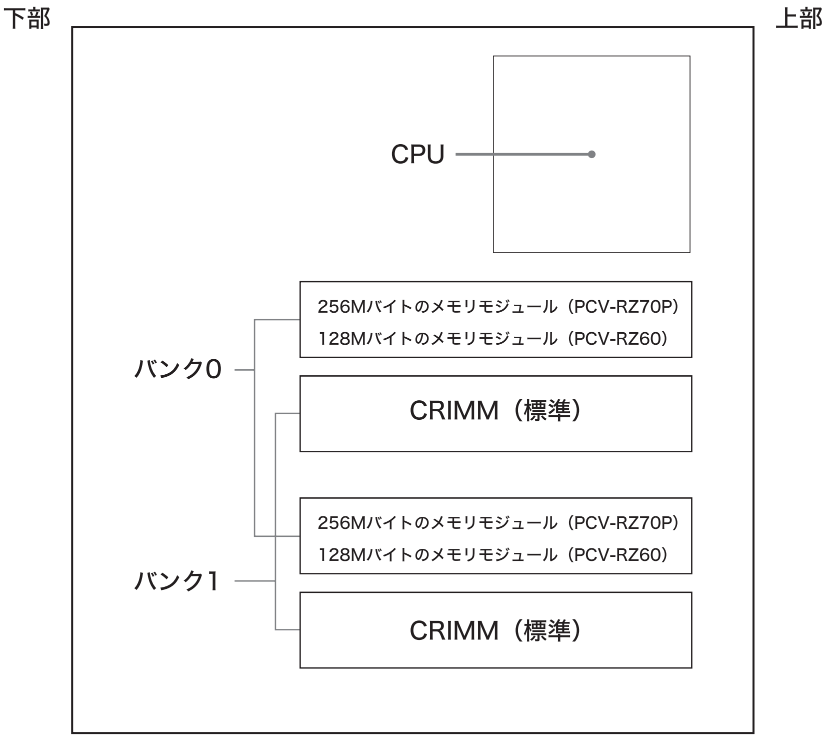
* FSB533MHz対応PC800-40（RAS Access Time 40ns）、RDRAM（PCVA-MM512X）を必ずご使用ください。PC800-45RDRAM（PCVA-MM256R/512R）は動作しませんのでご注意ください。

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが4か所あります。

本機のメモリスロットは2か所のバンクにわかれていますので、メモリを増設するときは、以下の点にご注意ください。

- メモリを取り付ける場合には必ずバンク0から取り付けてください。PCV-RZ70Pは標準で256Mバイトのメモリが2枚（合計512Mバイト）、PCV-RZ60は標準で128Mバイトのメモリが2枚（合計256Mバイト）、装着されています。
- 同一バンク内の各スロットには同じ型名で同じ容量のメモリモジュールを取り付けてください。
- 取りはずしたCRIMMは、再度メモリ容量を変更するときに必要になることがありますので大切に保管してください。
- 取り付けるメモリモジュールは、すべて同じスピードのメモリモジュールを取り付けてください。本機は標準でPC800-40スピードのメモリモジュールが装着されています。

PCV-RZ70Pでは、標準でバンク0の各スロットに256Mバイトのメモリが2枚、バンク1の各スロットにCRIMMが2枚、合計512Mバイトのメモリが搭載され、PCV-RZ60では、標準でバンク0の各スロットに128Mバイトのメモリが2枚、バンク1の各スロットにCRIMMが2枚、合計256Mバイトのメモリが搭載されています。



増設後の容量は以下の表の通りです。

PCV-RZ70Pをお使いの場合

標準	増設するメモリモジュールの容量	増設後の容量
512Mバイト	512Mバイト　1組（256Mバイト×2）増設	1024Mバイト

PCV-RZ60をお使いの場合

- **標準で装着されている256Mバイトのメモリモジュールをそのまま使うとき**

標準	増設するメモリモジュールの容量	増設後の容量
256Mバイト	512Mバイト　1組（256Mバイト×2）増設	768Mバイト

- **標準で装着されている256Mバイトのメモリモジュールを取りはずして512Mバイトのメモリモジュールを使うとき**

増設するメモリモジュールの容量	増設後の容量
1024Mバイト　2組（256Mバイト×2）4枚増設	1024Mバイト

取り付けの際には、メモリモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

PCV-RZ50をお使いの場合

容量	メモリーモジュール
256Mバイト	PCVA-MM256D
512Mバイト	PCVA-MM512D

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが3か所あります。

本機は、標準で256Mバイトのメモリモジュールが3か所のうちの1か所のスロットに1枚装着されています（空きスロットは2か所です）。

増設後の容量は以下の通りです。

- **標準で装着されている** 256M **バイトのメモリモジュールをそのまま使うとき**

標準	増設するメモリモジュールの容量	増設後の容量
256Mバイト	256Mバイト（1枚増設）	512Mバイト
256Mバイト	256Mバイト（2枚増設）	768Mバイト
256Mバイト	256Mバイト +512Mバイト（各1枚増設）	1024Mバイト
256Mバイト	512Mバイト（1枚増設）	768Mバイト
256Mバイト	512Mバイト（2枚増設）	1280Mバイト

- **標準で装着されている** 256M **バイトのメモリモジュールを取りはずして** 512M **バイトのメモリモジュールを使うとき**

増設するメモリモジュールの容量	増設後の容量
512Mバイト（2枚増設）	1024Mバイト
512Mバイト（3枚増設）	1536Mバイト

取り付けの際には、メモリモジュールの取扱説明書もあわせてご覧ください。

メモリモジュールを選ぶときのご注意

- メモリモジュールには、さまざまな種類のものが存在します。市販のメモリモジュールを取り付ける際には、その製品が本機での動作保証を明記していることをご確認ください。
- 市販のメモリモジュールについてのサポートは弊社では行っておりません。ご不明の点はメモリモジュールの販売元にご相談ください。

メモリモジュールを取り付けるときのご注意

> メモリモジュールの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したままメモリモジュールを取り付けたり取りはずしたりすると、メモリモジュールや本機、周辺機器が壊れることがあります。

- 静電気でメモリモジュールが破壊しないように、メモリモジュールを取り付けるときは、次のことをお守りください。
  - メモリを増設するときは、静電気の起こりやすい場所（じゅうたんの上など）では作業しないようにしてください。
  - 静電気を体から逃がすため、本機の金属部に触れてから作業を始めてください。
  - メモリモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリモジュールを持つときは半導体やコネクタに触れないようにしてください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。
- **メモリモジュールには、向きがあります。**
- **メモリモジュールのエッジコネクタの切り欠き部分とスロットのコネクタ（溝の内側）部分の突起の位置を正しく合わせてください。**
- **無理に逆向きにメモリモジュールをスロットに押し込むと、メモリモジュールやスロットの破損や基板からの発煙の原因となりますので特にご注意ください。**

ちょっと一言

イラストは、PCV-RZ70Pのものです。

ご注意

- PCV-RZ70P/RZ60をお使いの場合、メモリモジュールを取り付けるには、拡張ボードをいったん取りはずす必要があります（PCV-RZ50をお使いの場合、拡張ボードをいったん取りはずす必要がないので、手順5、6、9は不要です）。
- ご自分で拡張ボードの取りはずし、取り付けを行い、故障や事故が起きた場合は、修理はすべて有償となります。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずす。

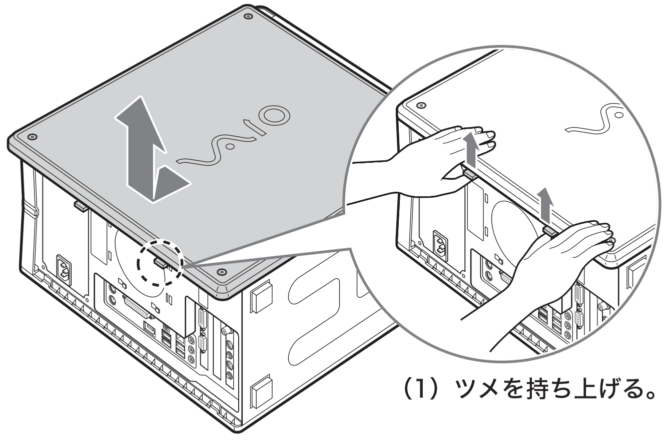
ご注意

> 電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 本機を横に倒して置く。

本機の右側面が下になるように置いてください。

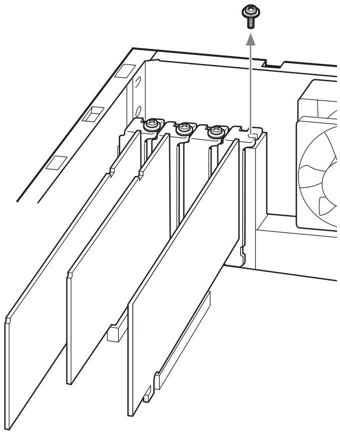
3 側面のカバーを取りはずす。



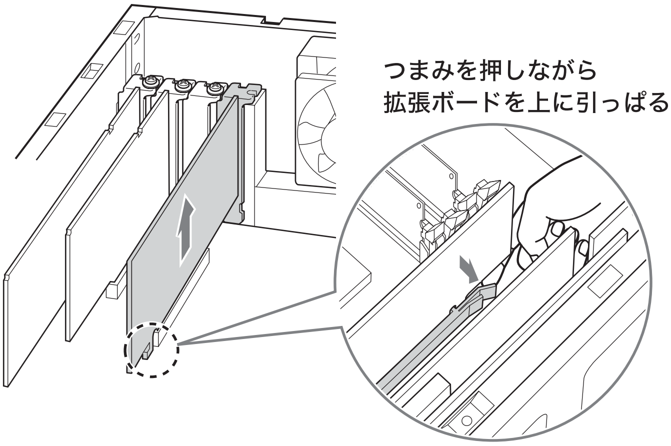
4 メモリモジュールを梱包から取り出す。

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを静電気防止袋から取り出します。

5 メモリモジュールにもっとも近い拡張ボードを固定しているネジをはずす（PCV-RZ70/RZ60のみ）。



6 拡張ボードを固定しているつまみを押しながら、拡張ボードを取りはずす（PCV-RZ70/RZ60のみ）。



ご注意

拡張ボードを取りはずすとき、まわりの部品にぶつけると、故障の原因となります。

7 メモリモジュールを取り付ける。

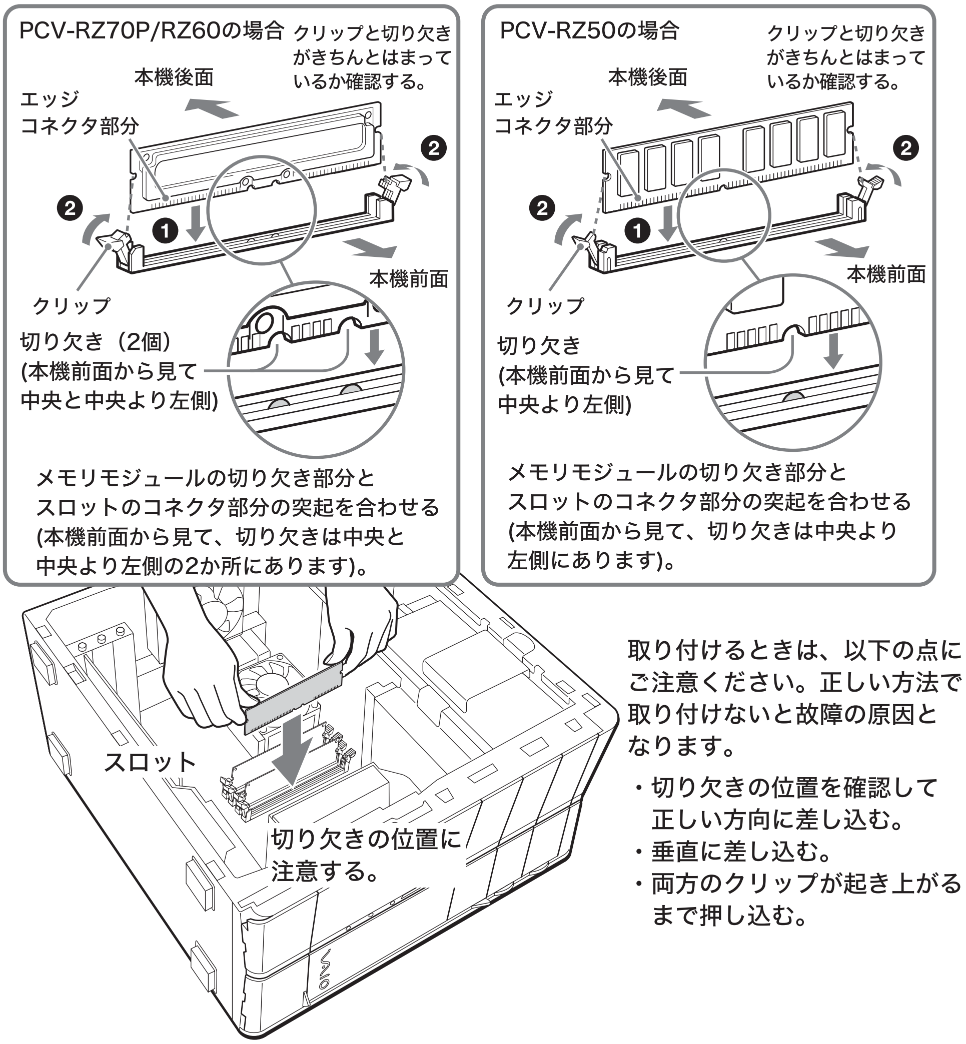
❶ **下記のイラストの通りに、切り欠き方向に注意してメモリモジュールをスロットに合わせる。**

❷ **クリップが起き上がり、固定されるまでメモリモジュールを垂直にスロットへ押し込む。**

ご注意

（PCV-RZ50の場合）

本機前面から見て、切り欠きは中央より左側となります。
メモリモジュールの方向をよく確かめて、正しく取り付けてください。



ご注意

> 電源を切ったあとすぐは、メモリモジュールが熱くなっており、やけどをする可能性があります。充分時間をおいてメモリモジュールが冷えるのを待ってから作業を行ってください。

PCV-RZ70P/RZ60にメモリを増設するときは、2枚のメモリモジュールを同時に取り付けてください。1枚だけメモリモジュールを取り付けても動作しません。また、取り付ける2枚のメモリモジュールは同じ型名で同じ容量のものをお使いください。

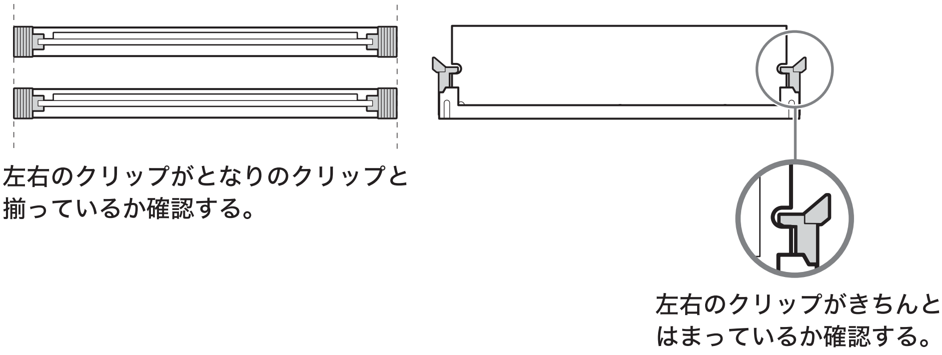
メモリモジュールの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

8 メモリモジュールがきちんと取り付けられているか確認する。

メモリモジュールを取り付けたら、以下の点を確認してください。

❶左右のクリップが、となりのクリップと揃っているかどうか。

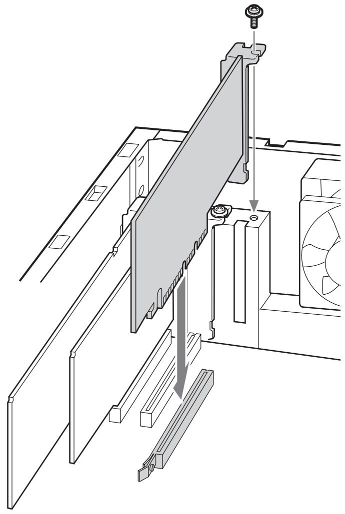
❷左右のクリップが、きちんとメモリモジュールの溝にはまっているかどうか。



ご注意

PCV-RZ50はスロットが3か所あります。

9 手順6で取りはずした拡張ボードを本機に取り付け、ネジで固定する（PCV-RZ70P/RZ60のみ）。

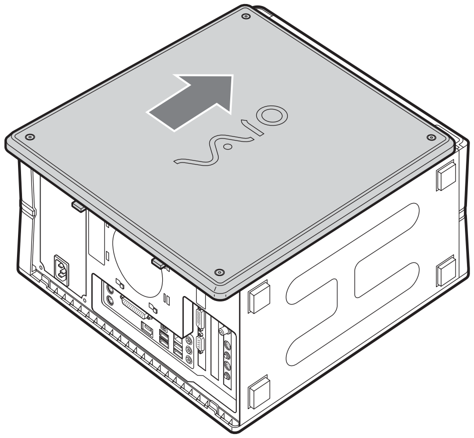


ご注意

拡張ボードを取り付けるとき、まわりの部品にぶつけると、故障の原因となります。

10 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーを少しずらして本体に置き、カチッと音がするまでスライドさせます。



(1) カバーを少しずらして置く。

(2) カチッと音がするまでスライドさせる。

11 本機を立てる。

12 手順1ではずした周辺機器を接続し、本機の電源を入れる。

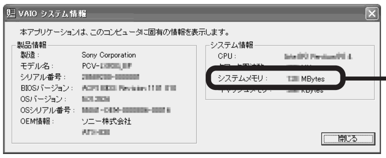
13 デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［VAIO システム情報］、［VAIO システム情報］の順にクリックする。

「VAIO システム情報」画面が表示されます。

14 「システムメモリ」の項目が増設後のメモリ容量になっていることを確認する。

メモリの容量が正しければ、メモリの増設は完了しました。

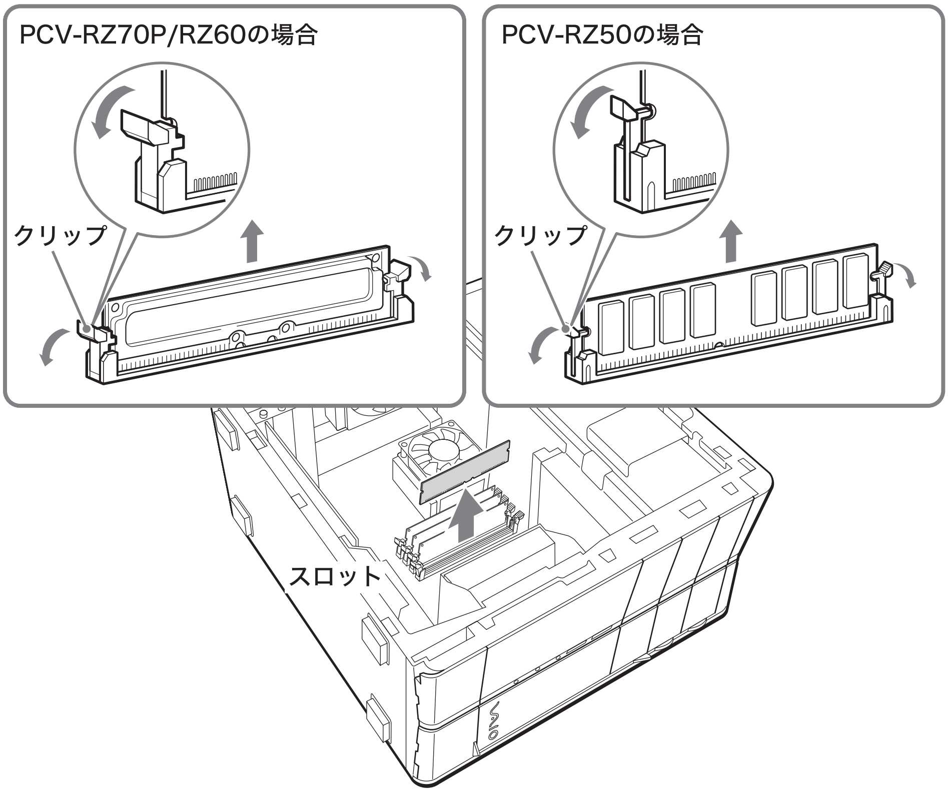
メモリの容量が増えていないときは、本機の電源を切っていったんメモリモジュールを取りはずし、もう1度正しく増設の手順を繰り返してください。



ここを確認する。

メモリモジュールを取りはずすには

本機の金属部分に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリスロットの両端のクリップを外側に押し、メモリモジュールをはずし、スロットからゆっくり抜き取ります。



ハードディスクドライブを増設する

本機内部のハードディスクドライブベイにハードディスクドライブを１つ増設することができます。

ご注意

- ハードディスクドライブの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。
- ハードディスクドライブの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- ハードディスクドライブ増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- ハードディスクドライブ増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- ハードディスクドライブ増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙のおそれがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- 本機の内部基板の電子部品には、手を触れないでください。外部からの力や静電気に大変弱いものがあり、故障の原因となります。
- ドライブベイは3.5インチサイズです。
- 増設するハードディスクドライブによっては本機で動作しないものがあります。
  増設について詳しくは、増設機器メーカーにお問い合わせください。
- 増設するハードディスクドライブによってはi.LINK対応機器から動画を取り込む際に制限が生じる場合があります。
- 増設するハードディスクドライブは、CS（ケーブルセレクト）またはSLAVE（スレーブ）に設定してください。設定方法については、増設するハードディスクドライブの取扱説明書をご覧ください。
- **ハードディスクドライブの取り付けや取りはずしは、必ず本機および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いた状態で行ってください。電源コードを差したまま、ハードディスクドライブを取り付けたり取りはずしたりすると、ハードディスクドライブや本機、周辺機器が壊れることがあります。**
- **電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。**
- **ご自分でハードディスクドライブの増設を行い、故障や事故が起きた場合は、修理は有償となります。**

ハードディスクドライブを取り付ける

ハードディスクドライブを取り付ける際には、本機のカバーを取りはずす必要があります。以下の手順に従ってハードディスクドライブを取り付けます。

増設するハードディスクドライブの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1

本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべてのケーブルを取りはずす。

ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

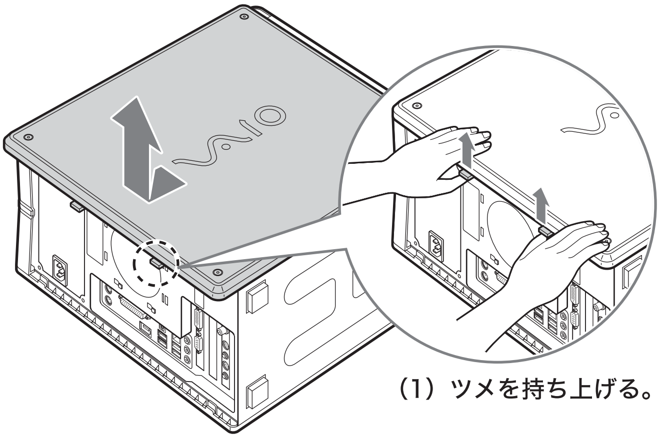
2

本機を横に倒して置く。

本機の右側面が下になるように置いてください。

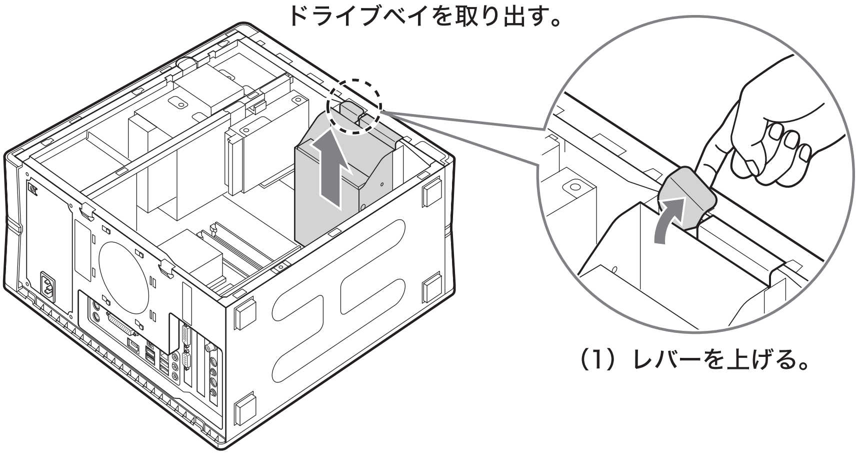
3

側面のカバーを取りはずす。



4 ハードディスクドライブベイを取り出す。

お買い上げ時に搭載のハードディスクドライブに接続されているケーブル類を取りはずし、ハードディスクドライブベイを取り出します。

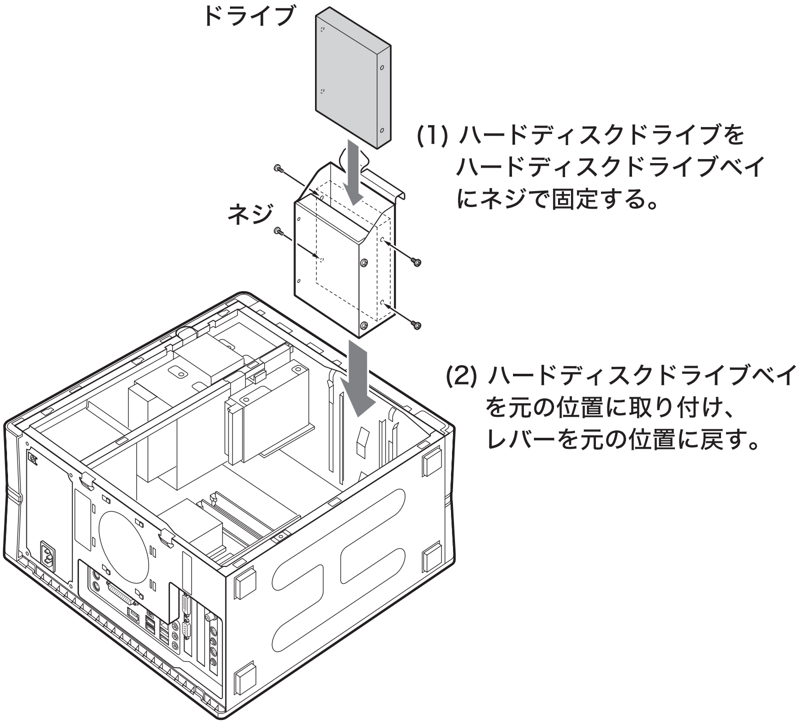


ご注意

ハードディスクドライブベイを取り出すとき、まわりの部品にぶつけると、故障の原因となります。

5 ハードディスクドライブベイに増設するハードディスクドライブを取り付ける。

増設するハードディスクドライブをハードディスクドライブベイにネジで固定し、ハードディスクドライブベイを元の位置に取り付けます。



ご注意

ハードディスクドライブベイを取り付けるとき、まわりの部品にぶつけると、故障の原因となります。

ちょっと一言

増設するハードディスクドライブは、CS（ケーブルセレクト）またはSLAVE（スレーブ）に設定してください。
設定方法については、増設するハードディスクドライブの取扱説明書をご覧ください。
ハードディスクドライブの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクにお問い合わせください。

6

手順4で取りはずしたケーブル類を、お買い上げ時に搭載のハードディスクドライブおよび増設したハードディスクドライブの両方に接続する。

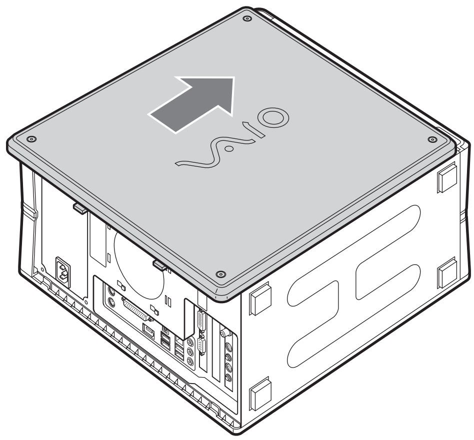
ご注意

電源ケーブルとIDEケーブルを必ず取り付けてください。

7

側面のカバーを取り付ける。

側面カバーを少しずらして本体に置き、カチッと音がするまでスライドさせます。



8

本機を立てる。

ハードディスクドライブを取りはずすには

取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべてのケーブルを取りはずしてから行ってください。

ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

増設したハードディスクドライブを使用する前に

ハードディスクドライブを増設したあとは、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンしてから、下記の手順に従って「パーティションの作成」、「パーティションの種類の設定」、「パーティションのフォーマット」を設定してください。

パーティションについて詳しくは、デスクトップ画面左下の

をクリックして[ヘルプとサポート]をクリックし、「ヘルプとサポートセンター」を表示させ、ディスクの管理の概要などの説明をご覧ください。

なお、増設されたハードディスクドライブは拡張パーティションとして作成され、NTFSフォーマットされていないと、本機が正しく動作しなくなることがあります。

1 本機の電源を入れる。

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（63ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーでログオンしてください。

2 デスクトップ画面左下の

をクリックし、[コントロールパネル]をクリックする

「コントロールパネル」画面が表示されます。

3 [パフォーマンスとメンテナンス]をクリックして、[管理ツール]をクリックする。

「管理ツール」画面が表示されます。

4 （コンピュータの管理）をダブルクリックする。

「コンピュータの管理」画面が表示されます。

5 「コンピュータの管理」画面の左側のウィンドウの中の[ディスクの管理]をクリックする。

「コンピュータの管理」画面の右側のウィンドウに、接続されているディスクのパーティションの状況が表示されます。新しく増設したハードディスクドライブなど、目的のハードディスクドライブがこれまで使用されたことがなければ「未割り当て」と表示されます。

6 「記憶域」の中の「ディスク1」を右クリックして「ディスクの初期化」を選ぶ。

7 「ディスク1」がチェックされていることを確認して、 OK をクリックする。

8 「未割り当て」の部分を右クリックし、表示されるメニューから［新しいパーティション］をクリックする。

「新しいパーティションウィザード」画面が表示されます。

9 次へ(N) > をクリックする。

「パーティションの種類を選択」画面が表示されます。

10 ［拡張パーティション］をクリックして選び、 次へ(N) > をクリックする。

「パーティションサイズの指定」画面が表示されます。

11 「パーティションサイズ」の入力欄に、作りたいパーティションの大きさを入力し、 次へ(N) > をクリックする。

「パーティションの作成ウィザードの完了」画面が表示されます。

12 完了 をクリックする。

「パーティションの作成ウィザードの完了」画面が閉じます。

「コンピュータの管理」画面の右側のウィンドウで、パーティションの設定を行ったハードディスクドライブの表示が「未割り当て」から「空き領域」に変わります。

13 「空き領域」の部分を右クリックして、表示されるメニューから［新しい論理ドライブの作成］をクリックする。

「新しいパーティションのウィザードの開始」画面が表示されます。

14 [次へ(N) >]をクリックする。

「パーティションの種類を選択」画面が表示されます。

15 [論理ドライブ]をクリックして選び、[次へ(N) >]をクリックする。

「パーティションサイズの指定」画面が表示されます。

16 「パーティションサイズ」の入力欄に、作りたいパーティションの大きさを入力し、[次へ(N) >]をクリックする。

「ドライブ文字またはパスの割り当て」画面が表示されます。

17 「ドライブ文字の割り当て」を[∨]をクリックしてリストから選び、[次へ(N) >]をクリックする。

「パーティションのフォーマット」画面が表示されます。

18 「フォーマット」の各項目を以下のように設定し、[次へ(N) >]をクリックする。

使用するファイルシステム：NTFS
アロケーションサイズ：既定値
ボリュームラベル：ボリューム
「新しいパーティションのウィザードの完了」画面が表示されます。

19 [完了]をクリックする。

パーティションの設定を行ったハードディスクドライブのフォーマットが始まります。フォーマットの状況は「コンピュータ管理」画面の右側のウィンドウにパーセントで表示されます。フォーマットが終わると、増設したハードディスクドライブが使えるようになります。

ご注意

「コントロールパネル」画面の「パフォーマンスとメンテナンス」、[電源オプション]の順にクリックすると表示される「電源オプションのプロパティ」画面で「ハードディスクの電源を切る」は「なし」に設定してください。

「なし」以外に設定すると、「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画を行うとき、録画に失敗することがあります。

その他のデバイスを増設する（PCV-RZ60/RZ50のみ）

PCV-RZ60/RZ50の前面の拡張デバイスベイにMOドライブやZIPドライブなどの拡張用のIDEデバイスを1つ増設することができます。

ご注意

- デバイスの増設は注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。電気的な専門知識が必要な作業ですので、販売店などに取り付けを依頼されることをおすすめします。
- デバイスの増設についてのご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- デバイス増設の際には、本機内部のケーブルに指などを引っかけてはずさないように注意してください。
- デバイス増設の際は、本機内部の部品や基板などの角で手や指をけがしないように注意深く作業してください。
- デバイス増設の際に異物（ネジなどの金属物など）が本機内部に混入したままの状態で電源を入れると、発煙のおそれがあります。必ず異物を取り除いてカバーを取り付けてから電源を入れてください。
- 本機の内部基板の電子部品には、手を触れないでください。外部からの力や静電気に大変弱いものがあり、故障の原因となります。
- 拡張デバイスベイは5インチサイズです。
- 本機の拡張デバイスベイにはSecondary（セカンダリ）IDEのコネクタが用意されています。増設するデバイスがIDEの場合は、SLAVE（スレーブ）に設定してください。設定方法については、増設するデバイスの取扱説明書をご覧ください。
- 増設する機器によっては本機で動作しないものがあります。
  増設について詳しくは、販売店または増設機器メーカーにお問い合わせください。
- ご自分でデバイスの増設を行い、故障や事故が起きた場合は、修理はすべて有償となります。

デバイスを取り付ける

デバイスを取り付ける際には、本機のカバーを取りはずす必要があります。以下の手順に従ってデバイスを取り付けます。

増設するデバイスの取扱説明書もあわせてご覧ください。

1 **本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずす。**

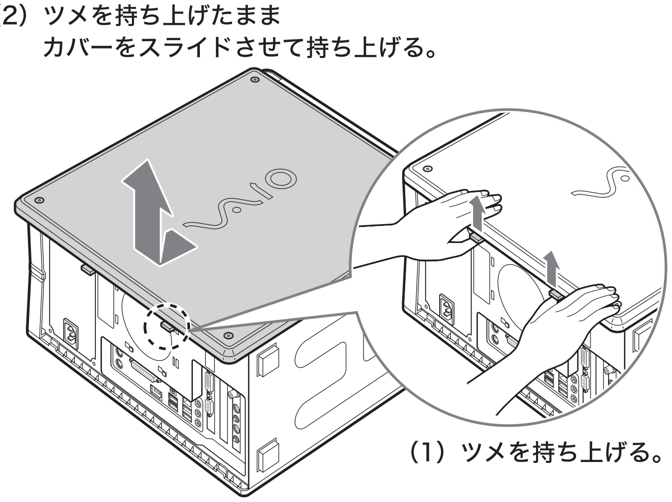
ご注意

電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをする可能性があります。本機が冷えるのを待ってから作業を行ってください。

2 本機を横にして置く。

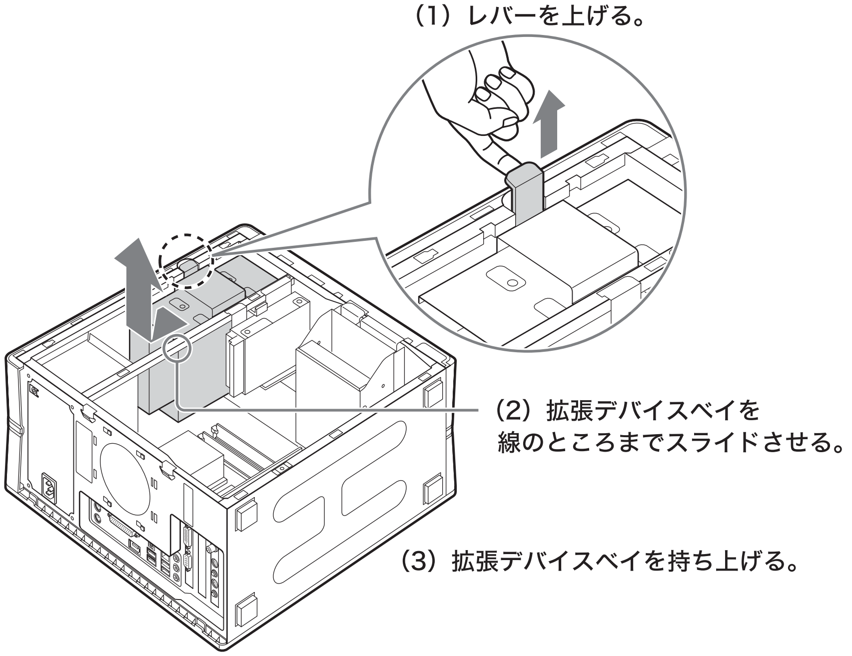
本機の右側面が下になるように置いてください。

3 側面のカバーを取りはずす。



4 拡張デバイスベイを取りはずす。

お買い上げ時に搭載のDVD-RWドライブに接続されているケーブル類を取りはずし、拡張デバイスベイを後ろの方向にスライドして取りはずします。



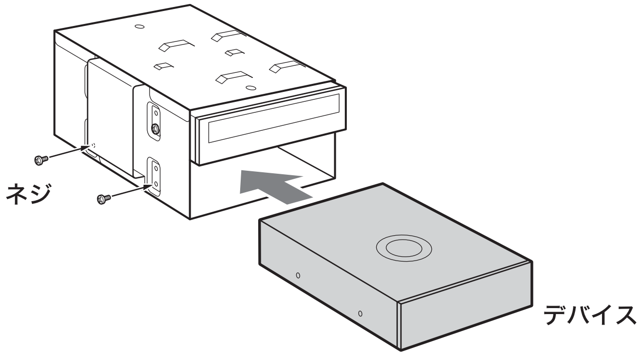
ご注意

拡張デバイスベイを取りはずすとき、まわりの部品にぶつけると、故障の原因となります。

5 増設するデバイスを取り付ける。

デバイスベイに増設するデバイスをネジで固定します。

取り付けかたについて詳しくは、増設する機器の取扱説明書をご覧ください。



ご注意

ハードディスクドライブとDVD-RWドライブを同一のIDEコネクタに接続しないでください。

ちょっと一言

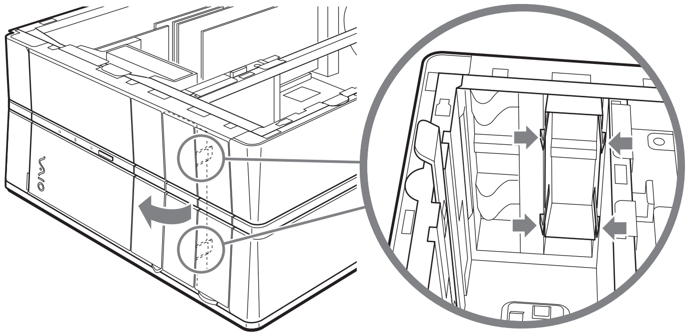
増設するデバイスがIDEの場合は、SLAVE(スレーブ)に設定してください。
設定方法については、増設するデバイスの取扱説明書をご覧ください。

デバイスの取り付けについて詳しくは、VAIOカスタマーリンクまたは販売店にお問い合わせください。

ベイカバーを取りはずすときは

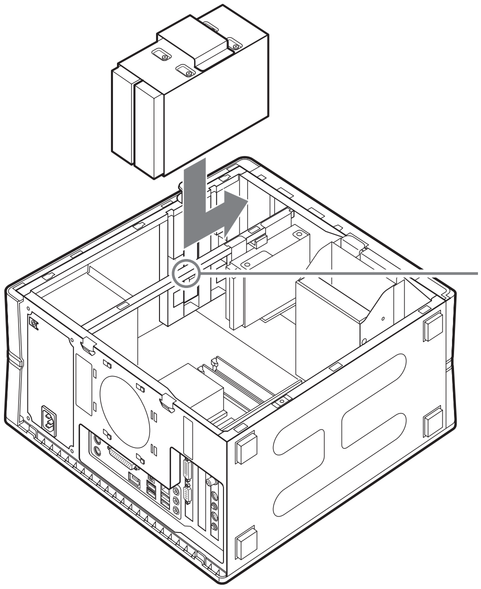
MOドライブなど、前面からディスクなどを挿入する機器を増設したときは、ベイカバーを前面パネルから取りはずします。

ベイカバー上部のツメを内側から押してから、ベイカバー側面のツメを手前に引いてベイカバーを取りはずしてください。



6 拡張デバイスベイを取り付ける。

拡張デバイスベイを元の位置に取り付けます。



拡張デバイスベイを本体後面側の線に合わせて入れ、本体前面側の線までスライドさせる。

ご注意

拡張デバイスベイを取り付けるとき、まわりの部品にぶつけると、故障の原因となります。

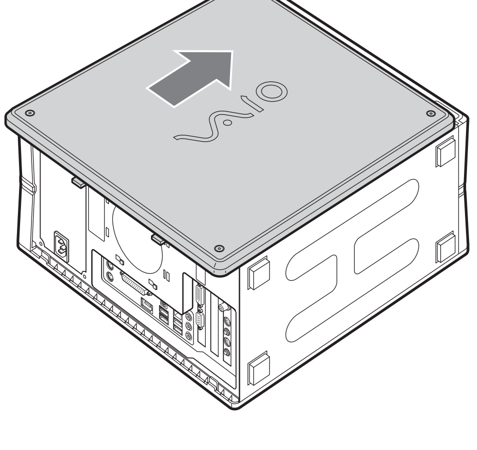
7 手順4で取りはずしたケーブル類を、お買い上げ時に搭載のDVD-RWドライブおよび増設したドライブの両方に接続する。

ご注意

電源ケーブルとIDEケーブルを必ず取り付けてください。

8 側面のカバーを取り付ける。

側面カバーを少しずらして本体に置き、カチッと音がするまでスライドさせます。



（1）カバーを少しずらして置く。

（2）カチッと音がするまでスライドさせる。

9 **本機を立てる。**

デバイスを取りはずすには

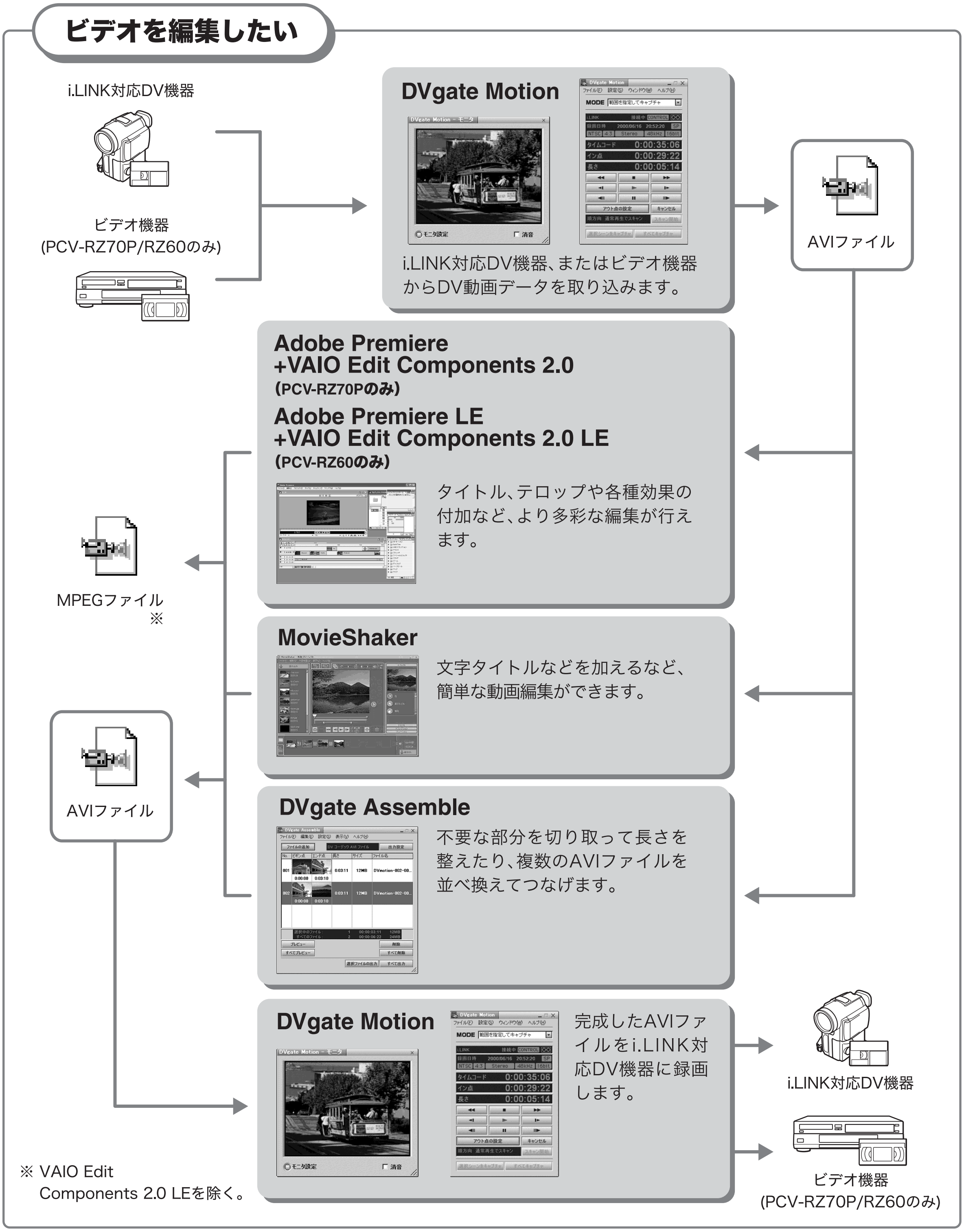
取り付けとは逆の手順で取りはずします。取りはずしの作業は、本機と周辺機器の電源を切り、電源コードおよび周辺機器を接続しているすべての接続ケーブルを取りはずしてから行ってください。

その他

本機をお使いになる際のご注意やお手入れのしかたなどについて説明します。

動画系ソフトウェアの使いかた

本機には動画を操作できる多くのソフトウェアが付属しています。ここでは代表的なソフトウェアとそれぞれのソフトウェアで処理することができるファイル形式について簡単にご紹介します。各ソフトウェアの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。本機とAV機器やi.LINK対応機器のつなぎかたについては、「接続する／準備する」(45ページ)、「AV機器をつなぐ」(158ページ)または「i.LINK対応機器をつなぐ」(152ページ)をご覧ください。



DVDビデオを作成したい

きれいなメニューのオリジナルDVDビデオを手軽に作成

i.LINK対応DV機器　ビデオ機器　AVIファイル ※1　MPEGファイル ※2　ビデオカプセル

Click to DVD

DV機器で撮影した映像や、デジタルスチルカメラで写した静止画像を、集めたり編集したりして、手軽にオリジナルのDVDビデオを作成できます。

DVDプレーヤーで再生できるDVD

長時間のDVDディスクを作成したい

AVIファイル ※1　MPEGファイル ※2

TMPGEnc DVD Source Creator for VAIO

AVIファイルやMPEG2ファイルを2パス可変ビットレートのMPEG2ファイルに変換します。

M2Vファイル　AC3ファイル　MPEGファイル

DVDit! for VAIO

MPEGファイルをDVDビデオフォーマットでオーサリングすることができます。

DVD　CD

※1 DVgate Motionでキャプチャしたもの。DVgate Assemble、MovieShaker、VAIO Edit Components 2.0（LE）、Giga Pocketエクスプローラから作成したもの。
※2 DVgate Assemble、MovieShaker、Giga Pocketエクスプローラ、VAIO Edit Components 2.0（PCV-RZ70Pのみ）で作成したもの。

テレビ番組を見たい、録画したい

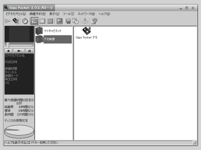
テレビ放送　ビデオ機器

Giga Pocket

内蔵テレビチューナーやビデオ機器の動画をMPEG方式で録画します。

i.LINK対応DV機器（PCV-RZ70P/RZ60のみ）
ビデオ機器（TV）

Giga Pocket エクスプローラ



MPEGファイルを読み込んでビデオカプセルを作ったり、ビデオカプセルをMPEGファイルに変換したりします。

AVIファイル
MPEGファイル
ビデオカプセル

Simple DVD Maker

ドラッグアンドドロップの手軽な操作でDVDビデオフォーマットでDVD-RW／DVD-Rに書き込むことができます。
また、PowerDVD XP for VAIOで再生できるCDを作成することもできます。

DVD
CD

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは

コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、次の「コンピュータウイルスに侵入されると ...」に見られるような被害が起きてしまいます。

コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

ホームページからダウンロードしたファイルや悪意を持った人たちから突然送られてくる電子メールには、コンピュータウィルスが潜んでいる場合があります。

不審な電子メールが送られてきた場合は、安易に開いたり、添付されているプログラムを実行せずに削除してください。

コンピュータウイルスに侵入されると ...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスクの空き容量が急に少なくなる。

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアについて

本機には、コンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアが付属しています。コンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアの操作方法について詳しくは、「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアのヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアのヘルプを表示するには

デスクトップ画面左下の スタート をクリックして、[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[Norton AntiVirus]、[Norton AntiVirus2002]の順にクリックして表示される画面右上の[ヘルプ]をクリックしてください。

ご注意

本機の2回目の起動時、または「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアをはじめて起動したときは、「Norton AntiVirus 情報ウィザード」画面が表示されるので、 次へ(N) をクリックし、画面の指示に従って操作してください。

シマンテック テクニカルサポートセンター

電話番号：(03)3476-1118

ファックス：(03)3477-1118

電話受付時間：月～金 10時～12時、13時～17時（土・日・祝日・年末年始を除く）

なお、シマンテック テクニカルサポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテック ホームページにて、カスタマーIDの取得が必要です。

http://shop.symantec.co.jp/oem/sony.html

カスタマーID取得については、下記にお問い合わせください。

シマンテック カスタマーサービスセンター

電話番号：(03)3476-1156

ファックス：(03)3476-1159

電話受付時間：月～金 10時～12時、13時～17時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ちょっと一言

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアは、本機初回起動時より180日間無償でウイルス定義ファイル（ワクチンファイル）のアップデートができます。それ以降は、ウイルス定義ファイルのアップデートは有償になります。新種のウイルスに対応するため、ウイルス定義ファイルは常に更新することをおすすめします。

また、テクニカルサポート提供期間は、ウイルス定義ファイル無償更新期間と同じく、180日間となります。ただし、有償アップデートのお申し込みをいただくとテクニカルサポートの提供期間も延長されます。

ウイルス定義ファイルの有償アップデートについて詳しくは、以下のシマンテック ホームページをご覧になり、お申し込みください。

http://shop.symantec.co.jp/oem/sony.html

ウイルス定義ファイルの有償アップデートのお申し込みについては、下記にお問い合わせください。

ショップシマンテック

電話番号：(03)3476-1192

ファックス：(03)3780-9988

電話受付時間：月～金 10時～12時、13時～17時（土・日・祝日・年末年始を除く）

リカバリディスクで本機を再セットアップする

ここでは付属のリカバリディスクを使って、本機を再セットアップする方法を説明します。

リカバリディスクとは

付属のリカバリディスクには、出荷時のハードディスク内のすべてのファイルが保存されています。誤ってハードディスクを初期化してしまったり、あらかじめインストールされているソフトウェアを消してしまった場合には、リカバリを行って本機を再セットアップすることでハードディスクの内容を出荷時の状態に戻すことができます。

リカバリディスクを使うと、次のことができます

- ハードディスクを初期化した上で、すべてのファイルを復元する（出荷時の状態に戻る）。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。詳しくは「パーティションサイズを変更する」（214 ページ）をご覧ください。

ご注意

- 付属のリカバリディスクは本機でのみ使用できます。他の製品では動作しません。
- 付属のリカバリディスクで再セットアップできるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windowsだけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ後はすべて出荷時の設定に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- 再セットアップする際は、リカバリディスクに収録されている「システムリカバリ」と「アプリケーションリカバリ」の両方のリカバリを行ってください。「アプリケーションリカバリ」を行わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。
- 本機は、出荷時に、プロダクトアクティベーション（ライセンス認証）は完了されているため、お客様が認証作業を行う必要はありません。
  また、付属のリカバリディスクで再セットアップを行った場合も、プロダクトアクティベーション（ライセンス認証）は自動的に完了するため、お客様が認証作業を行う必要はありません。
- BIOSの設定状態によっては、リカバリディスクが起動しないことがあります。この場合は、BIOSをお買い上げ時の設定に戻す必要があります。
  BIOSを出荷時の状態に戻すには、以下のように操作します。

  1 **本機の⏻（電源）ボタンを押し、画面に**Sony**のロゴが表示されたら、キーボードの** F2 **キーを押す。**
  BIOSセットアップメニューが起動し、「AwardBIOS Setup Utility」画面が表示されます。

  2 F5 **（**Setup Defaults**）キーを押す。**
  「Load default configuration now?」というメッセージが表示されます。

  3 Home **／** End **キーを押して［**Yes**］を選び、** Enter **（エンター）キーを押す。**
  すべての設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

  4 F10 **（**Save and Exit**）キーを押す。**
  「Save configuration changes and exit now?」というメッセージが表示されます。

  5 Home **／** End **キーを押して［**Yes**］を選び、** Enter **（エンター）キーを押す。**
  変更された設定が保存され、BIOSセットアップメニューが終了し、Windowsが起動します。

BIOS とは

「バイオス」と読みます。コンピュータの基本的な設定をするためのプログラムの集まりで、電源を入れると最初にBIOSの読み込みが始まります。もし、BIOSが正しく働かないと、コンピュータは起動しなくなります。

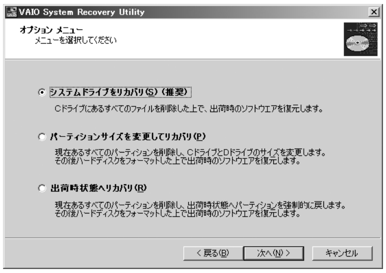
リカバリの種類

リカバリディスクを使うと、次のような方法で本機を再セットアップすることができます。
通常は、「システムドライブをリカバリ」を行うことをおすすめします。

リカバリの種類	説明
システムドライブをリカバリ	C:ドライブにあるすべてのファイルを削除した上で、出荷時の設定を復元します。C:ドライブ以外のドライブにあるファイルは削除されません。
パーティションサイズを変更してリカバリ	現在あるすべてのパーティションを削除し、C:ドライブとD:ドライブのサイズを変更します。その後ハードディスクをフォーマットした上で出荷時の設定を復元します。それ以前にハードディスクにあったデータは、C:ドライブ、D:ドライブとも含めてすべて失われてしまいます。
出荷時状態へリカバリ	現在あるすべてのパーティションを削除し、出荷時状態へパーティションを強制的に戻します。その後ハードディスクをフォーマットした上で出荷時の設定を復元します。それ以前にハードディスクにあったデータは、C:ドライブ、D:ドライブとも含めてすべて失われてしまいます。

「システムドライブをリカバリ」を選択するときは、下の画面で「システムドライブをリカバリ」を選択します。

「オプションリカバリ」を選択すると、下の画面が表示され、「パーティションサイズを変更してリカバリ」、「出荷時状態へリカバリ」を選択することができます。



再セットアップする前に

本機を再セットアップする前に、大切なデータは必ずバックアップをとってください。

バックアップをとるには、次の方法があります。

- フロッピーディスクにコピーする。
- CD-RW ／ CD-R にコピーする。
- DVD-RW ／ DVD-R にコピーする。
- D：ドライブにデータを残して、再セットアップを行う。
  本機のハードディスクは、C：ドライブと D：ドライブの 2 つのパーティションに分かれています。次の、「再セットアップする」の手順 9 で「システムドライブをリカバリ」を選んだ場合、C：ドライブのファイルはすべて消えてしまいますが、D：ドライブにあるファイルは残ります。

ご注意

- 「SonicStage」ソフトウェアに取り込んだ曲や管理データは、「SonicStage」ソフトウェアのバックアップツールを使って必ずバックアップをとってください。
  バックアップツールについて詳しくは、「SonicStage」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- DVD-RW／DVD-RやCD-RW／CD-Rにデータをコピーする方法については、「サイバーサポート」画面左側の[バイオの使いかた]をクリックして、[基本的な使いかた]→[ディスクを使う]→[データCDを作成する]または[CDのバックアップを作成する]または[データDVDを作成する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

再セットアップする（システムドライブをリカバリ）

再セットアップする前に、以下の点を確認してください。

- 本機に接続しているすべての周辺機器を取りはずしてください。周辺機器は、再セットアップが終わったあとに再び接続してください。
- フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクが入ってないか確認してください。
- 大切なデータはバックアップをとったか確認してください。
- Windows が完全に起動できなかった場合などに本機を再セットアップするときは、「Windows が完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには」（213 ページ）をご覧ください。
- パーティションサイズを変更するときは、「パーティションサイズを変更する」（214 ページ）をご覧ください。

ご注意

再セットアップした場合、それ以前にハードディスク上にあったファイルはすべて消えてしまいます。再セットアップする前に、大切なデータはDVD-RW／DVD-Rや、CD-RW／CD-R、またはフロッピーディスクなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

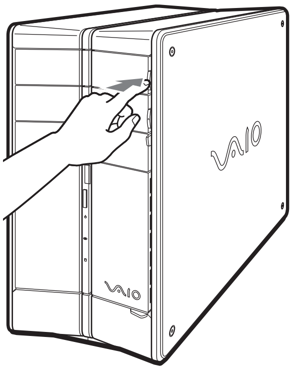
---

1 **本機の電源を入れる。**

電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（63ページ）をご覧ください。

2 DVD-RWイジェクトボタンを押す。

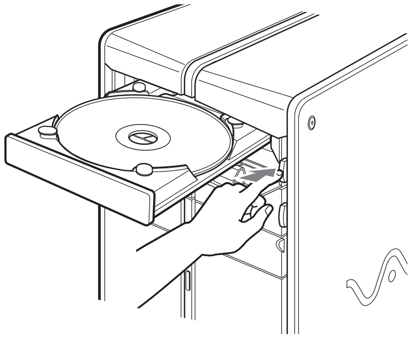
ディスクトレイが自動的に引き出されます。



3 付属のリカバリディスクを、レーベル面（文字が書いてある面）を上にして、ディスクをトレイの中央に置く。

4 DVD-RWイジェクトボタンを押して、トレイを閉める。

自動的に「VAIO アプリケーションリカバリユーティリティ」画面が表示されます。



5 [閉じる]をクリックする。

6 本機を再起動して、Sonyロゴが表示されたあと、画面左下に「Press any key to boot from CD」というメッセージが表示される。

3秒以内に、何かキーボード上のキーを押す。

```
**********
**********
**********

Press any key to boot from CD..
```

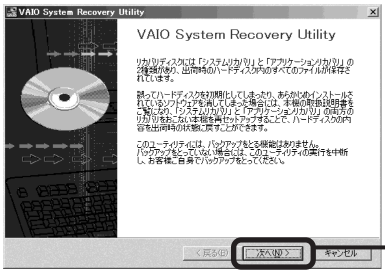
表示されたら、**3秒以内**に何か
キーボード上のキーを押す。

リカバリディスクから本機が起動し、「VAIO System Recovery Utility」画面が表示されます（起動には数分かかる場合があります）。

ご注意

「VAIO System Recovery Utility」画面が表示されない場合は、手順6からやり直してください。

7 「VAIO System Recovery Utility」画面の内容をよく読み、[次へ(N) >]をクリックする。

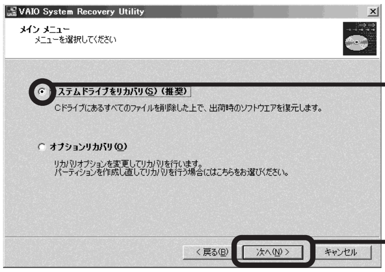


「はじめに」画面が表示されます。

8 「はじめに」画面の内容をよく読み、[次へ(N) >]をクリックする。

「メインメニュー」画面が表示されます。

9 ［システムドライブをリカバリ］の○をクリックして◉にし、[次へ(N) >]をクリックする。



「実行確認」画面が表示されます。

10 画面の指示に従って操作し、「リカバリを開始して本当によろしいですか？」画面が表示されたら、[はい(Y)]をクリックする。

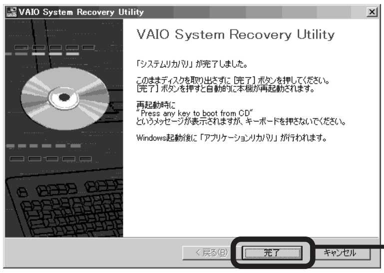
再セットアップが始まります。

再セットアップを中止するときは、[いいえ]をクリックして、続いて「実行確認」で[キャンセル]をクリックします。

リカバリ中にキャンセルをすると、リカバリ中のドライブはフォーマットされていない状態になります。

セットアップが終わると、「システムリカバリが完了しました。」画面が表示されます。

11 [完了]をクリックする。



ここをクリックする。

本機が再起動します。

ご注意

- Windowsのセットアップ画面が表示されるまで、しばらく時間がかかりますが、そのままお待ちください。
- 本機の再起動時に「Press any key to boot from CD」というメッセージが表示されますが、キーボードは押さないでください。

12 「Windowsを準備する」（64ページ）の手順に従って、Windowsをセットアップする。

ご注意

Windowsのロゴ画面が表示されてから、「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまでに、しばらく時間がかかります。途中、（ポインタ）だけがしばらく表示されますが、「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまで、そのままお待ちください。途中で電源を切るなどの操作を行うと、故障の原因にもなります。

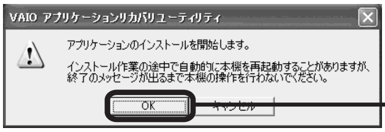
その他

13 Windowsのセットアップ終了後、本機が自動的に再起動し「アプリケーションのインストールを開始します。」画面が表示される。

ご注意

「Windowsを準備する」（64ページ）の手順8（PCV-RZ70P）または手順6（PCV-RZ60/RZ50）で複数のユーザーの名前を入力した場合は、ユーザー名を選択する画面が表示されます。この場合は、いずれかのユーザー名をクリックして、Windowsを起動してください。

14 [OK]をクリックする。



ここをクリックする。

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。

ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、[OK]をクリックしてください。

本機が自動的に再起動します。

ご注意

「Windowsを準備する」（64ページ）の手順8（PCV-RZ70P）または手順6（PCV-RZ60/RZ50）で複数のユーザーの名前を入力した場合は、ユーザー名を選択する画面が表示されます。この場合は、いずれかのユーザー名をクリックして、Windowsを起動してください。

15 [スタート]をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Norton AntiVirus］から［Norton AntiVirus 2002］をクリックする。

「Norton AntiVirus情報ウィザード」画面が表示されるので、［次へ］をクリックし、画面の指示に従って操作してください。すべての作業が終了すると「Norton AntiVirus」のメイン画面が表示されます。

メイン画面が表示されたら画面右上の[×]をクリックして画面を閉じてください。

ご注意

本機の2回目以降の起動時に、「Norton AntiVirus情報ウィザード」画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。

16 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（106ページ）の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。

Windowsが完全に起動しない状態で本機を再セットアップするには

1 本機の電源を入れる。

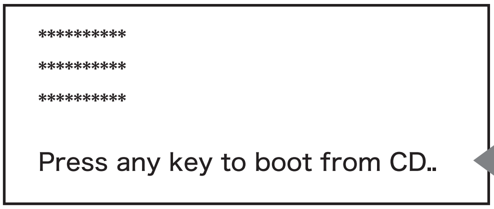
電源の入れかたについて詳しくは、「電源を入れる」（63ページ）をご覧ください。

2 「再セットアップする（システムドライブをリカバリ）」（208ページ）の手順2〜4に従って、付属のリカバリディスクをディスクドライブに入れる。

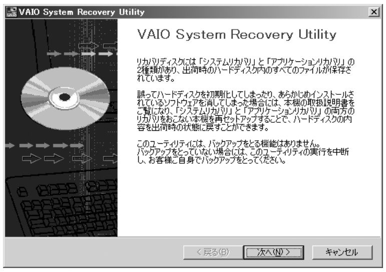
3 本機の ⏻（電源）ボタンを4秒以上押して本機の電源を切る。

4 30秒ほど待ってから、⏻（電源）ボタンを押して本機の電源を入れる。

Sonyロゴが表示されたあと、画面左下に「Press any key to boot from CD」というメッセージが表示されたら、3秒以内に何かキーボード上のキーを押してください。



リカバリディスクから本機が起動し、「VAIO System Recovery Utility」画面が表示されます。（起動には数分かかる場合があります。）



ご注意

「VAIO System Recovery Utility」画面が表示されない場合は、手順3から行ってください。

5 「再セットアップする（システムドライブをリカバリ）」（208ページ）の手順7〜16の操作を行ってください。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、「DVgate」ソフトウェアや「Giga Pocket」ソフトウェアなどで取り込んだ動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（出荷時）。付属のリカバリディスクを使ってパーティションサイズを変更できます。

動画の取り込みや書き出しを行う場合は、大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こり、フレーム落ちの原因となります。そのため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。

パーティションを区切ると、WindowsはC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するのに非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

パーティションとは

ハードディスクなどの大容量補助記憶装置の領域を分割することです。分割することで、1台のハードディスクが複数台のハードディスクと同じように使えるため、ファイルや、ソフトウェアの格納場所を分けるといったような使い分けができます。

断片化とは

「フラグメンテーション」とも言います。ディスクに記録するファイルが連続した領域に収まらずに、あちこちに散らばって記録された状態のことです。通常は大きな問題になりませんが、データの記録や読み出しに時間がかかるなどの症状が現れます。長期間にわたって断片化を放置すると、断片化した場所が大きくなり、エラーが頻発する原因になることもあります。

デフラグ（最適化）とは

ディスク中の断片化したデータをきれいにまとめることです。デフラグ（最適化）により、データの読み出しや書き込みが速くなったり、エラーが起きる可能性が低くなったりします。

ご注意

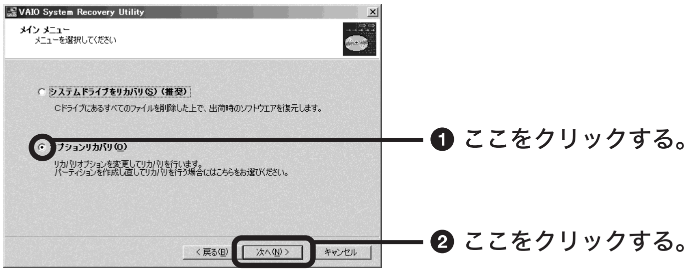
- 「SonicStage」ソフトウェアで取り込んだ曲や管理データは、「SonicStage」ソフトウェアのバックアップツールを使って必ずバックアップをとってください。バックアップツールについて詳しくは、「SonicStage」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけでなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはDVD-RW／DVD-RやCD-RW／CD-Rまたはフロッピーディスクなどに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

パーティションサイズを変更するには

1 **「再セットアップする（システムドライブをリカバリ）」（208ページ）の手順1～8を行う。**

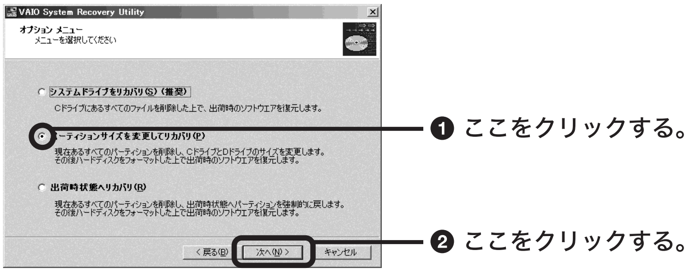
「メインメニュー」画面が表示されます。

2　[オプションリカバリ]の○をクリックして◉にし、次へ(N) > をクリックする。



「オプションメニュー」画面が表示されます。

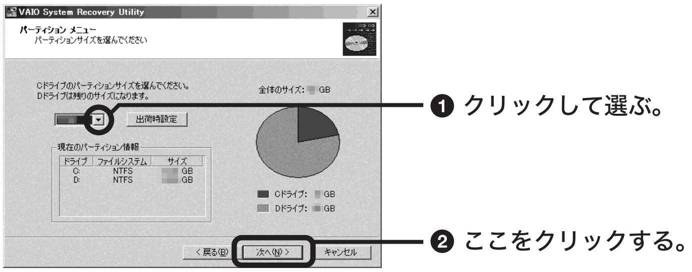
3　「オプションメニュー」画面の中から、「パーティションサイズを変更してリカバリ」の、○をクリックして◉にし、次へ(N) > をクリックする。



「パーティションメニュー」画面が表示されます。

ここで現在のパーティションサイズを確認できます。

4　▼をクリックしてパーティションサイズを選び 次へ(N) > をクリックする。



5 画面の指示に従って操作し、「リカバリを開始して本当によろしいですか？」画面が表示されたら はい(Y) をクリックする。

パーティションサイズが変更され再セットアップが始まります。

再セットアップを中止するときは[いいえ]をクリックして、続いて「実行確認」で キャンセル をクリックします。

6 セットアップが終わると、「システムリカバリが完了しました。」画面が表示されます。

7 完了 をクリックする。

本機が再起動します。

ご注意

- Windowsのセットアップ画面が表示されるまで、しばらく時間がかかりますが、そのままお待ちください。
- 本機の再起動時に「Press any key to boot from CD」というメッセージが表示されますが、キーボードは押さないでください。

8 「Windowsを準備する」（64ページ）の手順に従って、Windowsをセットアップする。

ご注意

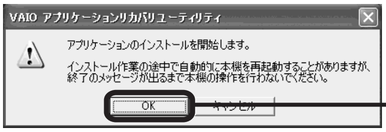
Windowsのロゴ画面が表示されてから、「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまでに、しばらく時間がかかります。途中、（ポインタ）だけがしばらく表示されますが、「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまで、そのままお待ちください。途中で電源を切るなどの操作を行うと、故障の原因にもなります。

9 Windowsのセットアップ終了後、本機が自動的に再起動し「アプリケーションのインストールを開始します。」画面が表示される。

ご注意

「Windowsを準備する」（64ページ）の手順8（PCV-RZ70P）または手順6（PCV-RZ60/RZ50）で複数のユーザーの名前を入力した場合は、ユーザー名を選択する画面が表示されます。この場合は、いずれかのユーザー名をクリックして、Windowsを起動してください。

10 OK をクリックする。



ここをクリックする。

自動的にソフトウェアのセットアップが始まります。

ソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、OK をクリックしてください。

本機が自動的に再起動します。

ご注意

「Windowsを準備する」（64ページ）の手順8（PCV-RZ70P）または手順6（PCV-RZ60/RZ50）で複数のユーザーの名前を入力した場合は、ユーザー名を選択する画面が表示されます。この場合は、いずれかのユーザー名をクリックして、Windowsを起動してください。

11 スタート をクリックして［すべてのプログラム］にポインタを合わせ、［Norton AntiVirus］から［Norton AntiVirus 2002］をクリックする。

「Norton AntiVirus情報ウィザード」画面が表示されるので、［次へ］をクリックし、画面の指示に従って操作してください。すべての作業が終了すると「Norton AntiVirus」のメイン画面が表示されます。

メイン画面が表示されたら画面右上の ✕ をクリックして画面を閉じてください。

ご注意

本機の2回目以降の起動時に、「Norton AntiVirus情報ウィザード」画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。

12 本機を再セットアップする前にインターネットに接続していた場合は、「インターネットを始める」（106ページ）の手順に従ってインターネットへの接続の設定を行う。

コンピュータ廃棄時等のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、コンピュータはオフィスや家庭などでいろいろな用途に使われ、ハードディスクにはお客様の重要なデータが記録されています。

コンピュータを廃棄等するときには、これらの重要なデータを消去する必要があります。

データを消去する場合、一般には以下のような作業を行います。

- データを「ゴミ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ゴミ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- 付属のリカバリディスクで再セットアップを行い、工場出荷状態に戻す

これらの作業では、一見データが消去されたように見えますが、ハードディスク内のファイル管理情報が変更され、WindowsなどのOSのもとで呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っています。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある第三者により、重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

廃棄時などにハードディスク上の重要なデータが流出するトラブルを回避するためには、ハードディスク上に記録された全データを、**ユーザーの責任において消去することが非常に重要となります。**消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（いずれも有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、データを読み取れなくすることをおすすめします。

なお、消去のための専用ソフトウェアなどについての詳細は、バイオホームページ内“SUPPORT”ページ（URL:http://vcl.vaio.sony.co.jp/）より「ハードディスク上のデータ消去に関するご注意」をご参照ください。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- CD-RW／CD-RまたはDVD-RW／DVD-Rなどにデータを記録中に振動や衝撃を与えないでください。
- 直射日光が当たる場所、暖房器具の近くなど、異常な高温になる場所には置かないでください。故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- ほこりが多い場所では使用しないでください。
- 湿気が多い場所では使用しないでください。
- 風通しが悪い場所では使用しないでください。

結露について

結露とは空気中の水分が金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。そのままご使用になると故障の原因となります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。

ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイについて
  - 液晶ディスプレイの画面上に常時点灯している輝点（赤、青、緑など）や滅点がある場合があります。液晶パネルは非常に精密な技術で作られており、99.99%以上の有効画素がありますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。
  - 液晶ディスプレイパネルは非常に精密度の高い技術でつくられていますが、黒い点が現れたり、赤、青、緑の点が消えないことがあります。また、見る角度によってすじ状の色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、液晶ディスプレイの構造によるもので、故障ではありません。これらの点をご了承の上、本機をお使いください。
- ディスプレイの表面をぬれたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをついて体重をかけないでください。
- ディスプレイを戸外など寒冷な場所から室内へ持ち込むと、結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。管面または液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。全体が室温に暖まるまでお待ちください。
- ガラスの表面をカッターや鋭利な刃物で傷つけないでください。汚れを落とすときは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
- ベンジン、アセトン、アルコールなど有機溶剤はガラスを傷めることがありますので、使わないでください。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、本来はほこりや振動に弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。

ハードディスクにはほこりや振動からデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- 振動や衝撃を与えないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。

バックアップをとる

ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップをとることをおすすめします。

ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。

マウスについて

- マウスの底面から発している赤い光を直接見ると、目を傷める場合がありますので、避けてください。
- マウスのセンサー部分を汚したり、傷つけたりしないでください。

本機へのアナログ入力についてのご注意

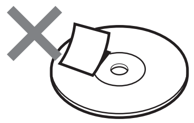
「DVgate」ソフトウェアまたは「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、本機のアナログ入力コネクタから静止画や動画を取り込むとき、静止画や動画にノイズが出たり、一時途切れたり、取り込みに失敗することがあります。これらの現象は、以下のように映像の同期信号が乱れた場合に起こります。

- 取り込む静止画や動画が乱れたとき、または本機に何も入力されていないとき
- 本機後面のVIDEO 1 INPUTコネクタまたはVIDEO 2 INPUTコネクタにつないだケーブルをつなぎかえたとき
- テレビ番組を入力中にテレビ局の放送信号が何らかの原因で乱れたとき
- 入力中のテレビ番組の電波が弱いとき、ノイズが入ったとき、または放送が行われてないとき
- ビデオデッキから映像入力中に、ビデオデッキのチャンネルや入力を切り換えたとき
- ビデオデッキや、ビデオカメラレコーダーから映像入力中に、ビデオテープのつなぎ撮りをした部分を再生したとき
- ビデオカメラレコーダーで録画中に振動やゆれを加えて撮ったテープを再生したとき
- 本機へ映像入力中に再生側のビデオデッキやビデオカメラレコーダーに振動やゆれが加わったとき

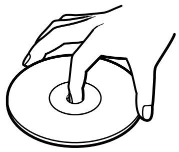
ディスクの取り扱いについて

ディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。ディスクは記録面が汚れるとデータの読み込みや書き込みができなくなります。記録面には触れないでください。

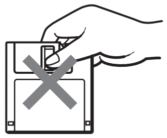


- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- 直射日光が当たって高温になった自動車の中に長時間放置しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。
- ディスクのレーベル面に文字などを書くときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなどで文字を書くと、記録面を傷つけ、データの読み込みや書き込みができなくなることがあります。

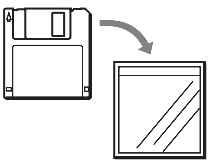
フロッピーディスクの取り扱いについて

フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。
- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。



- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。



ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。

また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは原則として禁じられています。ソフトウェアの使用許諾契約書をよくお読みの上、お使いください。

DVD-RWドライブおよびDVD-ROMドライブ（PCV-RZ70Pのみ）の地域番号（リージョンコード）書き換えについて

お買い上げ時、本機のディスクドライブの地域番号は「2」（日本）に設定されています。一部のソフトウェアにはこの地域番号を書き換える機能がありますが、お使いにならないでください。この機能をお使いになった結果生じた不具合につきましては、保証期間内でも有償修理とさせていただきます。

データのバックアップについて

ハードディスクドライブに保存している文書などのデータは、定期的にバックアップをとるようおすすめします。データの損失については、一切責任を負いかねます。

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows XP用、DOS/V用、PC/AT互換機用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。

ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。

市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。

お手入れ

本機／ディスプレイ／マウスのお手入れ

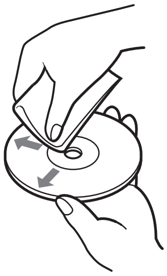
本機やディスプレイおよびマウスについたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。

ご注意

- 本機やディスプレイの電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてからお手入れをしてください。
- ぬれたもので本機やディスプレイおよびマウスを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

CD-ROM／DVD-ROMのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読み取りエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、更に乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

DVD-RW／DVD-R／CD-RW／CD-Rのお手入れ

- DVD-RW／DVD-R／CD-RW／CD-Rは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。
- ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- DVD-RW／DVD-R／CD-RW／CD-Rの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。
- DVD-RW／DVD-R／CD-RW／CD-Rは直射日光を避けて保存してください。

キーボードを掃除する

キーボードは長く使っていると、キーが汚れたり、キーの間にゴミやほこりがたまります。キーの間にゴミやほこりがたまると、キーを押しても目的の文字を入力できなくなったり、押したキーがへこんだまま元に戻らなくなることがあります。この場合は、キーボードを掃除します。

- 表面のゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- キーの側面は、綿棒でこすり取ってください。
- キーの間は、エア・スプレーなどでゴミやほこりを散らしてください。

ご注意

- 本機の電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、キーボードを本機から取りはずしてからキーボードを掃除してください。
- ぬれたものでキーボードを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときはその注意書に従ってください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月です。カスタマー登録していただいたお客様は1年間となります。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この取扱説明書をもう１度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、別冊の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。

ただし、故障の原因が不当な分解や改造であると判明した場合は、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。

詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではパーソナルコンピュータの修理は引取修理を行っています。

当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは別冊の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出す前に、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。弊社の修理により、ハードディスクなどのプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、弊社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではパーソナルコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- お客さまのカスタマーID：
- 型名：保証書に記載されています。
- 製造番号：
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

部品の交換について

この製品は修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

付属ソフトウェアのお問い合わせ先

本機に付属のソフトウェアはそれぞれお問い合わせ先が異なります。各ソフトウェアごとに記載された先へお問い合わせください。
なお、本機に付属のソフトウェアの起動方法やお使いになる際のご注意など詳しい情報は、下記の手順で本機の電子マニュアル「サイバーサポート」を表示させてご覧ください。

1　デスクトップ画面の をダブルクリックする。

「サイバーサポート」が表示されます。

2　画面左側の［付属ソフトの紹介］をクリックする。

3　表示されたリストから項目を選びソフトウェア名をクリックする。

ご注意

Windows XPは、Windows Meなどとは異なり、使用者がOS上で作業を行うには一定のユーザー権利とアクセス許可が必要です。本機に付属のソフトウェアの中でも同様に、一定のユーザー権利とアクセス許可が必要なものがあります。
インストールができない、機能の一部が使用できない、またはソフトウェアが起動できない場合などは、ログオンしているユーザーに必要なユーザー権利とアクセス許可が与えられていない可能性があります。その場合は、システムの管理が可能なユーザー名で再度ログオンするか、お使いのユーザー名に「コンピュータの管理者」の権利を与える設定にして作業をやり直してください。
「コンピュータの管理者」の権利使用を許可されていない場合は、職場などのシステム管理者にご相談ください。

ユーザー権利とアクセス許可について詳しくは、デスクトップ画面左下の［スタート］をクリックし、[コントロール パネル]→[ユーザーアカウント]を順にクリックして表示される「ユーザーアカウント」画面左のヘルプをご覧ください。
なお、ソフトウェアによっては、ユーザーの簡易切り替えに対応していないものがあります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧になるか、各ソフトウェアの「お問い合わせ先」にお問い合わせください。

テレビ録画

- ❑ Giga Pocket Version 5.0
（テレビ録画／管理／再生 統合ソフト）
VAIOカスタマーリンク

- ❑ PicoPlayer Version 5.0
（Giga Pocket専用ビューワー／コントローラー）
VAIOカスタマーリンク

- ❑ iRCommander
（Giga Pocket リモート予約）
VAIOカスタマーリンク

- ❑ Simple DVD Maker Version 1.2
（Giga Pocket DVD作成ツール）
VAIOカスタマーリンク

ビデオ編集・再生

- ❑ DVgate Version 2.6
（デジタルビデオ動画／静止画入出力／簡易編集）
VAIOカスタマーリンク

- ❑ MovieShaker Version 3.3
（動画編集・加工）
VAIOカスタマーリンク

- ❑ Adobe® Premiere® 6.0 **日本語版（PCV-RZ70Pのみ）**
（動画編集・加工）
アドビシステムズ テクニカルサポート
電話番号：0570-023623（ナビダイヤル）
初回コールより90日間の無料サポート。以降は同社による有料サポートメニューが用意されています。
有料サポートのお申し込み手続きについては、アドビシステムズサポート契約センターへ（電話：(03)5350-8688）

ご注意

アドビシステムズ株式会社の登録用紙には、ユーザー登録、サポートを受ける際に必要となる「シリアル番号」が印刷されています。
登録用紙を保管するか、コピーするなどして、「シリアル番号」を大切に保管してください。

- ❑ Adobe® Premiere® 6 LE **日本語版（PCV-RZ60のみ）**
（動画編集・加工）
アドビシステムズ テクニカルサポート
電話番号：0570-023623（ナビダイヤル）
初回コールより90日間の無料サポート。以降は同社による有料サポートメニューが用意されています。
有料サポートのお申し込み手続きについては、アドビシステムズサポート契約センターへ（電話：(03)5350-8688）

ご注意

シリアル番号の保管について
アドビシステムズ株式会社のアップグレードチラシ（付属）には、ユーザー登録、ならびに特別優待価格でフルバージョンへアップグレードする際に必要となる「シリアル番号」が印刷されています。
アップグレードチラシを保管するか、チラシをコピーするなどして、「シリアル番号」を大切に保管してください。

- VAIO Edit Components Version 2.0（PCV-RZ70P/RZ60のみ）（Adobe Premiere 6.0プラグイン）
  VAIOカスタマーリンク

- VAIO Edit Components Version 2.0 LE（PCV-RZ60のみ）（Adobe Premiere LEプラグイン）
  VAIOカスタマーリンク

- 編集用素材CD-ROM（「編集ガイドブック」に付属）（PCV-RZ70P/RZ60のみ）（素材集）
  VAIOカスタマーリンク

- QuickTime 5（ムービープレーヤー）
  VAIOカスタマーリンク

- RealPlayer 8 Basic（ストリームプレーヤー）
  リアルネットワークス株式会社　サポートセンター
  電話番号：（03）5302-2313

- PowerDVD™ XP for VAIO（DVDビデオ再生）
  VAIOカスタマーリンク

DVD作成

- Click to DVD（DVD作成ソフト）
  VAIOカスタマーリンク

- DVDit! for VAIO（DVD-Videoオーサリングソフト）
  三信電気株式会社
  DVDit! サポートセンター
  電話番号：（03）5232-5065
  受付時間：10時～12時、13時～17時、月曜日～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）
  電子メール：DVD-IT@sanshin.co.jp
  ホームページ：http://jp.dvdit.com/dvdit/

- TMPGEnc DVD Source Creator for VAIO（MPEGソフトエンコーダー）
  株式会社ペガシス ペガシスサポートセンター
  電話番号：（03）5624-2161

音楽

❑ SonicStage Version 1.5
（OpenMG対応音楽ファイル管理／再生ソフト）
VAIOカスタマーリンク

❑ DigiOnSound®2 L.E. for VAIO
（PCV-RZ70Pのみ）
（サウンド編集）
株式会社デジオン
電話番号：(092)833-6279
ファックス番号：(092)833-6278
電子メール：info@digion.com

❑ Windows Media™ Player 8
（AV管理／再生統合ソフト）
VAIOカスタマーリンク

静止画・写真

❑ PictureGear Studio Version 1.0
（静止画管理／加工／プリント統合ソフト）
VAIOカスタマーリンク

❑ Adobe® Photoshop® Elements
（静止画作成・加工（フォトレタッチ））
アドビシステムズ テクニカルサポート
電話番号：0570-023623（ナビダイヤル）
初回コールより90日間の無料サポート。以降は同社による有料サポートメニューが用意されています。
有料サポートのお申し込み手続きについては、アドビシステムズサポート契約センターへ（電話：(03)5350-8688）

ご注意

シリアル番号の保管について
アドビシステムズ株式会社のアップグレードチラシ（付属）には、ユーザー登録、ならびに特別優待価格でフルバージョンへアップグレードする際に必要となる「シリアル番号」が印刷されています。
アップグレードチラシを保管するか、チラシをコピーするなどして、「シリアル番号」を大切に保管してください。

ホームネットワーク

❑ VAIO Media Version 2.0
（音楽・静止画・ビデオ統合プレーヤー）
VAIOカスタマーリンク

❑ VAIO Media Platform Version 2.0
（統合サーバー環境）
VAIOカスタマーリンク

コミュニケーション

❑ Network Smart Capture Version 1.0
（ビジュアルコミュニケーション）
VAIOカスタマーリンク

❑ Q-ze Talk **（キュゼ・トーク）** Version 1.2
（オンラインビジュアルコミュニケーション）
VAIOカスタマーリンク

❑ URecSight Version 2.2
（インターネット放送）
VAIOカスタマーリンク

インターネット・メール

❑ Microsoft® Outlook Express 6
（電子メール）
VAIOカスタマーリンク

❑ Microsoft® Internet Explorer 6
（インターネットブラウザ）
VAIOカスタマーリンク

ISPサインアップ

❑ インターネット接続サービスご紹介

■So-net簡単スターター
(サービスプロバイダ)

So-netインフォメーションデスク
電話番号:(0570)00-1414(全国共通)
携帯・PHSからおかけになる場合は、こちらへおかけください。
札幌(011)711-3765/仙台(022)256-2221/東京(03)3446-7555/名古屋(052)819-1300/大阪(06)6577-4000/広島(082)286-1286/福岡(092)624-3910
受付時間:10時～21時　年中無休
ご入会方法、サービス内容のお問い合わせ、各種会員情報の変更方法や課金状況の確認などのお問い合わせは、上記の電話番号のほか、ファックスや電子メールでも承ります。また、ホームページでもご確認いただけます。
ファックス番号:(03)3446-7557
電子メール:info@so-net.ne.jp
ホームページ:http://www.so-net.ne.jp/access/

■@niftyでインターネット
(サービスプロバイダ)

ニフティ株式会社　@nifty入会センター
電話番号:(0120)816-042(フリーダイヤル)
携帯・PHS・国際電話の場合:(03)5753-2374
(電話料金はお客様ご負担となります)
受付時間:毎日9時～21時
(ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。)

■ODNスターターキットソフトウェア
(サービスプロバイダ)

日本テレコム株式会社　ODNサポートセンター
サポートページ:http://www.odn.ne.jp/counter/
電話番号:0088-86(無料)ODNダイヤルアップサービス(まるごと、ベーシック、モバイルの各プラン)
0088-222-375(無料)ODNブロードバンドサービス(ADSL、フレッツADSL、Bフレッツの各プラン)

■DION オンラインサインアッププログラム
(サービスプロバイダ)

KDDIカスタマサービスセンター
受付時間:9時～21時(土・日・祝日も受付中)
サービス内容に関するお問い合わせ
電話番号:(0077)7192(無料)
接続・設定などに関するお問い合わせ
電話番号:(0077)7084(無料)
ADSLコースについては24時間受付中!
夜間はお問い合わせ内容によって、翌日にご回答させていただく場合があります。

■OCNスタートパックfor Windows
(サービスプロバイダ)

OCNスタートパックヘルプデスク
電話番号:(0120)047-747(フリーダイヤル)
受付時間:9時～21時(月～金曜日)
9時～17時(土曜日・日曜日・祝日)
電子メール:info@ocn.ad.jp

■ぷらら入会/接続ソフト(P'zDialer)
(サービスプロバイダ)

株式会社ぷららネットワークス「ぷららダイヤル」
入会専用:(0120)488912(スバヤクイージー)
テクニカル:(03)5954-5311

■AOL 7.0 for Windows
(サービスプロバイダ)

株式会社ドコモAOL　AOLメンバーサポートセンター
受付時間:9時～21時(土・日・祝日もOK)
会員サポート・入会問い合わせ:
(0120)275-265(フリーダイヤル)
携帯電話および国際電話によるサポート:
(03)5331-7400
電子メール:AOLJapanMS@aol.com

■BIGLOBEでインターネット
(サービスプロバイダ)

BIGLOBEカスタマーサポート　インフォメーションデスク
電話番号:(0120)86-0962(フリーダイヤル)
携帯電話・PHS・CATV電話:(03)3947-0962
受付時間:24時間365日
電子メール:お問い合わせは以下のフォームをご利用ください。
http://support.biglobe.ne.jp/ask.html
ホームページ:http://support.biglobe.ne.jp/

■Yahoo! BB
(サービスプロバイダ)

Yahoo! BB カスタマーサポートセンター
電話番号:(0570)919-820(受付24時間　年中無休)
ホームページ:http://bb.yahoo.co.jp/
電子メール:info@ybb-support.jp

実用ツール

- **RecordNow DX（DVD-R/RW・CD-R/RW ライティングソフトウェア）**
  http://www.easy.co.jp/jrndx4/sony/

- **Navin' You Version 5.5（デジタルマップナビゲーター）**
  VAIOカスタマーリンク

- **MapCutter Version 2.1（CLIE用地図切り出しツール）**
  VAIOカスタマーリンク

- **Navin' You専用マップ3サンプル版（サンプル地図データ）**
  株式会社ゼンリン　お客様ご相談窓口
  電話番号：(03)5259-5077
  受付時間：10時〜12時／13時〜17時
  月〜金（祝日は除く）

- **Navin' You専用グルメスポットby Walkerplus.com（ユーザーズポイントサンプルデータ）**
  株式会社ウォーカープラス・ドット・コム編集制作部
  ファックス番号：(03)3234-4613
  電子メール：webmaster@walkerplus.com

- **乗換案内 時刻表対応版（電車交通案内）**
  乗換案内ユーザーサポート
  電話番号：(03)5369-4055
  受付時間：10時〜12時/13時〜17時
  月〜金曜日（祝日は除く）

- **Adobe® Acrobat® Reader 5.0J（PDFビューワー）**
  VAIOカスタマーリンク

- **Norton AntiVirus 2002（ウイルスチェッカー）**
  シマンテックテクニカルサポートセンター
  電話番号：(03)3476-1118
  受付時間：平日10時〜12時、13時〜17時
  （土・日・祝日・年末年始を除く）
  FAX：(03)3477-1118
  なお、上記サポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。
  http://shop.symantec.co.jp/oem/sony.html
  カスタマーID取得に関するお問い合わせ
  シマンテックカスタマーサービスセンター
  電話番号：(03)3476-1156
  受付時間：平日10時〜12時、13時〜17時
  （土・日・祝日・年末年始を除く）
  FAX：(03)3476-1159

ご注意

「Norton AntiVirus 2002」ソフトウェアは、本機初回起動時より180日間無償でウイルス定義ファイル（ワクチンファイル）のアップデートができます。それ以降は、ウイルス定義ファイルのアップデートは有償になります。新種のウイルスに対応するため、ウイルス定義ファイルは常に更新することをおすすめします。
テクニカルサポート提供期間はウイルス定義ファイル無償更新期間と同じく180日間となります。
ウイルス定義ファイルの有償アップデートについて詳しくは、以下のシマンテックホームページをご覧になり、お申し込みください。
http://shop.symantec.co.jp/oem/sony.html
ウイルス定義ファイルの有償アップデートのお申し込みについては、下記にお問い合わせください。
シマンテックストア
電話番号：(03)3476-1192
FAX：(03)3780-9988
電話受付時間：月〜金10時〜12時、13時〜17時（土・日・祝日・年末年始を除く）

設定・ユーティリティ

❑ **バイオメニュー（バイオ専用ソフトウェアランチャー）**
VAIOカスタマーリンク

❑ VAIO Action Setup Version 1.5 **（アプリケーション等起動設定）**
VAIOカスタマーリンク

❑ DV**アナログ入出力切り替えツール（**PCV-RZ70P/RZ60**のみ）**
VAIOカスタマーリンク

❑ **システム情報**
VAIOカスタマーリンク

サポート・ヘルプ

❑ CyberSupport for VAIO Version 4.0**（バイオマニュアル）**
VAIOカスタマーリンク

❑ **できる**Windows XP for VAIO **（**Windows**入門書）**
インプレスカスタマーセンター
電話番号：（03）5213-9295

❑ How to VAIO **（バイオの基礎を学習）**
VAIOカスタマーリンク

その他

❑ VAIO**オンラインカスタマー登録（オンラインカスタマー登録）**
ソニーマーケティング株式会社
VAIOカスタマー専用デスク
電話番号：（03）5977-7255
受付時間：月曜～金曜日　10時～18時
（土曜、日曜、祝日、年末年始を除く）

❑ UI Design Selector **（**VAIO**オリジナル**GUI**セットアップ）**
VAIOカスタマーリンク

❑ Grami Best Selection・Grami Stick **（ご紹介コンテンツ[単独インストール]）**
サイバージーンドットコム株式会社
Gramiお問い合わせ窓口
電子メール：info@grami.ne.jp
受付日時：月曜～金曜（回答も平日のみとさせて頂きますのでご了承ください。）

❑ **オンラインサービスご紹介**

■**イメージステーション**
ソニースタイルカスタマーセンター
電話番号：（0466）30-3012
受付時間：10時～18時（土・日・祝日・年末年始は除く）
電子メール：info@imagestation.jp

■**パーキャス**TV
ソニースタイルカスタマーセンター
電話番号：（0466）30-3012
受付時間：10時～18時（土・日・祝日・年末年始は除く）
電子メール：info@percastv.net

■Webpocket
ウェブポケットカスタマーセンター
電子メール：wp-info@webpocket.net
受付時間：10時～18時（土・日・祝日、および年末年始は除く）

■今すぐとろう！バイオメールアドレス

ソニースタイルカスタマーセンター
電話番号：（0466）30-3012
電子メール：
v-networkservice@vs01.vaio.ne.jp
受付時間：10時〜18時（月曜〜金曜。土・日・祝日・年末年始を除く）

■ Norton AntiVirus **ウイルス定義ファイル購入**

ウイルス定義ファイルの有償アップデートについて詳しくは、以下のシマンテックホームページをご覧になり、お申し込みください。
http://shop.symantec.co.jp/oem/sony.html
ウイルス定義ファイルの有償アップデートのお申し込みについては、下記にお問い合わせください。
シマンテックストア
電話番号：（03）3476-1192
FAX：（03）3780-9988
電話受付時間：月〜金 10時〜12時、13時〜17時（土・日・祝日・年末年始を除く）

■ gu mantan WEB

デザインエクスチェンジ株式会社
DEXインフォメーション
電子メール：info@dex.ne.jp

■イープラス

（株）エンタテインメントプラス
ホームページ：http://eee.eplus.co.jp/

■ UPGRADE AREA**（アップグレードエリア）**

ソニースタイルカスタマーセンター
電話番号：（03）5783-1254
電子メール：
vaio-upgradecenter@sony.co.jp

■ソニースタイル

ソニーマーケティング株式会社
ソニースタイルカスタマーセンター
電話番号：（03）5783-1122
受付時間：10時〜18時（土・日・祝日・年末年始は除く）
電子メール：info@jp.sonystyle.com

■インプレスダイレクト

株式会社インプレスコミュニケーションズ
インプレスダイレクト カスタマーセンター
電話番号：（03）5275-9051
受付時間：10時〜12時、13時〜17時30分（土・日・祝日は除く）
電子メール：sales@ips.co.jp

■ MONEYKit by SonyBank

ソニーバンク カスタマーセンター
電話番号：（0570）0-36524
（携帯電話・PHS・海外からご利用いただく場合は（03）5439-4900）
受付日：1月1日〜3日および5月3日〜5日を除く毎日
受付時間：9時〜20時（平日）　9時〜17時（土・日・祝日）（12月31日　9時〜17時）
サービスサイト：http://moneykit.net/
上記サービスサイトの［カスタマーセンター］-［サービス内容について］-［お問い合わせ］からお問い合わせください。

オンラインCDストアのご紹介

■ @TOWER.JP

タワーレコード デジタルビジネス事業部 オンラインショッピング御客様専用窓口
電話番号：（0120）051096　(お客様専用) (携帯電話・PHSからもご利用になれます。）
受付時間：10時〜22時（月曜〜金曜）（土・日・祝日はお休みをいただいております。）
電子メール：support@towerrecords.co.jp
オンラインショッピング全般について（掲載商品・在庫・ご注文全般・決済関係全般・配送・技術関係）
ホームページ：http://www.towerrecords.co.jp/sitemap/CSfHelpMain.jsp?HELP_PAGE=help-inquiry.html

■**アマゾンミュージックストア**

Amazon.co.jp カスタマーサービス
電子メール：info@amazon.co.jp
ホームページ：http://www.amazon.co.jp

■ HMV（online musicstore）

HMV カスタマーサービス部
電話番号：（047）700-9200
受付時間：10時〜20時（平日）　10時〜18時（土・日・祝日）
時間、メール、URLに関しては下記ホームページのヘルプをご覧ください。
ホームページ：http://www.hmv.co.jp/#HELP1

■**すみや**MEDIAMAX CYBER SHOP

すみやMedia Max Cyber Shop
電話番号：（054）251-9511
受付時間：10時〜18時（月曜〜土曜）日曜・祝日はお休み
電子メール：customer@sumiya.co.jp
ホームページ：http://mediamax.sumiya.co.jp

■ MUSICNAVI

MUSICNAVIカスタマーサポート
電話番号：（03）5445-1330
受付時間：10時〜17時（平日）土・日・祝日を除く
電子メール：http://www13.cplaza.ne.jp/cgi-bin/musicnavi/inq/w
ホームページ：http://musicnavi.cplaza.ne.jp/snc/index_snc2.html

❑ リカバリディスク

VAIOカスタマーリンク

主な仕様

モデル	PCV-RZ70P	PCV-RZ60
OS	Microsoft® Windows® XP Professional	Microsoft® Windows® XP Home Edition
プロセッサー	Pentium® 4　プロセッサー　2.80 GHz	Pentium® 4　プロセッサー　2.53 GHz
キャッシュメモリー	1次キャッシュ 12Kμ命令 実行トレースキャッシュ[*2]／8KB・データキャッシュ／2次キャッシュ512KB（CPU内蔵）	
チップセット	インテル 850Eチップセット	
システムバス	533MHz	
メインメモリー　標準／最大	512MB／1GB（RDRAM PC800-40対応）	256MB／1GB*[3]（RDRAM PC800-40対応）
拡張メモリースロット（空きスロット数）	RIMMスロット（RDRAM 184ピン）×4（2）	
グラフィックアクセラレーター	NVIDIA GeForce4 MX440™（AGP 4×モード動作）	
ビデオメモリー	64MB（DDR SDRAM）	
表示モード（RGB接続時）[*5]	1677万色（1600×1200、1280×1024、1024×768、800×600、640×480）	
表示モード（DVI接続時）[*5]	1677万色（1600×1200、1280×1024、1024×768、800×600、640×480）	
フロッピーディスクドライブ	3.5型（1.44MB／720KB[*6]）×1	
ハードディスクドライブ	約160GB（Ultra ATA/100） Cドライブ約20GB／Dドライブ約140GB[*7]	
MPEG映像録画時間（最大）[*8]	高画質 約38時間／標準 約75時間／長時間 約205時間	
DV映像記録時間（最大）[*8]	約10時間	
CD/DVDドライブ	DVD-RWドライブ • 書き込み：最大8倍速（CD-R）、最大4倍速（CD-RW）[*9]、最大2倍速（DVD-R）[*10]、等倍速（DVD-RW）[*11] • 読み出し：最大24倍速（CD-ROM・CD-R・CD-RW）、最大6倍速（DVD-ROM）、最大2倍速（DVD-R・DVD-RW） Buffer underrun防止機能：CD-R/RW、DVD-R/RW書込時有効 DVD-ROMドライブ • CD最大40倍速、DVD最大16倍速	DVD-RWドライブ • 書き込み：最大8倍速（CD-R）、最大4倍速（CD-RW）[*9]、最大2倍速（DVD-R）[*10]、等倍速（DVD-RW）[*11] • 読み出し：最大24倍速（CD-ROM・CD-R・CD-RW）、最大6倍速（DVD-ROM）、最大2倍速（DVD-R・DVD-RW） Buffer underrun防止機能：CD-R/RW、DVD-R/RW書込時有効
外部接続端子（背面）	• キーボード（PS/2、MiniDIN×1） • マウス（PS/2、MiniDIN×1） • パラレル（D-sub 25ピン×1） • USB 2.0 ×2、USB 1.1 ×2 • オーディオ入力（ライン入力：ステレオミニジャック×1、マイク入力：モノラル、ミニジャック×1） • ヘッドホン出力（ステレオミニジャック×1） • ネットワークコネクター（100BASE-TX/10BASE-T ×1） • ディスプレイ出力（VGAタイプ、D-sub 15ピン×1／DVIタイプ×1）[*12] • 光デジタルオーディオ出力×1 • モデム用モジュラージャック×2（LINE、PHONE） • i.LINK S400（6ピン）×1	
MPEG2リアルタイムエンコーダーボード用接続端子（背面）	• ビデオ入出力（ビデオ・Sビデオ共用特殊端子、MiniDIN、IN×1／OUT×1） • オーディオ入出力（ステレオ、ミニジャック、IN×1／OUT×1） • TVアンテナ入力（75Ω、F型コネクター×1）	
外部接続端子（前面）	• USB 2.0 ×2 • i.LINK S400（4ピン）×1 • MPEG2リアルタイムエンコーダボード用入力端子 （・ビデオ入力：ビデオ×1、Sビデオ×1　・オーディオ入力：ピンジャック、ステレオ×1）	
メモリースティックスロット[*13]	メモリースティックスロット×1	
PCカードスロット	TypeII ×1、CardBus対応	
MPEG2リアルタイムエンコーダーボード	• ビデオキャプチャ機能（ビデオ入力→MPEGリアルタイム変換機能） • TVチューナー付き（VHF 1ch-12ch、UHF 13ch-62ch、CATV C13-C35[*14]、ステレオ、2か国語） • S-ビデオ、コンポジット入出力端子（入力2系統、出力1系統） • オーディオ入出力端子（入力2系統、出力1系統） • DV←→アナログ/MPEG変換機能 • 高画質化回路（3次元Y／C分離、3次元デジタルノイズリダクション、ゴーストリダクション） • 圧縮モード（選択可能） ー 高画質モード（MPEG2 8Mbps 720×480 30fps）約17分/1GB ー 標準モード（MPEG2 4Mbps 720×480 30fps）約34分/1GB ー 長時間モード（MPEG1 1.41Mbps 352×240 30fps）約94分/1GB	
拡張スロット（空きスロット数）	PCI×3（1）[*15] AGP×1（0）	
拡張ベイ（空きベイ数）	3.5インチ（ハードディスク用）×2（1）、5インチ×2（0）	3.5インチ（ハードディスク用）×2（1）、5インチ×2（1）
オーディオ機能	AC97準拠オーディオ、3Dオーディオ（Direct Sound 3D）対応	
内蔵モデム	最大56kbps（V.90）[*16]／最大33.6kbps（V.34）／最大14.4kbps（FAX時）	
主な付属品	「付属品を確かめる」（34ページ）をご覧ください。	
電源	AC100V±10%／50〜60Hz	
消費電力	約103W（最大約300W）／スタンバイ時約3W	約101W（最大約300W）／スタンバイ時約3W
エネルギー消費効率	R区分 0.000402	R区分 0.000445
定格消費電流	4.5A	
電源その他	I.LINK電源出力：10〜12V　6W（合計）動作温度：10℃〜35℃（温度勾配10℃/時）以下、動作湿度：40%〜80%（結露のないこと）、保存温度：-20℃〜60℃（温度勾配10℃/時）以下、保存湿度20%〜80%（結露のないこと）	
本体外形寸法	本体：幅195mm × 高さ380mm × 奥行391mm（突起物を除く） キーボード：幅420mm × 高さ48mm × 奥行180mm	
質量	約14kg（本体）／約1kg（キーボード）	約13.5kg（本体）／約1kg（キーボード）
対応ディスプレイ	PCVD-17SD1、PCVD-15XD6など	
増設メモリモジュール	PCVA-MM512X	

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますがご了承ください。

[*1] 533MHzのシステムデバイスを採用したPentium4 2.4GHzの呼称です。

[*2] 最大12,000のデコード済みマイクロ命令をキャッシュすることにより、命令デコードに要する時間を不要にします。

[*3] 標準実装されている128MBメモリーモジュール2枚を取りはずし、512MBメモリーモジュール4枚（PCVA-MM512X 2組）を増設した場合です。

[*4] 標準実装されている256MBメモリーモジュールを取りはずし、512MBメモリーモジュール（PCVA-MM512D）を3枚増設した場合です。

[*5] 本体から出力可能な表示モードです。付属ディスプレイにより表示できない場合があります。

[*6] 720KBの読み書きは可能ですが、フォーマットはできません。

[*7] 1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。Windowsのシステムでは、1GBを1,073,741,824バイトで計算しています。Windows起動時に認識できる容量は、PCV-RZ70P/RZ60では約149GB（Cドライブ：約19GB、Dドライブ：約130GB）、PCV-RZ50では約111GB（Cドライブ：約18GB、Dドライブ：約93GB）となります。ファイルシステムはNTFSです。

[*8] 記録可能なMPEG映像、およびAVI（DV）ファイルの容量は、映像の内容によって多少前後することがあります。

モデル	PCV-RZ50
OS	Microsoft® Windows® XP Home Edition
プロセッサー	Pentium® 4　プロセッサー 2.40 GHz[*1]
キャッシュメモリー	1次キャッシュ 12Kμ命令 実行トレースキャッシュ[*2]／8KB·データキャッシュ／2次キャッシュ512KB（CPU内蔵）
チップセット	SiS 651チップセット
システムバス	533MHz
メインメモリー　標準／最大	256MB／1.5GB[*4]（DDR SDRAM DDR266対応）
拡張メモリースロット（空きスロット数）	DIMMスロット（DDR SDRAM 184ピン）×3（1）
グラフィックアクセラレーター	SiS 651チップセット内蔵
ビデオメモリー	32MB（メインメモリー共有）
表示モード（RGB接続時）[*5]	1677万色（1280×1024、1024×768、800×600、640×480）
表示モード（DVI接続時）[*5]	1677万色（1280×1024、1024×768、 800×600、640×480）
フロッピーディスクドライブ	3.5型（1.44MB／720KB[*6]）×1
ハードディスクドライブ	約120GB（Ultra ATA/100） Cドライブ約20GB／Dドライブ約100GB[*7]
MPEG映像録画時間（最大）[*8]	高画質 約27時間／標準 約53.5時間／長時間 約146.5時間
DV映像記録時間（最大）[*8]	約7時間
CD/DVDドライブ	DVD-RWドライブ • 書き込み： 最大8倍速（CD-R）、最大4倍速（CD-RW）[*9]、最大2倍速（DVD-R）[*10]、等倍速（DVD-RW）[*11] • 読み出し：最大24倍速（CD-ROM·CD-R·CD-RW）、最大6倍速（DVD-ROM）、最大2倍速（DVD-R·DVD-RW） Buffer underrun防止機能：CD-R/RW、DVD-R/RW書込時有効
外部接続端子（背面）	• キーボード（PS/2、MiniDIN×1） • マウス（PS/2、MiniDIN×1） • パラレル（D-sub 25ピン×1） • USB 2.0 ×4 • オーディオ入力（ライン入力：ステレオミニジャック×1、マイク入力：モノラル、ミニジャック×1） • ヘッドホン出力（ステレオミニジャック×1） • ネットワークコネクター（100BASE-TX/10BASE-T ×1） • ディスプレイ出力（VGAタイプ、D-sub 15ピン×1／DVIタイプ×１）[*12] • 光デジタルオーディオ出力 ×1 • モデム用モジュラージャック×2（LINE、PHONE） • i.LINK S400（6ピン）×1
MPEG2リアルタイムエンコーダーボード用接続端子（背面）	• ビデオ入出力（ビデオ·Sビデオ共用特殊端子、MiniDIN、IN×1／OUT×1） • オーディオ入出力（ステレオ、ミニジャック、IN×1／OUT×1） • TVアンテナ入力（75Ω、F型コネクター×1）
外部接続端子（前面）	• USB 2.0 ×2 • i.LINK S400（4ピン）×1 • MPEG2リアルタイムエンコーダボード用入力端子 （·ビデオ入力：ビデオ×１、Sビデオ×1　·オーディオ入力：ピンジャック、ステレオ×1）
メモリースティックスロット[*13]	メモリースティックスロット×1
PCカードスロット	TypeII ×1、CardBus対応
MPEG2リアルタイムエンコーダーボード	• ビデオキャプチャ機能（ビデオ入力→MPEGリアルタイム変換機能） • TVチューナー付き（VHF 1ch-12ch、UHF 13ch-62ch、CATV C13-C35[*14]、ステレオ、2か国語） • S-ビデオ、コンポジット入出力端子（入力2系統、出力1系統） • オーディオ入出力端子（入力2系統、出力1系統） • 高画質化回路（3次元Y／C分離、3次元デジタルノイズリダクション、ゴーストリダクション） • 圧縮モード（選択可能） ー 高画質モード（MPEG2 8Mbps 720×480 30fps）約17分/1GB ー 標準モード（MPEG2 4Mbps 720×480 30fps） 約34分/1GB ー 長時間モード（MPEG1 1.41Mbps 352×240 30fps）約94分/1GB
拡張スロット（空きスロット数）	PCI×3 （1）[*15] AGP×1（0）
拡張ベイ（空きベイ数）	3.5インチ（ハードディスク用）×2（1）、5インチ×2（1）
オーディオ機能	AC97準拠オーディオ、3Dオーディオ（Direct Sound 3D）対応
内蔵モデム	最大56kbps（V.90）[*16]／最大33.6kbps（V.34）／最大14.4kbps（FAX時）
主な付属品	「付属品を確かめる」（34ページ）をご覧ください。
電源	AC100V±10%／50～60Hz
消費電力	約87W（最大約300W）／スタンバイ時約3W
エネルギー消費効率	R区分 0.000469
定格消費電流	4.5A
電源その他	I.LINK電源出力：10～12V　6W（合計）動作温度：10℃～35℃（温度勾配10℃/時）以下、動作湿度：40%～80%（結露のないこと）、保存温度：-20℃～60℃（温度勾配10℃/時）以下、保存湿度20%～80%（結露のないこと）
本体外形寸法	本体：幅195mm × 高さ380mm × 奥行391mm（突起物を除く） キーボード：幅420mm × 高さ48mm × 奥行180mm
質量	約13.5kg（本体）／約1kg（キーボード）
対応ディスプレイ	PCVD-17SD1、PCVD-15XD6など
増設メモリモジュール	PCVA-MM256D、PCVA-MM512D

[*9] High Speed CD-RWディスクの書き込みに対応していますが、書き込み速度は、最大4倍速となります。

[*10] DVD-Rは、DVD-R for General Ver.2.0に準拠したディスクの書き込みに対応しています。

[*11] DVD-RWは、DVD-RW Ver.1.1に準拠したディスクの書き込みに対応しています。

[*12] 本機のDVI端子は、専用ディスプレイPCVD-17SD1·15XD6で動作を確認しています。また、別売りのソニー製ディスプレイでの動作確認状況は、ソニー·コンピューターディスプレイホームページ（http://www.sony.co.jp/sd/products/Consumer/Peripheral/Display/）をご覧ください。

[*13] 画像ファイルなど、通常のファイルデータの読み出し／書き込み専用です。「マジックゲート メモリースティック」に著作権保護（暗号化）を施して記録された音声ファイルは、このスロットに装備した状態で再生することはできません。

[*14] CATVの受信はサービス（放送）の行われている地域でのみ受信可能です。CATVを受信するときには、使用する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。更に、スクランブルがかかった放送の視聴·録画には、ホームターミナルが必要です。詳しくは、その地域のCATV会社にお問い合わせください。

[*15] ボード長が32cmを超えるPCIボードは装着できません。

[*16] 56kbpsはデータ受信時の理論値です。データ送信時は33.6kbpsが最大速度になります。

索引

【ア行】

アイコン 85
アクセスポイント 115
アクティブスピーカー 48
アクティブなウィンドウ 89
アドレスバー 141
アナログ入力 220
アンテナコネクタ 39, 40, 56
イーサネット 168
インターネット 106
　トラブル 108
インターネットサーバー 136
インターネットサービス
　プロバイダ 107
インターネット接続サービス
　......105, 107
ウイルス 109, 204
ウィンドウ 85, 88
　切り換える 88
　最小化 89
　サイズを変える 89
　最大化 89
　閉じる 89
　開く 88
ウェブブラウザ 108, 139
映像入力／出力コネクタ
　......37, 38, 39, 40,
　......59, 159, 160, 161
液晶ディスプレイ 45
　取り扱いについて 219
オプティカルマウス 87
　取り扱いについて 220
オフライン作業 147
オンラインサインアップ 111

【カ行】

拡張デバイスベイ
　取り付ける 196
　取りはずす 200
拡張ボード
　空きスロット 171
　種類 171
　増設する 171
　取り付ける 175
　取りはずす 178
　プラグアンドプレイ 173
　PCI拡張ボード 171
各部のなまえ 37, 84, 86, 88
カスタマーご登録 96
カタカナ入力 92
かな入力 93
キーボード
　お手入れ 223
　接続 49
　文字の入力 92
休止状態 82
結露 219
ごみ箱 84, 91
コンピュータウイルス
　......109, 204

【サ行】

再セットアップ 206
サイバーサポート 5
受信メールサーバー 117
省電力機能 82
ジョグコントローラー 42
スクロールバー 88
スタートボタン 84
スタンバイモード 82
スロット
　拡張メモリ 179
接続 45
　アクティブスピーカー 48
　アンテナ 56
　キーボード 49
　ジョグコントローラー 61
　ディスプレイ 45
　デジタル機器 166
　デジタルビデオカメラ
　レコーダー 152
　テレビ 161
　電源コード 62
　電話回線 51
　ビデオカメラレコーダー
　......158
　ビデオデッキ 58, 59, 158
　プリンタ 162
　マウス 49
　ISDN回線 53
　i.LINK対応機器 152
　USB機器 163
設置 43
送信メールサーバー 117
ソフトウェアの不正コピー禁止
　......221

【タ行】

ターミナルアダプタ 53, 108
タイトルバー 88
ダイヤルアップ接続 116
タスクトレイ 84
タスクバー 84, 89
断片化 214
ツールバー 88
ディスプレイ
　お手入れ 223
　接続 45
デジタルビデオカメラレコーダー
　......152
デスクトップ画面 84
デバイス
　増設する 196
　取り付ける 196
　取りはずす 200
デフラグ（最適化） 214
テレビ
　地域設定 73
　チャンネル設定 73, 76
　テレビにつなぐ 161
　テレビを見る準備をする ...71
電源
　電源ボタン 37, 38, 63
　電源ランプ 37, 38, 63
　電源を入れる 63
　電源を切る 80
電子マニュアル 5
電子メール 131, 146
　電子メールアドレス
　......101, 117
　電子メールソフトウェア
　......108, 131
　トラブル 108
　やりとりする 146
電話回線
　電話回線ジャック
　......39, 40, 52
　電話機ジャック
　......39, 40, 51, 52
動画系ソフトウェアの使いかた
　......202
トーン式ダイヤル 103, 116
ドライバ 162, 168, 174

【ナ行】

ネットワーク 165
ネットワークカード 168
ネットワークコネクタ 165

【ハ行】

パーティション 214
ハードディスク
　ドライブを増設する 189
　取り扱いについて 220
　取り付ける 190
　取りはずす 192
　バックアップをとる 220
ハードディスクアクセスランプ
　......37, 38
パームレスト 49
パスワードリマインダー 101
パルス式ダイヤル 103, 116
ビデオカメラレコーダー 158
ビデオデッキ 58, 59, 158
ひらがな入力 92

ファイル 90
　削除 91
　ファイルを作る 90
　フォルダを作る 90
フォルダ 90
複数ユーザー 69
付属ソフトウェア 225
付属品 34
プラグアンドプレイ 173
プリンタ 162
フロッピーディスク
　アクセスランプ 37, 38
　イジェクトボタン 37, 38
　取り扱いについて 221
フロッピーディスクドライブ
　.....................................37, 38
プロバイダ 107, 111, 112, 113
ヘッドホンコネクタ 39, 40, 48
ヘルプとサポートセンター 70
ポインタ 87
ホームページ 139

【マ行】
マイクロホンコネクタ 39, 40
マウス
　クリック 86
　接続 49
　ダブルクリック 86
　ドラッグ 86
　ドラッグアンドドロップ ...86
　ホイールボタン 86
　ポイント 87
　マウスコネクタ 39, 40, 49
　マウスの操作 86
　右クリック 86
無線LANカード 168
メニューバー 88
メモリ 171
　増設する 179
　メモリモジュール 179
メモリースティック デュオ 28
メモリースティック
　アクセスランプ 37, 38
メモリカード 167
メモリモジュール
　増設する 179
　取り付ける 179
　取りはずす 188
文字入力 92
モデム 108
モニタコネクタ 39, 40, 46, 47

【ラ行】
ライン入力コネクタ 39, 40
リカバリディスク 206
リソース 171
リモコン 41, 55
リモコン受光ユニット 54
ローマ字入力 93

【A】
AC電源入力プラグ 39, 40, 62
ADSL 53, 107, 119, 165
AV機器
　デジタルビデオカメラ
　レコーダー 152
　テレビ 161
　ビデオカメラレコーダー
　.......................................158
　ビデオデッキ 158
　AVマウス機能付き
　スカイパーフェクTV！
　（CSチューナー）／BS
　デジタルチューナー 59, 60

【B】
BIOS 206

【C】
CD-ROM
　お手入れ 223
　取り扱いについて 221
CD-RW／CD-R
　お手入れ 223
　取り扱いについて 221

【D】
DVD-ROM
　お手入れ 223
　取り扱いについて 221
DVD-ROMドライブ 37
DVD-RWドライブ 37, 38
DVD-RW／DVD-R
　お手入れ 223
　取り扱いについて 221

【H】
HTML 133

【I】
IRQ 171
ISDN回線 53, 107
ISP 107, 124
i.LINK
　つなぐ 152
　データをやりとりする
　................................152, 156
　i.LINKケーブル 154
　i.LINKコネクタ
　...............37, 38, 39, 40, 152
i.LINKコネクタ 153
I/Oポート 172

【L】
LAN 165

【M】
MEMORY STICKスロット
　..................................37, 38
Microsoft Internet Explorer
　................................108, 139
MO 167
MS-IMEツールバー 92

【N】
Norton AntiVirus 204

【O】
OPTICAL OUTコネクタ
　..............................39, 40, 166
OS 68, 109
Outlook Express ...108, 131, 146

【P】
PCカード 167, 168
PCカードスロット
　....................37, 38, 168, 169
PCI拡張ボード 171
PPP 115

【S】
SCSI 167
Smart Connect 156

【U】
URL 141
USB機器 163
USBコネクタ
　........................37, 38, 39, 40,
　........................53, 54, 61, 163

【V】
VAIOカスタマーご登録 96

【W】
Windows
　準備する 64
　Windowsのヘルプ 70

この説明書は、本文に無塩素漂白の100％古紙再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。また、本機は緩衝材に段ボールを使用しています。

MEMO

本機をお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。

商標について

- VAIOはソニー株式会社の商標です。
- “Memory Stick”（“メモリースティック”）、“Memory Stick Duo”および MEMORY STICK は、ソニー株式会社の商標です。
- OpenMGはソニー株式会社の商標です。
- So-net、ソネットおよびSo-netロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995とIEEE1394a-2000を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ" i "はソニー株式会社の商標です。
- 「CastaDrive」、および CastaDrive はソニー株式会社の商標です。
- 「PercasTV」、および percasTV はソニー株式会社の商標です。
- 「Webpocket」はソニー株式会社の商標です。
- Intel、PentiumはIntel Corporationの商標または登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows Media、WindowsおよびOutlookは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- IBMおよびPC/AT、PS/2は米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- ドルビー、DOLBY、ダブルD記号 DD、AC-3およびプロロジックはドルビーラボラトリーズの商標です。
- Adobe®、Adobe® Photoshop®、Adobe Premiere®およびAdobe® Acrobat® Readerは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- ダイナフォントは、DynaLab, Inc.の商標です。
- DigiOn、DigiOnSoundは、株式会社デジオンの登録商標です。
- Sonic、Sonic Solutions、DVDit!は米国Sonic Solutions社の米国およびその他の国における商標です。
- テレビ王国、iRCommander、アイアールコマンダーは、ソニー株式会社の登録商標です。
- iCommand、アイコマンドは、ソニー株式会社の商標です。
- 「iモード」は株式会社NTTドコモの登録商標です。
- Copyright 1998-2002 CyberLink Corp. All rights reserved. CyberLink and PowerDVD are trademarks of CyberLink Corp.
- QuickTime and QuickTime Player are trademarks of Apple Computer,Inc., registered in the U.S. and other countries.
- 「RealPlayer」は、米国また諸各国において、米国RealNetworks, Inc.社の登録商標あるいは登録申請中の商標です。
- Recording Technology by VERITAS Software.
- 2002 AMERICA ONLINE. INC. All Rights Reserved.
- DIONはKDDI株式会社の登録商標です。
- @niftyはニフティ株式会社の商標です。
- OCNは、NTTコミュニケーションズ株式会社の商標です。
- ODNは日本テレコム株式会社の商標です。
- 「ぷらら」は株式会社ぷららネットワークスの登録商標です。
- BIGLOBEは日本電気株式会社の登録商標です。
- Copyright 2001 Entertainment Plus Inc. All Rights Reserved.
- Grami Stick
  All rights Reserved. Copyrightq© CyberGene.com Corporation.
  Contains IP3 Technology licensed from Visionarts, Inc.
  Portions of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group
- Grami Best Selection
  Grami Best Selection
  Released Version v1.02
  Copyright© 2001-2002 CyberGene.com Corporation
  This product contains a software product of Visionarts, Inc.
  "Net Icon Driver"（Copyright© 2001-2002 Visionarts, Inc All rights reserved.）.
  This product contains IP3 Technology licensed by Visionarts, Inc.
  Portions of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group
- Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirusはSymantec Corporationの登録商標です。
  2002 Symantec Corporation. All Rights Reserved.
- 「ConceptBase」「ConceptBase Search」「CBSearch」は株式会社ジャストシステムの登録商標です。
  Portion Copyright 2000 株式会社ジャストシステム
  Portion Copyright 1981-1988 Microsoft Corporation
- 「できる」は株式会社インプレスの登録商標です。
- DIRECTOR® COPYRIGHT© 1994,1996 Macromedia, Inc.
- Made with Macromediaは、Macromedia, Inc.の商標です。
- Copyright© 1995-2002 Macromedia, Inc. All rights reserved.
- MacromediaおよびFlashは、Macromedia, Inc.の商標または登録商標です。

その他、本書に記載されているシステム名、製品名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。

なお、本文中では ™、®マークは明記していません。

サポート情報は
VAIOカスタマーリンクホームページへ

http://vcl.vaio.sony.co.jp/

VAIOホームページ
バイオを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
http://www.vaio.sony.co.jp/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35
http://www.sony.co.jp/

Printed in Japan